



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

COROLLA CROSS



イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：ハイブリッドシステム始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	5
本書の見方	11
検索のしかた	12
イラスト目次	13

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	24
安全なドライブのために	25
シートベルト	27
SRS エアバッグ	30
排気ガスに対する注意	36

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴	52
ハイブリッドシステムの注意	56

1-4. 盗難防止装置

イモバイザーシステム	61
オートアラーム	62

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	66
計器類（7 インチディスプレイ） ..	70
計器類（12.3 インチディスプレイ）	74
マルチインフォメーションディスプレイ（7 インチディスプレイ）	79
マルチインフォメーションディスプレイ（12.3 インチディスプレイ）	86
エネルギーモニター／燃費画面	93

3 運転する前に

3-1. キー

キー	98
デジタルキー	101

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リアドア）	104
バックドア	108
スマートエントリー&スタートシステム	121

3-3. シートの調整

フロントシート	126
リヤシート	127
ヘッドレスト	129

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	132
インナーミラー	133
ドアミラー	134
補助確認装置	136

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ	137

3-6. お好み設定

マイセッティング	140

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	143
荷物を積むときの注意	149

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ	151
EV ドライブモード	155
ハイブリッドトランスミッション	157
方向指示レバー	161
パーキングブレーキ	162
ブレーキホールド	166

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	168
AHS (アダプティブハイビームシステム)	172
AHB (オートマチックハイビーム)	175
フォグランプスイッチ	177
ワイパー&ウォッシャー (フロント)	179
ワイパー&ウォッシャー (リヤ)	182

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	183

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認する	185
Toyota Safety Sense	187
PCS (プリクラッシュセーフティ)	194
LTA (レーントレーシングアシスト)	202
LDA (レーンディパーチャーアラート)	207
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	212
発進遅れ告知機能	217
RSA (ロードサインアシスト) ..	219
レーダークルーズコントロール	222
クルーズコントロール	231
ドライバー異常時対応システム	234
BSM (ブラインドスポットモニター)	236
クリアランスソナー	241
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	250
RCD (リヤカメラディテクション)	255
PKSB (パーキングサポートブレーキ)	259
パーキングサポートブレーキ (前後方静止物/周囲静止物)	265

パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	270
パーキングサポートブレーキ (後方歩行者)	272
トヨタチームメイト アドバンストパーク	274
安心降車アシスト	298
ドライブモードセレクトスイッチ	302
運転を補助する装置	304
プラスサポート (販売店装着オプション)	310

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス	316
寒冷時の運転	318

5 室内装備・機能

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

オートエアコン	322
ステアリングヒーター/シートヒーター/シートベンチレーター ..	328

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	331

5-3. 収納装備

収納装備一覧	333
ラゲージルーム内装備	336

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	339
アクセサリコンセント (AC100V 1500W)・非常時給電システム	350
正常にアクセサリコンセント (AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは	359

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	364
内装の手入れ	367

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	370
ガレージジャッキ	371
ウォッシャー液の補充	372
タイヤについて	373
タイヤ空気圧について	376
エアコンフィルターの交換	377
駆動用電池冷却用吸入口の清掃	378
電子キーの電池交換	381
ヒューズの点検・交換	383
電球（バルブ）の交換	385

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは	392
非常点滅灯（ハザードランプ）	393
発炎筒	393
車両を緊急停止するには	394
水没・冠水したときは	395
車中泊が必要なときは	396

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	397
警告灯がついたときは	402
警告メッセージが表示されたときは	408
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	415
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	427
ハイブリッドシステムが始動できないときは	433
キーをなくしたときは	435

電子キーが正常に働かないときは	435
補機バッテリーがあがったときは	437
オーバーヒートしたときは	443
スタックしたときは	447

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	450

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧	457

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	473

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報	474

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	476
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	478
アルファベット順さくいん	480
五十音順さくいん	482

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

- ハンドルの改造は絶対にしない

でください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール
取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

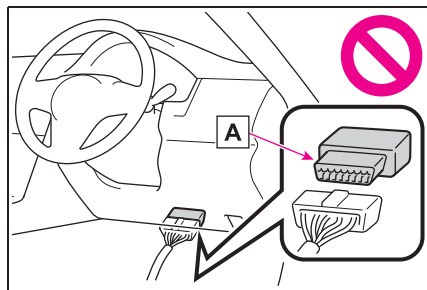
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ^[A]などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータ（マルチメディアシステム除く）に記録されるデータ^{※1}

^{※1} グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数／電気モーター回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況・車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含みます）

- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）^{※2}

^{※2} 車両には複数のカメラが付いています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota Safety Sense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- ハイブリッドシステム始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信など）があります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
 - ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含みます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフト

ウェア関連の会社などの第三者に提供する場合

- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像データを記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

Toyota Safety Sense によって研究開発、および個別サービスの提供を目的としてトヨタのサーバーに送信する形で取得しているデータの取得と利用を停止したい場合は、My TOYOTA より停止いただけます。詳細は、My TOYOTA のマイページをご覧ください。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコー

ダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせる使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタに比べ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
 - EFI コンピュータ
 - Toyota Safety Sense
 - ABS（アンチロックブレーキシステム）
 - SRS エアバッグ
 - シートベルトプリテンショナー
- 悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従

来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.310）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

高電圧部位に貼り付けられている記号について

パワーコントロールユニットなどの高電圧部位には、取り扱いに注意することを示すラベルが貼付されている場合があります。

記号の示す意味は次のとおりです。

記号	意味
	危険であることを示しています。
	高電圧部位であることを示しています。
	手で触れてはいけない部位であることを示しています。
	高温部位であることを示しています。

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブ

レット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

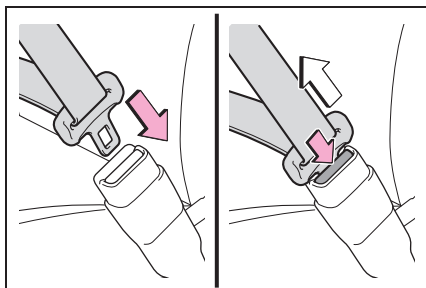
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

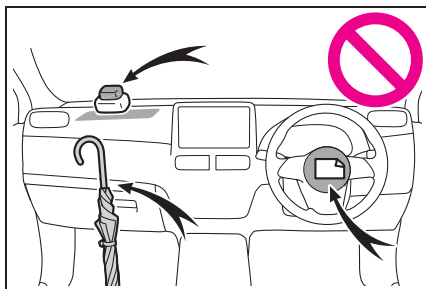
本文の記号について

記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3...	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について



記号	意味
	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

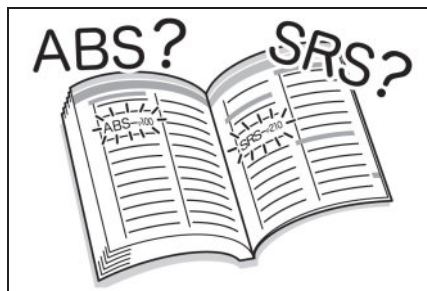


記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

検索のしかた

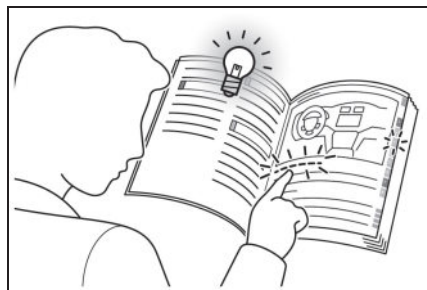
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：P.482
- アルファベット順さくいん：P.480



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：P.13



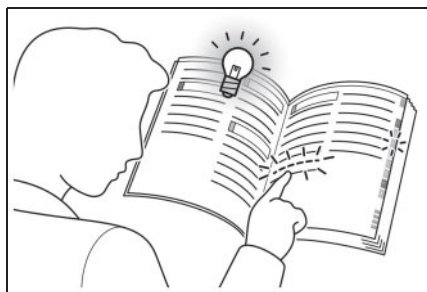
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：
P.476
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：
P.478



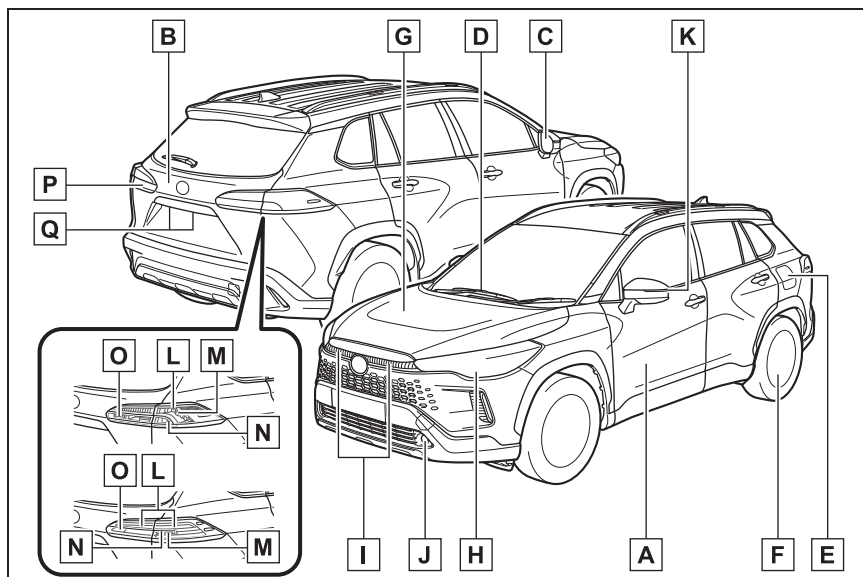
■ タイトルから探す

- 目次：P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア	P.104
	施錠／解錠.....	P.104
	ドアガラスの開閉	P.137
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.435
	警告メッセージ	P.108
B	バックドア	P.108
	施錠／解錠.....	P.110
	警告メッセージ	P.408
C	ドアミラー.....	P.134
	鏡面の角度調整	P.135
	ミラーの格納	P.135
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.323
D	ワイパー.....	P.179
	冬季の注意.....	P.318
	凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★	P.326

E	給油口	P.183
	給油方法	P.184
	燃料の種類・燃料タンク容量	P.450
F	タイヤ	P.373
	サイズ・空気圧	P.455
	冬用タイヤ・タイヤチェーン	P.318
	点検・ローテーション	P.373
	パンク時の対処	P.415, 427
G	ボンネット	P.370
	開け方	P.370
	エンジンオイル	P.450
	オーバーヒート時の対処	P.443

走行に関わる外装のランプバルブ

(交換要領：P.385, ワット数：P.456)

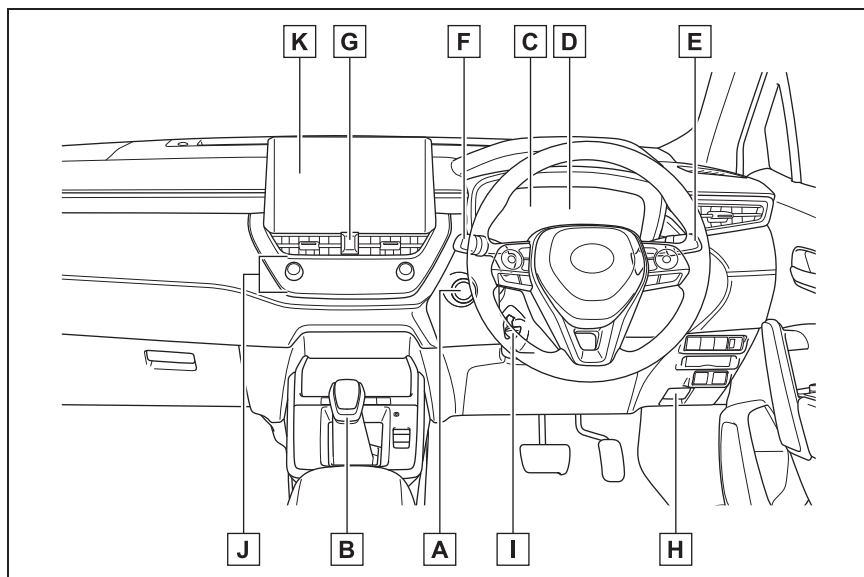
H	ヘッドランプ・車幅灯・デイトタイムランニングランプ★	P.168
	方向指示灯	P.161
I	車幅灯★	P.168
J	フロントフォグランプ★	P.177
K	サイド方向指示灯	P.161
L	尾灯	P.168
M	制動灯	P.168
N	リヤ方向指示灯	P.161
O	リヤフォグランプ★※ ¹	P.177
P	後退灯※ ²	
	シフトポジションを R にする	P.157
Q	番号灯	P.168

※¹ 運転席側のみ

※² LED タイプは助手席側のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インstrumentパネル



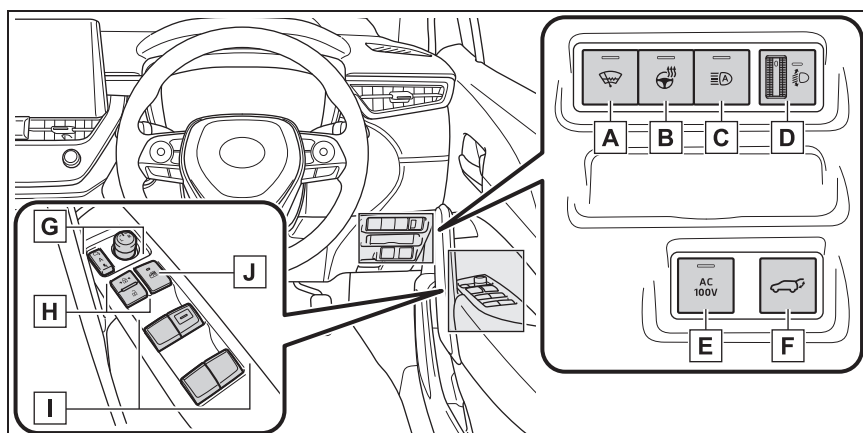
- A** パワースイッチ P.151
 ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ P.151
 ハイブリッドシステムの緊急停止 P.394
 ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 P.433
 警告メッセージ P.408
- B** シフトレバー P.157
 シフトポジションの切りかえ P.157
 けん引時の注意 P.397
 シフトレバーが動かないときの対処 P.159
- C** メーター P.70, 74
 見方・明るさの調整 P.70, 74
 警告灯／表示灯 P.66
 警告灯点灯時の対処 P.402
- D** マルチインフォメーションディスプレイ P.79, 86
 表示内容 P.79, 86

エネルギーモニター	P.93
警告メッセージ表示時の対処	P.408
E 方向指示レバー	P.161
ランプスイッチ	P.168
ヘッドランプ・車幅灯・デイトタイムランニングランプ★・尾灯	P.168
フロントフォグランプ★・リヤフォグランプ★	P.177
F ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.179, 182
使い方	P.179, 182
ウォッシャー液の補充	P.372
G 非常点滅灯スイッチ	P.393
H ボンネット解除レバー	P.370
I ハンドル位置調整レバー	P.132
J エアコン	P.322
操作方法	P.322
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）	P.323
K オーディオ ※	
音楽を聴く ※	
電話をかける・受ける（ハンズフリー） ※	

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

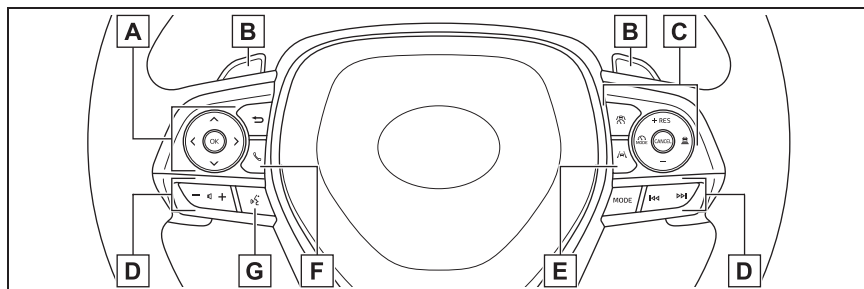
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スイッチ類



- A** フロントワイパーデアイサースイッチ★ P.326
- B** ステアリングヒータースイッチ★ P.328
- C** オートマチックハイビームスイッチ★ P.175
アダプティブハイビームシステムスイッチ★ P.172
- D** 手動光軸調整ダイヤル★ P.171
- E** AC100V スイッチ★ P.350
- F** パワーバックドアスイッチ★ P.111
- G** ドアミラースイッチ P.134
- H** ドアロックスイッチ P.107
- I** パワーウィンドウスイッチ P.137
- J** ウィンドウロックスイッチ P.139

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



A メーター操作スイッチ P.80, 86

B パドルシフトスイッチ★ P.159

C クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール P.222

クルーズコントロール P.231

D オーディオスイッチ ※

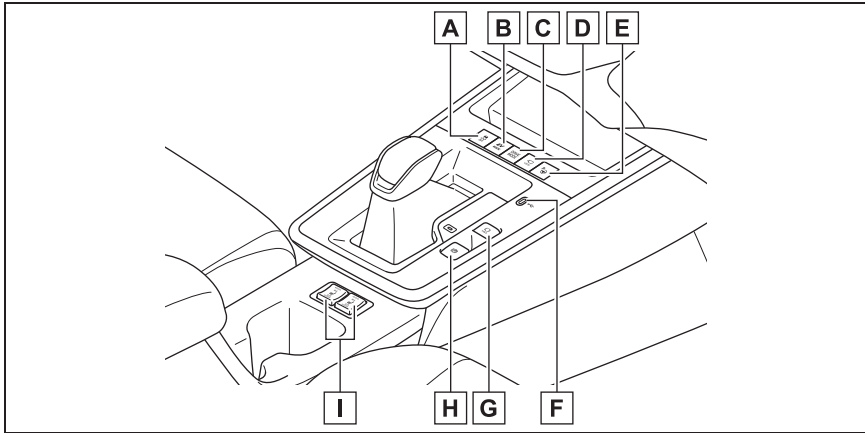
E LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.202

F 電話スイッチ ※

G トークスイッチ ※

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

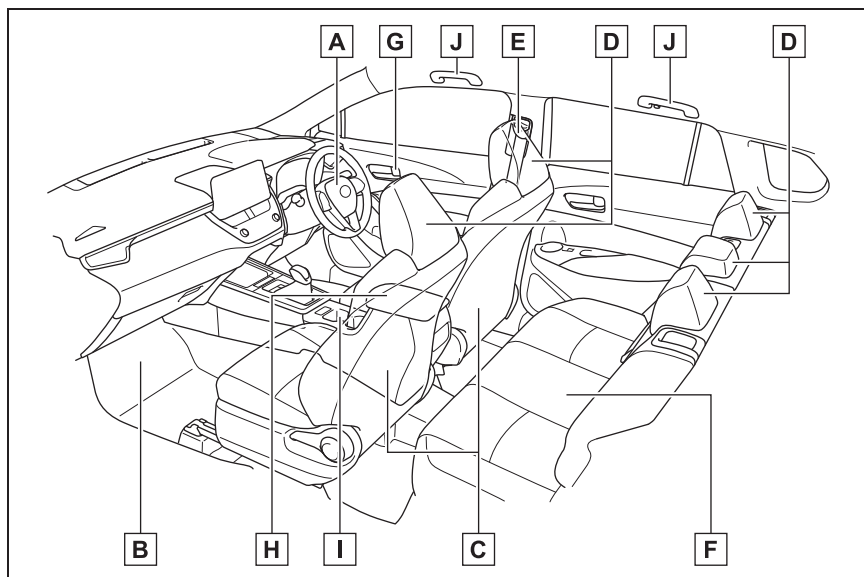


- A** VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.305
- B** EV ドライブモードスイッチ P.155
- C** ドライブモードセレクトスイッチ P.302
- D** パノラミックビューモニターメインスイッチ★※
- E** アドバンストパークメインスイッチ★ P.279
- F** USB ポート ※
- G** ブレーキホールドスイッチ P.166
- H** パーキングブレーキスイッチ P.162
 - かける・解除する P.162
 - 冬季の注意 P.319
 - 警告ブザー・警告メッセージ P.164, 402
- I** シートヒータースイッチ★ P.328
 - シートベンチレータースイッチ★ P.328

※ 別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

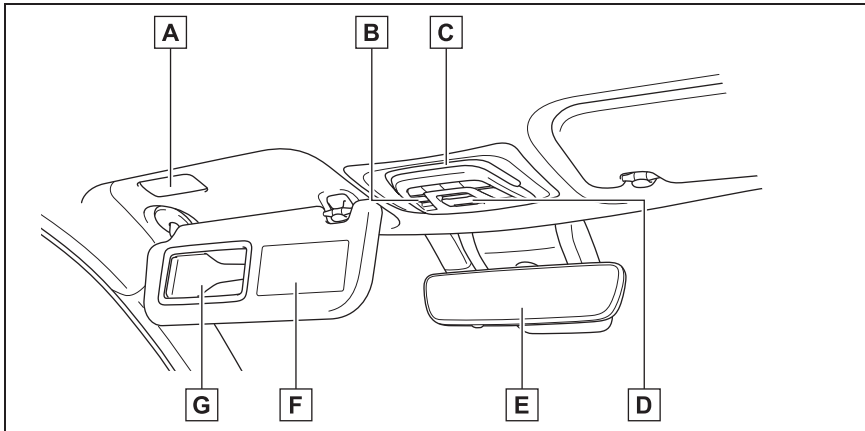
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A	SRS エアバッグ	P.30
B	フロアマット	P.24
C	フロントシート	P.126
D	ヘッドレスト	P.129
E	シートベルト	P.27
F	リヤシート	P.127
G	ロックレバー	P.107
H	コンソールボックス	P.335
I	カップホルダー	P.334
J	アシストグリップ	P.348

■天井



- A** バニティミラーランプ P.349
- B** 電動サンシェード開閉スイッチ★ P.347
- C** インテリアランプ／パーソナルランプ P.331
- D** ヘルプネットボタン ※¹
- E** インナーミラー P.133
- F** サンバイザー ※² P.349
- G** バニティミラー P.349
 カードホルダー P.336

※¹別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

※²やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.40)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 24

安全なドライブのために 25

シートベルト 27

SRS エアバッグ 30

排気ガスに対する注意 36

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 37

チャイルドシート 38

1-3. ハイブリッドシステム

ハイブリッドシステムの特徴 52

ハイブリッドシステムの注意 56

1-4. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 61

オートアラーム 62

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

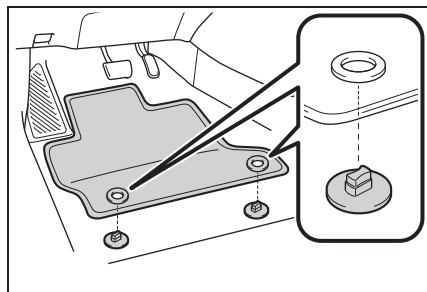
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

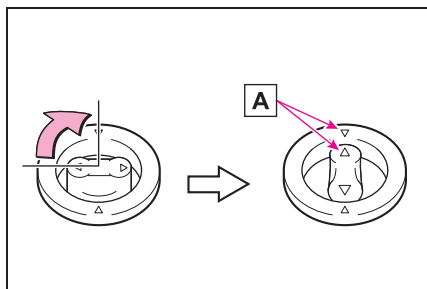
フロアマット

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△ マーク **A** を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

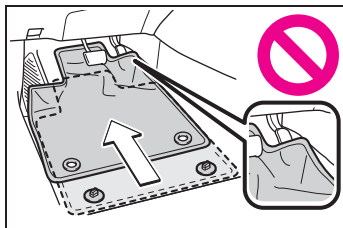
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**■ 運転する前に**

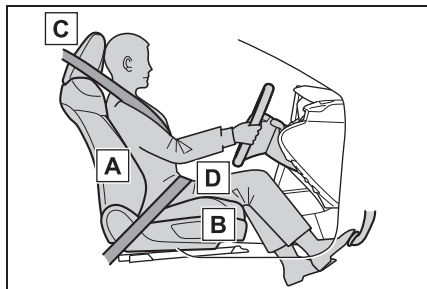
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.126）
- B** ペダルがしっかりと踏み込み、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.126）
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.129）
- D** シートベルトを正しく着用する（→P.27）

警告**■ 安全な運転のために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.27）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
（→P.133, 134）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ず
シートベルトを正しく着用して
ください。

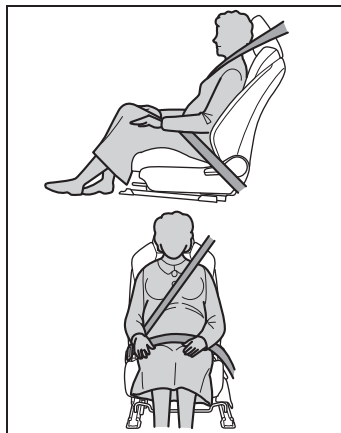
⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P.28)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→P.48

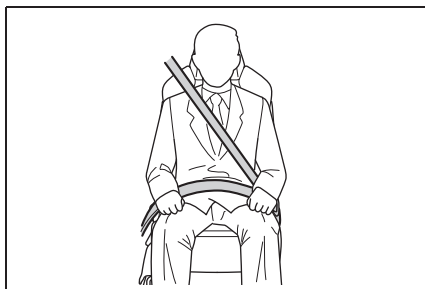
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

⚠ 警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用する



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

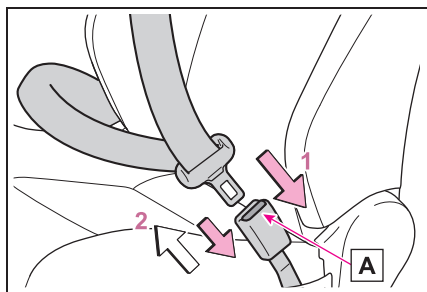
📖 知識

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.48)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン[A]を押す

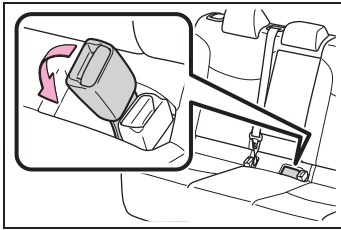
📖 知識

■ シートベルトロックの解除方法

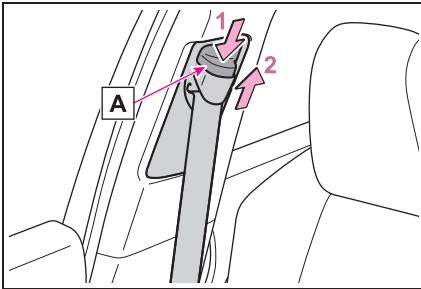
急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ リヤ中央席シートベルトを使用したあとは

バックルを格納してください。



シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、フロント席・リヤ外側席のシートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ 予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■ プリテンショナー付きシートベルトについて

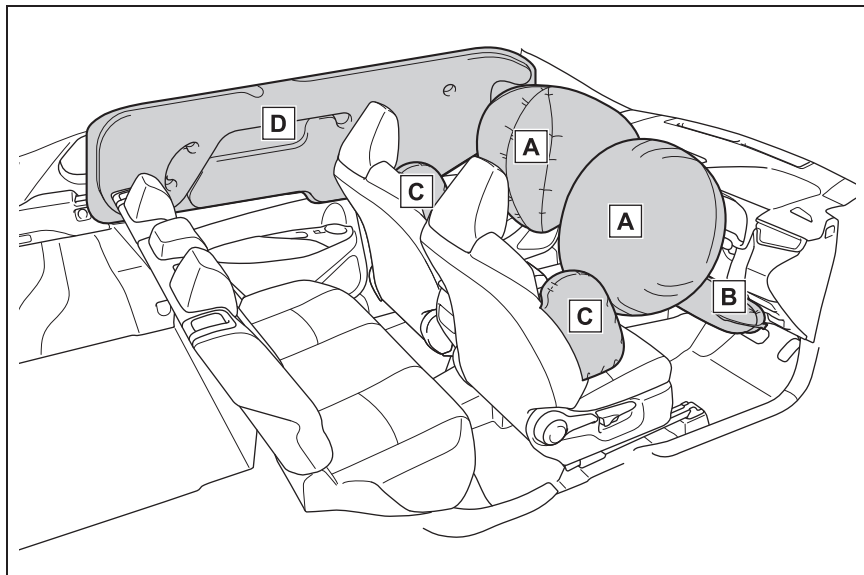
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム



A フロント SRS エアバッグ（運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ）

運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和

B SRS ニーエアバッグ

運転者の衝撃緩和を補助

C SRS サイドエアバッグ

・フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和

D SRS カーテンシールドエアバッグ

フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和



知識

■ SRS エアバッグが作動すると

● SRS エアバッグは高温のガスにより非

常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

● 作動音と共に白いガスが発生します。

●エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●ハイブリッドシステムと燃料供給を停止します。（→P.59）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.305）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.332）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.393）

■緊急通報について

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。

- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 車両に一定以上の衝撃を受けたオペレーターからの呼びかけに回答がなくても、緊急車両などを手配することがあります。

詳しくは「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ

●次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合

・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。

・ シートベルトプリテンショナー

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■側面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

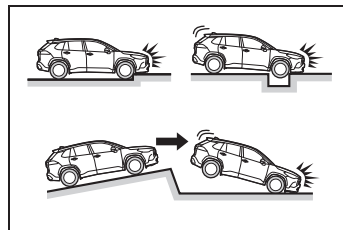
●次の SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

■車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

●次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ
- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ

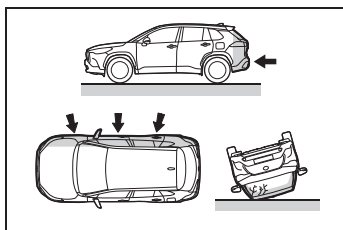


■SRS エアバッグが作動しないとき

●次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方

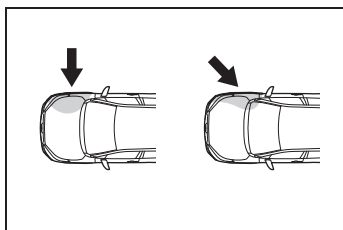
からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



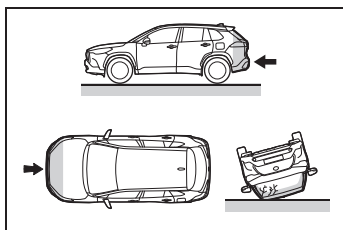
- 次の SRS エアバッグは、斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときに作動しない場合があります。

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



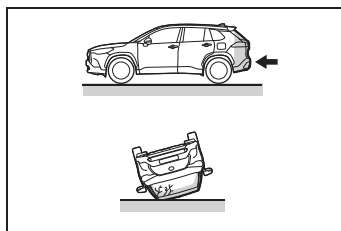
- 次のエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

- ・ SRS サイドエアバッグ



- 次のエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

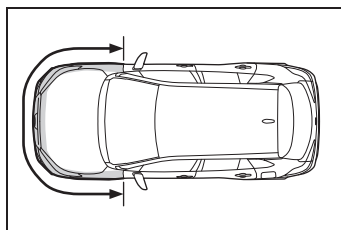
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

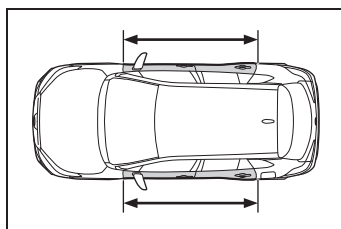
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき
- ・ フロント SRS エアバッグ
- ・ SRS ニーエアバッグ



- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

- ・ SRS サイドエアバッグ
- ・ SRS カーテンシールドエアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・イン

ストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

⚠ 警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

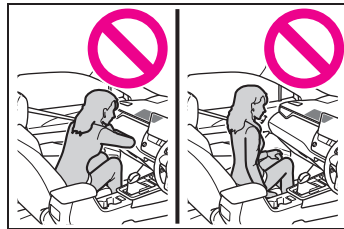
- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

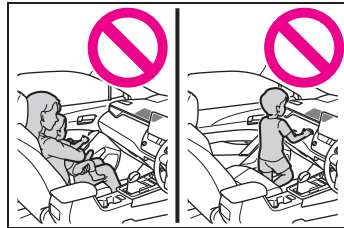
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。

(→P.38)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



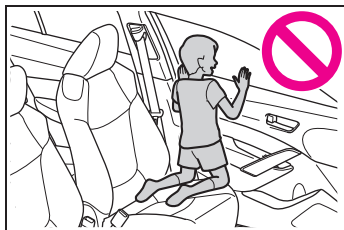
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

警告

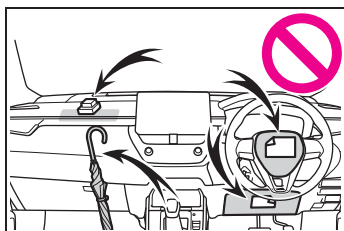
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



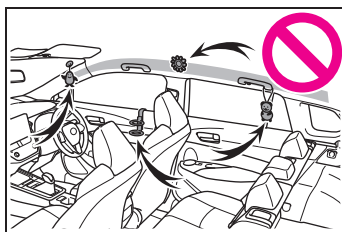
- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.418）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- エアバッグがふくらむ場所を覆うようなアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■ 改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ シート
 - ・ シート表皮
 - ・ フロントピラー
 - ・ センターピラー
 - ・ リヤピラー
 - ・ ルーフサイドレール
 - ・ フロントドアパネル
 - ・ フロントドアトリム

- ・ フロントドアスピーカー
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
 - ・ 車内側面部
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.38)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.108)・ウィンドウロックスイッチ(→P.139)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。(→P.38)

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：
P.38

チャイルドシートを使用するとき：
P.39

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.42

チャイルドシートの取り付け方法：P.46

・ シートベルトで固定する：P.47

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.49
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.50

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。
(→P.42)

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

⚠ 警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。
- **チャイルドシートについて**
次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.42）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

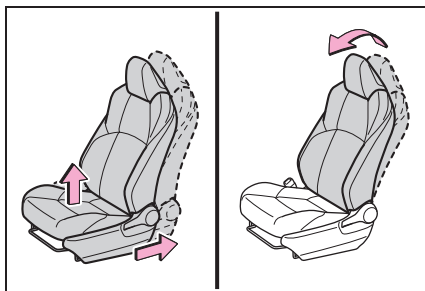
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- 背もたれを可能な限り起こす
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**⚠ 警告****■ チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

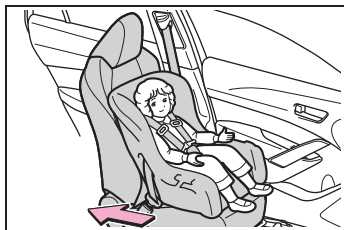
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

！ 警告**！ 警告**

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



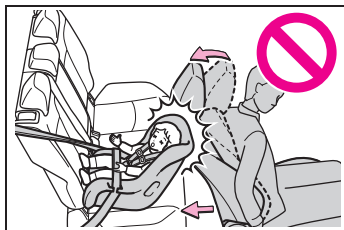
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

警告

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

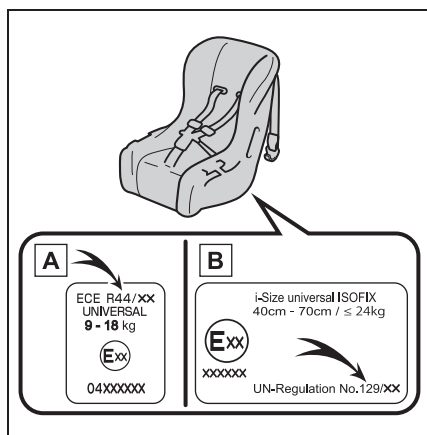
■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.43）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシート一覧表」を確認してください。（→P.45）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

- 1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※¹ または、UN(ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

- A UN(ECE) R44 認可マーク ※²
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

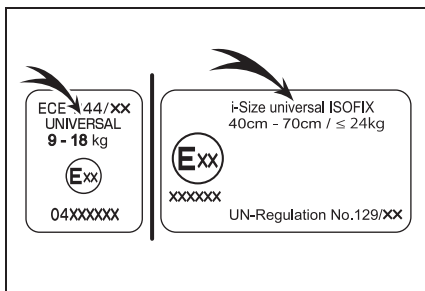
- B UN(ECE) R129 認可マーク ※²

対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

- 2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイル

ドシートに付属の取扱説明書を
確認頂くか、または販売業者へ
確認してください。

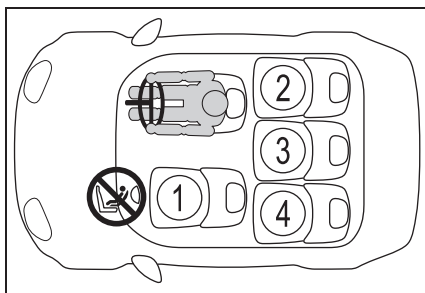
- ・ユニバーサル「universal（汎用）」
- ・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- ・リストラクティッド「restricted（限定）」
- ・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



※¹UN(ECE) R44、UN(ECE) R129
は、チャイルドシートに関する国連法
規です。

※²表示されているマークは、商品により
異なります。

■ シート位置別チャイルドシート の適合性



① ※1, 2, 3	UF ※4
② ※2, 3	U L i-Size ISOFIX
③ ※2, 3	U i-Size ISOFIX
④ ※2, 3	U L i-Size ISOFIX

U 車両のシートベルトで固定する
タイプのユニバーサル（汎用）
カテゴリーのチャイルドシート
に適しています。

UF 車両のシートベルトで固定する
タイプの前向きに取付けるユニ
バーサル（汎用）カテゴリーの
チャイルドシートに適していま
す。

L 推奨チャイルドシートと適合性
一覧表（→P.45）に記載された
チャイルドシートに適していま
す。

i-Size ISOFIX i-Size チャイルドシートおよび
ISOFIX チャイルドシートに適し
ています。

Anchor トップテザーアンカレッジが装
備されています。

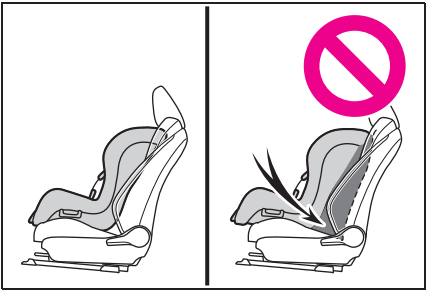
Prohibition やむを得ず助手席にチャイルド
シートを取り付ける場合には、
チャイルドシートをうしろ向き
に取り付けしないでください。

※¹シートをいちばんうしろに下げた状態

で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	×	有	×	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2	×	R1, R2X, R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～83cm (体重：～13kg)	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76～100cm (体重：～18kg)	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child Junior	身長：100～150cm (体重：15～36kg)	前向きのみ	×	○	×	○

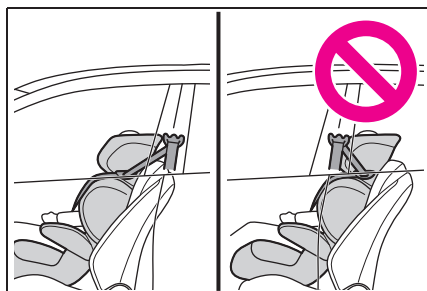
チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、

チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の

席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルト

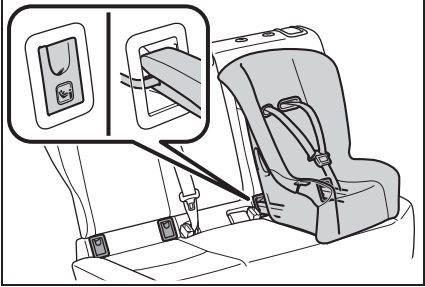
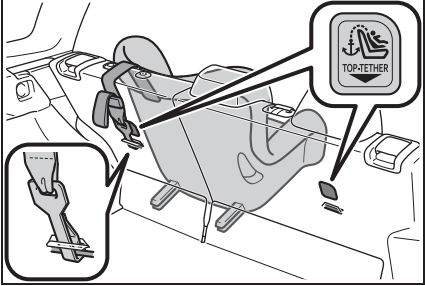
ガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.47
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.49
テザーベルトを固定する		P.50

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシート

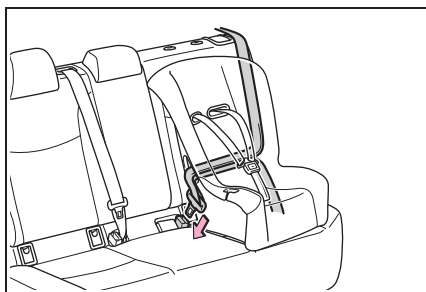
メーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.42, 43）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.39）
- 2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合

は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.129)

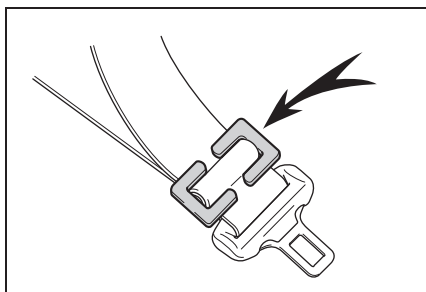
- 3** チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



- 4** チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ(別売)を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。(ロッキングクリップ品番: 73119-22010)



- 5** 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり

と固定されていることを確認してください。(→P.48)

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

▲ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

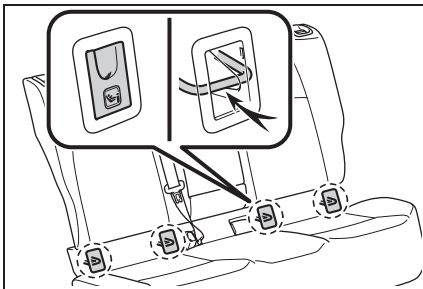
⚠ 警告

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。(ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークのついたカバーがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない(または必要な情報が表の中にない)場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者

へお問い合わせの上、適合性を確認してください。(→P.42, 43)

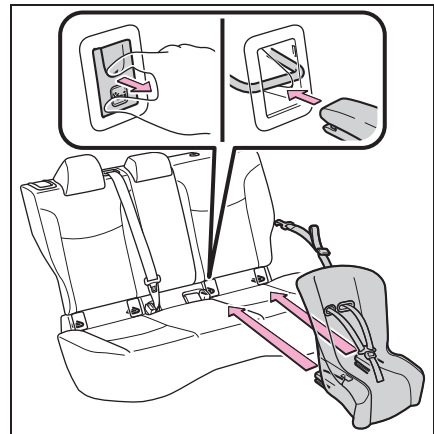
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.129)

2 ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、チャイルドシートをシートに取り付ける

ロアアンカレッジはカバーのうしろにあります。

チャイルドシートのコネクタ(取り付け金具)をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する (→P.48)

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

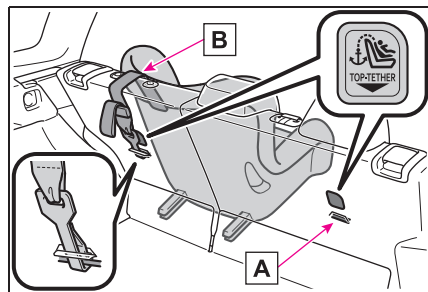
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

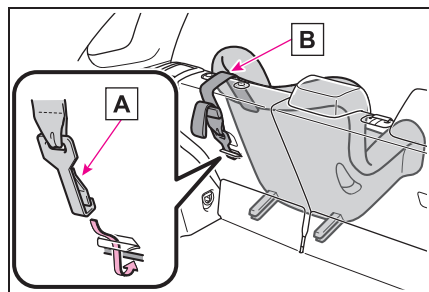
1 ヘッドレストを上げる

ヘッドレストとチャイルドシートまたはテザーベルトが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。(→P.129)

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.48)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A フック

B テザーベルト

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

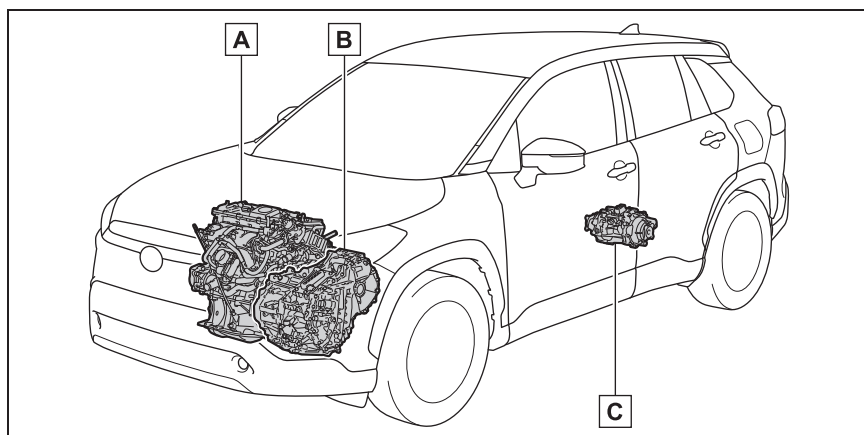
- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。

システムの構成部品

■ システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ガソリンエンジン

B フロント電気モーター

C リヤ電気モーター（4WD 車）

■ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止

※ します。

発進時は電気モーターを使って発進します。

低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止 ※ し、電気モーターを使って走行します。シフトレバーが N にあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。
(→P.53)

■ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。

必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

■ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。



知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

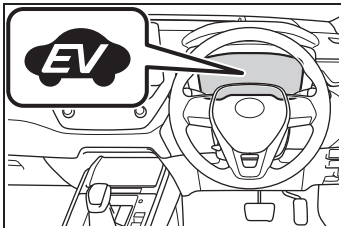
●シフトレバーが D・B★・S★で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D・B★・S★で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ EV インジケーターについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV インジケーターが点灯します。



■ ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。

ただし、次のいずれかの状態では自動停

止しないことがあります、燃費が低下する場合があります。*

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

●急加速・急減速をくり返したとき

●長時間のハイブリッドシステム作動をくり返したとき

●長い下り坂を走行したとき

* 状況により、上記の他にもガソリンエンジンが自動停止しない場合があります。

■ 駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約30分間または16kmほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■ 補機バッテリーの充電について

→P.440

■ 補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われなことがあります。

自動停止しない状態が2～3日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がな

いことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- エンジンルームからのモーター音
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後席下および駆動用電池からの音
- ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後席下から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音
- バックドアを開けたときに聞こえる作動音
- ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音
- 急加速時のエンジン音
- ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音
- ガソリンエンジンの始動・停止による振動
- リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■ メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.457）

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約25km/hをこえると消音します。

知識

■ 車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

先読みエコドライブ（車載ナビゲーションシステムまたはコネクティッドナビで利用時）

■ 先読みエコドライブ

本システムは走行の状況や交通情報をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。

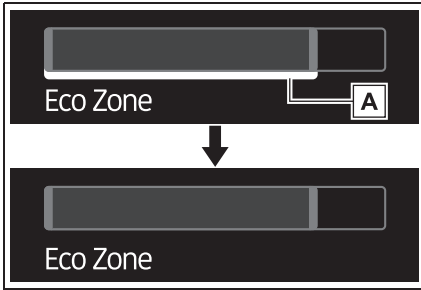
先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

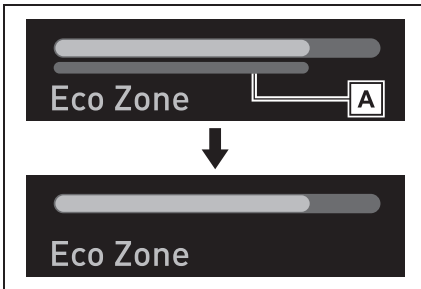
- ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.81, 89）の「アクセル操作の目安」(A)の表示が消え、余分な加速をし続けないように支援しま

す。

▶ 7 インチディスプレイ



▶ 12.3 インチディスプレイ



- アクセルペダルを離れたあとに、走行状況に応じてエンジブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

■ 先読み SOC[※] 制御

ナビゲーションシステムでのルート案内中、電力を効率よく使用して走行するために、経路や交通情報などのデータをもとに、次のような制御が働きます。

- 途中に長い下り坂がある場合は、下り坂手前から駆動用電池の残量を減らしておくことで、下り坂走行中の回生ブレーキによる充電容量を確保します。
- 渋滞が予想される場合は、渋滞路での駆動用電池残量の低下により、強制的にエンジンをかけ

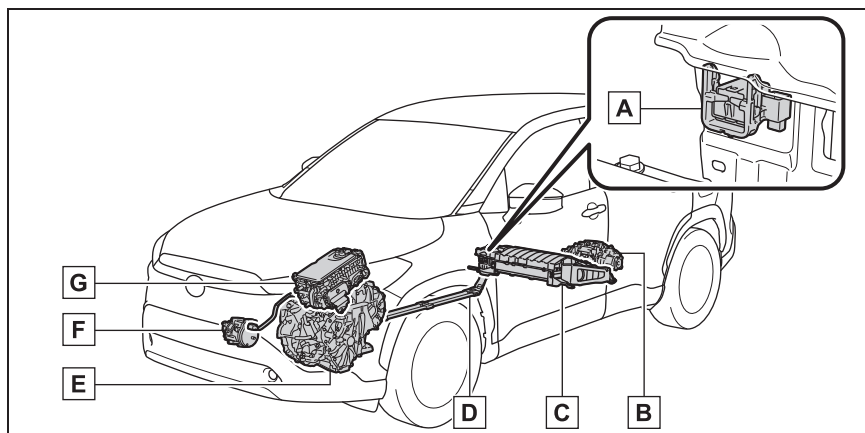
て充電する頻度を減らすために、渋滞手前から駆動用電池残量を確保しておきます。

※ SOC は駆動用電池残量です。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 600V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。ご使用前に、ここで説明している内容をよくお読みいただき、正しく取り扱ってください。なお、高電圧部位には、取り扱い上の注意喚起のため  表示を含んだラベルが貼付されています。

システムの構成部品



イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- A** サービスプラグ
- B** リヤ電気モーター（4WD 車）
- C** 駆動用電池
- D** 高電圧ケーブル（オレンジ色）
- E** フロント電気モーター
- F** エアコンコンプレッサー
- G** パワーコントロールユニット

知識

■ ガス欠になったとき

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯

（→P.404）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 6.3L 以上 [FF 車] または約 7.5L 以上 [4WD 車] で

す。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください)

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ-30℃以下）、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

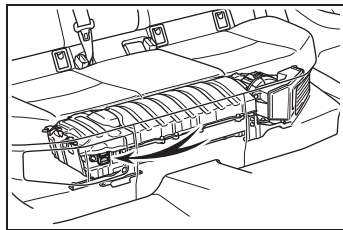
！警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクタの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。
- 高電圧部位にふれないでください。特に走行後は高温になっており危険です。
- サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店で車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止する
- 高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない
- 車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

 警告

- 液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。
- 火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- 前輪（FF 車）または 4 輪（4WD 車）が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.397）

- 車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■ 駆動用電池について

- この車両には、リチウムイオンバッテリーが搭載されています。
 - 絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
 - ・ 装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
- 特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

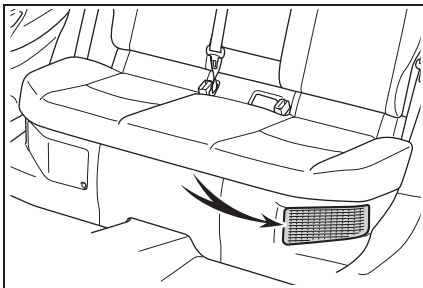
- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクタにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 駆動用電池について**

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下（左側）には駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。

**⚠ 注意****■ 駆動用電池冷却用の吸入口について**

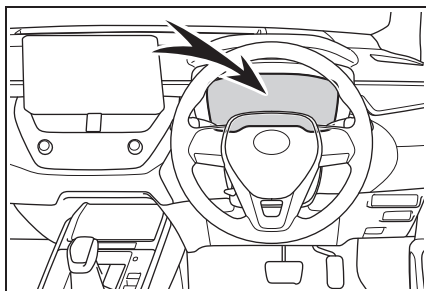
- シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。
- 吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。（→P.378）
- 吸入口に水や異物を入れないでください。駆動用電池を損傷するおそれがあります。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。



警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。
(→P.408)

 知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

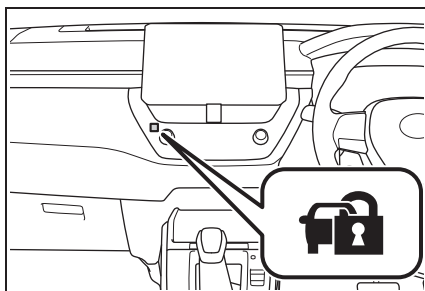
イモバイザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



■メンテナンスについて

イモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

■イモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

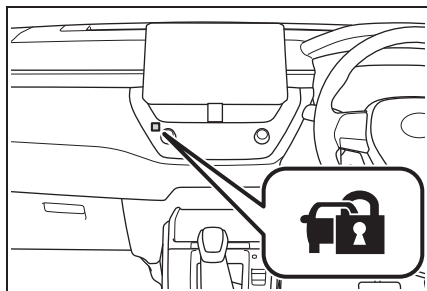
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケータは点灯から点滅にかわります。



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ オートアラームの設定について

ボンネットを開けていても、すべてのドアが閉じていれば、オートアラームは設定できます。

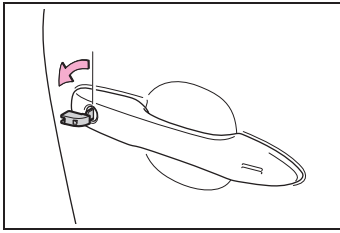
■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

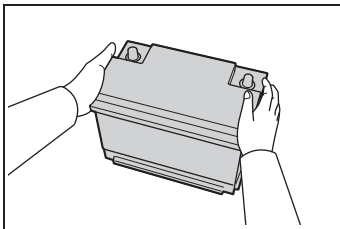
- メカニカルキーを使ってドアまたはバックドアを解錠したとき



- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.440）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- 補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は設定を変更することができます。（→P.457）



注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	66
計器類（7 インチディスプレイ）	70
計器類（12.3 インチディスプレイ）	74
マルチインフォメーションディス プレイ（7 インチディスプレイ）	79
マルチインフォメーションディス プレイ（12.3 インチディスプレイ）	86
エネルギーモニター／燃費画面	93

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー・センターパネルの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

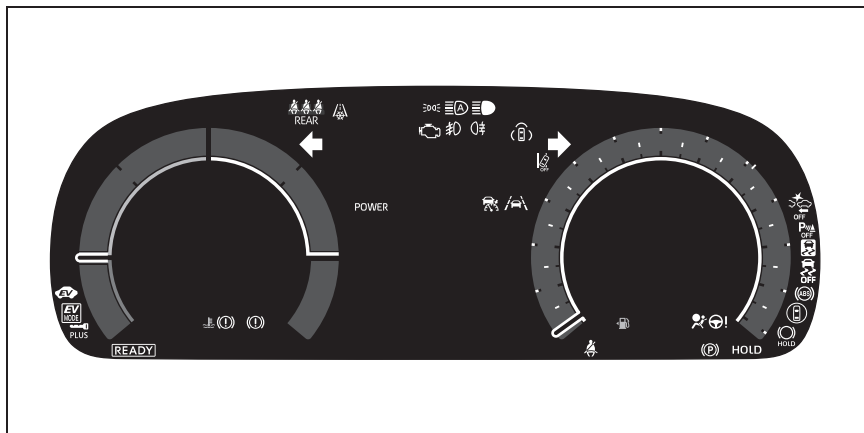
メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

▶ 7 インチディスプレイ



▶ 12.3 インチディスプレイ



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.402)

(赤色)



ブレーキ警告灯 ※¹
(→P.402)

(黄色)



高水温警告灯 ※² (→P.402)



ハイブリッドシステム過熱警告灯 ※² (→P.402)



充電警告灯 ※² (→P.403)



油圧警告灯 ※² (→P.403)



エンジン警告灯 ※¹
(→P.403)

SRSエアバッグ／プリテン



ショナー警告灯 ※¹
(→P.403)



ABS & ブレーキアシスト警告灯 ※¹ (→P.403)



ペダル誤操作警告灯 ※²
(→P.404)



パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.404)

(赤色)



パワーステアリング警告灯 ※¹
(→P.404)

(黄色)



燃料残量警告灯 (→P.404)



運転席・助手席シートベルト非着用警告灯 (→P.404)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.405)



リヤ席シートベルト非着用警告灯 (→P.405)



PCS 警告灯 ※¹ (→P.405)



LTA 表示灯 (→P.405)

(黄色)



LDA 表示灯 (→P.405)

(黄色)



PDA 表示灯 (→P.406)

(黄色)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.406)

(黄色)



クルーズコントロール表示灯 (→P.406)

(黄色)



運転支援情報表示灯 ※¹
(→P.406)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※¹ (→P.407)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.407)



パーキングブレーキ表示灯 (→P.407)

(点滅)



ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.407)

(点滅)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.161)



尾灯表示灯 (→P.168)



ハイビーム表示灯 (→P.171)



AHS 表示灯★ (→P.172)



AHB 表示灯 (→P.175)



フロントフォグランプ表示灯★ (→P.177)



リヤフォグランプ表示灯★ (→P.177)



PCS 警告灯 ※1, 2 (→P.194)



LTA 表示灯 (→P.202)

(緑色)



LTA 表示灯 (→P.202)

(白色)



LDA 表示灯 (→P.207)

(緑色)



LDA 表示灯 (→P.207)

(白色)



LDA OFF 表示灯 (→P.207)

(黄色)



PDA 表示灯 (→P.212)

(緑色)



PDA 表示灯 (→P.212)

(白色)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.222)

(緑色)



レーダークルーズコントロール表示灯 (→P.222)

(白色)



クルーズコントロール表示灯 (→P.231)

(緑色)



クルーズコントロール表示灯 (→P.231)

(白色)



ドアミラーインジケター★ ※3 (→P.236, 250, 298)



運転支援情報表示灯 ※1, 2 (→P.236, 250, 255, 259, 298)



クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.242)



クリアランスソナー検知表示灯★ (→P.241)



プラスサポート表示灯★ (→P.310)



スリップ表示灯 ※1 (→P.305)

(点滅)



VSC OFF 表示灯 ※1, 2 (→P.305)



スマートエントリー&スタートシステム表示灯 ※⁴
(→P.151)



READY インジケーター
(→P.151)



EV ドライブモード表示灯
(→P.155)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.162)



ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※¹ (→P.166)



ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.166)



EV インジケーター (→P.53)



低温表示灯 (→P.69)



セキュリティ表示灯 ※⁵
(→P.61, 62)



エコドライブモード表示灯
(→P.302)



パワーモード表示灯★
(→P.302)



パワーモード表示灯★
(→P.302)



スポーツモード表示灯★
(→P.302)



スノーエクストラモード表示灯★ (→P.302)

※¹ 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ ドアミラーに表示されます。

※⁴ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※⁵ センターパネルに表示されます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■低温表示灯について

外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

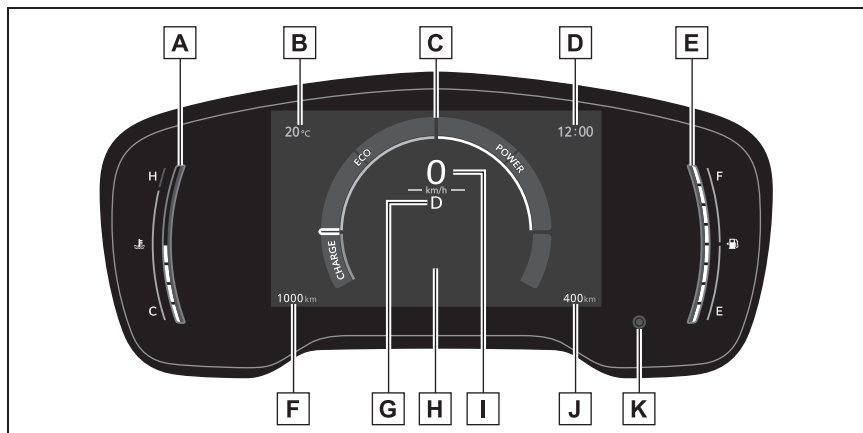
■クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両 (→P.241) は、クリアランスソナー機能の ON / OFF の状態に関わらずシフトポジションを R にすると消灯します。

計器類 (フインチディスプレイ)

メーターの表示について

■ 計器類の位置



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B 外気温

外気温を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C ハイブリッドシステムインジケータ / タコメーター

ハイブリッドシステムインジケータ：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.71)

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

D 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

F オドメーター / トリップメーターディスプレイ (→P.72)

G シフトポジション表示灯 (→P.157)

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.79)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.408)

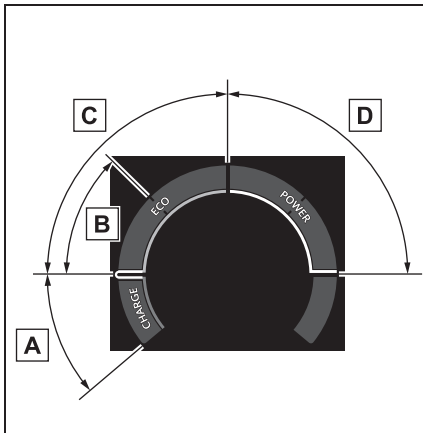
I デジタルスピードメーター

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

K 表示切りかえボタン (→P.72)

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生 ※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえ

ている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

□ 知識

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、厳密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがDまたはB以外するとき

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター/トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチを OFF にする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチを ON にする

- 5 そのまま約 5 秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約 5 秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.80

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。（→P.84）

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトポジション表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにポジションの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

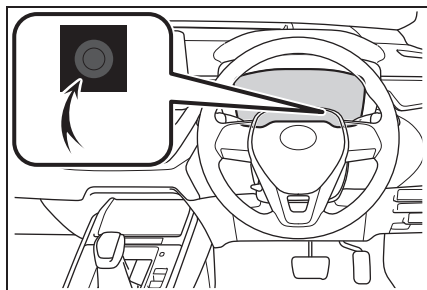
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.443）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

表示を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

ボタンを押すごとに表示される項目が切りかわります。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

メーターの照度調整

マルチインフォメーションディスプレイのから、メーターの照度を変更できます。

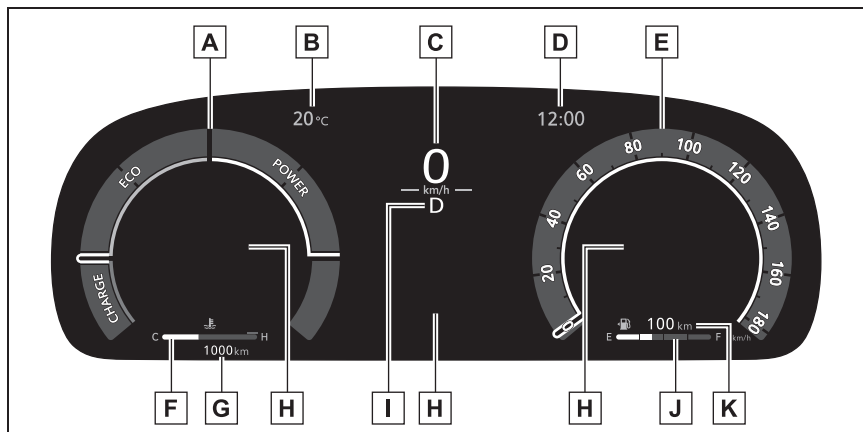
- 1 マルチインフォメーションディスプレイのを選択する
- 2 メーター操作スイッチのまたはを押して “メーター輝度調整” を選択する
- 3 メーター操作スイッチのOK を長押しする
- 4 メーター操作スイッチの または  を押して明るさを調整する

計器類 (12.3 インチディスプレイ)

メーターの表示について

■ 計器類の位置

▶ 2 ダイアルディスプレイ



A ハイブリッドシステムインジケーター／タコメーター

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.77)

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

B 外気温

外気温度を -40℃～60℃のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E アナログスピードメーター

F 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

G オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.78)

H マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.86)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.408)

I シフトポジション表示／シフトレンジ表示★ (→P.157)

J 燃料計

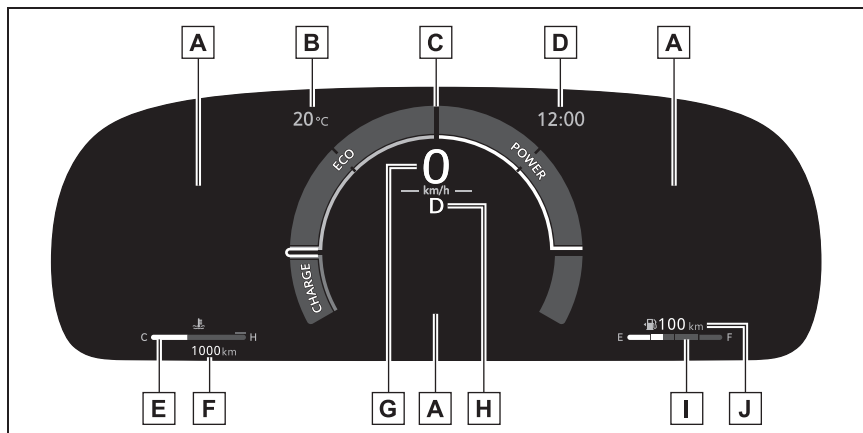
燃料残量を示します。

K 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 1 ダイヤルディスプレイ

**A** マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.86)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.408)

B 外気温

外気温を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

C アナログスピードメーター／タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーター

タコメーター：毎分のエンジン回転数を示します。

アナログスピードメーター：車両の走行速度を示します。

ハイブリッドシステムインジケーター：ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。(→P.77)

設定画面で表示を切り替えることができます。(→P.457)

D 時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ (→P.78)

G デジタルスピードメーター

H シフトポジション表示／シフトレンジ表示★（→P.157）

I 燃料計

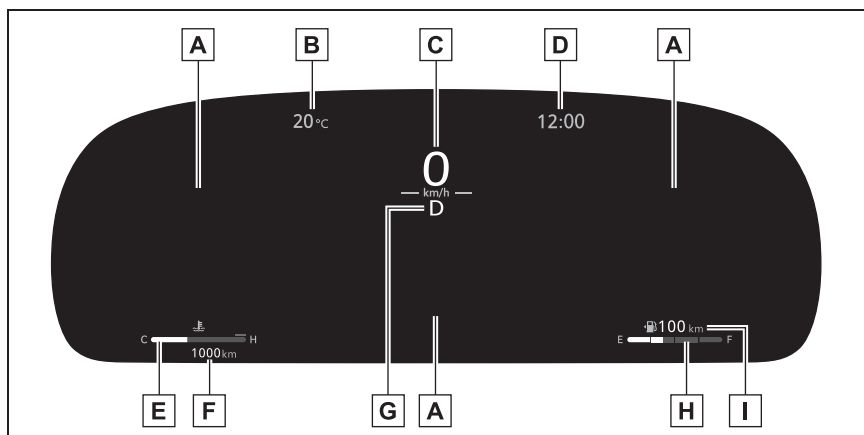
燃料残量を示します。

J 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ ダイヤルなしディスプレイ



A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→P.86）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.408）

B 外気温

外気温度を -40℃～60℃のあいだで表示します。

C デジタルスピードメーター

D 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「マルメディア取扱説明書」を参照してください。

E 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

F オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.78）

G シフトポジション表示／シフトレンジ表示★（→P.157）

H 燃料計

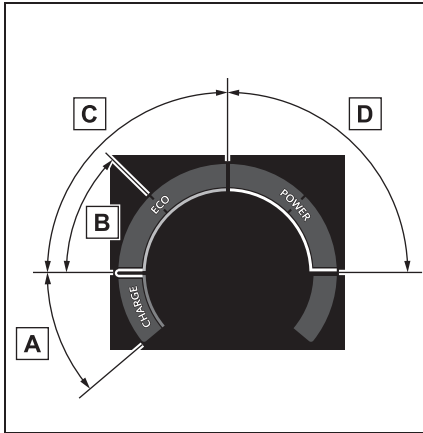
燃料残量を示します。

I 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーター



A チャージエリア

回生※ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回収した電力は、駆動用電池を充電します。

B ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

C エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

D パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

□ 知識

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ちに制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■ ハイブリッドシステムインジケーターについて

次の場合、ハイブリッドシステムインジケーターは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションがP・R・Nのとき

■ 燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 表示切りかえボタンを押してオドメーター／トリップメーターディスプレイをオドメーター表示に切りかえる
- 3 パワースイッチをOFFにする
- 4 表示切りかえボタンを押したまま、パワースイッチをONにする
- 5 そのまま約5秒間表示切りかえボタンを押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす

オドメーターが約5秒間点滅したあと通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■ 外気温表示について

- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅く

なったりすることがありますが、故障ではありません。

- ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 液晶ディスプレイについて

→P.86

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。（→P.88）

⚠ 警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトポジション表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにポジションの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ハイブリッドシステムや構成部品への損傷を防ぐために

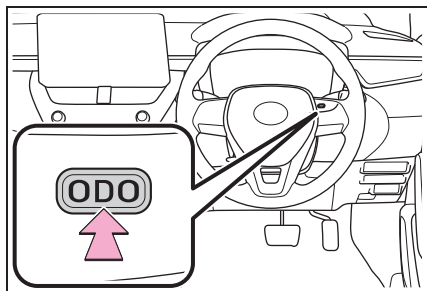
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.443）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。



■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A / トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に表示切りかえボタンを長押しします。

メーターの照度調整

マルチインフォメーションディス

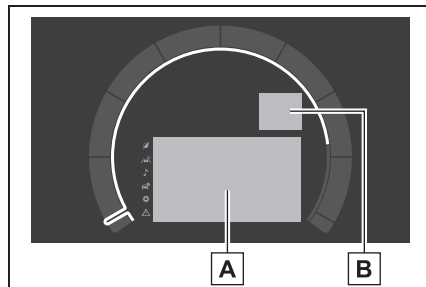
プレイの $\star$ から、メーターの照度を変更できます。

- 1 マルチインフォメーションディスプレイの $\star$ を選択する
- 2 メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押して“メーター輝度調整”を選択する
- 3 メーター操作スイッチのOKを長押しする
- 4 メーター操作スイッチの $\leftarrow$ または $\rightarrow$ を押して明るさを調整する

マルチインフォメーションディスプレイ（フィンチディスプレイ）

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示



A コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

B 走行支援システム表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ LDA（レーンディパーチャーアラート）
- ・ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
- ・ レーダークルーズコントロール

■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの $\wedge$ または $\vee$ を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示 (→P.80)



運転支援機能情報表示
(→P.82)



オーディオシステム連携表示
(→P.83)



車両情報表示 (→P.83)



設定 (→P.84)



警告メッセージ (→P.408)



知識

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



警告

■運転中の使用について

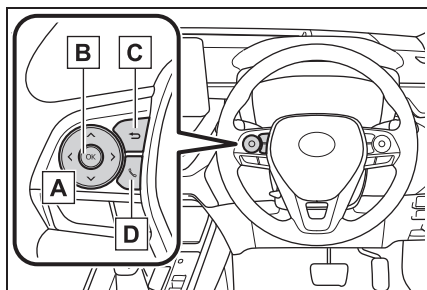
- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.72

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



- A** < / > / ^ / v : メニューの切りかえ・表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動
- B** 短押し: 決定
長押し: リセット／詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

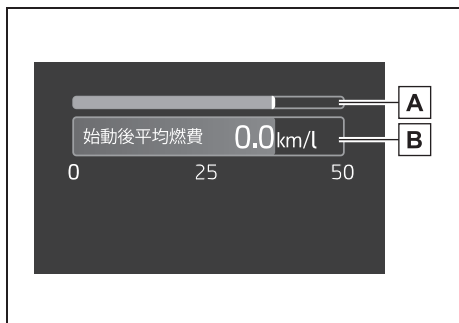
ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

走行情報表示について

■表示項目

- 燃費グラフ
- エコアクセルガイド／エコジャッジ
- 始動後走行時間／EV 走行比率
- 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

始動後・給油後・リセット間のうち、いずれかの平均燃費を表示します。※1, 2, 3

⚙️ 画面の“燃費グラフ”で選択した燃費が表示されます。
(→P.84)

※1 始動後平均燃費は、ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

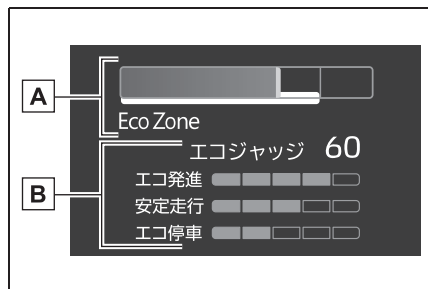
※2 リセット間平均燃費の表示中に

OK を押し続けると、リセットされます。

※3 給油後平均燃費は、給油するたびに、表示がリセットされます。

燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

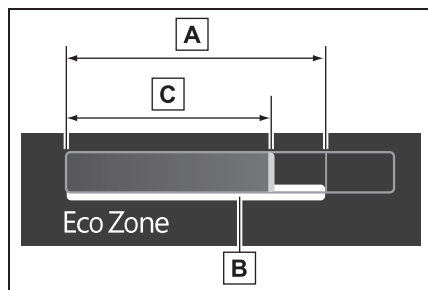
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリア内に白色のバーで表示されます。

この表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

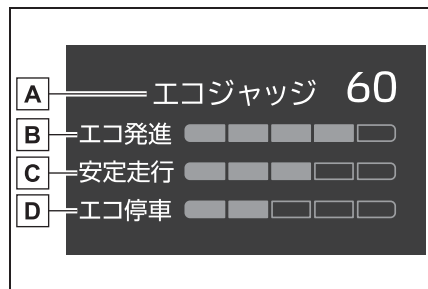
C 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

アクセルペダル操作を示す表示が、白色のバー表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。(→P.144)

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という3つの観点から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、車両が停車するたびに100点満点で採点結果を表示します。



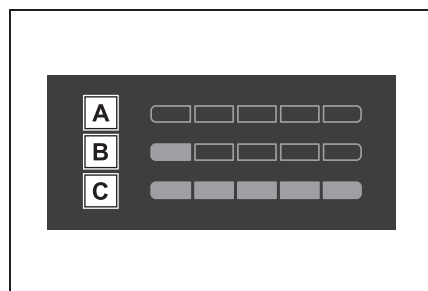
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ停車の状況

● 表示の見方



A 未評価

B 低い

C 高い

- ・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・ エコジャッジは発進するたびにリセッ

トされ、新たに評価が開始されます。

■ 始動後走行時間／EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

□ 知識

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- レーダークルーズコントロールを使用しているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

運転支援機能情報表示について

■ 運転支援システム情報

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.202）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.207）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.212）
- レーダークルーズコントロール（→P.222）
- クルーズコントロール（→P.231）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

- 目的地案内
- コンパス

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

運転支援システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

■ オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

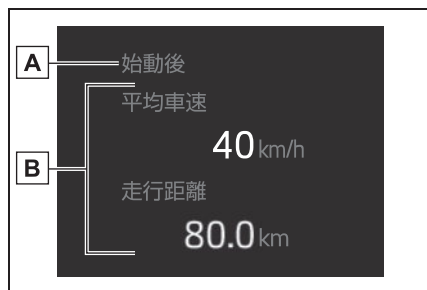
■ 車両情報表示について

■ 表示項目

- ドライブインフォメーション
- エネルギーモニター（→P.93）
- 4WD 作動状態表示★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブインフォメーション



A ドライブインフォタイプ

B ドライブインフォ項目

ドライブインフォタイプとドライブインフォ項目の組み合わせを

⚙️から選択して表示させることができます。（→P.84）

● 始動後※

- ・ 走行距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- ・ 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示
- ・ 平均车速：ハイブリッドシステム始動後の平均车速を表示

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

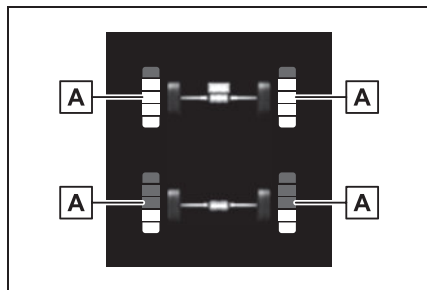
● リセット間※

- ・ 走行距離：リセット間の走行距離を表示

- ・ 走行時間：リセット間の経過時間を表示
- ・ 平均車速：リセット間の平均車速を表示

※ リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの OK を長押しします。

■ 4WD 作動状態表示★



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

A 駆動力表示

0 ～ 5 の 6 段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メータータイプ

メーターの表示タイプを選択することができます。

● ダイヤルタイプ

メーターの表示を、タコメーター／ハイブリッドシステムインジケータから選択することができます。

● EV インジケータ

EV インジケータの作動・非作動を切りかえることができます。



・ 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。（→P.80）

・ ハイブリッドシステムインジケータ
エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→P.81）



オーディオ連動表示の表示・非表示を選択することができます。



・ 表示コンテンツ

4WD 作動状態表示の表示・非表示を選択することができます。★

エネルギーモニターの表示・非表示を選択することができます。

・ ドライブインフォタイプ

始動後／リセット間から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイ

の表示をオフにすることができます。

再度表示させるには **△** / **▽** / **◀** / **▶** / OK / **↶** のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（機能の切り替え・車両設定）

→P.457



知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。



警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



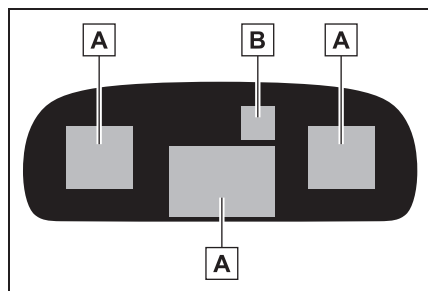
注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

マルチインフォメーションディスプレイ (12.3 インチディスプレイ)

ディスプレイの表示



[A] コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。

[B] 走行支援システム表示エリア

コンテンツ表示エリアで運転支援システム情報を表示していないときに運転支援システムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LTA (レーントレーシングアシスト)
- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)
- ・ PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
- ・ レーダークルーズコントロール



知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

⚠ 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

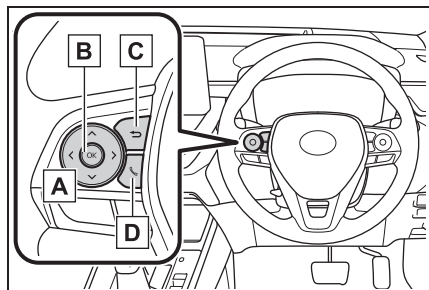
■ 低温時の画面表示について

→P.78

表示を切りかえるには

■ メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



[A] </> / ^ / v : マルチインフォメーションディスプレイの切りかえ・表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

[B] 短押し：決定

長押し：リセット／詳細項目表示

[C] ひとつ前の画面にもどる

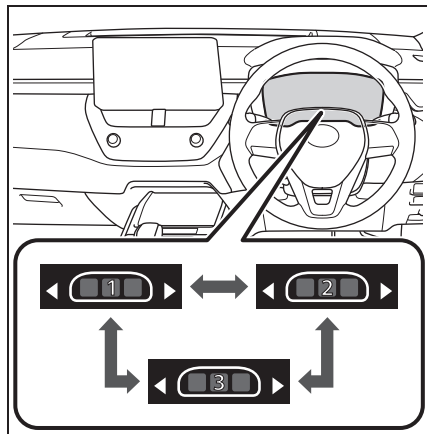
[D] 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、

別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

■ メーターのページ切りかえ

メーター操作スイッチの **<** または **>** を押してページを切りかえる



マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について (中央画面)

■ 表示項目

- 運転支援システム情報 (→P.87)
- ナビゲーションシステム連携表示★ (→P.91)
- 設定 (→P.88)
- 警告メッセージ (→P.408)
- ブランク (非表示)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ページ内の表示項目の切りかえ

ページ内の設定モード画面から表示させる項目を選択します。

- 1 メーター操作スイッチの **<** または **>** を押してページを選択する
- 2 メーター操作スイッチの **OK** を長押しして設定モード画面にする
- 3 メーター操作スイッチの **<** または **>** を押して変更する表示画面を選択する
- 4 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して表示項目を選択する
- 5 設定完了後、**↵** を押す

■ 運転支援システム情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.202)
- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→P.207)
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト) (→P.212)
- レーダークルーズコントロール (→P.222)

■ ナビゲーションシステム連携表示★

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

● 地図表示

ナビゲーションシステムと連動して、地図情報を表示します。メーター操作スイッチの **OK** を押すごとに表示の大きさを切りかえることができます。

- 目的地案内

- レーン（車線）案内

- コンパス

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 変更できる項目（メーター表示）

メーター表示の設定を  から変更することができます。

- 言語

表示される言語を選択することができます。

- 単位

燃費単位を選択することができます。

- メータータイプ

メーターの表示タイプを選択することができます。

- メータースタイル

メーターの表示スタイルを選択することができます。

- ダイヤルタイプ

1 ダイヤル：メーターの表示を、スピードメーター／タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーターから選択することができます。

2 ダイヤル：メーター左側の表示を、タコメーター／ハイブリッドシステムインジケーターから選択することができます。

- EV インジケーター

EV インジケーターの作動・非作動を切りかえることができます。

- 燃費表示

燃費情報の表示を変更することができます。

- ハイブリッドシステムインジケーター

エコアクセルガイドの表示・非表示を選択することができます。（→P.89）

- ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

- TRIP A/B の表示項目

TRIP A/B のドライブインフォ情報を変更することができます。

- 割り込み表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

- 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

マルチインフォメーションディスプレイの表示項目について（サイド画面）

■ 表示項目

- 燃費グラフ（→P.89）

- エコアクセルガイド／エコジャッジ（→P.89）

- 始動後走行時間／EV 走行比率（→P.91）

- 運転支援システム情報（→P.91）

- ナビゲーションシステム連携表示★（→P.91）

- オーディオシステム連携表示（→P.91）

- ドライブインフォメーション（→P.91）

- TRIP A/B のドライブインフォメーション（→P.91）

- エネルギーモニター（→P.93）

- ブランク（非表示）
- 4WD 作動状態表示★（→P.92）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示項目は変更することができます。

■ ページ内の表示項目の切り替え

→P.87

■ サイド画面に表示させる項目の変更

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押してページを選択する
- 2 メーター操作スイッチの **OK** を長押しして設定モード画面にする
- 3 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して変更する表示画面を選択する
- 4 **☰** が表示されている画面でメーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押す

各項目の表示・非表示を選択できる画面に移動します。

- 5 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して表示させる項目を選択し **OK** を押す

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。



A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

平均燃費の表示は **⚙️** から変更することができます。（→P.88）

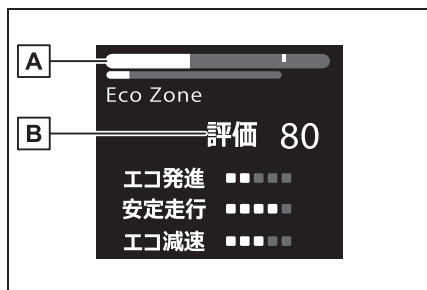
● 始動後平均燃費

ハイブリッドシステム始動後の平均燃費を表示します。

● リセット間平均燃費

リセット間の平均燃費を表示します。
平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの **OK** を長押しします。

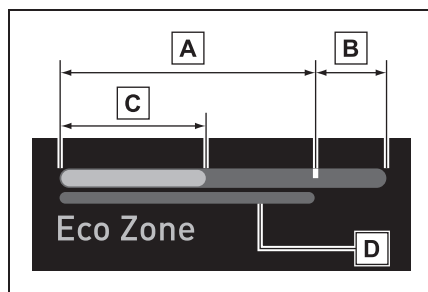
■ エコアクセルガイド／エコジャッジ



A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイド



A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセルペダル操作

エコエリア内では緑色でゾーン表示されます。

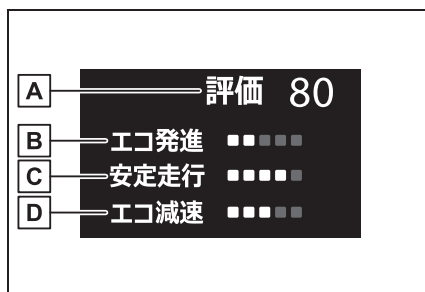
D アクセルペダル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイド表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。アクセルペダル操作を示す表示が、アクセル操作の目安表示をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。（→P.144）

● エコジャッジ

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ停車）という3つの観点から、走行状況をそれぞれ5段階で評価し、車両が停車するたびに100点満点で採点結果を表示します。



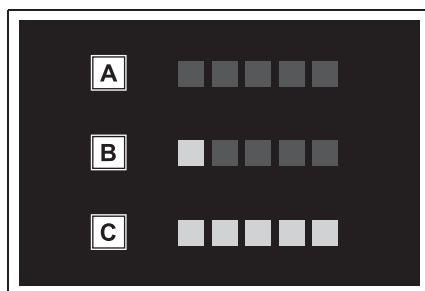
A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

● 表示の見方



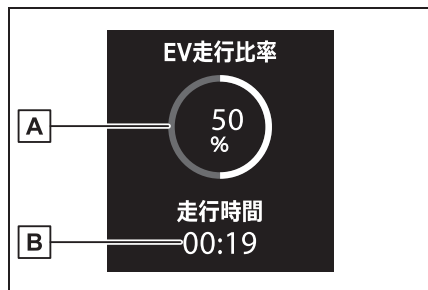
A 未評価

B 低い

C 高い

- ・ 発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。
- ・ エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

■ 始動後走行時間／EV 走行比率



A 始動後 EV 走行比率

ハイブリッドシステムを始動してから現在までに EV 走行できた割合をグラフ表示します。※

B 始動後走行時間

ハイブリッドシステムを始動してから現在までの走行時間を表示します。※

※ ハイブリッドシステムを始動するたびに、表示がリセットされます。

■ 運転支援システム情報について
次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.202）
- LDA（レーンディパーチャーアラート）（→P.207）
- PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.212）
- レーダークルーズコントロール（→P.222）

■ ナビゲーションシステム連携表示★

マルチインフォメーションディスプレイに次の情報を表示します。

- 目的地案内
- レーン（車線）案内

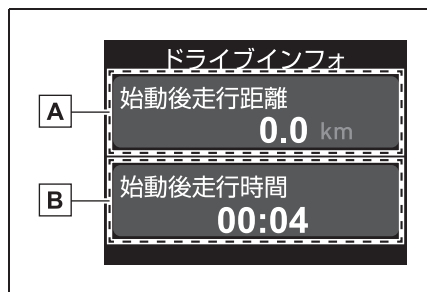
● コンパス

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オーディオシステム連携表示について

オーディオシステムの作動状況をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。

■ ドライブインフォメーション



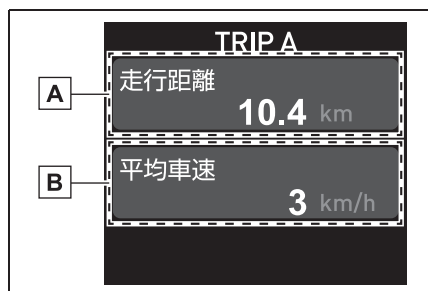
A ドライブインフォメーション 1

B ドライブインフォメーション 2

ドライブインフォ項目の組み合わせを⚙️から選択して表示させることができます。（→P.88）

- 平均車速：ハイブリッドシステム始動後の平均車速を表示
- 距離：ハイブリッドシステム始動後の走行距離を表示
- 走行時間：ハイブリッドシステム始動後の経過時間を表示

■ TRIP A/B のドライブインフォメーション



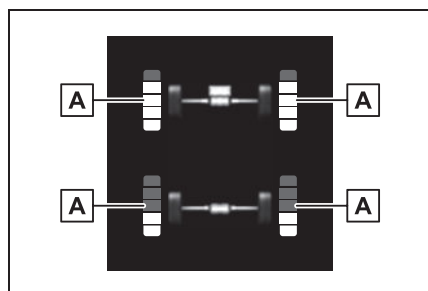
A TRIP A/B 1 のドライブインフォメーション

B TRIP A/B 2 のドライブインフォメーション

ドライブインフォ項目の組み合わせを から選択して表示させることができます。(→P.88)

- 平均车速：TRIP A/B の平均车速を表示
- 距離：TRIP A/B の走行距離を表示
- 走行時間：TRIP A/B の経過時間を表示

■ 4WD 作動状態表示★



図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

A 駆動力表示

0～5の6段階で、各車輪の駆動状態を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ エコアクセルガイド／エコジャッジについて

次の場合エコアクセルガイド／エコジャッジは作動しません。

- ハイブリッドシステムインジケーターが作動していないとき
- レーダークルーズコントロールを使用しているとき
- クルーズコントロールを使用しているとき

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

運転支援システムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

ブランク（非表示）

マルチインフォメーションディスプレイにブランク画面を表示します。

設定について

■ 変更できる項目（メーター表示）

→P.88

■ 変更できる項目（機能の切り替え・車両設定）

→P.457

知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

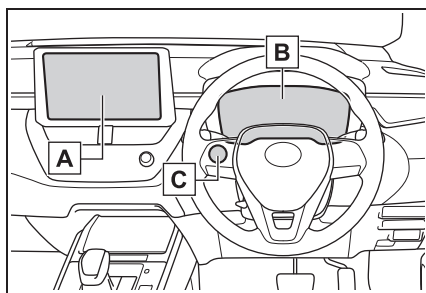
■ ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面

ハイブリッドシステムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面に表示します。

システムの構成部品



A マルチメディア画面

B マルチインフォメーションディスプレイ

C メーター操作スイッチ

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、ハイブリッドシステムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ
- 1 マルチインフォメーションディスプレイの  を選択する

- 2 メーター操作スイッチを押してエネルギーモニターを選択し、OK を押す

▶ マルチメディア画面

- 1 メインメニューのを選択する
- 2 “エネルギーフロー” を選択する

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。

エネルギーの流れがないときは、矢印は表示されません。

矢印は次のように変化します。

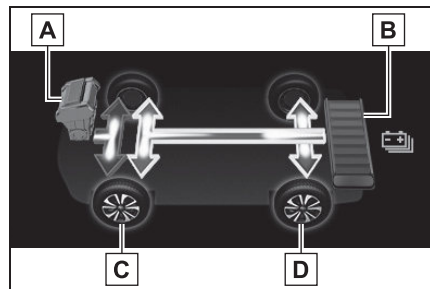
緑または青：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄または橙：電気エネルギーを使用しているとき

赤：ガソリンエンジンの動力を使用しているとき

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ（7インチディスプレイ）

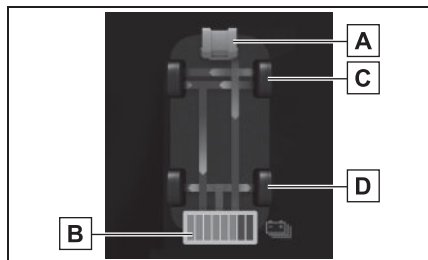


A エンジン

- B** 駆動用電池
C フロントタイヤ
D リヤタイヤ

FF 車は **D** への矢印は表示されません。

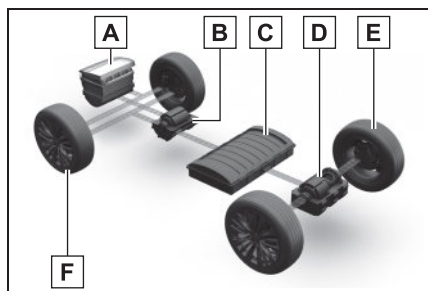
- ▶ マルチインフォメーションディスプレイ（12.3インチディスプレイ）



- A** エンジン
B 駆動用電池
C フロントタイヤ
D リヤタイヤ

FF 車は **D** への矢印は表示されません。

- ▶ マルチメディア画面



- A** エンジン
B フロントモーター
C 駆動用電池
D リヤモーター（4WD 車）
E リヤタイヤ

[F] フロントタイヤ

FF 車は **[E]** への矢印は表示されません。

知識**■ 駆動用電池の残量警告について**

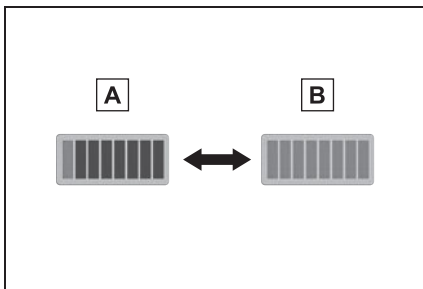
- シフトレバーが N で、駆動用電池の充電ができない状態が継続、もしくは、駆動用電池の残量が一定未満まで低下すると、ブザーが断続的に吹鳴します。その後、さらに残量が低下したときは、ブザー音が断続から連続に変わります。
- マルチインフォメーションディスプレイのメッセージとブザー音で警告されたときは、画面の指示に従って対処してください。

■ マルチメディア画面上の駆動用電池の表示について

駆動用電池に充電しているときは青色に、駆動用電池の電力が使用されているときは黄色に、それぞれ表示色が変わります。

■ マルチメディア画面上のエンジン表示について

ガソリンエンジンの暖機中はガソリンエンジンのイメージが白色で表示され、暖機が終了すると茶色に変わります。

■ 駆動用電池の残量表示（例：12.3 インチディスプレイ）

[A] 少ない

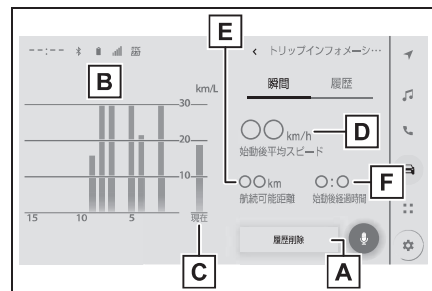
[B] 多い

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

燃費画面の見方**■ トリップインフォメーションの見方**

- 1 メインメニューの を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、“トリップインフォメーション” を選択します。



- [A]** 履歴削除
- [B]** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）
- [C]** 瞬間燃費
- [D]** ハイブリッドシステム始動後平均車速
- [E]** 航続可能距離
- [F]** ハイブリッドシステム始動後経過時間

平均燃費はパワースイッチを ON にしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

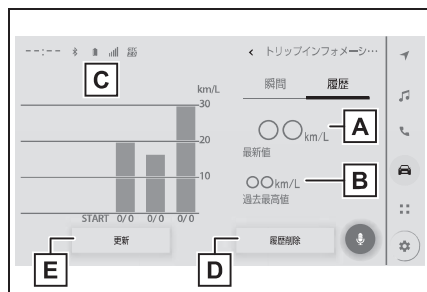
表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

- 1 メインメニューの  を選択する
- 2 “トリップインフォメーション” を選択する

燃費履歴画面以外が表示されたときは、“燃費履歴” を選択します。



- A** 最新値表示
- B** 過去最高値表示
- C** 過去平均燃費表示
- D** 履歴削除
- E** 最新値更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。



知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“最新値更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

“履歴削除”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→P.71, 77）

3-1. キー

キー 98

デジタルキー 101

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア・リヤドア）
..... 104

バックドア 108

スマートエントリー&スタートシス
テム 121

3-3. シートの調整

フロントシート 126

リヤシート 127

ヘッドレスト 129

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 132

インナーミラー 133

ドアミラー 134

補助確認装置 136

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 137

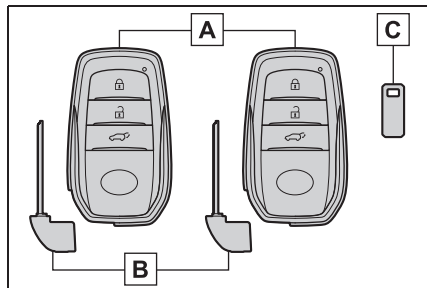
3-6. お好み設定

マイセッティング 140

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.121)
- ・ワイヤレス機能の作動 (→P.99)

B メカニカルキー

C キーナンバープレート



知識

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の

消耗を抑えることができます。
(→P.122)

- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→P.381)
- ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
- ・ 作動範囲が狭くなった
- ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池はお客様自身で交換することができます (→P.381) が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、トヨタ販売店での交換をおすすめします。
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器
- スマートエントリー&スタートシステムによる操作をしなくても、車両周辺に長時間いると、電池の消耗は早くなります。操作をしない場合は、車両周辺に長時間いないことをおすすめします。
- 電子キーを置いたままにするなど、一定時間電子キーの位置に変化がなかった場合、電池の消耗を抑えるために電子キーの機能が停止します。この場合は、電子キーを持ち上げるなどして位置を動かすことで、自動的に復帰します。
- 電池の消耗を抑えるため、車両周辺に長時間いるときは、降車オートロック機能を一時的に非作動にすることをおすすめします。(→P.105)

■ 電池が切れたとき

→P.381

■ 電子キーの取り扱いについて

JP

電子キーは電波法の認証に適合しています。

必ず以下のことをお守り下さい。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用下さい。

00

■ マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが10日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。



注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない

- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

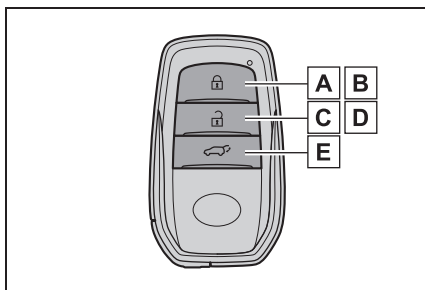
→P.435

■ 電子キーを紛失したとき

→P.435

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。



- A** ドアを施錠する (→P.104)
- B** ドアガラスを閉める ※
(→P.104)
- C** ドアを解錠する (→P.104)
- D** ドアガラスを開く ※
(→P.104)
- E** パワーバックドア★を開閉する
(→P.111)

※ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

★ : グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

知識

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.122

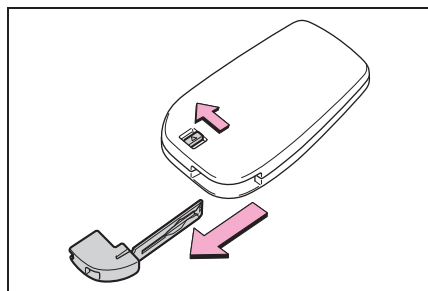
メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が

切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P.435)



知識

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.435

■不正キーの使用について

指定のキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

デジタルキー★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

スマートフォンに専用のデジタルキーアプリをインストールすることで、スマートフォンを車両の電子キーの代わりとして利用できます。また、デジタルキーアプリを使って、家族や友人などとのあいだで、デジタルキーを共有することもできます。

本書では、デジタルキーについての基本的な情報のみを記載しています。システム全体の説明や、デジタルキーをお使いいただく上での注意事項やアプリのインストール方法などについては、デジタルキーの Web サイトの説明を必ずご覧の上、正しくご使用ください。

URL :
https://toyota.jp/digital_key/

QR コード :



3

運転する前に



■ デジタルキーの取り扱い

JP

- ・本機は、電波法の基準に適合しています。
- ・本機を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

00

デジタルキーの使用条件

デジタルキーを使用するためには、

T-Connect に契約したうえで、デジタルキー契約が必要となります。
デジタルキー契約はトヨタ販売店

でのみ行うことができます。

契約は有償（無料期間有）です。詳細は販売店にお問い合わせください。

ダウンロードやご利用時にかかるパケット通信料はお客さまのご負担となります。

すべてのスマートフォンでの動作を保証している訳ではありません。対応機種・OS バージョンについては、デジタルキーの Web サイトをご覧ください。

デジタルキーの注意事項

- デジタルキーは本書に記載された使用方法および注意事項を守ってご利用ください。

デジタルキーは以下の場合などでは使用できなくなることがあります（詳細は、https://toyota.jp/digital_key/をご確認ください）。そのため、電子キーを常に携帯することを推奨いたします。

- ・ スマートフォンが故障した場合
- ・ スマートフォンとサーバーが通信できない場合
- ・ スマートフォンのバッテリー残量がなくなった場合
- ・ システムメンテナンス等により一時的にサービスが停止している場合

- スマートフォンのバッテリー残量がなくなると、デジタルキーとしての使用もできなくなります。スマートフォンのバッテリー残量が少ない場合はお出かけ前に必ず充電してください。
- デジタルキーは、スマートエントリー&スタートシステムに関連するシステムです。そのため、車両のカスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシ

ステムを無効にしているときは、デジタルキーも使用できなくなります。

- 電波環境によりデジタルキーが不作動になる場合があります。（デジタルキーの Web サイト参照）
- お客様が車両を売却するときはデジタルキーを必ず削除してください。

削除方法はデジタルキーの Web サイトを参照ください。

- 14 日間以上、車両の操作が無い場合はデジタルキーが自動では接続されません。その際は一度、運転席のドアハンドルに触れて下さい。
- サーバーメンテナンス期間はサービスを一部停止させて頂く場合があります。ただし、登録済みのデジタルキーは一定期間ご利用いただけます。
- デジタルキーアプリで車両に登録したスマートフォンは、車両の電子キーと同様にドアの施錠／解錠やハイブリッドシステムの始動などが可能になるため、スマートフォンの車内への置き忘れや盗難などには特にご注意ください。

万一、スマートフォンを紛失した、または盗難にあった場合は、クルマのディスプレイでデジタルキーを削除またはデジタルキーの設定を無効にしてください。または、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

- 点検や修理などでトヨタ販売店

にお越しの際は、電子キーを必ずご持参ください。

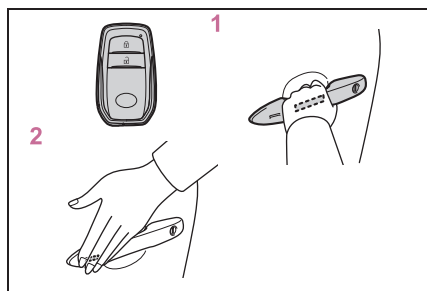
- デジタルキーのみでは車両への接近時の照明の点灯、スマートエントリー&スタートシステムの降車オートロック機能・接近時オートアンロック機能など一部の機能を使用できません。

ドア（フロントドア・リヤドア）

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 フロント席のドアハンドルを握って解錠する

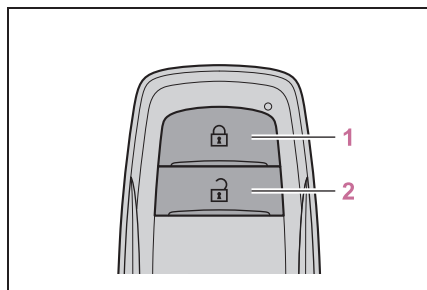
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 フロント席ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まりま

す。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。



■ 降車オートロック機能※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の手順で車から離れることで、自動で施錠することができます。

1 電子キーを携帯して降車し、すべてのドアを閉める

車内に電子キーがあると施錠できません。車内にあるすべての電子キーを携帯してください。

2 電子キーの作動範囲内（→P.121）でブザーが“ビピッ”と鳴るまで待機する

降車オートロック待機状態になります。

3 降車オートロック待機状態になったら、電子キーの作動範囲から離れる

すべてのドアが施錠され、作動の合図でお知らせします。（→P.105）

約 1 分間電子キーの作動範囲から離れなかったときは、警告ブザーが鳴り、降車オートロック待機状態が解除されます。この場合は、ドアを開閉することで降車オートロック待機状態にもどります。

■ パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアの閉作動中※¹にも、降車オートロック機能の手順ですべてのドアを施錠することができます。※²

※¹バックドアハンドルを使用したときは、機能は作動しません。

※²トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■降車オートロック機能を一時的に非作動にするには

降車オートロック待機状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドルを握り続けることで、降車オートロック機能を非作動にすることができます。

降車オートロック機能を一時的に非作動にした場合、次の操作のあとドアを開閉することで作動可能状態にもどります。

- ドアを施錠・解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する

■接近時オートアンロック機能※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

次の条件を満たしているときに、電子キーの作動範囲内（→P.121）に電子キーがあるとドアを解錠することができます。

- すべてのドアが閉まっている
- すべてのドアが施錠されている

■接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にするには

すべてのドアが閉まっている状態のときに電子キーを携帯し、ブザーが“ピッピー”と鳴るまでドアハンドル表面のロックセンサー部にふれ続けることで、接近時オートアンロック機能を非作動にすることができます。

接近時オートアンロック機能を一時的に非作動にした場合、ハイブリッドシステムを始動することで作動可能状態にもどります。

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

- 1 パワースイッチを OFF にする

- 2 キー表面のインジケーターが消灯しているときに  ボタンと同時に、 ボタンを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 2 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” （3 回） 車内：“ポーン” （1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” （2 回） 車内：“ポーン” （1 回）	フロント席のいずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
 オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.62）

■作動の合図

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによるドアの施錠・

解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

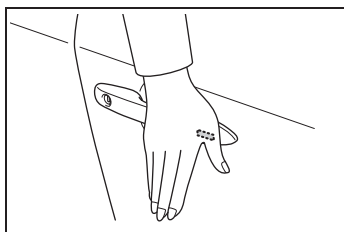
■解錠操作のセキュリティ機能

スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態で、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.62)

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのある状況

→P.122

■スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.435)

キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。(→P.381)

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。(→P.435)

■リヤシートリマインダー機能

リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●リヤドアを開閉したあと約 10 分以内にハイブリッドシステムを始動した

●ハイブリッドシステムが作動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため、使い方によってはリヤシートに荷物を置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／

非作動を設定できます。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● すべてのドアを確実に閉め、施錠する

● 走行中はドア内側のドアレバーを引かない

特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

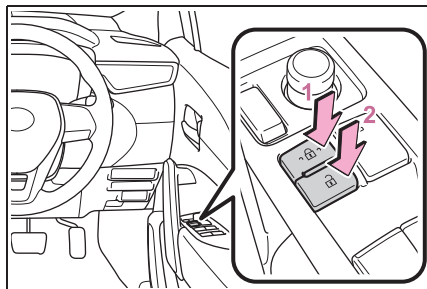
傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

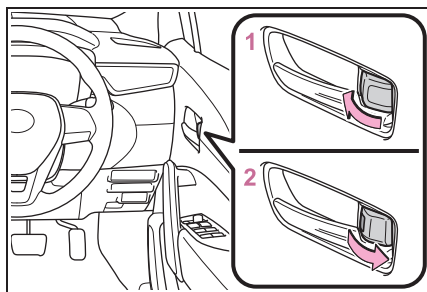
■ ドアロックスイッチを使用する



1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



1 ドアを施錠する

2 ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

📖 知識

■ キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

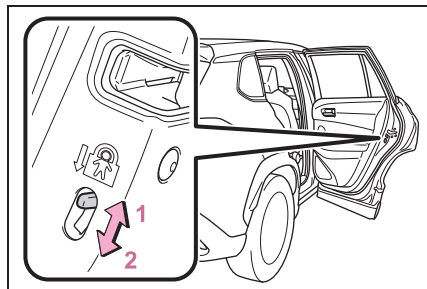
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■半ドア走行時警告ブザー

各ドアまたはバックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴り、開いているドアがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

バックドア

バックドアはバックドアオープンスイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

● 走行前にバックドアが閉まっていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

● ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

● お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。

不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。

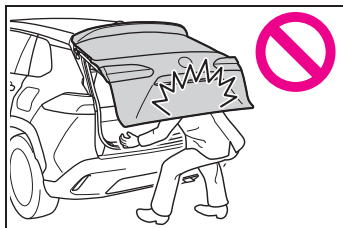
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

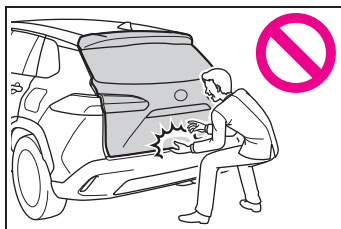
バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあります。

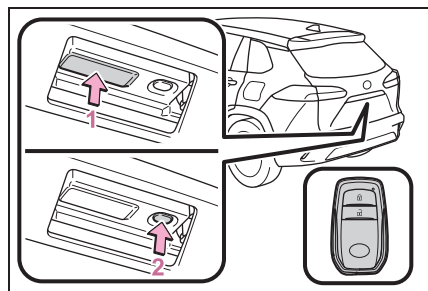
- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりする恐れがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、バックドアで指などを挟まないよう十分注意してください。



- バックドアは必ず外からバックドア上面を軽く押しして閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

車外から解錠／施錠するには**■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する**

1 バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレスリモコンを使用する

→P.104

**■ 作動の合図**

→P.105

車内から解錠／施錠するには**■ ドアロックスイッチを使用する**

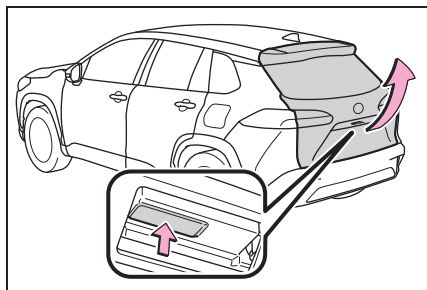
→P.107

バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）**■ 開ける**

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

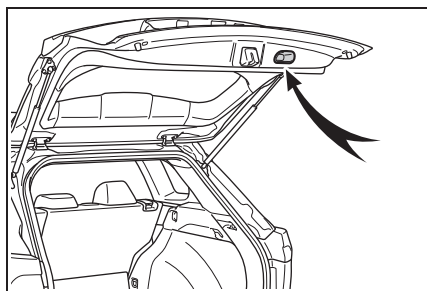
バックドアオープンスイッチを押した直

後はバックドアを閉めることができません。

**■ 閉める**

バックドアハンドルを持って、横方向に力をかけないように引き下げる

必ず外から押して閉めてください。

**■ 半ドア走行時警告ブザー**

→P.108

■ ラゲージルームランプ

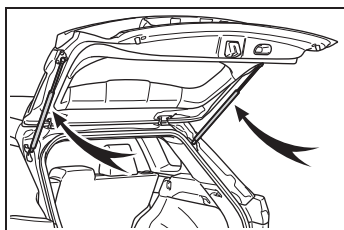
バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

⚠ 注意

■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品をつけない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

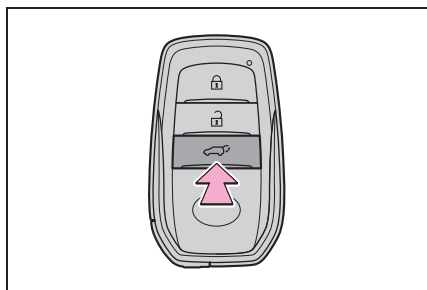
■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

バックドア解錠時に作動させることができます。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。



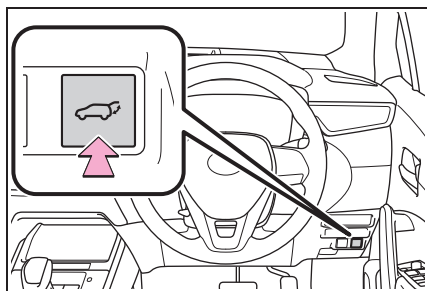
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開閉します。ただしパワーバックドア施錠状態では、スイッチは作動しません。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間長押しすると、パワーバックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

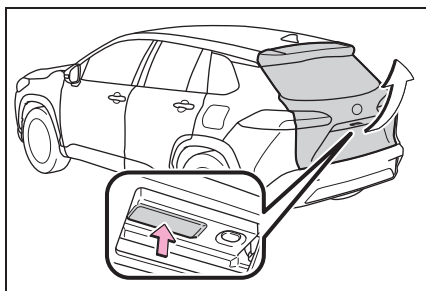
● 開ける

パワーバックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

パワーバックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを長押しする

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で開きます。

パワーバックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



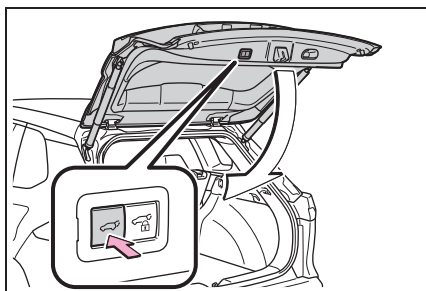
● 閉じる

☞ スwitchを押す

ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で開きます。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ&ロック機能）

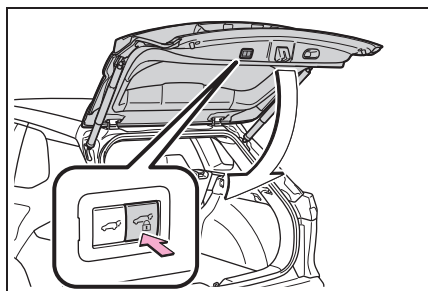
クローズ&ロックスイッチを押す
パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠します。

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中でクロー

ズ&ロックスイッチを押すと、作動を停止します。

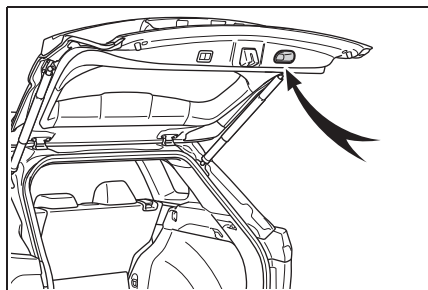
再度スイッチを押すと、パワーバックドアは自動で閉まります。



■ バックドアグリップを使用して閉じる

バックドアグリップを持ってパワーバックドアを引き下げる

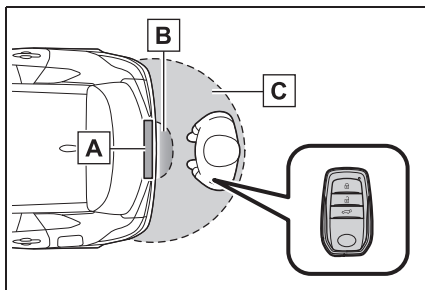
ブザーが鳴りパワーバックドアが自動で閉まります。



■ ハンズフリーパワーバックドアを使用して開閉する

- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動範囲内でリヤバンパーから

約 50 ～ 60cm 離れた位置に
立つ



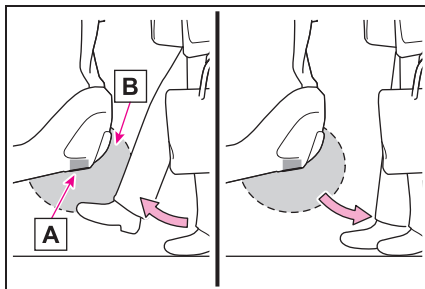
A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア
作動検知エリア

C スマートエントリー&スタート
システム作動検知エリア
(→P.121)

2 足をリヤバンパーから約
10cm の距離になるまで近づ
けて引く

- ・足を近づけて引く動作を 1 秒以
内に行ってください。
- ・足先をリヤバンパーの下に入れ
たままでは作動しません。
- ・リヤバンパーに足先をあてずに
非接触で操作してください。
- ・車室内またはラゲージルーム内
に他の電子キーがあると、作動
までの時間が少し長くなること
があります。



A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア
作動検知エリア

3 足を引く動作をキックセンサー
が検知するとブザーが鳴り、そ
の後パワーバックドアが自動で
全開・全閉します。

パワーバックドアが作動中に再度操作
をすると、作動を停止します。



知識

■ラゲージルームランプ

- パワーバックドアを開けたとき、ラ
ゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチを OFF にしたときに、
ラゲージルームランプが点灯したまま
の場合、約 20 分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動が ON で、次の
ときに自動で開閉できます。

- パワーバックドアが解錠されていると
き、ただし次のときはパワーバックド
アが施錠されていてもパワーバックド
アは作動します。
- ・電子キーを携帯してバックドアオー
プンスイッチを押したとき
- パワースイッチが ON のとき開作動する
には、上記に加え、車速が約 3km/h
以下で、次のいずれかの条件で作動し
ます。
- ・パーキングブレーキがかかっている
- ・ブレーキペダルを踏んでいる
- ・シフトレバーが P の位置にある

■クローズ & ロック機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動しま
す。

- ・自車のもう一つの電子キーを車室内に
置いていないとき

- ・パワーバックドア以外のすべてのドアが閉じているとき
- ・パワースイッチが OFF のとき

■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件

- ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定が ON のとき
- 電子キーが作動範囲内にあるとき

■バックドアイージークローザー

パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

- パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。
- バックドアイージークローザーが作動中でも、バックドアオープンスイッチを押してパワーバックドアを開けることができます。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が点滅します。
- パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しません。が手動で開閉できます。
- パワーバックドア自動開閉中に、バックドアオープンスイッチを押すと、パワーバックドアの作動が停止し、手動操作に切りかわります。
- パワーバックドア自動開閉中に、人や異物などにより異常を感知すると、ブザーが鳴り、パワーバックドア開作動中はすぐに停止、パワーバックドア閉作動中は自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

■バックドア予約ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、

あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

- 1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる
- 2 パワーバックドアの自動閉作動中にワイヤレスリモコンの施錠操作を行う（→P.99）または、スマートエントリー&スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.104）

予約ロックをしてバックドアが自動閉作動中に、挟み込み防止機能が働くなど停止操作が行われると、予約ロック機能が解除され全てのドアが解錠されます。

■クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ（→P.111）を押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ（→P.111）を押したとき
- パワーバックドア下部のクローズ&ロックスイッチ（→P.111）から離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
- リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき

リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間を置いてから再度操作してください。

- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
- 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.122）
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき
アクセサリ用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。
- 応急用タイヤ装着車：応急用タイヤが格納されている場所に応急用タイヤ以外のタイヤを格納したとき

■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作を

したとき

- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものである動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの脱着作業したとき
- けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動の設定を OFF にしてください。

■パワーバックドアが自動で作動しなくなったときは

パワーバックドアを開いた状態で長時間放置すると、パワーバックドアが自動で作動しなくなる場合があります。

この場合は、パワーバックドアを手動で一度全閉にしてください。

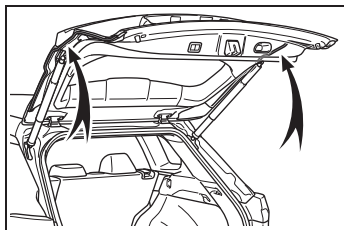
■補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてパワーバックドア

を手動で一度全閉にしてください。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。パワーバックドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からパワーバックドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

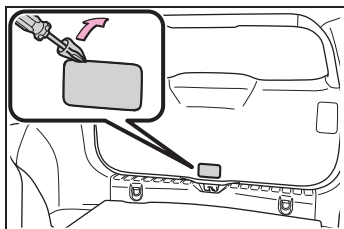


■ バックドアが開かないとき

バックドアのロックを内側から解除することができます。

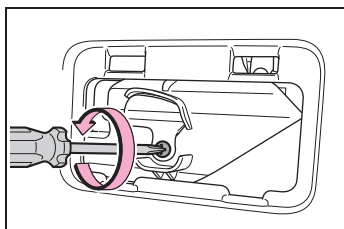
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

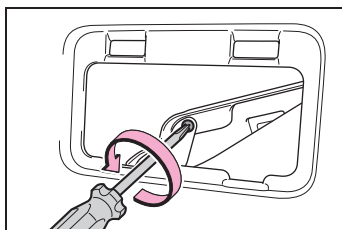


2 ネジをゆるめる

▶ パワーバックドア装着車

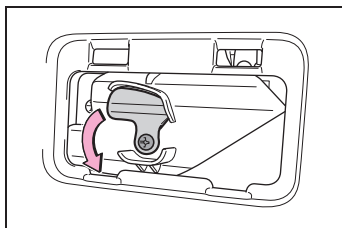


▶ パワーバックドア非装着車

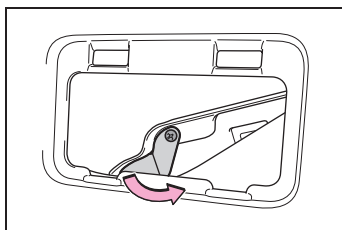


3 カバーをまわす

▶ パワーバックドア装着車

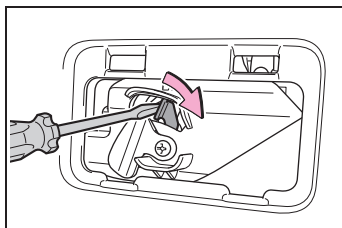


▶ パワーバックドア非装着車

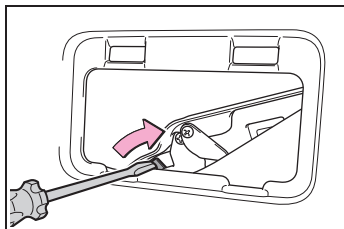


4 レバーを押す

▶ パワーバックドア装着車



▶ パワーバックドア非装着車



- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

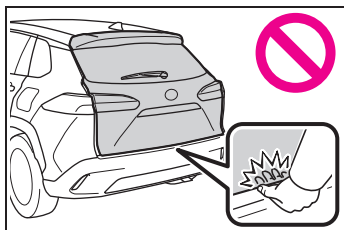
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

警告

■ バックドアイージークローザーについて

- パワーバックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

■ パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
 - 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
 - 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
 - 自動開閉中に作動可能条件(→P.113)を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではパワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
 - 傾斜した場所では、開いたあとにパワーバックドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。
 - 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、パワーバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき

⚠ 警告

- ・ハイブリッドシステム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたりハイブリッドシステムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

- パワーバックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。パワーバックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、パワーバックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

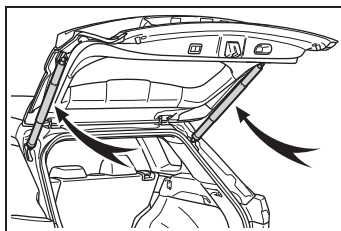
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 排気管は排気ガスにより高温になります。操作するときは排気管にふれないでください。
- リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

⚠ 注意

■ スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニットが取り付けられています。スピンドルユニットの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない



- ロッド部を軍手などでふれない
- パワーバックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■ バックドアアイジークローザーの故障を防ぐために

- バックドアアイジークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイジークローザーの故障の原因となります。

⚠ 注意

- パワーバックドアの開け閉めを短時間にくり返すとバックドアイージークローザーが作動しないことがあります。この場合、いったんパワーバックドアを開け、少し時間をおいてから閉めなおすと作動します。

■ パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるパワーバックドアの貼り付きがないことを確認してください。パワーバックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワーバックドアの作動中は、パワーバックドアに無理に力をかけないでください。
- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.116）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■ クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ ハンズフリーパワーバックドアについて

キックセンサーは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく

リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

- リヤバンパーに草木など動くものを近づけない

リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、ハンズフリーパワーバックドアが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける

リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ キックセンサーやキックセンサー周辺に強い衝撃を受けた
- ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない

⚠ 注意

- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドア（キックセンサー）の作動を OFF にする

パワーバックドアの設定を変更するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から、「車両設定」を表示することで、パワーバックドアの設定を変更することができます。（→P.457）

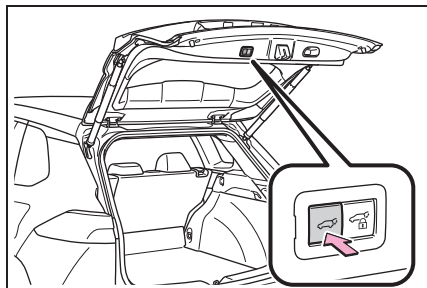
パワーバックドアの設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にしても設定内容はリセットされません。設定をもとにもどすには、再度、マルチインフォメーションディスプレイの設定画面での設定操作が必要です。

パワーバックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 パワーバックドアをお好みの位置で停止させる（→P.111）
- 2 パワーバックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける
 - ・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
 - ・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でパワーバックド

アが停止します。

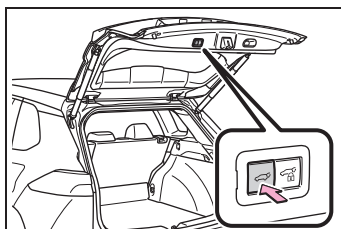


□ 知識

■ パワーバックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

パワーバックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける

ブザーが 4 回鳴り、一時停止したあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までパワーバックドアが開きます。



■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。（→P.457）

スイッチまたはマルチインフォメーションディスプレイのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

スマートエントリー&スタートシステム

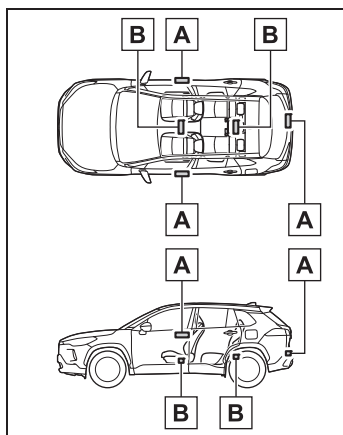
電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する
(→P.104)
- バックドアを施錠・解錠する
(→P.110)
- ハイブリッドシステムを始動する
(→P.151)



知識

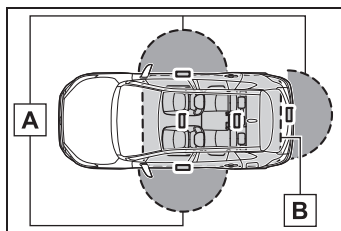
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル/バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアのみ作動します)

B ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→P.408)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

- 車外から警告音が“ピー”と5秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する

- 車内から警告音が“ポーン、ポーン”

と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACCにした（パワースイッチがACCのとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

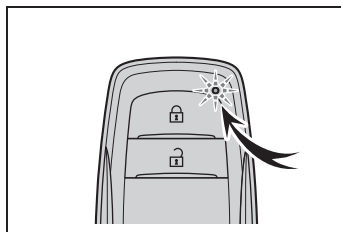
- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。またイルミネーテッドエントリーシステムが作動しない、接近時オートアンロック機能による解錠が作動しない場合があります。
 - ・ 車の周辺に電子キーを一定時間以上放置した
 - ・ 数日間スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーの節電モードについて

節電モードに設定すると、電子キーによる、電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの  を押しながらか、 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー

- ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき
- コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠できない場合は、次の方法を試してください。

- ドアハンドルに電子キーを近づけて操作する
- ワイヤレス機能を使用する

上記の方法でも施錠・解錠できない場合は、メカニカルキーを使用してください。(→P.435)

また、スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムが始動できない場合は、P.436を参照してください。

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
- ・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- ・バックドアを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている場合
- ・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- ・ドア解錠時に電子キーと車両との間を体でさえぎっている場合

- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約30秒後に自動的に施錠されます）
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します）
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
- ・電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- ・電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステム

の作動を停止する (→P.122)

- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■降車オートロック機能※¹についてご留意いただきたいこと

- 車内に人が乗っている場合でも、車内に電子キーがないときは降車オートロック機能が作動します。施錠したくないときは、降車オートロック機能を非作動にしてください。(→P.105) 乗員を残して施錠するとオートアラームが作動することがあります。
- 洗車機などの大きな金属物が動くような場所では、電子キーの位置が正しく検知されないおそれがあります。降車オートロック機能の誤作動を防ぐために、車から離れるときは車内に電子キーを残さないでください。
- 全てのドアを閉めたあと (パワーバックドア閉作動中も含む※²) に次の操作をすると、降車オートロック機能が解

除されます。

- ・ ブレーキペダルを踏んだとき
- ・ パワースイッチを押したとき
- ・ 降車オートロック機能以外で施錠・解錠したとき

降車オートロック機能を作動させるには、いずれかのドアを開閉 (パワーバックドア閉作動も含む※²) してください。

- 電子キーのスイッチを押し続けている場合、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
 - 降車オートロック待機状態のときにいずれかのドアを開けると、降車オートロック機能が解除されます。※²
 - すべてのドアが閉じたときに電子キーが作動範囲内にない場合でも、一定時間内に電子キーが作動範囲内に入ると降車オートロック機能が作動します。※²
 - 電池残量が少ないときは、降車オートロック機能が正常に作動しないおそれがあります。
 - 降車オートロック機能を一時的に非作動にする (→P.105) とし、ブザーが2回鳴る前に次の操作をすると、降車オートロック機能は非作動になります。
 - ・ いずれかのドアを開けたとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んだとき
 - ・ パワースイッチを押したとき
- 降車オートロック機能を一時的に非作動にするには、いずれかのドアを開閉したあと、操作をやり直してください。
- 降車オートロック機能を一時的に非作動にする (→P.105) とし、施錠されていないドアのドアハンドルを握ってください。
 - 降車オートロック機能を一時的に非作動にする (→P.105) とし、ブザーが鳴らない場合は、電子キーの位置を確

認してから再度ドアハンドルを握ってください。

※¹ トヨタ販売店で設定変更が必要です。

※² パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能 (→P.104) の設定を有効にしている場合は同様にご留意ください。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から2m以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。(→P.457)
- 電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。(→P.122)

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→P.435
- ハイブリッドシステムの始動：→P.436

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、

またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.104, 435)

- ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.436
- ハイブリッドシステムの停止：→P.153

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響について (スマートエントリー&スタートシステムアンテナ)

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ (→P.121) から約22cm以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合には、電波による影響について個別に医療用電気機器メーカーなどにご確認ください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与える場合があります。

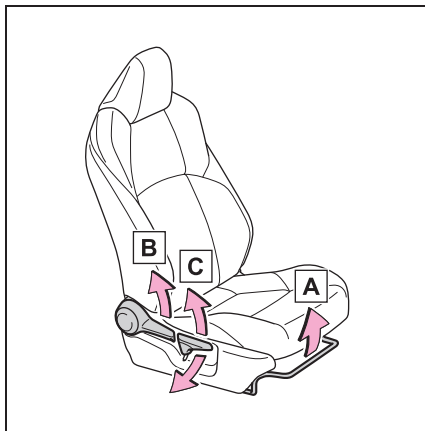
スマートエントリー&スタートシステムを作動しないようにすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

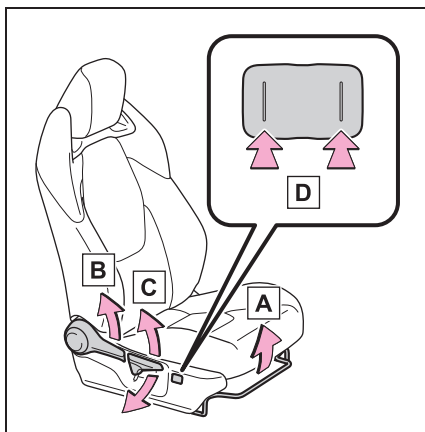
■ マニュアルシート装着車

▶ A タイプ



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション全体の上下調整（運転席のみ）

▶ B タイプ



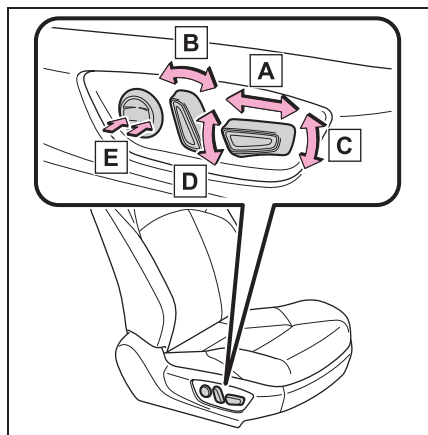
- A** 前後位置調整

- B** リクライニング調整

- C** クッション全体の上下調整（運転席のみ）

- D** 腰部位置調整（運転席のみ）

■ 運転席パワーシート装着車



- A** 前後位置調整
- B** リクライニング調整
- C** クッション前端の上下調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部位置調整

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

⚠ 警告**■ シート調整について**

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

⚠ 注意**■ シートを調整するときは**

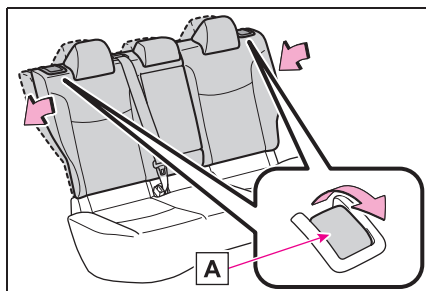
ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。ヘッドレストや天井が損傷するおそれがあります。

リヤシート

レバーの操作で、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

調整するには

リクライニング調整レバー**A**を引いて、背もたれを調整します。

**⚠ 警告****■ 背もたれを操作するとき**

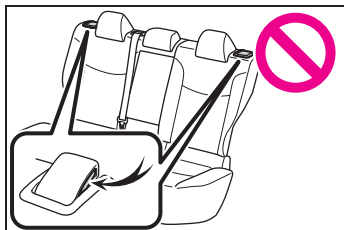
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートのあいだや動いている部分に手を近づけないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- シート調整後はきちんと固定されていることを確認してください。

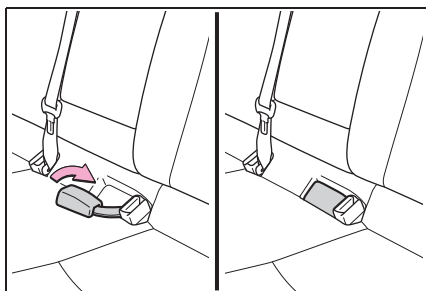
⚠ 警告**■ 背もたれをもとにもどしたあとは**

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

シートが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

**背もたれを前に倒す**

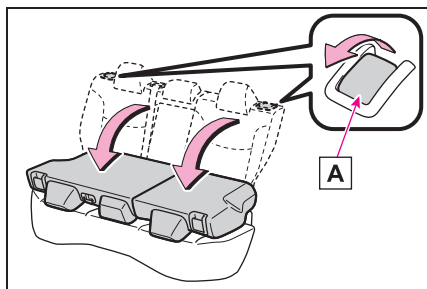
- 1 フロントシートを前方に移動する (→P.126)
- 2 リヤアームレストを格納する (→P.346)
- 3 リヤ中央席シートベルトのバックルを格納する



- 4 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.129)
- 5 リクライニング調整レバー **A** を引きながら、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、レバー

を引いてください。

**⚠ 警告**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

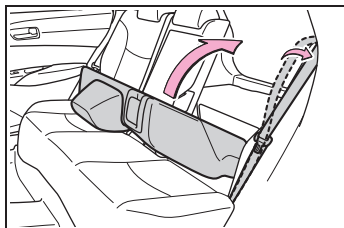
■ 背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

⚠ 警告

- シートベルトを挟み込まないように
背もたれをもとにもどしてください。

シートベルトが背もたれ固定フックに
挟まり、シートベルトを損傷させるお
それがあります。



ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシート
に装備されています。

⚠ 警告

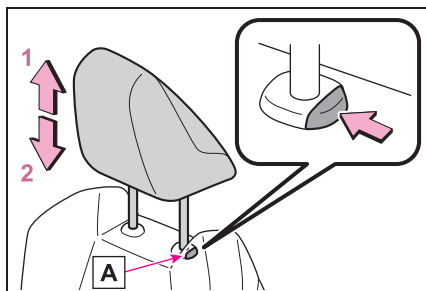
■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害に
およぶか、最悪の場合死亡につながる
おそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート
専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調
整する
- ヘッドレストを調整したあとは、
ヘッドレストを押し下げて固定され
ていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行し
ない

上下調整するには

■ フロント席

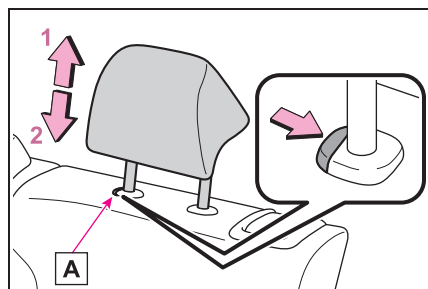


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら
操作します。

■ リヤ外側席

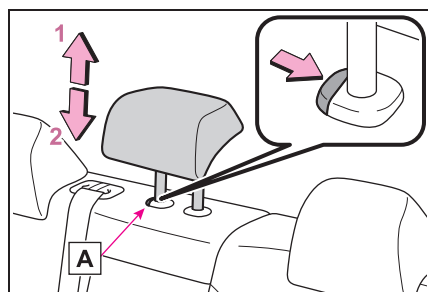


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

■ リヤ中央席



1 上げる

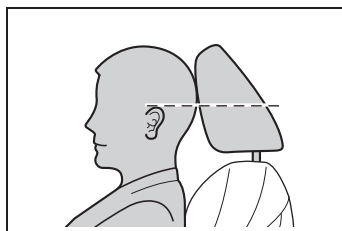
2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。

□ 知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



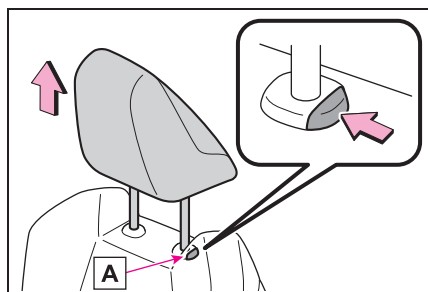
■ リヤ席のヘッドレストについて

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

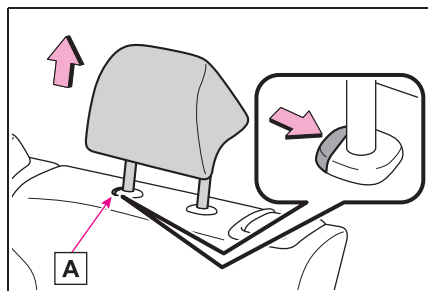
■ フロント席

解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ リヤ外側席

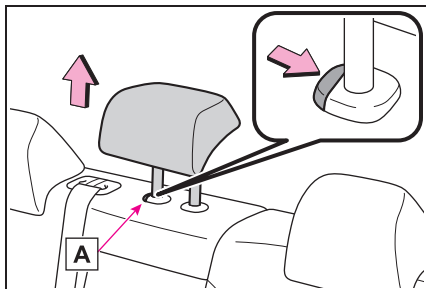
解除ボタン[A]を押しながらヘッドレストを引き上げます。



■ リヤ中央席

解除ボタン[A]を押しながらヘッド

レストを引き上げます。

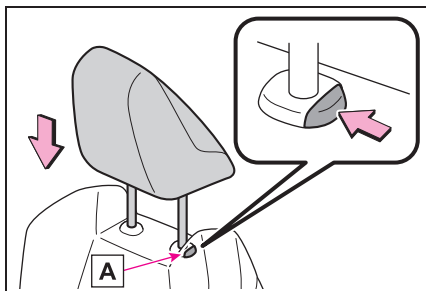


ヘッドレストを取り付けるには

■ フロント席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

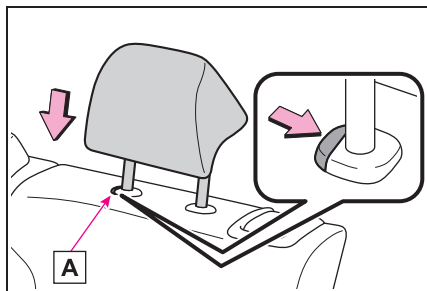
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



■ リヤ外側席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

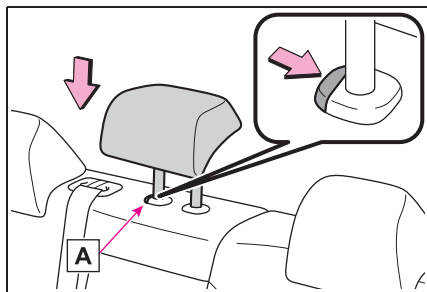
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



■ リヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

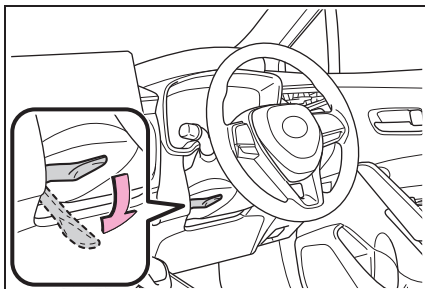
さらに下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作してください。



ハンドル

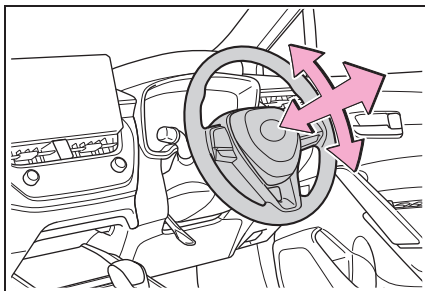
調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを下げる



- 2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



警告

■ 走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

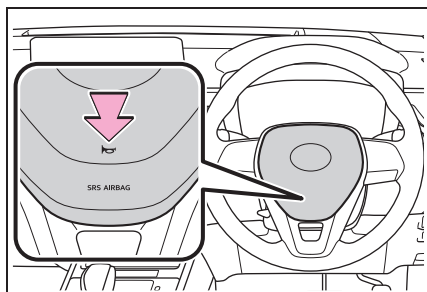
■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



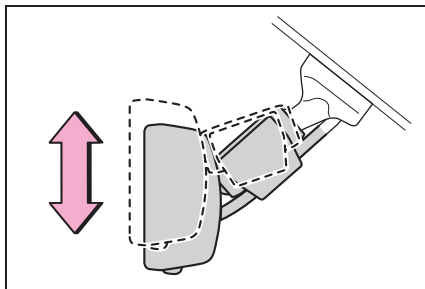
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

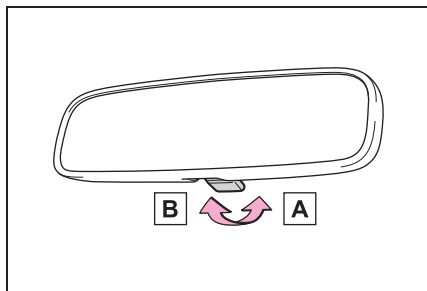
■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

防眩機能

▶ 手動防眩タイプ装着車

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。



A 通常使用時

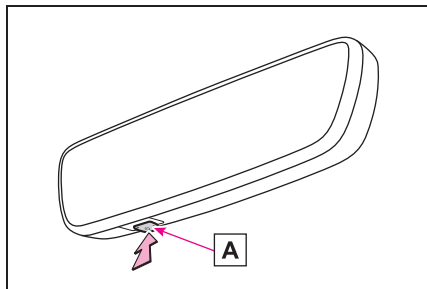
B 防眩時

▶ 自動防眩タイプ装着車

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ ON / OFF

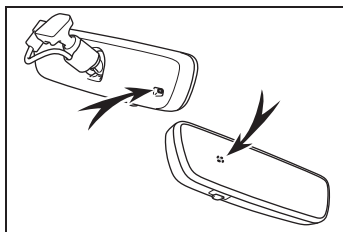
ON のときはインジケーター **A** が点灯します。パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩タイプ装着車）

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようにミラーの角度を調整してください。

□ 知識

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

⚠ 警告

■ 走行中の留意事項

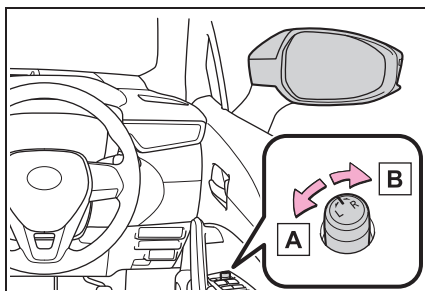
走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

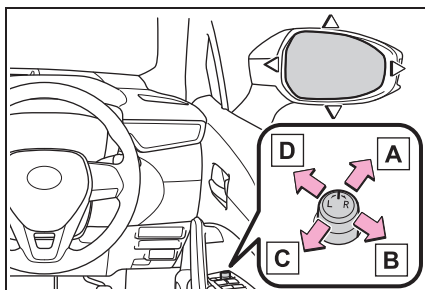
- 1 調整するミラーを選ぶには、スイッチをまわす



A 左

B 右

- 2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する



A 右

B 下

C 左

D 上



知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、

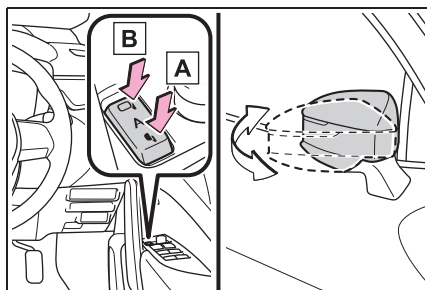
曇りを取ることができます。(→P.323)

警告

■ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納・復帰するには



A ミラーを格納する

B ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置 “A” にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。



知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

警告

■ミラーが動いているとき

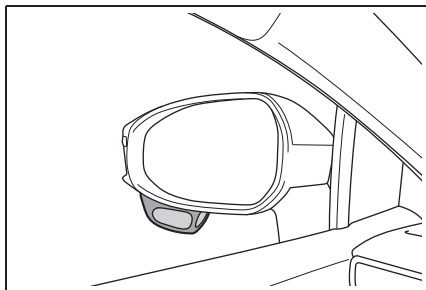
手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

補助確認装置★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

補助確認装置について

発進時またはごく低速時に、左側車両側面を確認するときに役立ちます。

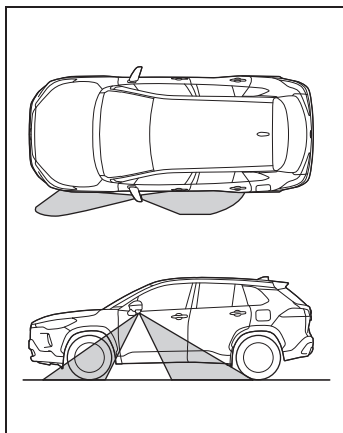


知識

■ミラーに映るおよその範囲

身長・シートの位置により、確認できる範囲は異なります。

ミラーの鏡面は固定式のため、鏡面を動かして確認できる範囲の調整をすることはできません。



注意

■補助確認装置について

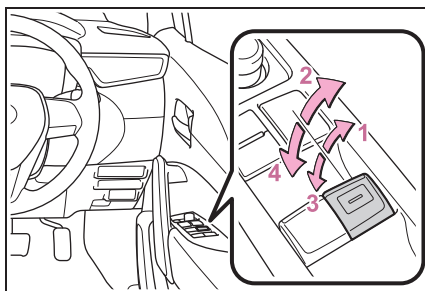
- 補助確認装置の鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は、直接確認するかインナーミラー・ドアミラーなども併用し十分注意して行ってください。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または、自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 パワースイッチを ON にする
- 2 パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.436）
- ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P.104）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.62）

＊ トヨタ販売店ででの設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

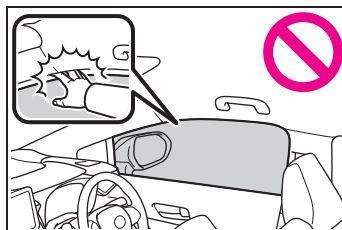
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.457）

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.139）
- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまと一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

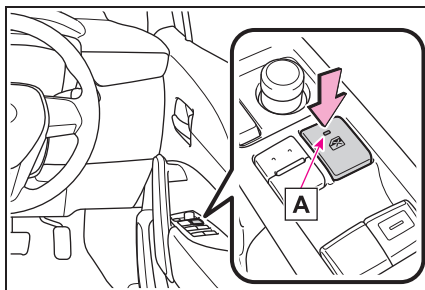
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケータ **A** が点灯し、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング

電子キーなどのデバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者3名分の設定を記憶することができます。

認証デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● 電子キー／デジタルキー★

スマートエントリー&スタートシステムが電子キーまたはデジタルキーを検出することで個人を特定します。(→P.101, 121)

● Bluetooth® デバイス

Bluetooth® 機器をマルチメディアシステムに接続することで個人を特定します。Bluetooth® 機器の接続方法については、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

電子キーを検出して個人を認識したとき

は、Bluetooth® デバイスでの個人の特定はしません。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

再生される機能

認証デバイスから個人特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● メーター表示※／マルチメディア設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● 安全運転支援機能※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

● マルチメディア画面で設定可能な車両設定※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定を除く

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 143

荷物を積むときの注意 149

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ
..... 151

EV ドライブモード 155

ハイブリッドトランスミッション
..... 157

方向指示レバー 161

パーキングブレーキ 162

ブレーキホールド 166

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの
使い方

ランプスイッチ 168

AHS（アダプティブハイビームシス
テム） 172AHB（オートマチックハイビーム）
..... 175

フォグランプスイッチ 177

ワイパー&ウォッシャー（フロン
ト） 179ワイパー&ウォッシャー（リヤ）
..... 182

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 183

4-5. 運転支援装置について

ソフトウェアアップデートを確認す
る 185

Toyota Safety Sense 187

PCS（プリクラッシュセーフティ）
..... 194LTA（レーントレーシングアシス
ト） 202LDA（レーンディパーチャーアラ
ート） 207PDA（プロアクティブドライビング
アシスト） 212

発進遅れ告知機能 217

RSA（ロードサインアシスト）
..... 219レーダークルーズコントロール
..... 222

クルーズコントロール 231

ドライバー異常時対応システム
..... 234BSM（ブラインドスポットモニ
ター） 236

クリアランスソナー 241

RCTA（リヤクロストラフィックア
ラート） 250RCD（リヤカメラディテクション）
..... 255PKSB（パーキングサポートブレ
ーキ） 259パーキングサポートブレーキ（前後
方静止物／周囲静止物） 265パーキングサポートブレーキ（後方
接近車両） 270パーキングサポートブレーキ（後方
歩行者） 272トヨタチームメイト アドバンス
トパーク 274

安心降車アシスト 298

ドライブモードセレクトスイッチ
..... 302

運転を補助する装置 304

プラスサポート（販売店装着オプ
ション） 310

4-6. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス 316

寒冷時の運転.....318

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ ハイブリッドシステムを始動する

→P.151

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.157)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.162)

パーキングブレーキがオートモードのときは、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.163)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.162)

■ 駐車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかける
(→P.162)

パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトポジションをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでくだ

い。

シフトレバーをPにする。

- 3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を抑えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。(→P.316)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.81、89）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

⚠ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進してしまう。
- ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

 警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。
走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.394 を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。
(→P.157)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 4WD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的とした 4WD 車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するとき

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に動くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

 警告

- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールがでなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火したりする
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートしたりする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしたりすると、荷物を押し込んだりシートを動かしたりしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 警告

- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPに入れ、ハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付かないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、1つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があります。制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したとき

駆動輪が宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ 運転しているとき

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

⚠ 注意

- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進したりするおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにもわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.415、427を参照してください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする

● 水を吸い込んだエンジンの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときや、泥や砂に埋もれてしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・ハイブリッドトランスミッションなどのオイルやフルードの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

急発進および後退速度の抑制 (ドライブスタートコントロール)

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制することがあります。

- Rに切りかえたとき※
- PまたはRから、Dなどの前進シフトポジションに切りかえたとき※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるようにハイブリッドシステム出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動してい

るときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ ドライブスタートコントロールについて

- TRC の作動を停止 (→P.306) すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。(→P.306)
- タイヤがスリップ (空転) していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。
- 後退速度の抑制制御の ON (作動) / OFF (非作動) を切りかえることができます。(→P.457)
- ・ パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON (作動) になっています。
- ・ 後退速度の抑制制御を OFF (非作動) にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のこととお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席 (荷物を積み重ねる場合)
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

 警告

- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
- ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤや駆動系部品に負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のトヨタ純正キャリアを装着してください。トヨタ純正品以外を装着される場合は、トヨタ純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のこととお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。

パワー（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムを始動するには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.162）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する

- 3 ブレーキペダルをしっかり踏む
マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

- 4 パワースイッチを短く確実に押す

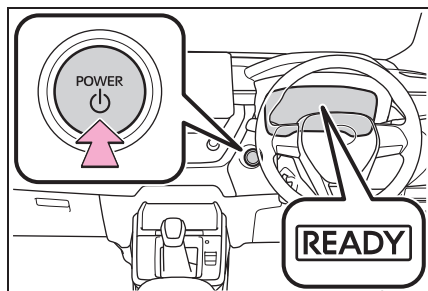
短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハ

イブリッドシステムを始動できます。



- 5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポート★をご使用の方は、→P.310 も併せて参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ハイブリッドシステムが始動しないとき

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.61）トヨタ販売店へご連絡ください。
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

■外気温が低いときは

- ハイブリッドシステム始動時にREADY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。
- 極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ

30℃以下)、ハイブリッドシステムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→P.53

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムでハイブリッドシステムを始動することができません。ハイブリッドシステムを始動するには、P.437を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.98

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.122

■ご留意いただきたいこと

→P.123

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行ってもREADY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→P.59

■電子キーの電池交換

→P.381

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、P.435を参照してください。

警告

■ハイブリッドシステムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。

注意

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかけりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

ハイブリッドシステムを停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて
(→P.162)、シフトレバーをP
の位置にする

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 3 パワースイッチを押す

ハイブリッドシステムが停止し、メーター表示が消えます。

- 4 ブレーキペダルから足を離してマルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリー”や“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

警告

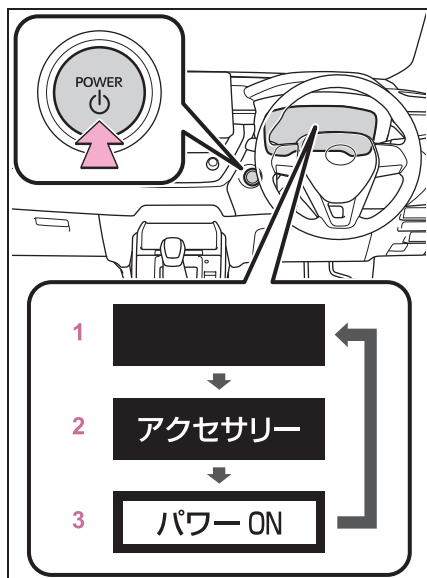
■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P.394) ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
- 走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

- 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したあと、走行中にハイブリッドシステムを再始動させる場合は、シフトレバーをNにし、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※1

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC※2

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに“アクセサリー”が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されます。

※¹シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押しているときはONになり、OFFになりません。

※²カスタマイズメニューでON/OFFを切りかえることができます。
(→P.457)

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、数分以上ACCがON（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動でOFFになります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが作動していないときは、パワースイッチをACC、またはONにしたまま長時間放置しないでください。

■ACC カスタマイズが OFF のとき

パワースイッチ OFF の状態でも、節電機能が働くまでの一定時間はマルチメディアシステムが使用できます。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

- ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをACCまたはONにしたまま長時間放置しないでください。

- ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチがOFFになっていません。パワースイッチをOFFにしてから車両を離れてください。

シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードはOFFにはなりません。次の手順でOFFにしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーをPの位置にする
シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの“アクセサリ”または“パワー ON”の表示が消灯していることを確認する

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがONとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

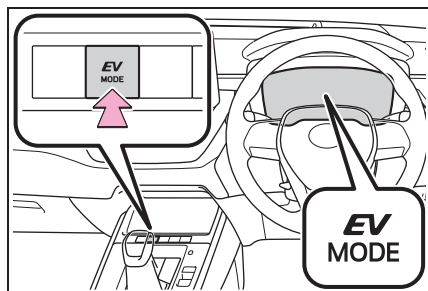
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードの切りかえ

EV ドライブモードスイッチを押す
EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



□ 知識

■ EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
低温下に長時間駐車したあとなど

- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.93）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントウインドウガラスの曇り取りを使用しているとき

■ ガソリンエンジンが冷えているときのEVドライブモードの切りかえについて

ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前にEVドライブモードスイッチを押してください。

ただし、車両状態によってはEVドライブモードが解除され、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）に戻る場合があります。

■ EVドライブモードの自動解除について

EVドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EVドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EVドライブモード表示灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態（→P.93）
- 車速が高いとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■ EVドライブモードの走行可能距離

EVドライブモードの走行可能距離は数百mから約1km程度です。ただし、車両の状況によってはEVドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離

は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■ 燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費がよくなるように制御されています。EVドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EVモードに現在切りかえできません”と表示されたときは

EVドライブモードを使用できません。EVドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／EV速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。EVドライブモードが使用できる状況になってから使用してください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EVモードが解除されました”と表示されたときは

EVドライブモードが自動解除されています。EVドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／EV速度域超過／アクセル踏み過ぎ）が表示される場合があります。しばらく走行してから使用してください。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

EVドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

ハイブリッドトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

▶ パドルシフトスイッチ非搭載車

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

▶ パドルシフトスイッチ搭載車

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※ ¹
S	S モード走行 ※ ² (→P.160)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を

切りかえることができます。

知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に走行モードをパワーモードにしても、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が解除されないためエンジンブレーキは効きません。(→P.302)

■ 急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.148

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

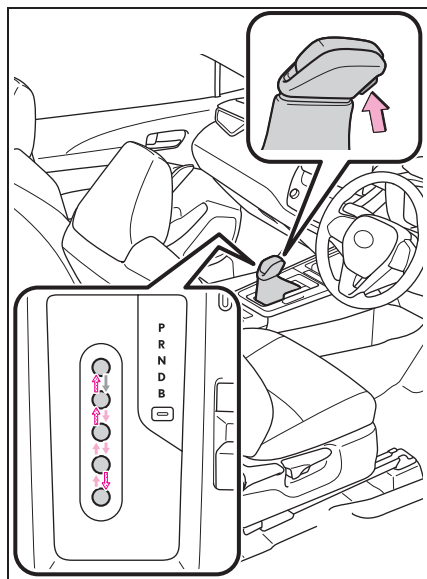
注意

■ 駆動用電池の充電について

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で一定時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

シフトレバーの動かし方

▶ パドルシフトスイッチ非搭載車



←：パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。＊

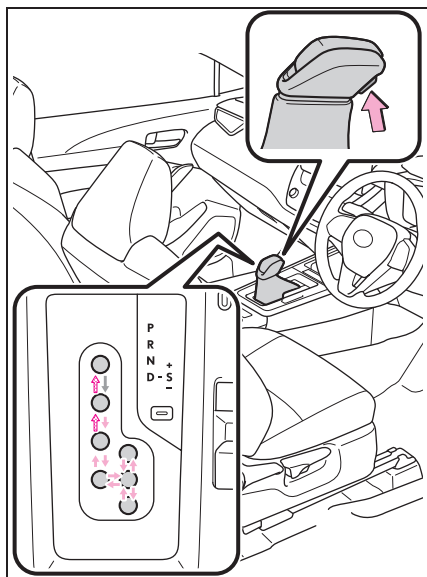
←：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

＊シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

▶ パドルシフトスイッチ搭載車



←：パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押しながら操作します。＊

←：シフトレバーのボタンを押しながら操作します。

←：シフトレバーのボタンを押さずそのまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

＊シフトレバーのボタンを押す前にブレーキペダルを踏んでください。シフトレバーのボタンを始めに押してもシフトロックは解除されません。

知識

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

パワースイッチが ON でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーをPからシフトできないとき

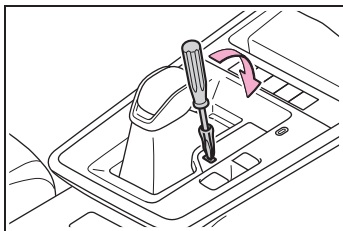
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

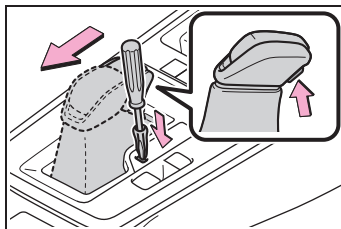
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 パワースイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバールーバーを取りはずす
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 シフトロック解除ボタンを押しながらシフトレバーのボタンを押す

シフトロック解除ボタンを押しているあ

いだは、レバーをシフトできます。



■エンジンブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべてエンジンブレーキによる減速感が小さくなります。
- 強いエンジンブレーキが必要な場合は、シフトポジションを B にしてください。B のまま走行し続けると、燃費の悪化につながります。通常は D で走行してください。

⚠ 警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

走行モードの選択

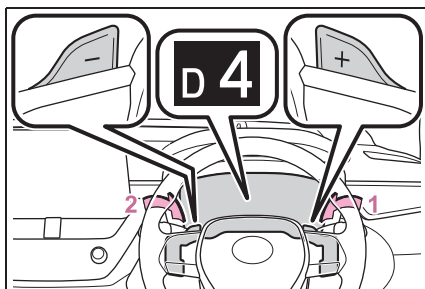
→P.302

D ポジションでレンジ選択するには（パドルシフトスイッチ搭載車）

パドルシフトスイッチの “－” 側を操作すると、一時的にレンジ

を選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

パドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

D1 から D6 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

知識

■Dポジションでパドルシフトスイッチの“-”側を操作したとき

走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

■Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的にDポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトポジションをD以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの“+”側を一定時間以上保持したとき

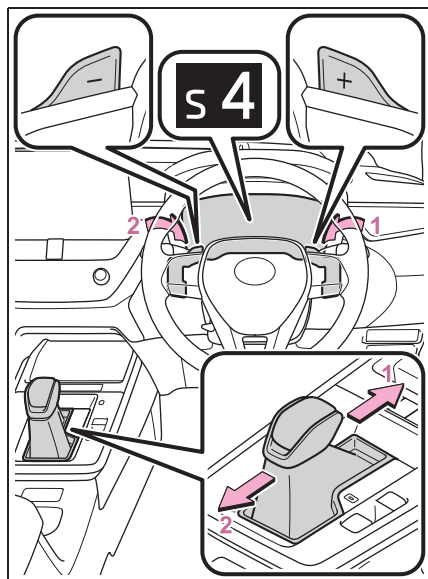
■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフト

ダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

Sモードでシフトレンジ選択するには(パドルシフトスイッチ搭載車)

シフトポジションをSポジションにすると、Sモードに切りかわります。パドルシフトスイッチまたはシフトレバーの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。パドルシフトスイッチまたはシフトレバーの“-”側または“+”側の操作でシフトレンジを選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

知識

■Sモードについて

- S4 レンジ以下のとき、パドルシフトスイッチを“+”側へ保持するとS6 レンジに設定されます。
- エンジンの過回転を防ぐために、自動的にシフトアップする場合があります。

■シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、パドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

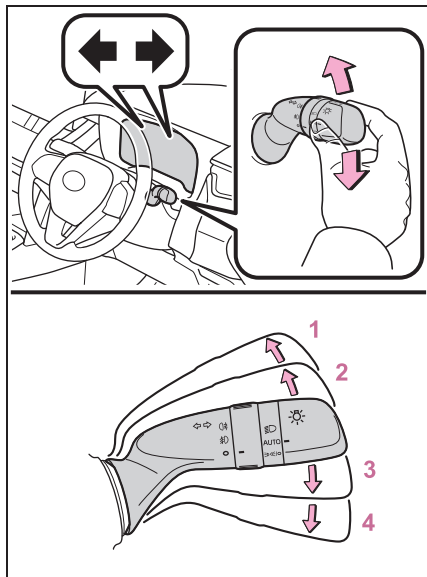
■シフトレバーをSにしても、シフトポジション表示にSが表示されないとき

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーをDにしているときと同じ制御になります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
左側方向指示灯が5回点滅します。
- 3 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
右側方向指示灯が5回点滅します。
- 4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチがONのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

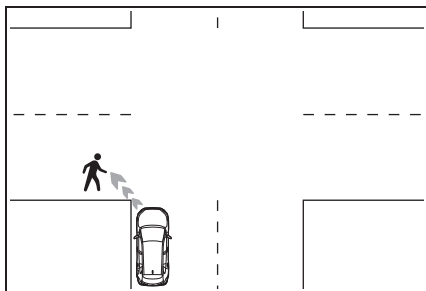
すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。(→P.385)

すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

SRP (シグナルロードプロジェクション) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロント方向指示灯や非常点滅灯が点灯する際に次のように道路面に矢印状の方向指示を照射し、歩行者や周辺の車両に対し、方向転換先を示して注意を促し夜間の見通しの悪い交差点などで発生する出会い頭の衝突を抑制します。



パーキングブレーキ

自動または手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

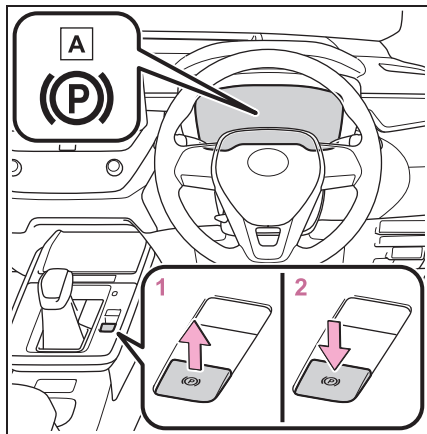
オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。

また、オートモードのときでも手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



A パーキングブレーキ表示灯

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブ

レーキを解除する

- ・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
- ・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。(→P.163)

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

パーキングブレーキ表示灯が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.407)

■ オートモードを ON にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける。

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトレバーをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

急なシフト操作を行ったときやブレーキペダルが十分に踏み込まれていないときに、オートモードが作動しない場合があります。その場合は、手動でパーキングブレーキを操作してください。

(→P.162)

■ オートモードを OFF にする

停車中に、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける。

□ 知識

■ パーキングブレーキの作動

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモード（かける・解除する）は作動しません。

■ パーキングブレーキ自動解除機能について

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

- 運転席ドアが閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- シフトレバーが前進もしくは後退の位置にある
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が消灯している。

アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

アクセルペダルを踏んでもパーキングブレーキが解除しない場合は、手動で解除してください。

オートモードではシフトレバーをPからP以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

下記の条件をすべて満たしたとき、パーキングブレーキが作動します。

- ブレーキを踏んでいない
- 運転席のドアが開いている
- 運転席のシートベルトを装着していない
- エンジン警告灯やブレーキ警告灯が点灯している。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB が連続で操作されましたしばらくお待ちください”と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“EPB 動作が途中で停止しました”または“EPB 現在使用できません”と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作してもメッセージが消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯について

- パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではあ

りません。

■ パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■ 駐車するとき

→P.143

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“EPB がロックされています”と表示されます。（車速が 5km/h をこえたとき）

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.402

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.319

■ Nレンジに入れてパーキングブレーキを解除して降車するときは

オートモードをオフ（→P.163）にして、ハイブリッドシステムを停止してください。（→P.151）
その後、シフトレバーを P から N にしてください。（→P.157、160）

 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ パーキングブレーキスイッチについて**

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキ自動作動機能について

パーキングブレーキ自動作動機能を日常のパーキングブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本機能は運転者のパーキングブレーキかけ忘れによって起こる事故を軽減するための機能です。機能に頼ったり、安全を委ねて駐車をしたりすると、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意**■ 駐車するとき**

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてください。

車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告メッセージを確認してください。

■ 補機バッテリーがあがったとき

パーキングブレーキシステムを作動させることはできません。(→P.437)

ブレーキホールド

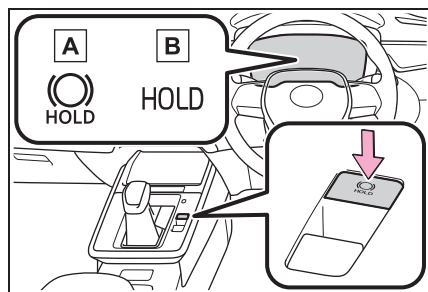
シフトレバーが D・B★・S★・N または P でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または B★・S★ のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムを ON にする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）**A** が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）**B** が点灯します。



知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムを ON にできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

- マルチインフォメーションディスプレイに、“EPB 動作が途中で停止しました” や “EPB 故障 販売店で点検してください” が、表示されている

ブレーキホールドシステムが ON のときに上記いずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF にするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。
- パーキングブレーキを自動的に作動させたくない場合は、ブレーキホールドスイッチを押してスタンバイ表示灯（緑）が消灯したのを確認してからパワースイッチを OFF にしてください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかけたとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態で

アクセルペダルを踏む

- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。

(→P.162)

■ トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.407

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。また、勾配によってはシステム自体が作動しないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

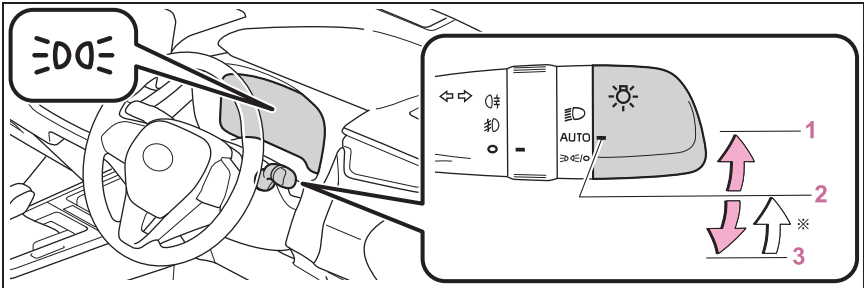
ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



※ スイッチを **3**  /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に **2** AUTO の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2 AUTO	デイトタイムランニングランプ装着車：デイトタイムランニングランプ（→P.169）が点灯 ※ ² デイトタイムランニングランプ非装着車：ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3  /O ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ³

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※¹ **3**  /O の状態に切りかえるには  スイッチを下に回した状態で約 1 秒保持してから、手を離します。

約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は **2** AUTO のまま変化しません。

※² 周囲の明るさに従って、尾灯・番号灯が自動的に点灯・消灯します。

※3 停車中から低车速での走行中にのみ点灯します。

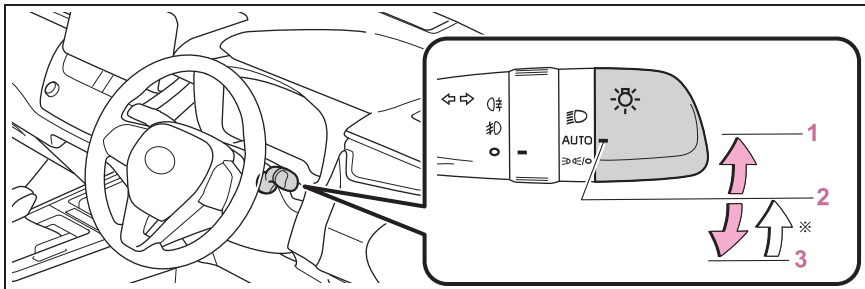
ただし、一定の车速をこえるか、走行開始後しばらくすると自動で解除され、

2 AUTOでの点灯状態にもどります。

消灯のしかた

☀ スイッチを 3 点灯/Oの位置で2秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 点灯/Oか 3 点灯/Oの位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



※ スイッチを 3 点灯/Oの位置へ操作し手を離すと、自動的に 2 AUTOの位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 点灯/O	ヘッドランプ・スモールランプ・デイトタイムランニングランプ★ (→P.169) が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

※ シフトポジションがPにある、またはパーキングブレーキがかかっているときに消灯できます。

シフトポジションをP以外にするか、パーキングブレーキを解除すると、消灯状態は解除されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチがONのとき

■ デイトタイムランニングランプ★

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、ハイブリッドシステム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、

デイトタイムランニングランプが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します。)

デイトタイムランニングランプは夜間の使用を意図したものではありません。

周囲の明るさに応じてスモールランプが点灯します。

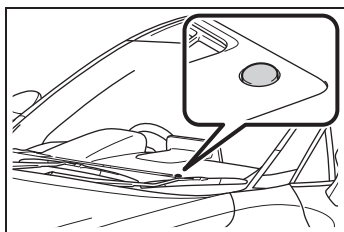
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がささげられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを OFF にするとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチを AUTO にしてから

の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム★

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能※

日中での走行時、ランプスイッチが

AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- パワースイッチを ON にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアまたはバックドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

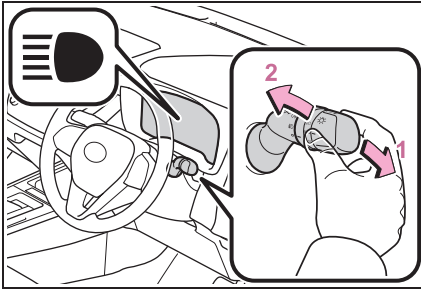


注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないください。

ハイビームにするには



1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

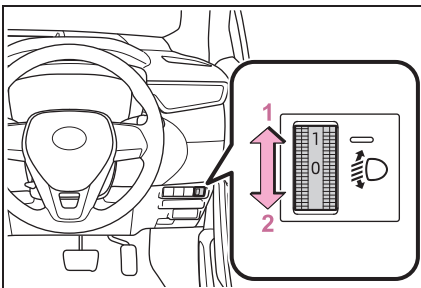
2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

手動光軸調整ダイヤル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。



1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	1.5※ ¹ ※ ² 1※ ³
全乗員	ラゲージルーム满载時	3※ ¹ 2.5※ ² 2※ ³
運転者	ラゲージルーム满载時	4.5※ ¹ 4※ ² 3.5※ ³

※¹ 2ZR-FXE エンジン搭載車 (FF 車)

※² 2ZR-FXE エンジン搭載車 (4WD 車)

※³ M20A-FXS エンジン搭載車

AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウィンドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

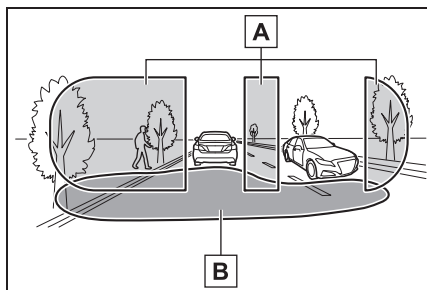
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



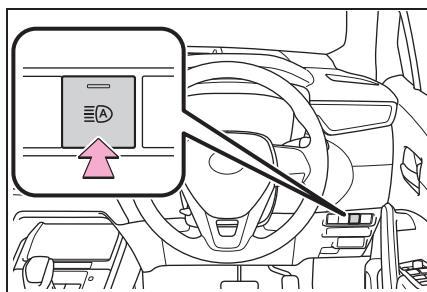
A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

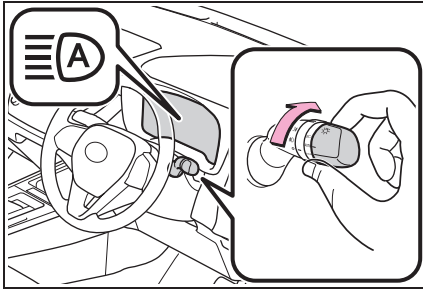
- 1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



- 2 ランプスイッチを **AUTO** または  にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 ※
 - ・ 車両前方が暗い
- ※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 12km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の台数が多い
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯などの光が多い
- 前方カメラの検知について
 - 次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 車両が割り込んできたとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき

- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板・反射板（リフレクター）などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

- ・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
- ・ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
- ・システムを OFF にする必要があるとき：→P.188
- ・センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

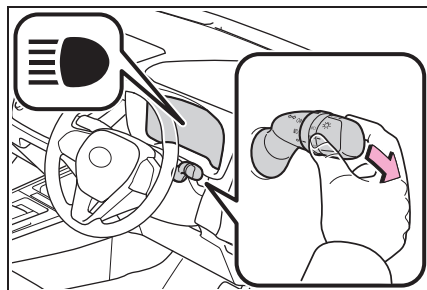
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

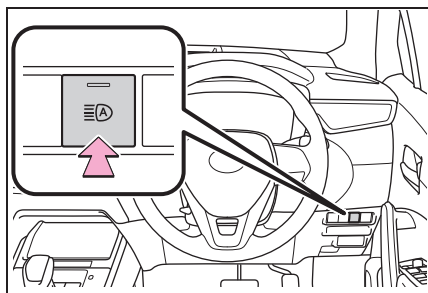


■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

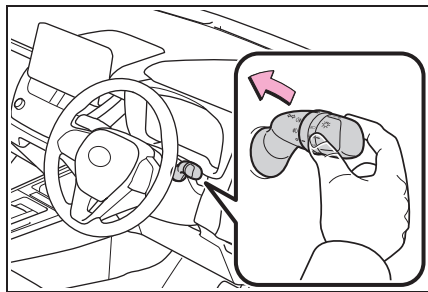


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

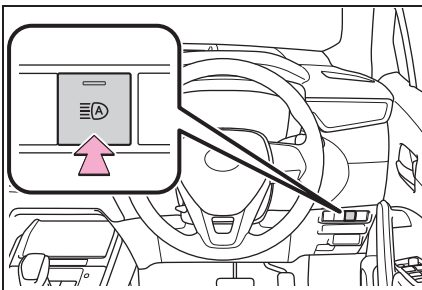
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

オートマチックハイビームを使うには

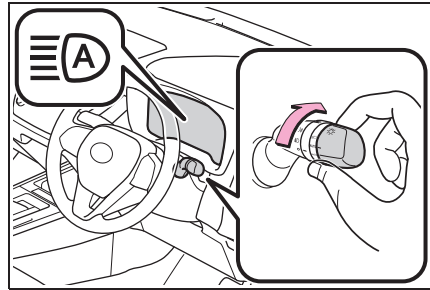
1 オートマチックハイビームスイッチを押す



2 ランプスイッチを AUTO または

☾の位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。



知識

■ハイビームとロービームの自動切り替え条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・車速が約 30km/h 以上
 - ・車両前方が暗い
 - ・前方にランプを点灯した車両がない
 - ・前方の道路沿いの街路灯などの光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・車速が約 25km/h 以下
 - ・車両前方が明るい
 - ・前方車両がランプを点灯している
 - ・前方の道路沿いの街路灯などの光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・車両が割り込んできたとき
 - ・他車が前方を横切ったとき
 - ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れるとき

- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
 - ・ 前方車両が無灯火のとき
 - ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
 - ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・ 前方車両のランプの明るさ
 - ・ 前方車両の動きや向き
 - ・ 前方車両との車間距離
 - ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 前方車両が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手でハイビームとロービームを切りかえてください。
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、

ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき

- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・ システムを OFF にする必要があるとき：→P.188
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

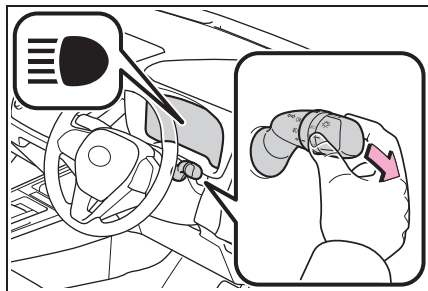
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。

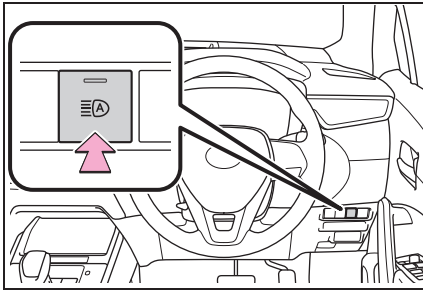


■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。

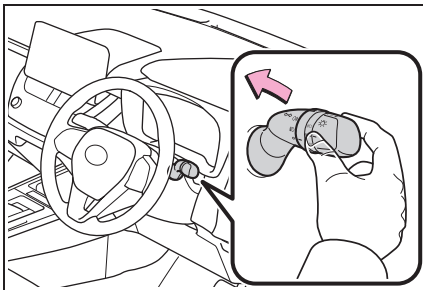


一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



フォグランプスイッチ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

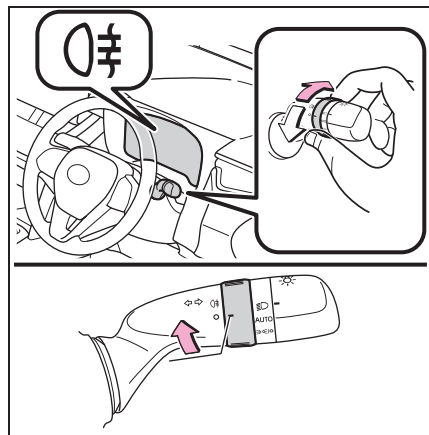
雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

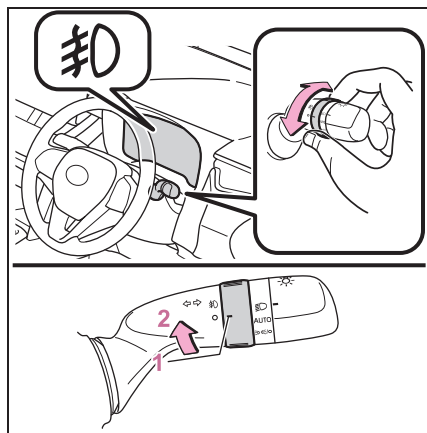
▶ リヤフォグランプ装着車

0 $\frac{1}{2}$ リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ● の位置までもどります。再度操作すると消灯します。



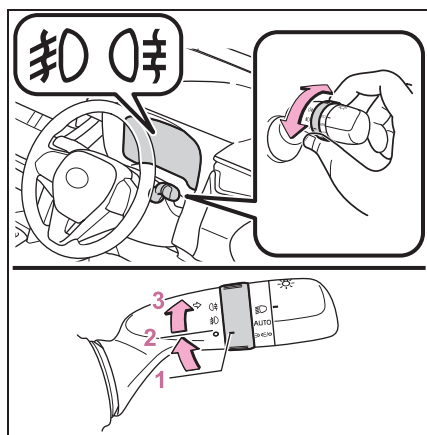
▶ フロントフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 ㊦ 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



1 ○ 消灯する

2 ㊦ フロントフォグランプを点灯する

3 ㊧ フロント&リヤフォグランプを点灯する

3 の操作後に手を離すと ㊦ の位置までもどります。

再度 3 の操作をするとリヤフォグランプのみ消灯します。

 知識

■ 点灯条件

▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ リヤフォグランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■ リヤフォグランプについて

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。

視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー (フロント)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

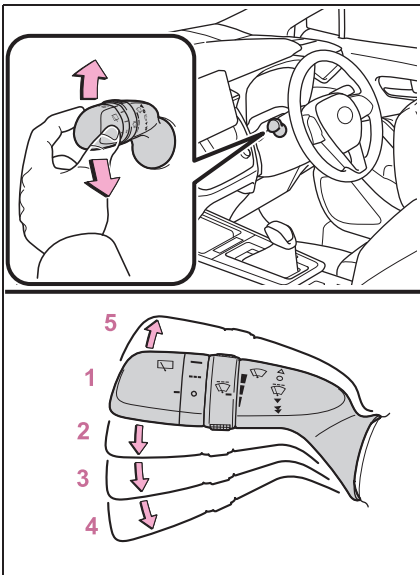
■ フロントウィンドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

▶ 間欠時間調節式ワイパー装着車



1 ○ 停止

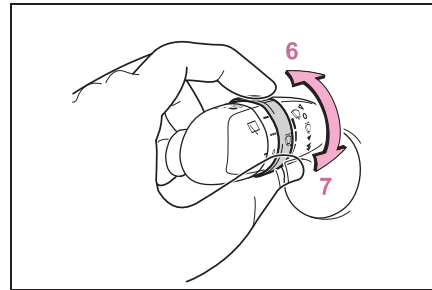
2  間欠作動 (INT)

3 ▼ 低速作動 (LO)

4 ▼ 高速作動 (HI)

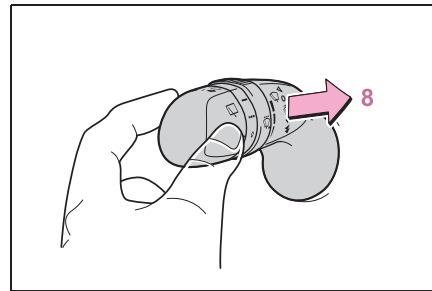
5 ▲ 一時作動 (MIST)

間欠作動を選択しているとき、間欠時間を調整することができます。



6 間欠ワイパーの作動頻度 (増)

7 間欠ワイパーの作動頻度 (減)



8  ウォッシャー液を出す

▶ 雨滴感知ワイパー装着車

AUTO を選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。



1 ○ 停止

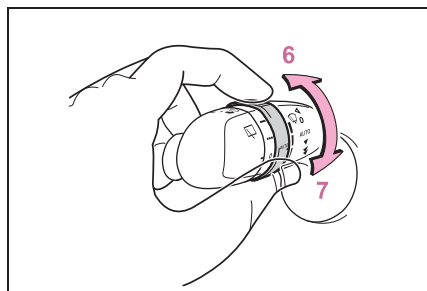
2 AUTO 雨滴感知オート作動
(AUTO)

3 ▼ 低速作動 (LO)

4 ▼ 高速作動 (HI)

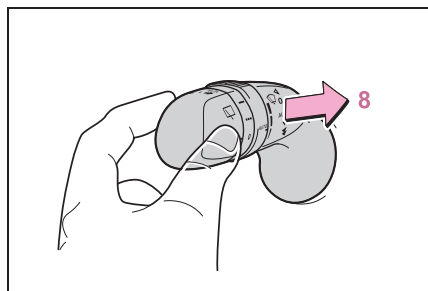
5 ▲ 一時作動 (MIST)

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整することができます。



6 雨滴センサーの感度調整 (高)

7 雨滴センサーの感度調整 (低)



8 8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。)

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

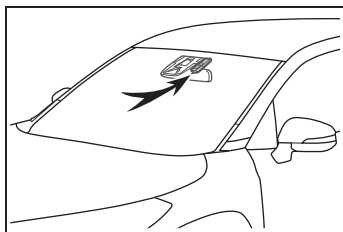
■ 車速による作動への影響 (雨滴感知ワイパー装着車)

車速により間欠時間調整式ワイパーの間欠時間がかわります。

■ 雨滴感知センサー (雨滴感知ワイパー装着車)

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



- パワースイッチが ON のときに AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 85℃以上または -15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

■ ドア開連動ワイパー停止機能（雨滴感知ワイパー装着車）

AUTO 選択中、シフトポジションが P の状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■ 走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したときは

ハイブリッドシステムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

⚠ 警告

■ AUTO 選択時のワイパー作動について （雨滴感知ワイパー装着車）

AUTO を選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けな
いでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー (リヤ)

レバー操作でワイパーを作動させたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。



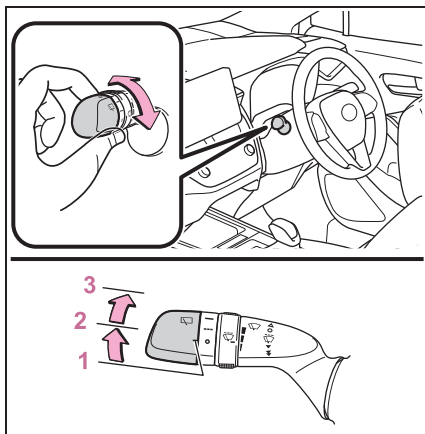
注意

■ リヤウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

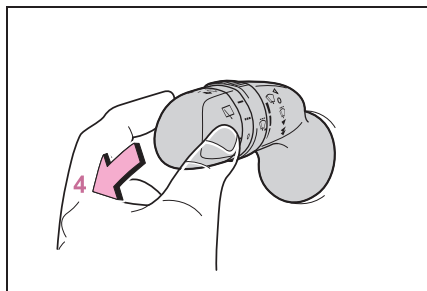
次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーまたはウォッシャーが作動します。



1 ○ 停止

2 ■■■ 間欠作動 (LO)

3 — 通常作動 (HI)



4  ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ バックドア開連動リヤワイパー停止機能

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。



注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛レギュラーガソリン
- バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■ 給油するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。次のような状態になるおそれがあります。

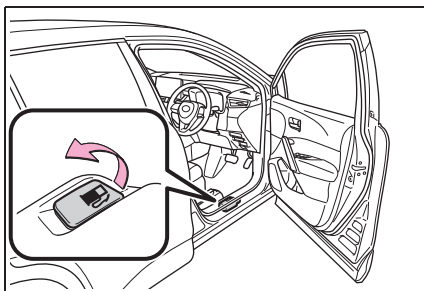
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

⚠ 注意

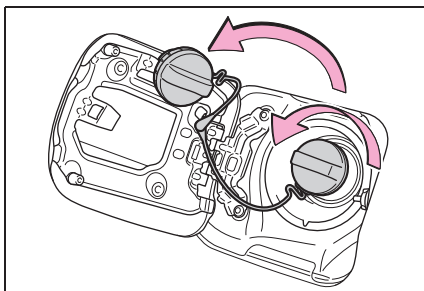
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口を開けるには

- 1 オープナーを上げて、給油扉を開ける



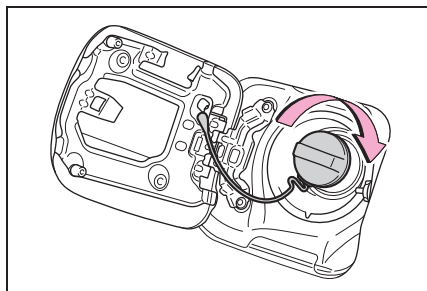
- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ソフトウェアアップデートを確認する

T-Connect ご利用契約中のお客様は通信モジュール（DCM）を使ってソフトウェアアップデートを実施することで、システムのアップデート・機能の変更／追加ができます。

警告

■安全にお使いいただくために

Toyota Safety Sense は、ソフトウェアを更新することで各機能の取り扱い方法が変わることがあります。正しい取り扱い方法を知らずにシステムを使用すると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- トヨタ公式 Web サイトにある、システムのソフトウェアバージョンに合ったデジタル取扱説明書をお読みいただいた上でご使用ください。

Toyota Safety Sense の取扱説明書での記載内容について

本取扱説明書では、Ver.3 までの情報を記載しています。Toyota Safety Sense 各機能の制御内容・取り扱い・警告／注意事項などの最新情報については、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。

ご使用前に必ずシステムのソフトウェアバージョンに合った取扱説明書をお読みください。

車両のソフトウェアのバージョンについては、トヨタ販売店にお問

い合わせください。

知識

■ご使用にあたっての留意事項

- お客様の安全に関わる問題や法規上の問題が発生したときは、一時的に一部の機能を作動不可にすることがあります。あらかじめご了承ください。
- T-Connect 利用契約が未契約／未更新の場合、無線通信によるソフトウェアアップデートは行われません。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

システムのソフトウェアバージョンを確認した上で、トヨタ公式 Web サイトにアクセスする必要があります。

車両のソフトウェアのバージョンについては、トヨタ販売店にお問い合わせください。

マルチメディアディスプレイでバージョンを確認する

運転支援機能の更新に関するお知らせ、または運転支援アップデートアプリケーションから現在のソフトウェアバージョンを確認することができます。

- 1 メインメニューの “” にタッチします。
- 2 “運転支援アップデート” にタッチします。

自車の Toyota Safety Sense のバージョンに合った取扱方法をお読みいただくには

1 パソコンやスマートフォンから、以下 URL にアクセスする

URL	QR コード
https://manual.toyota.jp/safetysu/	

2 事前に確認したバージョンが含まれたファイルを選択する



知識

■ デジタル取扱説明書について

ご希望の場合、印刷した冊子を購入することもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェアアップデートがある場合、マルチメディア画面に通知画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

ソフトウェアを更新することで、各機能の取り扱い方法が変わったり、機能が追加されたりすることがあります。

変更・追加された内容は、トヨタ公式 Web サイトにあるデジタル取扱説明書で確認することができます。



知識

■ ソフトウェアアップデートについて留意事項

- 一度ソフトウェアアップデートを実施すると、前のバージョンにもどすことはできません。

- 通信環境や更新内容によって、ソフトウェアアップデートに数時間かかることがあります。パワースイッチを OFF にすると更新は中断されますが、再度 ON にすると前回の続きから再開します。

- ソフトウェアアップデートに失敗した場合、前のバージョンでシステムを起動します。

- ソフトウェアアップデートの実施中でも Toyota Safety Sense を使用することができます。

- 次のようなときは自動でソフトウェアアップデートを実施することがあります。

- ・ システムの不具合など、お客様の安全に関わる問題が発生したとき ※
- ・ 法規上の問題が発生したとき ※
- ・ 取り扱い方法や性能に影響がない、軽微な修正を行うとき

- ※ すべての更新内容がインストールされ、ソフトウェアが最新の状態になることがあります。

■ 運転支援機能の更新通知で確認できること

次の項目を確認、または実行できます。

- ソフトウェアのバージョン、更新内容、注意事項、使い方などの表示
- ソフトウェアの更新履歴表示へのリン

ク

●ソフトウェアの更新

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

⚠ 警告**■ Toyota Safety Sense について**

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。
運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

⚠ 警告

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

■ システムを OFF にする必要があるとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やバンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき

- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

運転支援装置

■ AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

→P.172

■ AHB (オートマチックハイビーム)

→P.175

■ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→P.194

■ LTA (レーントレーシングアシスト)

→P.202

■ LDA (レーンディパーチャーアラート)

→P.207

■ PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

→P.212

■ 発進遅れ告知機能

→P.217

■ RSA (ロードサインアシスト)

→P.219

■ レーダークルーズコントロール

→P.222

■ クルーズコントロール

→P.231

■ ドライバー異常時対応システム

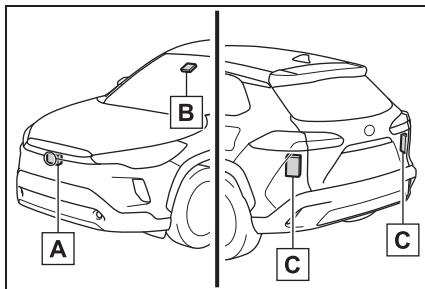
→P.234

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの
作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー



A 前方レーダー

B 前方カメラ

C 後側方レーダー

⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

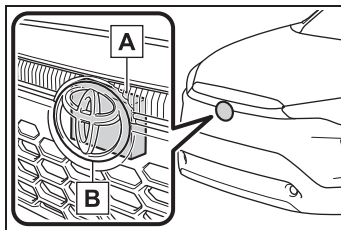
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。



A レーダー

B レーダー専用カバー

● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

● レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。

● 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ・ レーダーを脱着や交換したとき
- ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

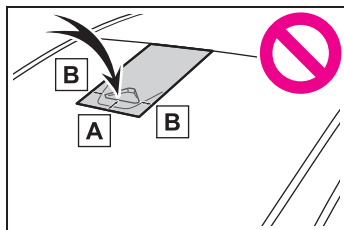
警告

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
- ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
- ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
- ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



A 約 4cm

B 約 4cm

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに液体をかけない

- 前方カメラに強い光を照射しない

- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

- 前方カメラに強い衝撃を加えない

- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

- 前方カメラを分解しない

- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

警告

- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

■ フロントウィンドウガラスの前方カメラ取り付け部について

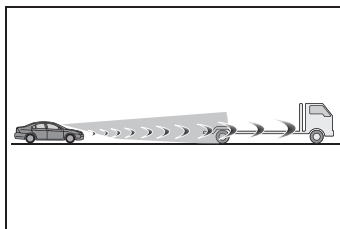
フロントウィンドウガラスが曇る可能性があるシステムが判断した場合、ヒーターにより前方カメラ周辺のフロントウィンドウガラスの曇り取りが自動的に作動します。お手入れなどで前方カメラ周辺にふれるときは、十分にフロントガラスが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

知識

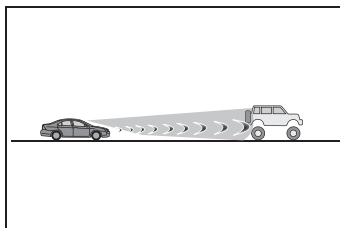
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウィンドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき

- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をささぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール
 - ・ ガードレール
 - ・ 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき
- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれている場合
- 対象車両に雪や泥などが付着している場合
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・急なカーブや曲がりくねった道
 - ・急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・左右に傾きのある道
 - ・路面に深いわだちがある道
 - ・整備されていない荒れた道
 - ・起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定な場合
- 車線内での自車の位置が一定でない場合
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに入出するとき
- 駐車場内を走行するとき
- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき

- 風が強いとき

■車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC等の安全システムが作動時
- VSC、TRC等の安全システムがOFFの時

■ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

JP 01

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.194）をセンサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.202）

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 安全にお使いいただくために：→P.187

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

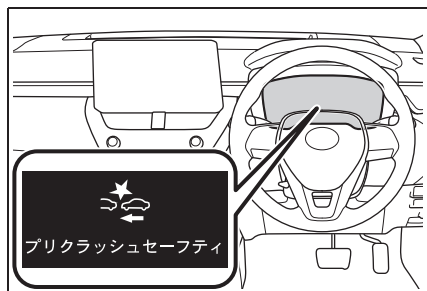
機能一覧

■ 衝突警報

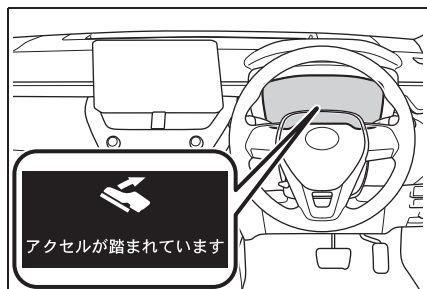
衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回

避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告を行う場合もあります。



アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

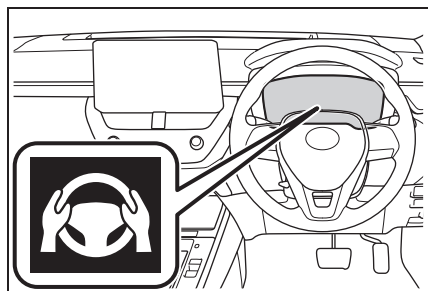
■ 緊急時操舵支援

システムが次の条件を全て満たしたと判断した場合、操舵支援を行い、車両の安定性確保と車線逸脱の抑制に寄与します。

作動時には衝突警報に加え、図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

- 衝突する可能性が高い
- 自車線内に回避するための十分なスペースがある
- 運転者の回避操舵があった

作動時には衝突警報とディスプレイ表示で注意喚起を行います。

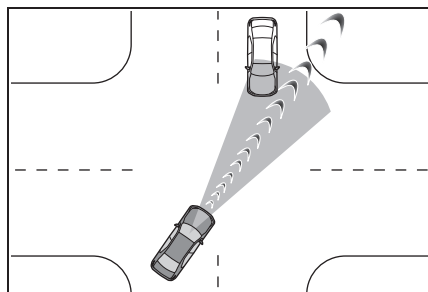


■ 交差点衝突回避支援（右左折）

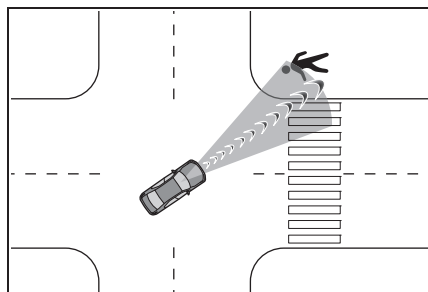
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

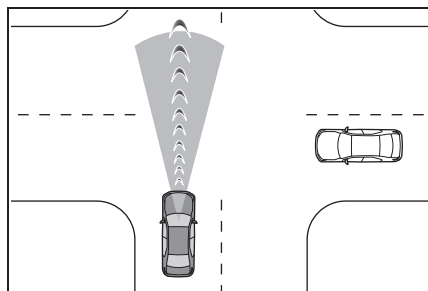


- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

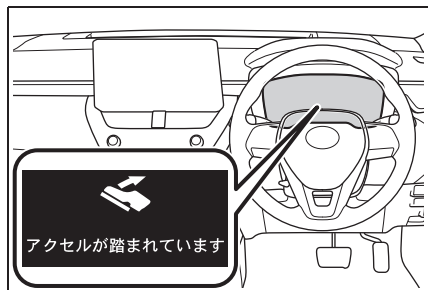
交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く

く踏み込まれ、衝突の可能性があるとき、システムが判断したとき、ハイブリッドシステム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



⚠ 警告

■ プリクラッシュブレーキについて

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

⚠ 警告

■ 低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

■ 緊急時操舵支援について

- 緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。
- 緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。
 - ・ 運転者がアクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。
 - ・ 緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ 緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

□ 知識

■ プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h

作動対象	自車速度	相対速度
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、自転車、歩行者、自動二輪車	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する
- ・ ブレーキペダルを踏む
- 交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	—	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

● 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約 40km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

● 低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

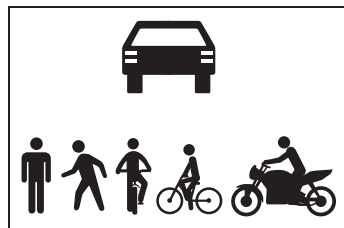
作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。図は作動対象として検出する対象のイメージです。

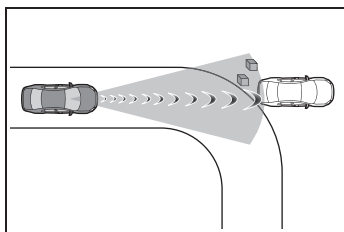


■ 衝突の可能性が高なくてもシステムが作動するおそれがあるとき

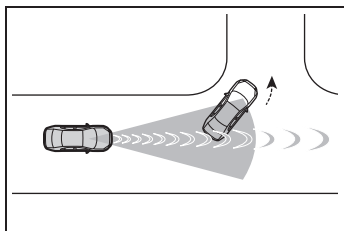
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動

するおそれがあります。

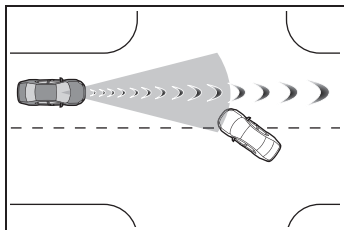
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）に近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



- ・ 自車の前方に作動対象との区別がつかにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

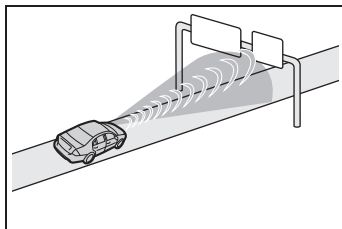


- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

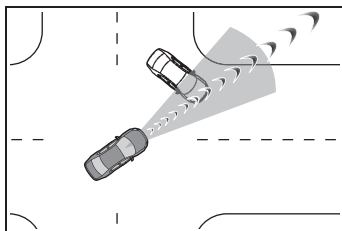


- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）

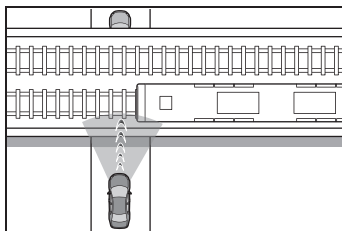
がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車 / 対向二輪車 / 横断歩行者 / 横断自転車が自車進路に入る手前で停止や進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき



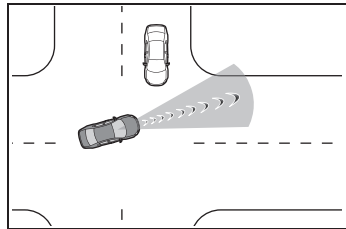
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方 / 下方を移動するものがあるとき



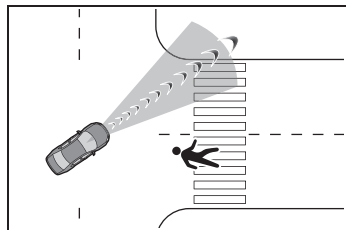
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
 - ・ 自車や作動対象がふらついているとき
 - ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
 - ・ 作動対象に急接近したとき
 - ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
 - ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
 - ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
 - ・ 作動対象が複数重なっているとき
 - ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
 - ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
 - ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
 - ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
 - ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
 - ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
 - ・ 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
 - ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
 - ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
 - ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき

- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
- ・ 右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追いつくように前方にでくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき

- 上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
 - ・ 作動対象に近づきすぎたとき
 - ・ 回避するための十分なスペースがない、

または回避先に物があるとき

- ・ 対向車がいるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
- ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
- ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
- ・ 壁がボールなど幅の狭いもののとき
- ・ 壁が生垣など草木のとき
- ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
- ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動 / 非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.457)

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→P.457)
- 衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。
- レーダークルーズコントロール制御中はユーザー設定に関わらず、衝突警報が「早い」のタイミングで作動します。

LTA (レーントレーシングアシスト)

LTA の機能

- 車線が整備された道路を走行中かつ、レーダークルーズコントロールの作動中に、車線や先行車／周辺車を前方カメラやレーダーで認識し、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

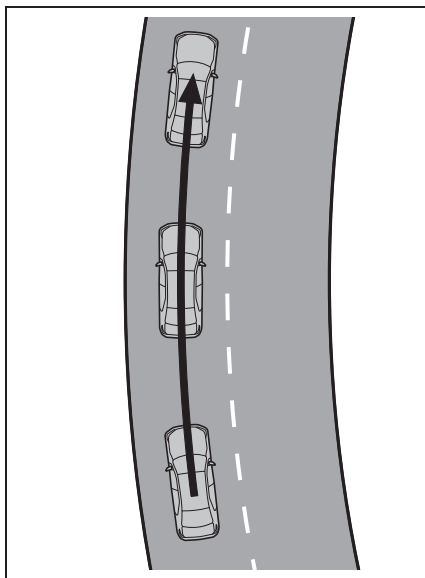
高速道路や自動車専用道路で使用してください。

レーダークルーズコントロールが作動していないとき LTA は作動しません。

渋滞のときなど車線が見えにくい、または見えない場合、先行車／周辺車の軌跡を利用して支援を行います。

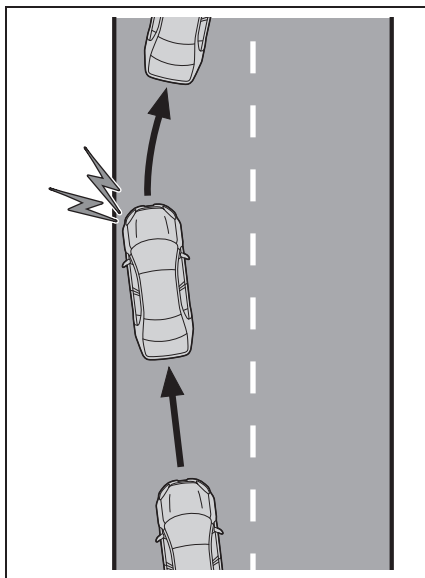
ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

機能が解除されたときはハンドルをしっかりと握り直してください。



- 車両が車線から逸脱した場合、ディスプレイの表示および、ブザーにより注意をうながします。

ブザー吹鳴時は、道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線内の中央付近にもどってください。



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

📖 知識

■ 機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- システムが車線を認識しているとき、または先行車 / 周辺車の軌跡を認識しているとき
- レーダークルーズコントロールが作動しているとき
- 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 急カーブを走行していないとき
- 一定以上の加減速がないとき
- 大きな操舵力でハンドルを操作していないとき
- 手放し運転に対する注意喚起 (→P.204) が行われていないとき
- 車線中央付近を走行しているとき

■機能の一時解除

- 機能の作動条件（→P.203）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 機能作動中に、作動条件が満たされなくなった場合、“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。
- 機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

■LTA 中の車線逸脱警報について

- LDA の警報手段をハンドル振動に変えていても、LTA 作動中は車線逸脱時にブザーによる警報を実施します。
- 車線変更に相当するハンドル操作を検知した場合、システムは車線逸脱とは判断せず、警報も作動しません。

■手放し運転に対する注意喚起について

- 手放し運転をしているとシステムが判断したとき、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 操作しない状態が続くと注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が

続いたときも同様に注意喚起が行われます。

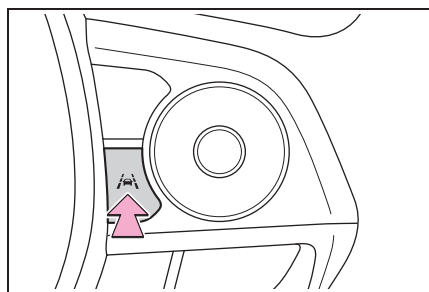
■手放し運転に対する注意喚起が正常に作動しないおそれがあるとき

- 車両の状態やハンドル操作状態、路面状況によっては注意喚起が行われないおそれがあります。

システムの ON / OFF を変更する

LTA の ON/OFF を切り替えるには LTA スイッチを押す

LTA が ON のときは LTA 表示灯が点灯します。



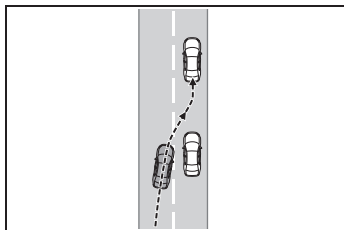
⚠ 警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

⚠ 警告

- 先行車／周辺車が車線変更したとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります)



- 先行車／周辺車がふらついたとき
(先行車／周辺車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 先行車／周辺車が車線から逸脱したとき (先行車／周辺車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります)
- 先行車／周辺車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき (先行車／周辺車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります)
- 周囲に移動物、構造物があるとき
(移動物、構造物と自車の位置によっては自車がふらついて走行するおそれがあります)
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.192
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

LTA の作動状態を示しています。

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 白色	 灰色 / 白色	 灰色	LTA がスタンバイ中
 緑色	 緑色	 緑色	LTA が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	車両が点滅している側の車線から逸脱している

LDA（レーンディパーチャアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

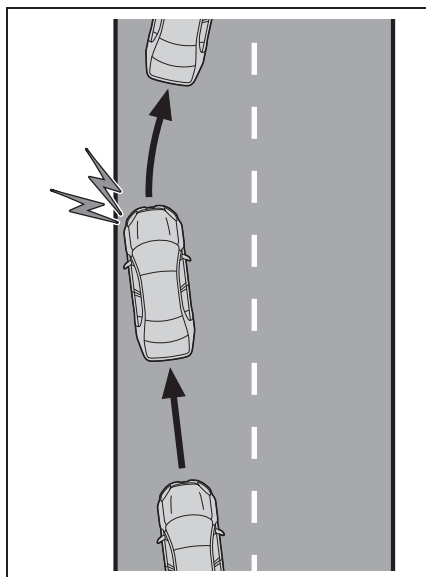
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



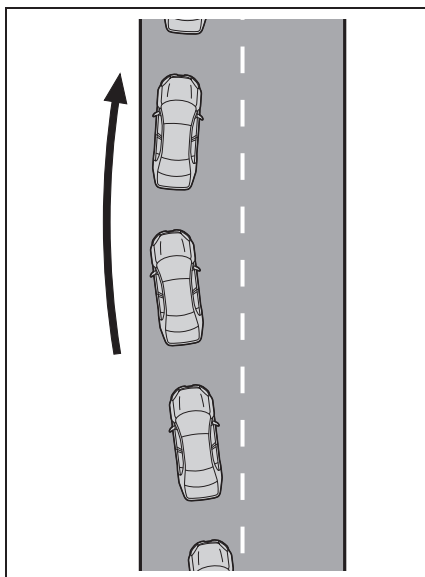
■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、一定時間ディスプレイの表示と警報ブザーで注意喚起が行われます。

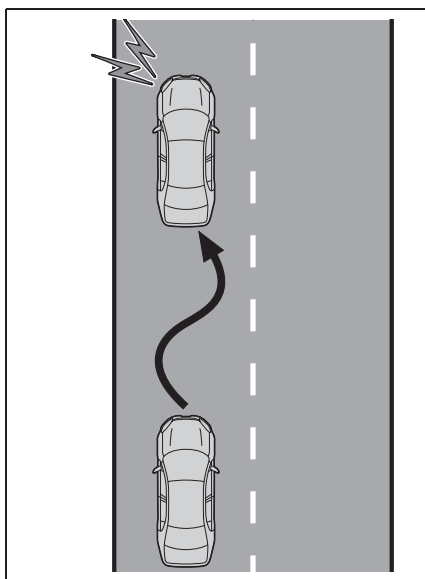
BSM 装着車：方向指示灯の点滅中であっても、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとしてシステムが判断した場合、車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示および警報ブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

📖 知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報／抑制機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。
- ・ 対象が縁石、ガードレールなどの構造物の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)
- ・ システムが車線または走路^{*}を認識しているとき(車線または走路^{*}が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき(BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く)
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ VSC または TRC を OFF にしていない

とき

- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件（→P.208）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報／抑制機能の作動について

- 車速や路面の状況、逸脱の程度などにより、車線逸脱抑制機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能が作動しなかったりすることがあります。
- カスタマイズで振動を選択していても状況によって警報ブザーが吹鳴する場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報、抑制が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報、抑制が作動しない場合があります。
- BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。
- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

- ※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル操作をうながすメッセージとアイコンのディスプレイの表示、および警報ブザーにより注意喚起を行います。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援中にハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態だとシステムが判断したとき

ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、警報ブザーの継続時間が長くなります。ハンドルを操作したとシステムが判断しても一定時間警報ブザーが鳴り続けます。

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.457）
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。（→P.457）

警告

機能正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、緑石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.192

● センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

● システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.192

● システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援、または車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	ステアリングアイコン	状態
 黄色 点灯	消灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	消灯	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	消灯	システムが車線を認識している

表示灯	車線表示	ステアリング アイコン	状態
 黄色 点滅	 黄色 点滅	消灯	点滅している側の車線に対して車線逸脱 警報機能が作動中
 緑色	 緑色	 緑色	点灯している側の車線に対して車線逸脱 抑制機能が作動中
 黄色 点滅	 黄色 点滅	 緑色	点滅している側の車線に対して車線逸脱 警報機能／抑制機能が作動中

PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

プロアクティブドライビングアシストは、作動対象（→P.213）を検出した場合、対象に近づきすぎないように、ブレーキやハンドルの操作を支援します。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。

- プロアクティブドライビングアシストは日常のブレーキ操作、ステアリング操作の一部を支援し、作動対象に近づきすぎないように支援することを目的としています。支援の範囲には限りがあります。

必要に応じて運転者自らブレーキやステアリング操作を行ってください。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。（→P.214）

- プロアクティブドライビングアシストは前方への注意を軽減する装置ではありません。システムが正常に機能していても運転者が認識している周囲の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。注意義務は運転者にあり、危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながる恐れがあります。

- わき見運転やぼんやり運転などを許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ プロアクティブドライビングアシストを OFF にすると

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

システムが作動する状況と対象

プロアクティブドライビングアシストは、次のように自車が走行中の状況に応じて、作動内容と作動対象を切りかえます。

機能	状況	作動内容	作動対象
障害物先読みアシスト (OAA)	道路を横断中の作動対象を検知したとき	衝突の可能性を軽減するため、ブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者
	道路脇の作動対象を検知したとき	作動対象に近づきすぎないように、周囲の状況に応じてハンドル操作やブレーキ操作の一部を支援します。	●歩行者 ●自転車運転者 ●駐車車両
		ハンドル操作の支援は自車線から逸脱しない範囲で行います。	
減速アシスト (DA)	先行車を検出したとき、または隣接車の割り込みを検出したとき	車間距離が近づきすぎないようにブレーキ操作の一部を支援します。	●先行車 ●自動二輪車
	自車前方にカーブを検出したとき	前方のカーブに対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし
	信号のある交差点で右左折するとき	右左折する交差点に対して自車の速度が速いと判定した場合、ブレーキ操作の一部を支援します。	なし

□ 知識

■ システムの作動車速

- 道路を横断する作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

- 道路脇の作動対象に対する支援

約 30km/h ～ 60km/h

- 先行車に対する減速支援

約 20km/h 以上

- カーブに対する減速支援

約 20km/h 以上

- 信号のある交差点に対する右左折時の減速支援

約 30km/h ～ 80km/h (信号のある交差点で方向指示レバーを操作したとき)

■システムの作動が停止するとき

- 次のときシステムは作動を停止します
 - ・ レーダークルーズコントロール、またはクルーズコントロールをセットしたとき
 - ・ PCS が OFF のとき
 - ・ システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.192
 - ・ シフトポジションが P、R または N のとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
- 次のときブレーキ操作の支援は作動を停止します
 - ・ 車速が約 15km/h 以下のとき
 - ・ 周囲の状況からシステムが判断した目標の速度に到達したとき
- 次のときシステムは作動を停止する場合があります
 - ・ 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき

(例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール)

- ・ 作動対象が遠ざかったとシステムが判断した場合
- ・ 車線が検出できなくなった場合
- ・ ブレーキ操作を行った場合
- ・ アクセル操作を行った場合
- ・ 一定以上の操舵力でハンドルを操作した場合
- ・ 方向指示レバーを左折または右折の位置へ操作したとき（信号のある交差点に対する右左折時の減速支援を除く）

⚠ 警告

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 車線を検知できないおそれがあるとき：→P.192
- 作動対象などが自転車進路内に入る手前で停止したとき

- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いつくとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追いつくとき
- 物体（ガードレール・電柱・木・壁、柵、ポール、工事用コーン、ポストなど）が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物（天井の低いトンネル・道路標識・看板など）がある場所を走行するとき
- 雪道、轍のある道路や凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき（方向転換、急加速、急減速など）
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車・自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象が太陽光や他車両からのヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき

⚠ 警告

- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- 横向き、斜め、または自転車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- 駐車車両が横向き、斜め向きのとき
- 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、および周囲が暗い（夜間やトンネル内など）ため、作動対象が周囲に溶け込んでいるとき

- 車線幅が約4m以上あるとき
- 車線幅が約2.5m以下のとき
- ハイブリッドシステムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象がカーブ進入前、カーブ走行中およびカーブを曲がり切ったからの数秒間に存在するとき
- 信号機の灯色が黄色のとき
- 信号機が一灯式や二灯式のとき

プロアクティブドライビングアシストの設定を変更する

- プロアクティブドライビングアシストの作動／非作動は、カスタマイズ設定から切りかえることができます。（→P.457）
- プロアクティブドライビングアシストの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。（→P.457）

システムの作動表示

状況に応じて、ディスプレイに次のような表示灯やアイコンを表示します。

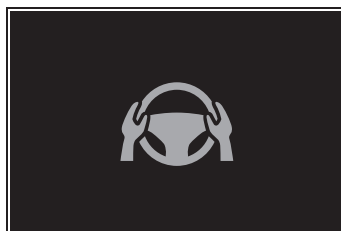
アイコンの種類によっては、ディスプレイを運転支援機能情報に切り替えないと表示されません。

表示	意味
	●白色：作動対象監視中 ●緑色：道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中
	道路を横断中、または道路脇の歩行者を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
 	道路脇の車両を検知して、ブレーキまたはハンドルの操作を支援している
	道路脇の作動対象へ近づきすぎないように、ハンドルの操作を支援している
	先行車に対する減速支援が作動中
	適正な車間距離を確保するよう注意喚起している
	カーブに対する減速支援が作動中
	信号のある交差点に対する減速支援が作動中

知識

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- 道路を横断する作動対象に対する支援または道路脇の作動対象に対する支援が作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

■ 先行車への減速支援終了後の注意喚起について

先行車への減速支援が終了後、ドライバーによるブレーキまたはアクセル操作が無く、先行車へ接近したとき、ディスプレイ表示の点滅とブザーによって注意喚起し、減速をうながします。ドライバーがブレーキまたはアクセルを操作したとシステムが判断した場合、注意喚起を停止します。



発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青に変わったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。

□ 知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロールが作動していて、制御停車中のとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正

しく認識できないとき

- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

■ 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動 / 非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。
(→P.457)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→P.457)

RSA（ロードサインアシスト）

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識や信号などを認識し、ディスプレイ表示やブザーで運転者にお知らせします。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況把握し、安全運転に努めてください。
- RSAは、道路標識などの情報を知らせることで運転の支援を行います。支援の範囲には限りがあります。運転者は常に道路標識などに従い、ご自身で適切な運転操作をしてください。

■RSAを使用してはいけない状況

- システムをOFFにする必要があるとき：→P.188

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191

ディスプレイ表示機能

- 前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって道路標識などを認識すると、ディスプレイに表示します。
- 複数の道路標識を表示できます。車の仕様によっては表示される標

識が制限される場合があります。

□ 知識

■標識表示の作動条件

次の条件を満たしたとき、標識の表示を行います。

- システムが標識を認識しているとき
- 次の状況では、標識の表示が消えることがあります。
- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき

- 右左折等により走行する道路が変わったときシステムが判定したとき

- 終わりを示す補助標識を認識したとき

■表示機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき

- 電光標識のコントラストが低いとき

- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき

- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき

- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき

- 先行車の後部分にステッカーが貼有的时候

- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき

- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき

- ロータリー（環状交差路）を走行して

いるとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- 補助標識（区間の終わり、曜日、時間など）があるとき
- 工事などの通行規制区間に標識があるとき
- 標識の後ろに木・電柱・建物・看板などがあるとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき

マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

告知機能

次の状況では、システムが運転者に告知（例えば、強調表示やブザー吹鳴）します。

- 速度超過告知：自車の車速がディスプレイに表示されている制限速度より一定の速度を超過したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 車両進入禁止告知：進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したとシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。
- 赤信号告知：赤信号を認識している場合に、信号を見落として交差点に進入する可能性があるとしてシステムが判定したときには、強調表示やブザーにより注意をうながします。

知識

告知機能の作動条件

- 速度超過告知に対する作動条件

次の条件を満たしたとき作動します。

- ・最高速度を表示しているとき

- 車両進入禁止告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・進入禁止標識を2つ以上認識しているとき
- ・進入禁止標識の間を通過するとき

- 赤信号告知に対する作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・システムが信号機や路面ペイントを認識しているとき
- ・車速が約20～70km/hのとき
- ・一定以上の減速がないとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・一定以上のハンドル操作をしていないとき
- ・先行車がないとき

告知機能が正常に作動しないおそれのある状況

- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象があるのにシステムが作動しないおそれがあります。
- ・右左折等により標識が検知できないとき
- ・信号機が矢印信号のとき
- ・信号機が点滅信号のとき
- ・信号機の庇で発光部の一部が隠れているとき
- ・ルーバー信号機で発光部が見えづらいとき
- ・停止線などの路面ペイントが先行車などで隠れているとき
- ・停止線などの路面ペイントがかすれているとき
- ・停止線に対し信号機が遠くにあるとき

- ・ 交差点間の距離が近いとき
- 表示機能の項目に加えて、次のような状況では告知対象がないのにシステムが作動するおそれがあります。
- ・ 標識が通常とは異なる大きさのとき
- ・ 標識や信号機が多数あるとき
- ・ 自車が走行するレーンではない側道や分岐地点などの標識や信号機を認識したとき
- ・ 作動対象の標識、信号機や路面ペイントとは区別が付きにくい模様・光源・ペイントがあるとき
- ・ 信号機の灯色が黄色のとき
- ・ 信号機が矢印信号のとき
- ・ 予告信号があるとき

ディスプレイ表示および告知される道路標識などの種類

- 次の種類の道路標識を表示します。

ただし、規定外の道路標識、新しく導入された道路標識は表示されない場合があります。

	最高速度
	はみ出し通行禁止
	車両進入禁止
	転回禁止

	一時停止
	赤信号

RSA の設定を変更する

RSA の設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.457)

レーダークルーズコントロール

車両前方の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

高速道路や自動車専用道路で利用してください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

システムが正しく作動しないおそれのある状況：→P.227

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

走行中に限らず、運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

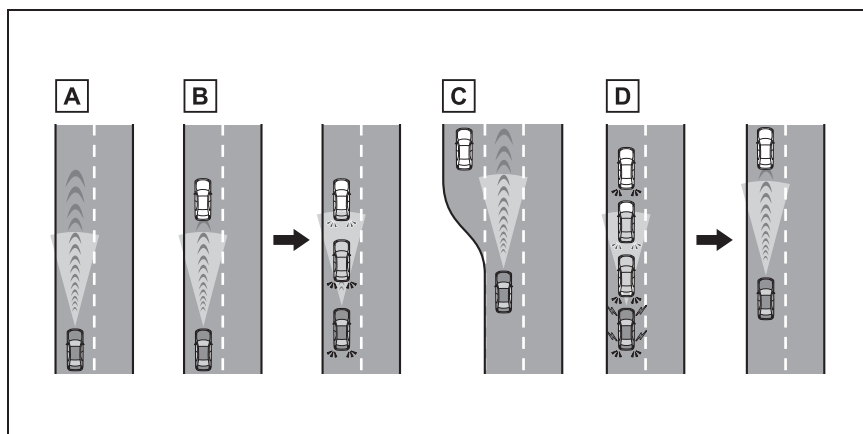
警告

レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→P.191
- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

基本機能



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

下り坂走行で設定車速を超えた時、設定車速が点滅し警報ブザーが吹鳴します。

B 減速走行・追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

C 加速走行：

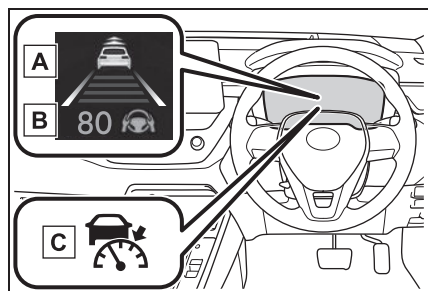
設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

D 発進：

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

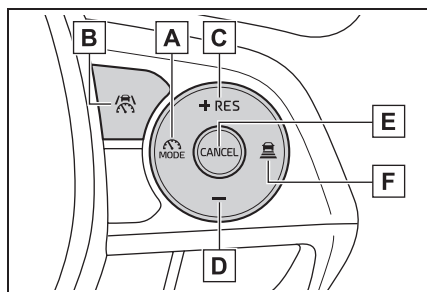
システムの構成部品

■ メーター表示



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯

■ 操作スイッチ



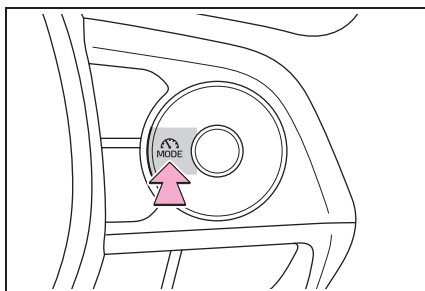
- A** 走行支援モード選択スイッチ
- B** 走行支援スイッチ
- C** + スイッチ、RES スイッチ
- D** - スイッチ
- E** キャンセルスイッチ
- F** 車間距離切りかえスイッチ

レーダークルーズコントロール を使用する

速度を設定する

- 1 走行支援モード選択スイッチを押してレーダークルーズコントロールモードを選択します。

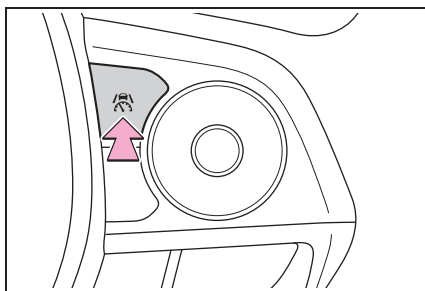
レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

マルチインフォメーションディスプレイに設定した速度が表示されます。

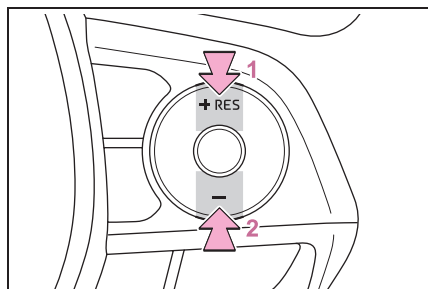
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



- 1 速度を上げる

- 2 速度を下げる

短押し調整：スイッチを押す

長押し調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

設定速度は、次のとおりに増減されます：

短押し調整：スイッチを操作するごとに 1km/h

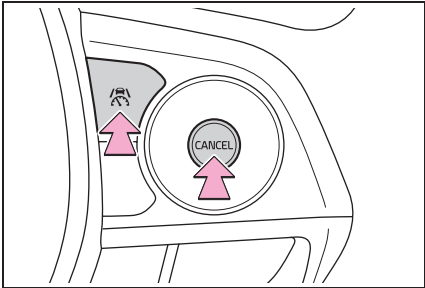
長押し調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

カスタマイズメニューから、設定速度の変化量を変更することができます。

- アクセルペダルで設定速度を上げる

- 1 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
- 2 ＋スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



1 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

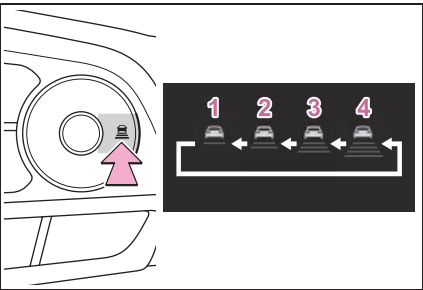
(制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません)

2 制御を復帰させるには、“RES” スイッチを押す

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。



イラスト番号	車間距離	距離の目安（車速100 km/h の場合）
1	短	約30 m
2	中	約45 m
3	長	約60 m
4	最長	約70 m

車速に応じて実際の車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

知識

■ 設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できません。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
- ・ 車速が約 30km/h 未満のときに設定すると、約 30km/h に設定されます。

- ・ 車速がシステムの上限を超えているときに設定すると、設定速度の上限に設定されます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に“RES”スイッチを押した場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 走行中に運転席シートベルトを着用していないとき
- プリクラッシュセーフティがOFFのとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約3分経過した
 自動でパーキングブレーキがかかることがあります。
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.192

■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

安全にお使いいただくために：→P.187

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接

近警報（→P.227）も作動しないおそれがあります。

- 割り込み車両、離脱車両の車線変更が極端に速い、または遅いとき
- 自車が車線変更しているとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

■ システムが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 渋滞時等、低速で車線変更したとき

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後

● アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

カーブを認識すると車速の抑制を開始します。カーブが終了すると車速の抑制が終了します。

状況に応じて設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。



知識

■ カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機

能が作動しない場合があります。

- 緩やかなカーブを走行しているとき
- アクセルペダルを操作しているとき
- 極端に短いカーブを走行しているとき

車線変更時の補助機能

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

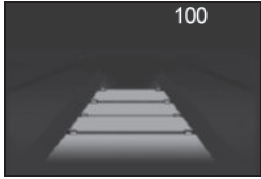
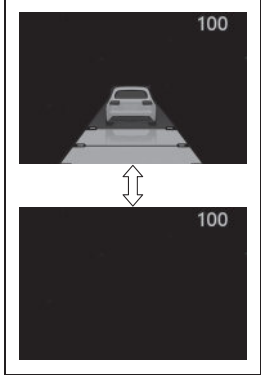
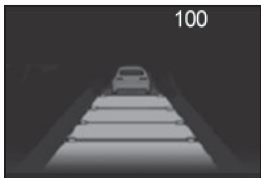
約 80km/h 以上で走行中に自車より遅い車両の後方へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して緩減速することで、車線変更を補助します。

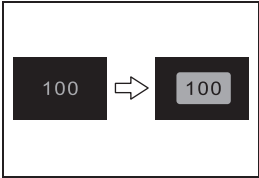
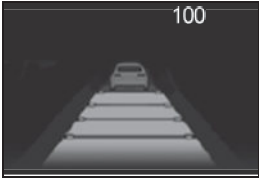
レーダークルーズコントロールの設定を変更する

- レーダークルーズコントロールの設定は、カスタマイズ設定から変更することができます。
(→P.457)

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

レーダークルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		設定車間距離：灰色	レーダークルーズコントロール OFF
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定車間距離：青色 設定速度：緑色 先行車：白色	追従走行
 緑色		設定車間距離：橙色点滅 設定速度：緑色 先行車：橙色点滅	接近警報
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	アクセルペダルによる加速中

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 緑色		設定速度：緑色反転表示	設定速度超過時
 緑色		設定車間距離：灰色 設定速度：白色 先行車：灰色	制御停車

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、一定の車速で走行できます。

高速道路や自動車専用道路で使ってください。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

■クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

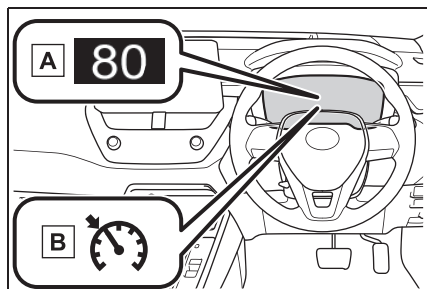
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

- システムを OFF にする必要があるとき：→P.188

システムの構成部品

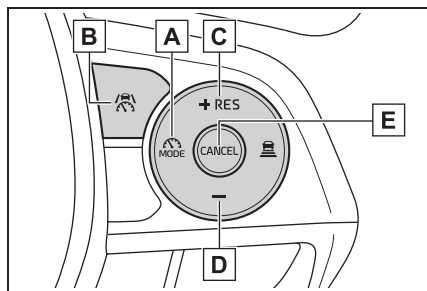
■メーター表示



A 設定速度

B クルーズコントロール表示灯

■操作スイッチ



A 走行支援モード選択スイッチ

B 走行支援スイッチ

C + スイッチ、RES スイッチ

D - スイッチ

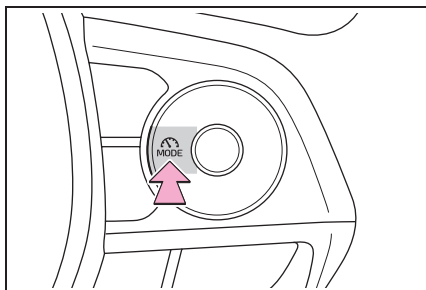
E キャンセルスイッチ

クルーズコントロールを使用する

速度を設定する

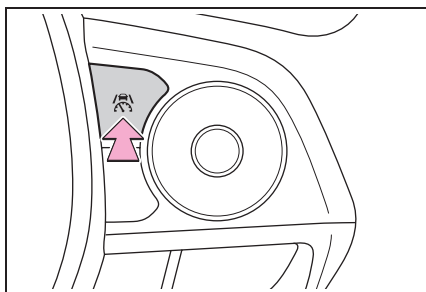
- 1 走行支援モード選択スイッチを押してクルーズコントロールモードを選択します。

クルーズコントロール表示灯が点灯します。



- 2** 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、走行支援スイッチを押して速度を設定する

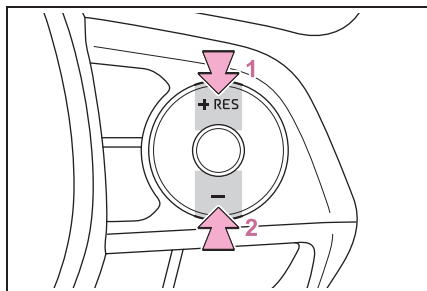
スイッチを離れたときの车速で定速走行できます。



設定速度をかえる

- スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで＋スイッチまたは－スイッチを押します。



- 1** 速度を上げる
- 2** 速度を下げる

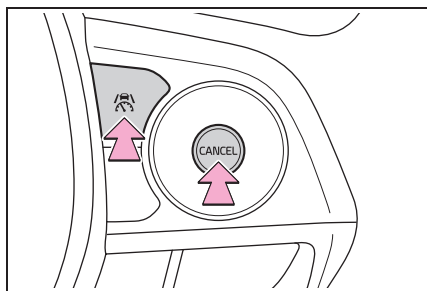
設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

- アクセルペダルで設定速度を上げる
- 1** 設定したい车速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する
 - 2** ＋スイッチを押す

制御を解除する・復帰させる



- 1** 制御を解除するには、キャンセルスイッチまたは走行支援スイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

- 2** 制御を復帰させるには、RES

スイッチを押す

 知識

■クルーズコントロールの自動解除

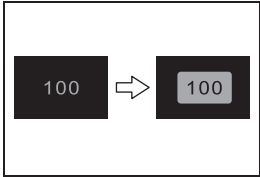
次のとき、自動的にクルーズコントロールが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき

- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 運転席シートベルトを着用していないとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.192

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

クルーズコントロールの作動状態を示しています。

表示灯	マルチインフォメーションディスプレイ表示		状態
 白色		なし	クルーズコントロール OFF
 緑色		設定速度：緑色	定速走行
 緑色		設定速度：緑色 反転表示	設定速度超過時

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に車線内で自車を減速、停車させるシステムです。

LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

システム概要

本システムは4つの状態に分けられます。「警告1フェーズ」、「警告2フェーズ」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には「減速停車フェーズ」、「停車保持フェーズ」で自車を減速、停車させます。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- システムが自動車専用道路と認識しているとき

システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。

- LTA を ON にしているとき
- 自車速が約 50km/h 以上

■ 作動解除条件

次のいずれかの状況では作動解除されます。

- LTA 制御がキャンセルされたとき
(LTA スイッチを押した場合など)
- レーダークルーズコントロール制御がキャンセルされたとき
- ドライバ操作が検出されたとき (ハンドルを握る、ブレーキ操作、アクセル操作、パーキングブレーキ操作、ハザードスイッチ操作、方向指示レバー操作)
- 自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
- 停止保持中、シフトポジションを P にした状態で走行支援スイッチを押したとき
- パワースイッチを ON から OFF にしたとき
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→P.192

■ 作動解除時の LTA 制御

システムの作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされる場合があります。

警告 1 フェーズ

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー (断続音) とディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常/異常判定を行います。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、警告 2 フェーズに移行します。

警告 2 フェーズ

ブザー (早い断続音) とディスプレイ表示により注意喚起を行い、ゆるやかに車速を減速させます。一定時間以内にハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、減速停車フェーズに移行します。

車両の減速時に道路環境等の要因によって、ストップランプが点灯する場合があります。

ある程度減速すると、非常点滅灯 (ハザードランプ) が点滅します。システムの作動が終了しても、非常点滅灯 (ハザードランプ) の点滅は続きます。

減速停車フェーズ

運転者が異常状態にあると判断し、ブザー (連続音) とディスプレイ表示で運転者に注意喚起を行うとともに、ゆるやかに減速して車両を停車させます。減速と同時に、ストップランプの点灯、非常点滅灯 (ハザードランプ) の点滅とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態であることをお知らせします。車両が停車すると停車保持フェーズに移行します。

停車保持フェーズ

停車後、パーキングブレーキが自動でかかります。引き続きブザー (連続音) で注意喚起を行うとともに、非常点滅灯 (ハザードランプ) の点滅とホーンによって周囲に緊急事態を知らせます。また、ドア解錠やヘルプネット自動接続によ

る運転者の救命・救護要請（ヘルプネット契約時のみ）を行います。

知識

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。

■ 作動解除後の機能制限

減速停車フェーズに移行後は、ドライバー異常時対応システムの作動が解除されていてもハイブリッドシステムを再始動するまで次の機能が使用できなくなります。

● LTA

警告

■ ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

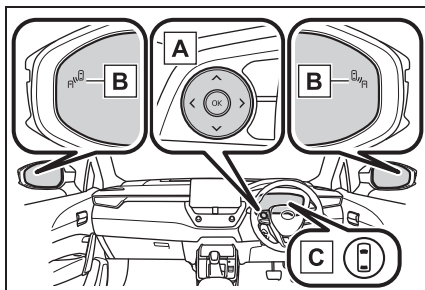
ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター

(→P.68) が点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

ブラインドスポットモニターが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

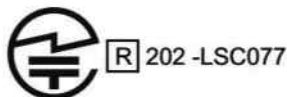
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

■ 後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。



C3-001

⚠ 警告

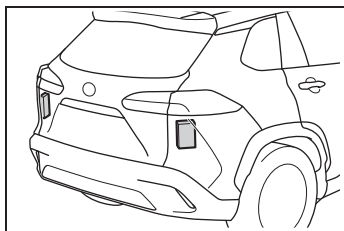
■ システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

警告

- センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件 (→P.240) でしばらく走行してください (目安: 約 10 分)。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。



- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー (透明なものを含む) やアルミテープなどを貼ったりしない
- センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。
- ・ センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

- ・ センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている
- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない
- センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターの ON / OFF を切りかえるには

ブラインドスポットモニターの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.457)

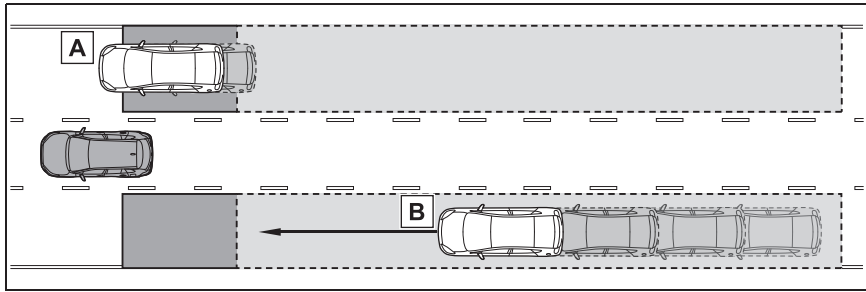
ブラインドスポットモニターが OFF になると、運転支援情報表示灯 (→P.67) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 走行中に検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を

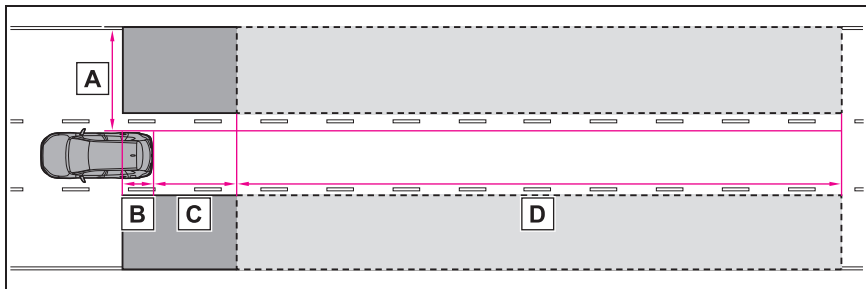
走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。



- A** ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両
- B** 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 走行中に検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



検知できる範囲：

- A** 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域^{※1}
- B** リヤバンパーから約 1m 前方の領域
- C** リヤバンパーから約 3m 後方の領域
- D** リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域^{※2}

※1 車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2 自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くに
いる状況で点灯・点滅します。

■ 関連機能

隣の車線を走行する車両の検知を用いた機能が LDA（レーンディパーチャーアラート）にあります。本機能の作動条件などの詳細については

→P.207 を参照してください。

知識

■ 作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトレバーが R 以外 のとき
- 車速が約 10km / h 以上のとき

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 同じ車線を走行する後続車※
- 2 つ隣の車線を走行する他車※
- 大きい速度差で自車が追いこす他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
 - ・ ブラインドスポットモニターを ON にした直後
 - ・ けん引しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ ガードレールや壁などとの距離が短い

状況で、それらが検知範囲に入ったとき

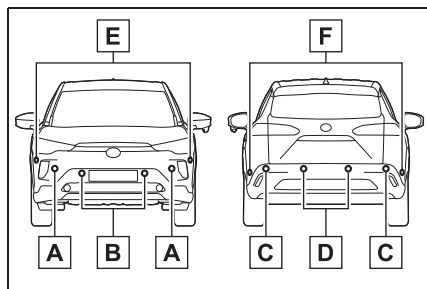
- ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみなどを走行しているとき
- ・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
- ・けん引しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

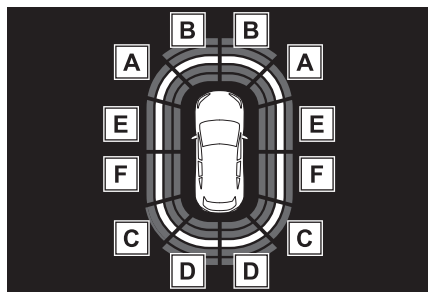


- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンターセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** リヤセンターセンサー
- E** フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）
- F** リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチメディア画面に表示されます。イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

● マルチメディア画面の表示



■ クリアランスソナー検知表示灯 ★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.242）が点灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.457）

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.68）が点灯します。OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー（→P.457）から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰し

ません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が点灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせず、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランブ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けないでください。

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。
強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。
スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

📖 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km / h 以下のとき
- フロントコーナーセンサー：
シフトポジションが P 以外にあるとき
- フロントセンターセンサー：
シフトポジションが P・R 以外にあるとき
- リヤコーナー、リヤセンターセンサー：
シフトポジションが R にあるとき
- サイドセンサー：(アドバンストパーク装着車)
- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ
- シフトポジションが R のとき
-  が押され、マルチメディア画面が表示されているとき
- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF (非作動) に設定している場合でも、自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る(ブザーが鳴る)までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る(ブザーが鳴る)までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メータ故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知でき

る範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

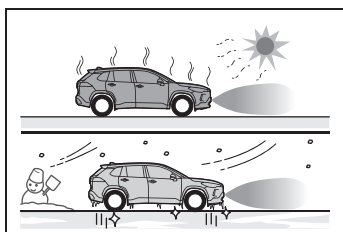
- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時



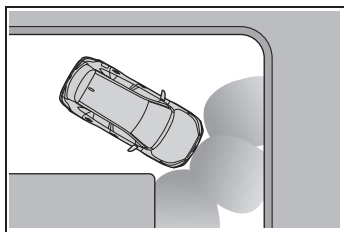
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき

- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノープラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

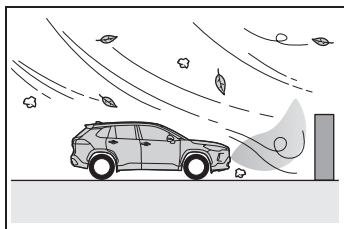
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

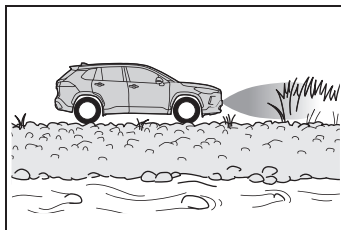


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき

- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

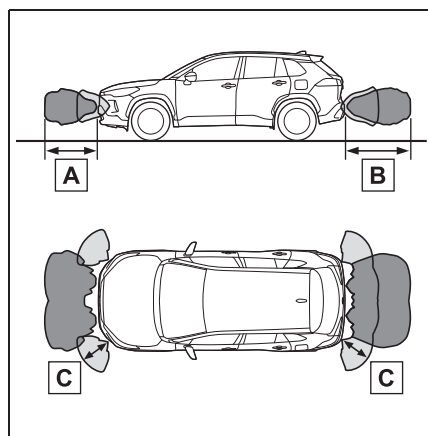


- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車



A 約 100cm

B 約 150cm

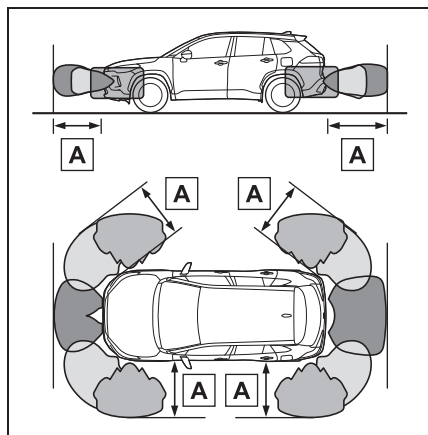
【C】約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク装着車



【A】約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンサーセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンサーセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり (→P.247)

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
フロント／リヤセンターセンサー、コー ナーセンサー： 約 60cm ～ 45cm※	速い断続音
フロント／リヤセンターセンサー、コー ナーセンサー： 約 45cm ～ 30cm※	非常に速い断続音
約 30cm 以下	連続音

※ 自動ミュート機能あり（→P.247）

音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

- 断続音ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

□ 知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.457）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチメディア画面に一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

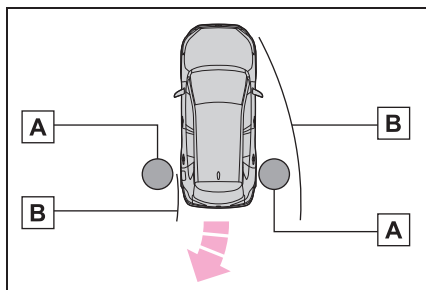
クリアランスソナー、RCTA、RCD のブ

ザー音が一括でミュート（消音）されます。

- 次のとき、自動でミュート（消音）が解除されます。
 - ・ シフトポジションを切りかえたとき
 - ・ 車速が一定値以上になったとき
 - ・ センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
 - ・ 使用中の機能を OFF にしたとき
 - ・ パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

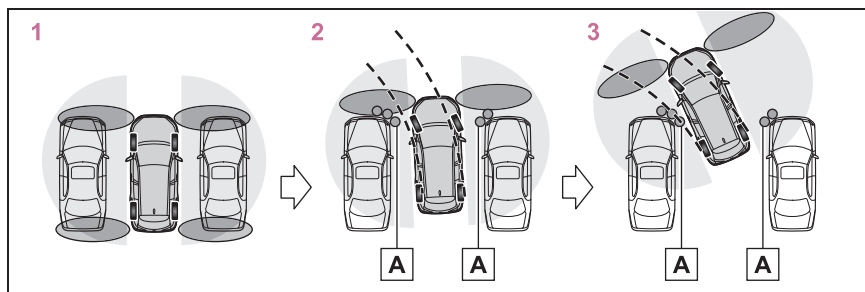
サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。



A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。



A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

- 1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。
- 2 車両移動中に静止物を検知
- 3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。



知識

■ 巻き込み警報機能の作動条件

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

- シフトポジションが R のとき

-  が押され、マルチメディア画面が表示

示されているとき

- フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■ サイドエリアの静止物の検知について

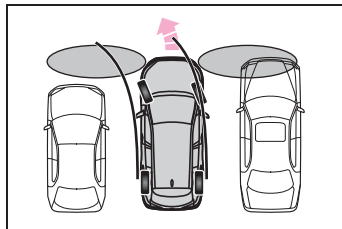
- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。
- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

⚠ 警告

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチを ON にした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

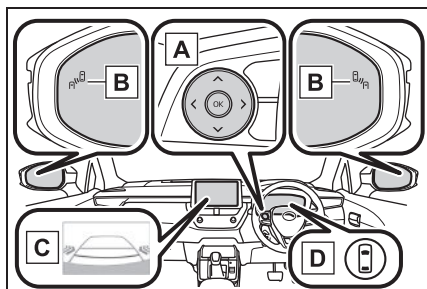
RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。RCTA 機能を使用していても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■システムを正しく作動させるために

→P.237

システムの構成部品



A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上で RCTA 機能の ON / OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーター（→P.68）が点滅し、ブザーが鳴ります。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.251）が点灯します。

イラスト※は両後方から車両が接近している例です。

※表示画面は、グレード、オプションなどにより異なる場合があります。

D 運転支援情報表示灯

RCTA が OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

設定のしかた

RCTA の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。（→P.457）

RCTA 機能が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.68) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。



■ ドアミラーインジケータの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーイン

ジケータが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

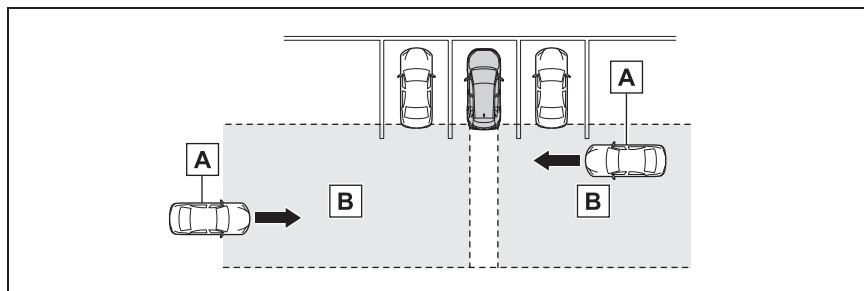
■ 後側方レーダーセンサーについて

→P.237

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケータとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

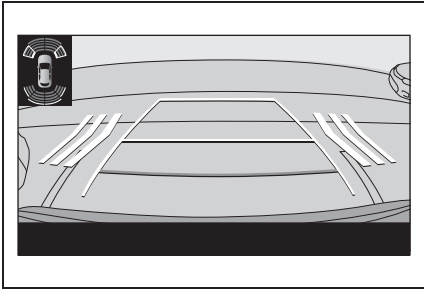
■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき

● 例 (バックガイドモニター)：両

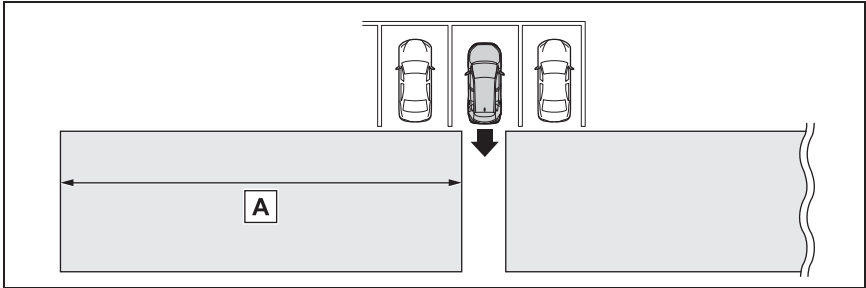
方向から車両が接近しているとき



- 例（パノラミックビューモニター）：両方向から車両が接近し

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km / h（速い）	30m
8km / h（遅い）	4m

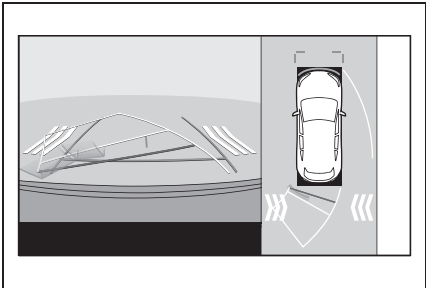
📖 知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき

ているとき



- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 15km / h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km / h ～ 56km / h のあいだのとき

■ ブザーの音量調整について

カスタマイズメニューから、RCTA、クリアランスソナー、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.457）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
これを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

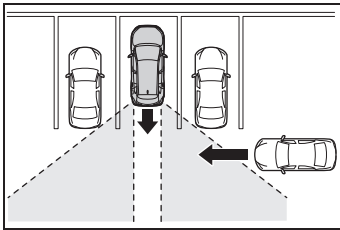
- シフトポジションを切りかえたとき

- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両※
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※状況によっては検知をすることがあります。

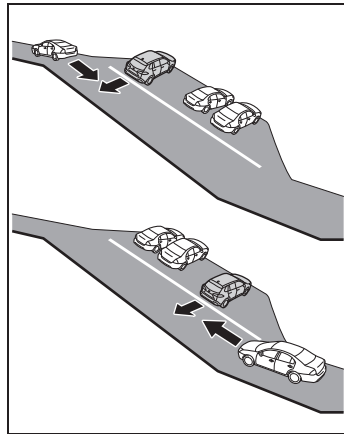
■システムが正常に作動しないおそれがある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

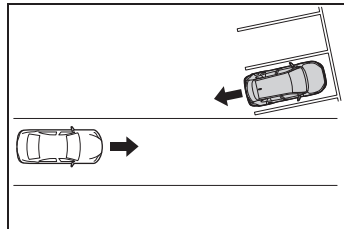
- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きが

ずれているとき

- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

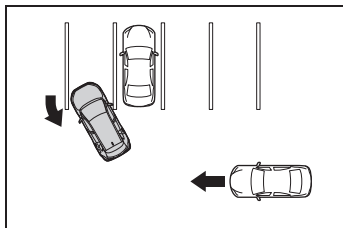


- 斜めの駐車場から出庫するとき

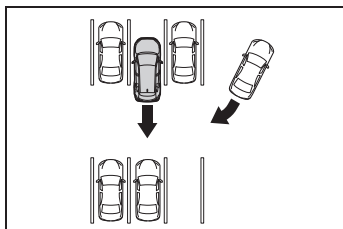


- RCTA 機能を ON にした直後
- RCTA 機能を ON にした状態で、ハイブリッドシステムを始動した直後

- 障害物のためにセンサーが車両を検知できないとき
- けん引しているとき
- 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- 自車が旋回しているとき



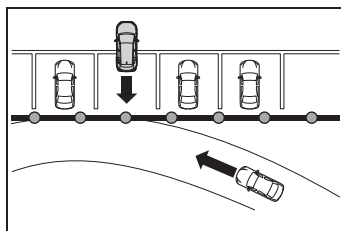
- 旋回しながら車両が近付いてきたとき



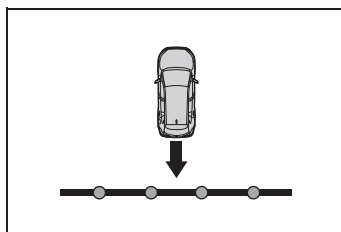
■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

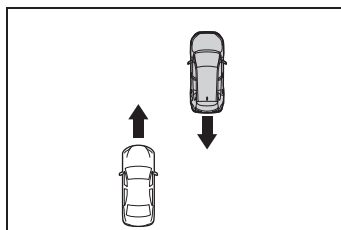
- 駐車場に面した道を車両が走行しているとき



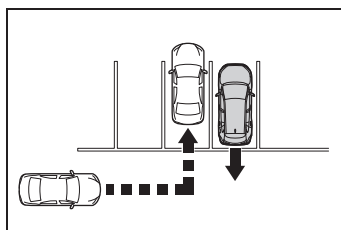
- 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき



- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 車両が自車の横を通過するとき



- 自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



- 自車近くに室外機などの回転体があるとき

- センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき
- 動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- グレーチングや側溝
- 炎天下や寒冷時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- けん引しているとき

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリ・ステッカーを付けないでください。
- リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

警告

●バックドアを完全に閉めてください。

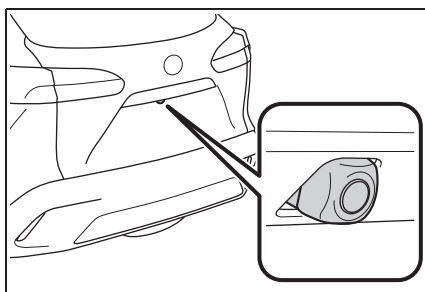
■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

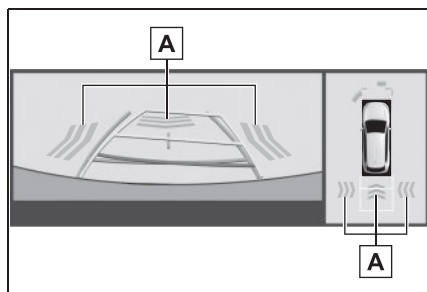
- 上記の内容が守られないとき
- 純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置



RCD の表示



[A] 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

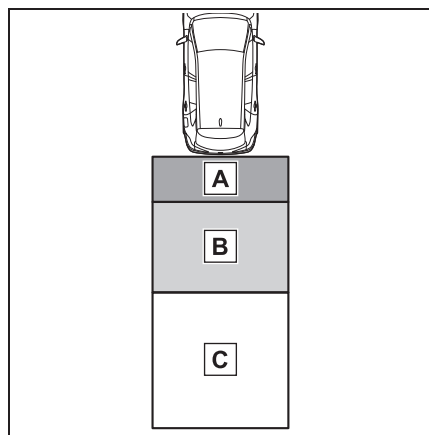
システムを作動させるには

RCD の ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.457)

RCD が OFF のとき、運転支援情報表示灯(→P.68) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、RCD は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。



[A] 歩行者が[A]エリアにいるとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

[B] 歩行者が[B]エリアにいるとき
ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：くり返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

- C** **C** エリアにいる歩行者と自車が、接触する可能性があるとき
システムが判断したとき
ブザー：くり返し吹鳴
歩行者検知表示：点滅

知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ ブザーの音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナー、RCTA、RCD の音量を一括で切りかえることができます。（→P.457）

■ ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
スイッチを押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

次のいずれかの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
 - ・ 寝転んでいる人
 - ・ 走っている人
 - ・ 自車や建物の影から突然現れる歩行者
 - ・ 自転車やスケートボード等に乗っている人
 - ・ 合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
 - ・ カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
 - ・ 夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者
- 例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 悪天候（雨、雪、霧など）
 - ・ レンズに汚れ（泥、融雪剤など）や傷があるとき
 - ・ 強い光がカメラに直接あたっているとき
 - ・ 明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近など）
 - ・ 夜間（日没後）や薄暗い駐車場
 - ・ カメラの位置や向きがずれているとき
 - ・ けん引フックを取り付けているとき
 - ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
 - ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
 - ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
 - ・ ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
 - ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）

を取り付けているとき

- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- ・ けん引しているとき

■ システムが作動するおそれがあるとき

● 例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両など）
- ・ 移動物（通行車両、バイクなど）
- ・ 動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水など）
- ・ 路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利など）
- ・ 金属のフタ（グレーチング）や側溝
- ・ 水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
- ・ 影

● 例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

- ・ 路肩や段差があるとき
- ・ 勾配変化があるとき
- ・ 車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- ・ リヤカメラ付近に市販の部品（字光式ナンバープレート、フォグランプなど）を取り付けているとき
- ・ リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリムなど）を取り付けているとき
- ・ カメラの位置や向きがずれているとき
- ・ けん引フックを取り付けているとき
- ・ カメラレンズ上に水滴が流れているとき
- ・ カメラが汚れているとき（泥、融雪剤など）
- ・ 点滅する光源があるとき（ハザードランプなど）
- ・ タイヤチェーン・タイヤパンク応急修

理キットを使用しているとき

- ・ けん引しているとき

● 検知を妨げる状況

- ・ オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります
- ・ 高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。

駐車支援機能

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります。）

- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）（→P.265）
 - パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★（→P.270）
 - パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★（→P.272）
 - パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）★（→P.265）
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。

センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約2秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

●故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

⚠ 警告

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用するとき
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ロードサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・輸送用フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■ サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象物を正しく検知できなくなり、システムが正しく作動しなくなるおそれがあり危険です。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます (→P.457)

PKSB（パーキングサポートブレーキ）が OFF のとき、運転支援情報表示灯 (→P.68) が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にした場合、再度、カスタマイズメニュー (→P.457) から ON（作動）にしないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面およびマルチインフォメーションディスプレイに、システムによる加速制限を示すメッセージや、ブレーキ操作を促すメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御が出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“加速抑制中です”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● ハイブリッドシステム出力抑制 制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミックビューモニター装着車※）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミック

ビューモニター装着車※）：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“ブレーキ！”

運転支援情報表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示例（パノラミックビューモニター装着車※）：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示例：“アクセルが踏まれています ブレーキを踏んでください”、“ブレーキを踏んでください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

運転支援情報表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

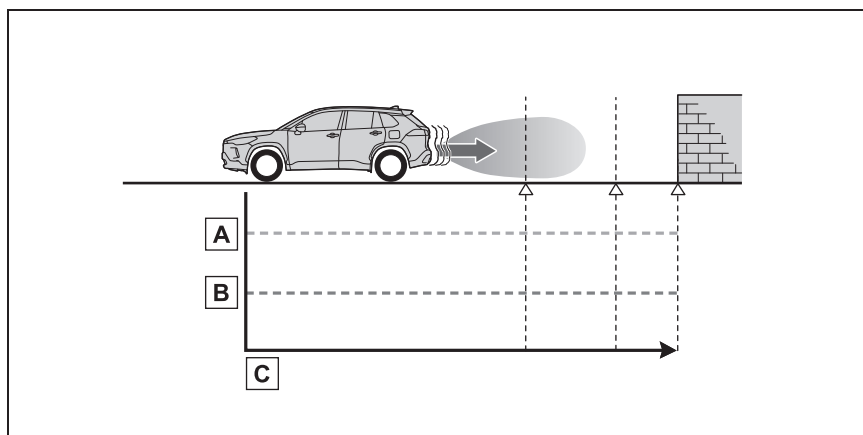
※ パノラミックビューモニターの仕様によっては表示されない場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性のある作動対象（壁などの静止物や後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：図 2）

また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB［パーキングサポートブレーキ］非作動時）

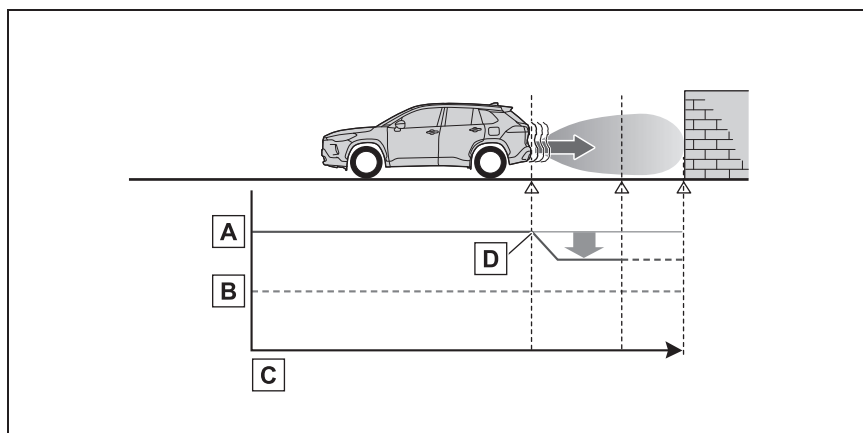


A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2 (ハイブリッドシステム出力抑制制御時)



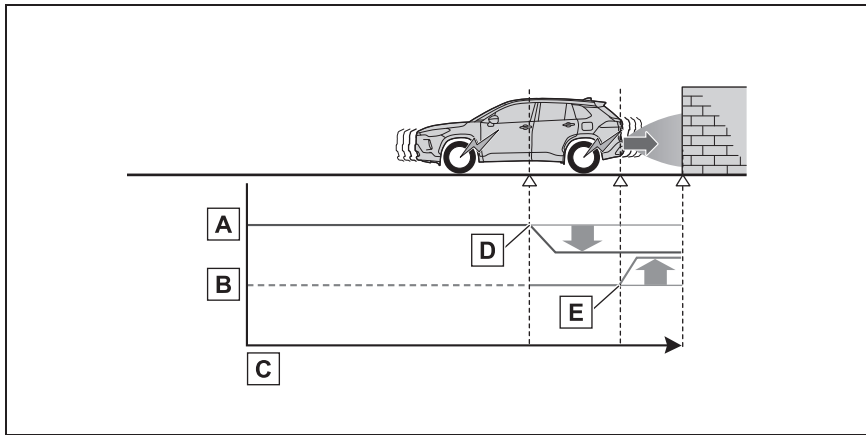
A ハイブリッドシステム出力

B 制動力

C 時間

D ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性がある」とシステムが判断したとき）

● 図 3 (ハイブリッドシステム出力抑制制御かつブレーキ制御時)



- A** ハイブリッドシステム出力
- B** 制動力
- C** 時間
- D** ハイブリッドシステム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性がある」とシステムが判断したとき）
- E** ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性がある」とシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、運転支援情報表示灯が点灯します。

また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したときに、

PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度 PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON にするか、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、運転支援情報表示灯が消灯します。（→P.68）

- シフトポジションを P にする
- 進行方向の作動対象がなくなった状態で走行する
- 車両の進行方向を切りかえる

■クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON / OFF に関係なく（→P.68）、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ（→P.68）、ブレーキ制御とハイブリッ

ドシステム出力抑制制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、作動対象とのおよその距離をお知らせします。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）

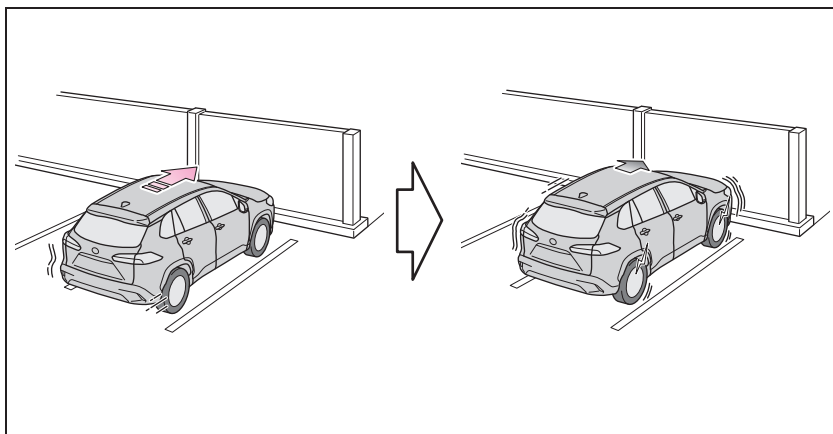
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

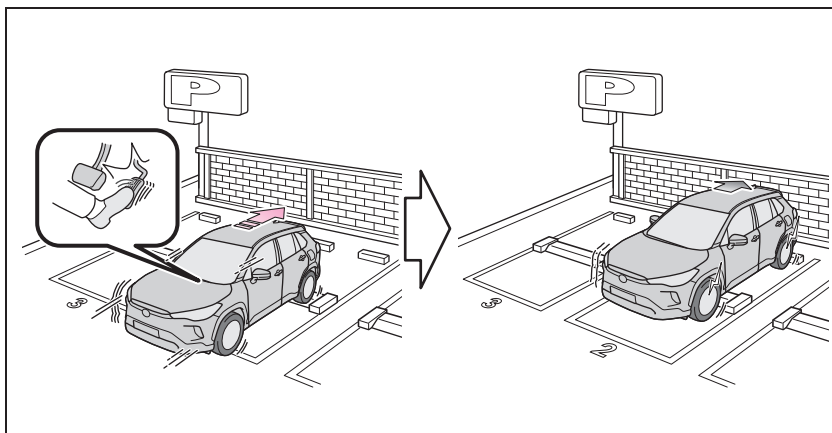
システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

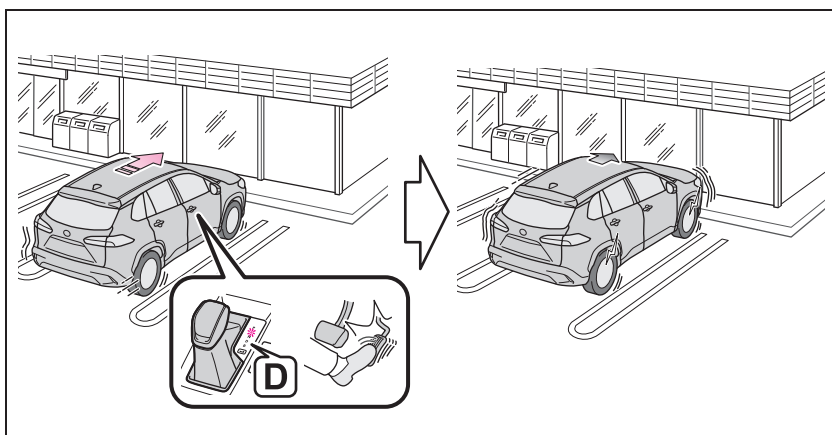
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



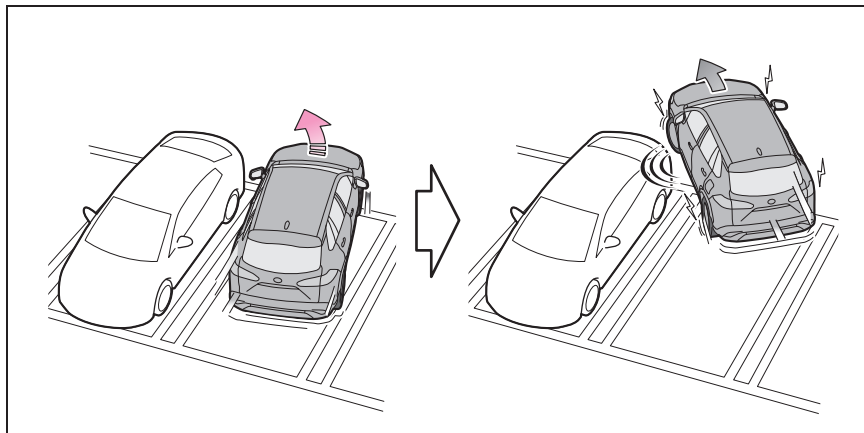
■ 誤ってシフトポジションをDに入れ前進してしまったとき



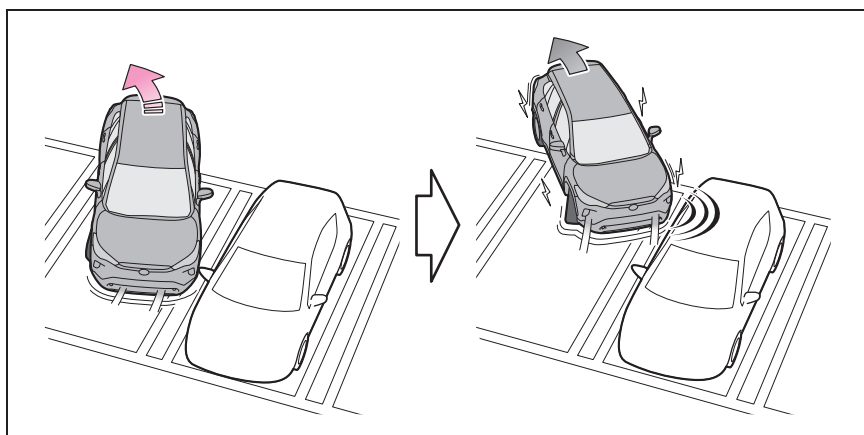
システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突



■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突



センサーの種類

→P.241



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.242

■ 万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.263

■ 洗車時の注意

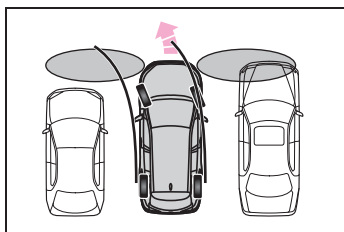
→P.243

⚠ 警告

■ サイドセンサーまたはサイドカメラについて（アドバンストパーク装着車）

次のとき、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）が正常に作動しないことがあります、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき。
下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）は作動しません。



- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいるとき
- サイドエリアのスキャン完了後に、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきたとき
- ドアミラーが閉じられているとき
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの格納・復帰を実施してください。

□ 知識

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.67、

68）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が約 15km / h 以下
 - ・ 車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御
 - ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム始動後、車両が約 7m 前進するあいだ
- シフトポジションが R のとき
- シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 前進するあいだ

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
 - ・ 車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）
- ブレーキ制御
 - ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）

を OFF（非作動）にしたとき

- ・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- ・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

■ パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.245）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していないことがあります。

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.244

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.244

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件（→P.268）に加えて、次のような状況では、センサーが検知しないおそれがあります。

- 縦列駐車時など側方の幅寄せするとき（→P.285）

■ サイドエリアの静止物の検知について（アドバンストパーク装着車）

- サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し

ます。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

- サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出てても検知している状態が継続します。

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

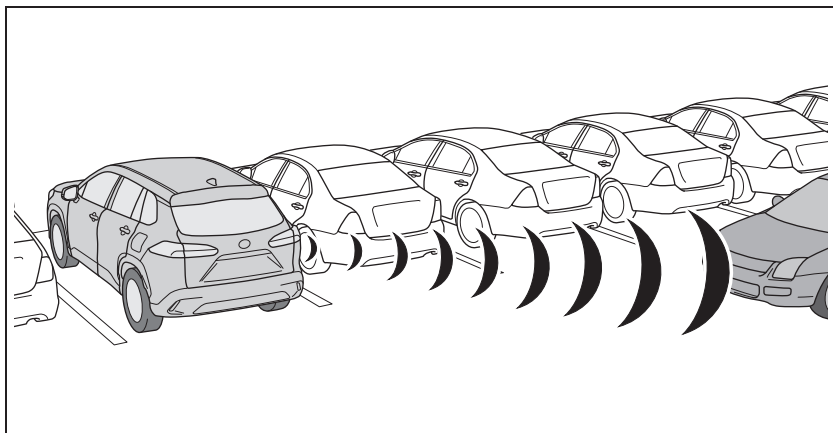
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

- 後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



センサーの種類

→P.237



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.237



知識

- パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.67,

68）として、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- ・ 車速が約 15km / h 以下
- ・ 後側方から接近する車両の車速が約 8km / h 以上
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき
- ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作
動中
- ・ 後側方からの接近車両への衝突回避に
は、急ブレーキ操作が必要とシステム
が判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方接 近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了
します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）
を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能
になったとき
- ・ 自車後側方への接近車両がなくなった
とき
- ブレーキ制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）
を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約
2秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあ
とに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ システムが正常に作動しないおそれの ある状況

→P.253

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作 動する状況

→P.254

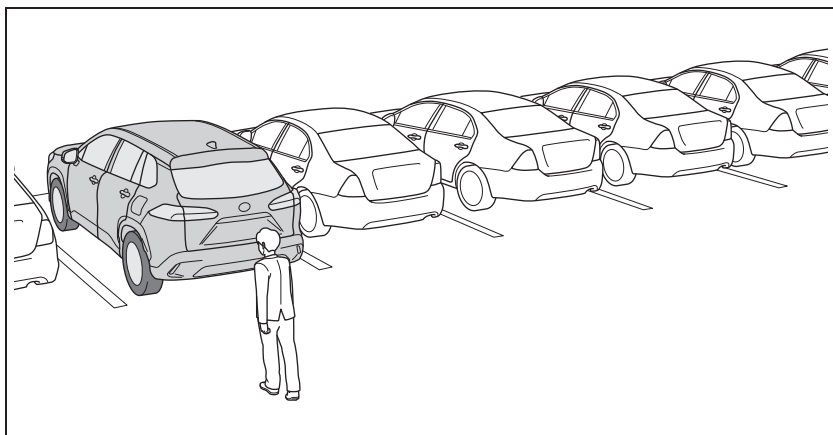
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

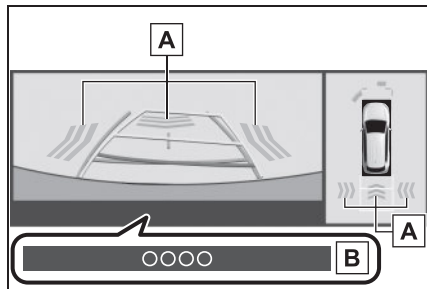
システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。



後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的にマルチメディア画面上に表示され、ブレーキ操作を促します。



A 歩行者検知表示

B 例 "ブレーキ!"

警告

■ 万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために

→P.255

知識

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

運転支援情報表示灯が点灯（→P.66, 68）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき

- ・ 車速が 15km/h 以下
- ・ シフトポジションが R のとき
- ・ 自車後方に歩行者がいるとき
- ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

● ブレーキ制御

- ・ ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・ 後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- ・ 後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

● ブレーキ制御

- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.263

■ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.256）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合

があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.257

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.258

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声／ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全／安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。（シフトチェンジ操作は運転者が行ってください。）

また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。

駐車時の路面や自車の状況／目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

アドバンストパークは、その地域の道路交通法及び規則に従ってご使用ください。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列前向き／バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.281)

■ 並列前向き／バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.284)

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。(→P.285)

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。(→P.288)

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。(→P.290)



警告

■ 安全にお使いいただくために

本システムは認識性能／制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。

- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。
- 本システムは適切な経路で繰り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、繰り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。
- 次のようなもの／場合は検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。
 - ・ 細いもの（針金／フェンス／ロープ／ポールなど）や接近する角度によって細く見えるもの（看板／自転車など）
 - ・ 音波を吸収しやすいもの（綿／雪など）
 - ・ 鋭角的な形のもの（ブロック塀や柱、壁の角など）
 - ・ 背の低いもの（縁石やブロック、階段、車止めなど）
 - ・ 背が高く上部が張り出しているもの（梁など）
 - ・ 地面に対し垂直でないもの
 - ・ 障害物に対して斜めに接近するとき
- 駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

警告

- 周辺の車両や障害物、人などに接触しそうなときや、車止めを乗り越えそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
- マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- 次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。
 - ・ 作動中に運転席のドアが開けられたとき
 - ・ 作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき
 - ・ 作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき
 - ・ 作動中に故障が発生したとき

- 使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。
 - ・ ネクタイ／スカーフ／腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。
 - ・ 爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。
 - ・ 万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。
- 使用中は窓から手を出さないでください。
- アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 - 次のような状況では使用しないでください。
 - ・ 駐車場以外の場所
 - ・ 砂地／砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場
 - ・ 傾斜／段差／穴／側溝のある平坦でない駐車場
 - ・ 機械式駐車場
 - ・ 車両下部に接触して固定する装置がある駐車場
 - ・ 凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
 - ・ 真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき
 - ・ 車両周辺に障害物があるとき

⚠ 警告

- ・ 目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき
- ・ 人や車両などの通行量が多いとき
- ・ 駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）
- ・ カメラのレンズの汚れ／西日／影／雪などで画面が見にくいとき
- ・ タイヤチェーン／応急用タイヤを使用しているとき
- ・ ドアまたはバックドアが完全に閉まっていないとき
- ・ 窓から手を出しているとき
- ・ 降雪や豪雨のとき
- メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。
- 次のような状況では、設定した位置にアシストできなかったり、システムが正常に作動しない場合があります。
 - ・ タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき
 - ・ 極端に重いものを積んでいるとき
 - ・ 車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき
 - ・ 駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき
 - ・ タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

- ・ アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき
- ・ けん引フック／バンパープロテクター／バンパートリム／サイクルキャリア／除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- ・ 区画線と認識してしまうようなもの（光／建物の映り込み／段差／側溝／路面ペイント／引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

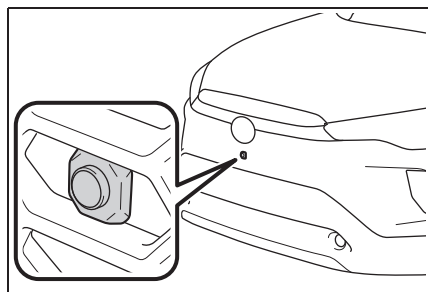
■ アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

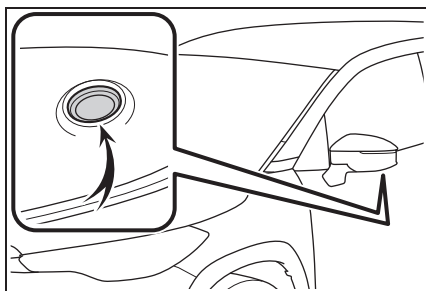
アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

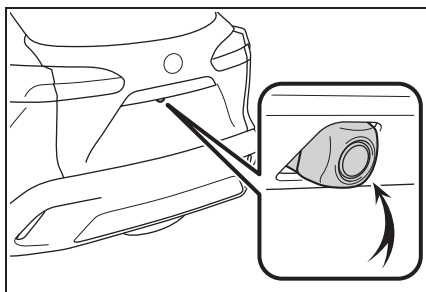
▶ フロントカメラ



▶ サイドカメラ



▶ リヤカメラ



▶ センサー

→P.241



■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱説明書」のパノラミックビューモニター（トヨタチームメイト アドバンストパーク装着車）を参照してください。

- 画面の映る範囲について
- カメラについて
- 画面と実際の路面との誤差について
- 画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

- 駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。
- 柱や壁など駐車車両以外は検出できません。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

- 次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。
 - ・ 区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）
 - ・ 区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
 - ・ 路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）
 - ・ 路面の区画線が黄色と白以外の色のとき
 - ・ 夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗いとき
 - ・ 降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
 - ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
 - ・ 積雪や融雪剤があるとき
 - ・ 路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
 - ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
 - ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
 - ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
 - ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- 次のような状況では、目標駐車位置を

誤認識する場合があります。

- ・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
- ・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
- ・車両周辺が暗いときや逆光のとき
- ・路面の色や明るさが一様でないとき
- ・勾配がついている駐車場
- ・ゼブラゾーンのある駐車スペース
- ・駐車車両の影響を受けてしまったとき（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
- ・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
- ・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
- ・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

■ センサーの検知について

→P.243

■ センサーが正しく検知できないことがある静止物

→P.243

■ センサーが正常に作動しないおそれのある状況

→P.244

■ 衝突の可能性がなくてもアシストが作動する状況

→P.244

⚠ 警告

■ カメラとセンサーの取り扱いについて

- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱説明書」を参照してください。

- センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。（→P.242）

- 次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

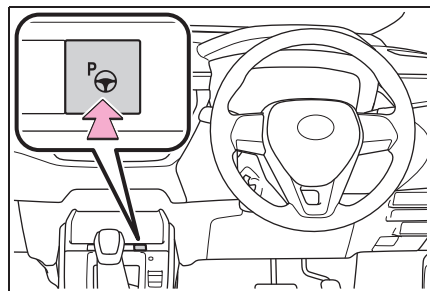
- ・ 目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

- ・ センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けしないでください。

アドバンストパークの ON / OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシストを中止します。



□ 知識

■ アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

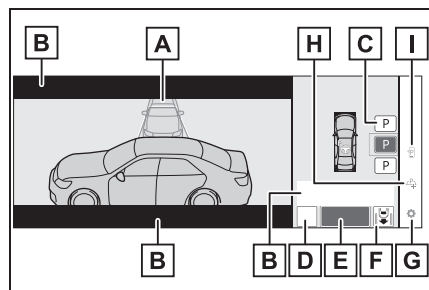
- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびバックドアが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS/VSC/TRC/PCS/PKSBが作動していない
- けん引していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。(→P.297)

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）



- A** 目標駐車枠（青色）
- B** アドバイス表示
- C** 駐車形態切り替えスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または **P**：他の駐車可能な位置に変更

P または **P**：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切り替え

P：並列前向き／バック駐車機能への切り替え

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。(→P.292)

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切り替えスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切り替え

：並列バック駐車への切り替え

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。(→P.295)

H 登録開始スイッチ

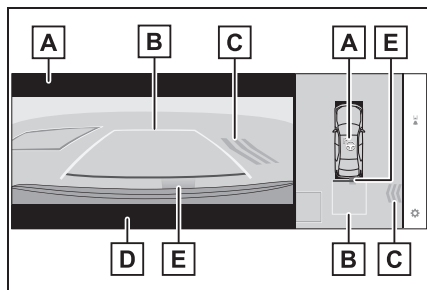
駐車スペースの登録を開始します。

I リモート機能開始スイッチ★

スマートフォン画面上で駐車をアシスト操作します。

★：グレード、オプションなどにより装備の有無があります

▶ ガイド画面（後退時）

**A** 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離（黄色）※と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示
“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.241

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。



知識

■ クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON / OFF (→P.242) に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■ アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可

能性がある移動物または静止物を検知したとき、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■ アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度ハイブリッドシステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

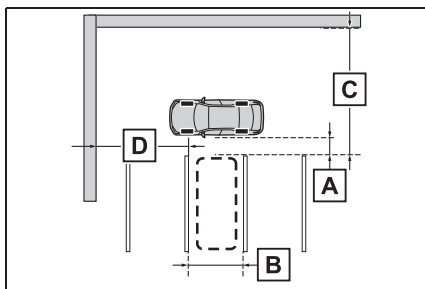
アドバンストパークの並列前向き／バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き／バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック駐車機能 を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

B 約 2.5m※

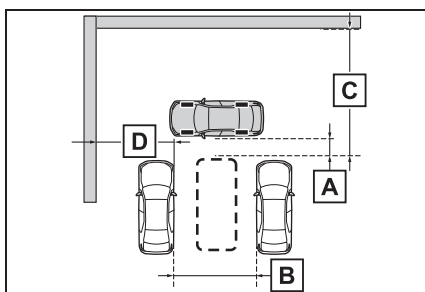
C 約 5m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合



A 約 1m※

B 約 3m 以上 ※

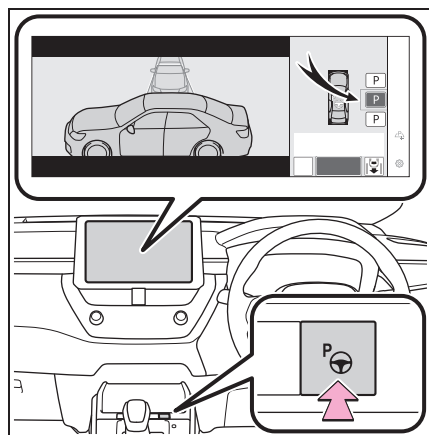
C 約 5m 以上 ※

D 約 5.5m 以上 ※

片側しか隣接車両がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

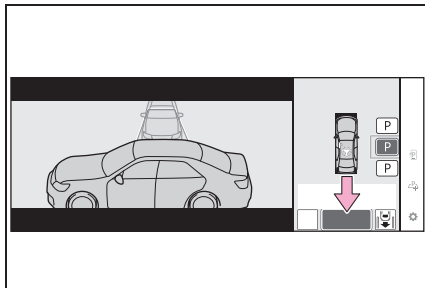


- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、**(P)** にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。
- 駐車向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、 もしくは  を選択すると、駐車向きが変更できます。
- 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐

車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します” または“後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進／後退が始まります。
- アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.283

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

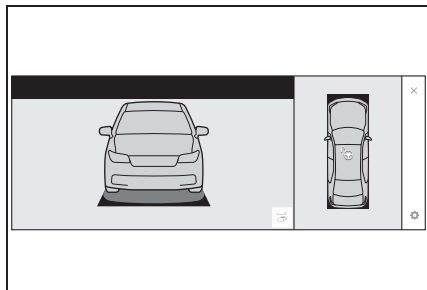
車両が停車したら、シフトポジションをPにすると、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

シフトポジションをPにする前にシートベルトをはずす、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。

さらに、運転席シートベルトをはずして、

ブレーキペダルを離すと、ホーンが鳴ります。シフトポジションをPにして、アシストを終了してください。

マルチメディア画面の  にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。



知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の“再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

⚠ 注意

■並列前向き／バック駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

⚠ 注意

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。
- 狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。
- 駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

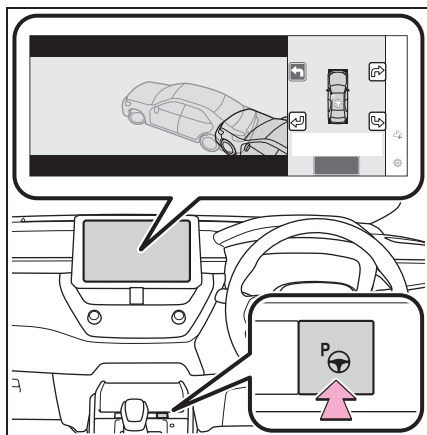
アドバンストパークの並列前向き／バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き／バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

並列前向き／バック出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫

方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

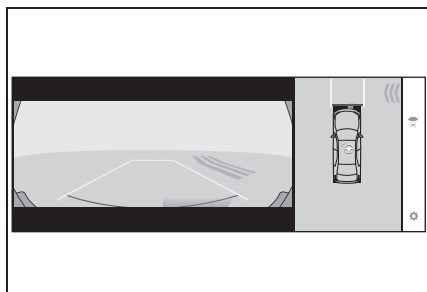


- 2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。



アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

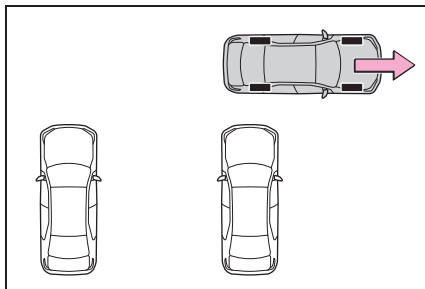
周辺の車両や障害物／人／溝などに近い

と感じたときは：→P.283

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.283

■ 並列前向き／バック出庫機能について

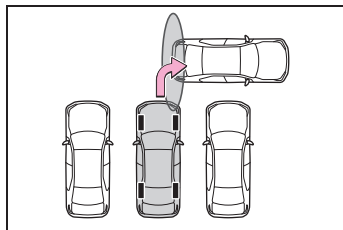
並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き／バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

■ 並列前向き／バック出庫機能が作動しない状況

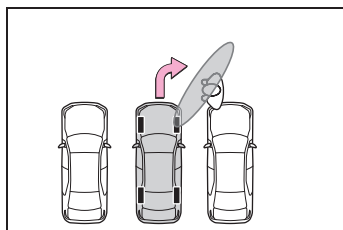
次のような状況では並列前向き／バック

出庫は作動しません。

● 出庫方向に駐車待ちの車両があるとき



● フロントまたはリヤのセンター／コーナーセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



■ ブレーキが作動したとき

→P.283

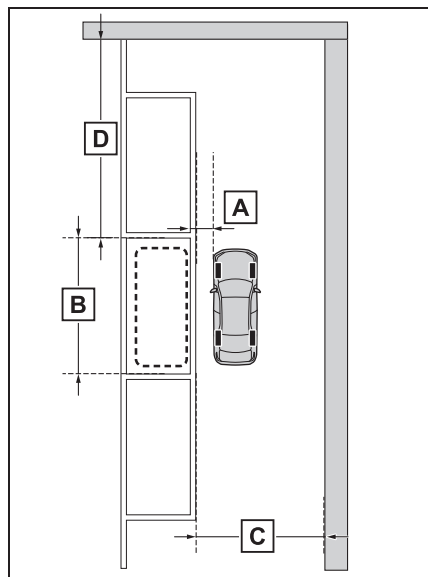
アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列駐車機能を使用して駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合



A 約 1m※

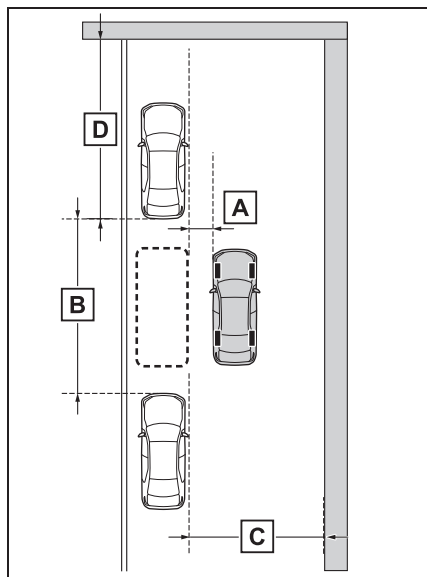
B 約 5m※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合



A 約 1m※

B 約 6m 以上 ※

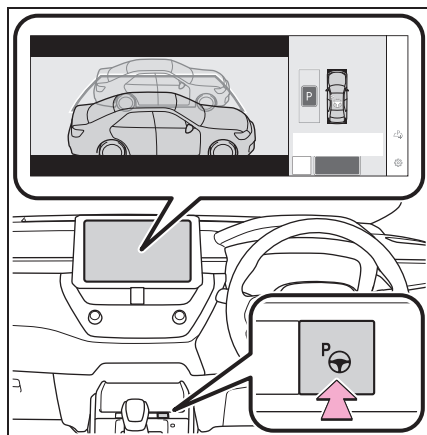
C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア

画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

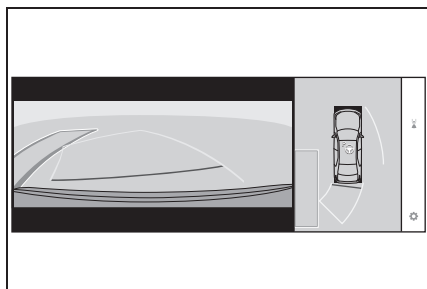


- 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。
- 並列前向き／バック駐車が可能の場合、駐車スペースを選択して、**P** にタッチすると並列前向き／バック駐車機能に切りかわります。
- 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始

されます。



- ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。
- アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.283

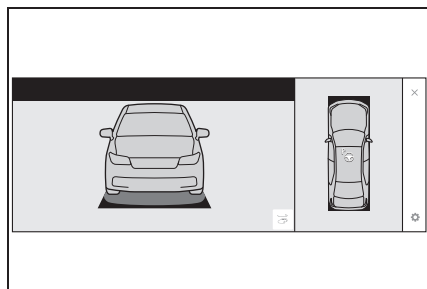
4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、シフトポジションをPにすると、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

シフトポジションをPにする前にシートベルトをはずす、またはドアを開けると、ブザーが鳴り、マルチメディア画面にメッセージが表示されます。さらに、運転席シートベルトをはずして、ブレーキペダルを離すと、ホーンが鳴ります。シフトポジションをPにして、アシストを終了してください。

マルチメディア画面の  にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転

します。



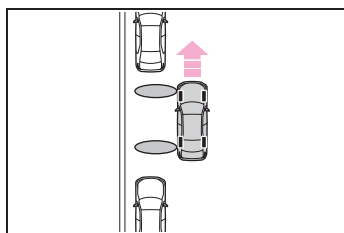
知識

■ 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.283

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。



■ ブレーキが作動したとき

→P.283

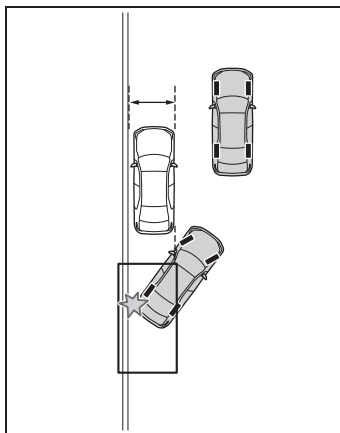
⚠ 注意

■ 縦列駐車機能を使用するときは

- 黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断／中止されます。

- 路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

- 隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、メインスイッチを押してシステムを解除してください。



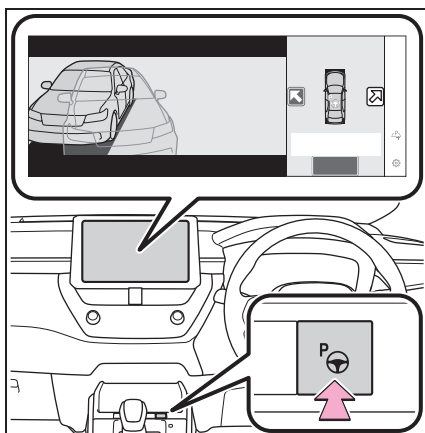
- 駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

縦列出庫機能を使用して出庫する

- 1 ブレーキを踏み、シフトポジションがPの状態アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する



- 2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する
方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。
- 3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチを選択する

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

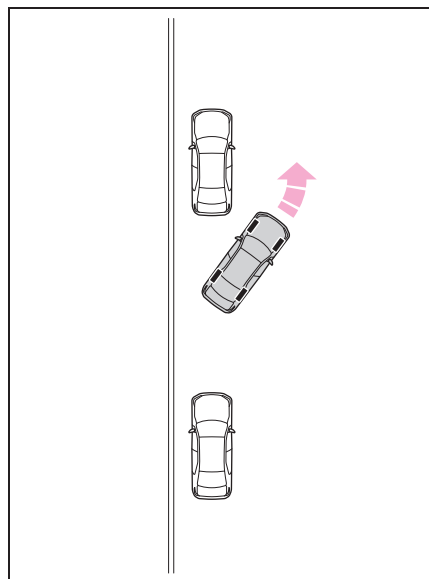
アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.283

- 4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。

走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。



知識

- 周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは

→P.283

- 縦列出庫機能について

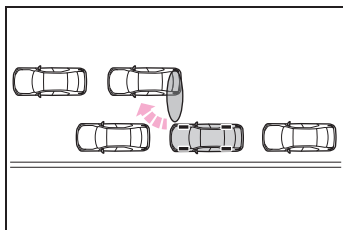
縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してし

まった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

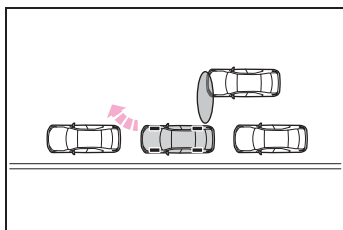
■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

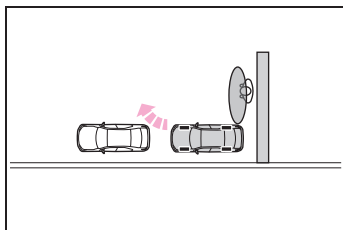
- 出庫方向に信号待ちの車両があるとき



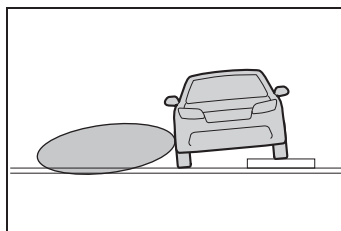
- 出庫方向の後方に車両が待っていると



- フロントまたはリアのサイドセンサー付近に壁／柱などの障害物がある場合や、人がいるとき



- 縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知しているとき



- 車両の前方に駐車車両がないとき
- 車両の前端と駐車車両との間隔が空きすぎているとき

■ブレーキが作動したとき

→P.283

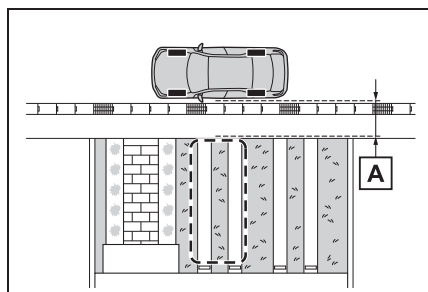
アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。

登録できる駐車スペースは3つです。

駐車スペースの登録

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

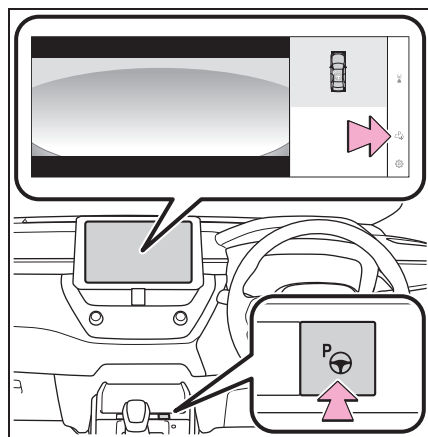


A 約 1m

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、 P_{P} にタッチする

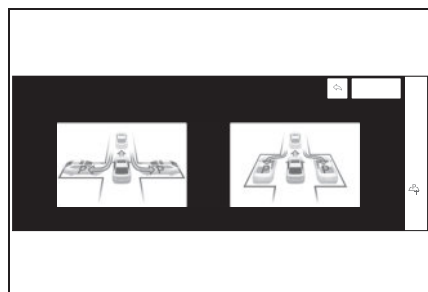
区画線や隣接車両のいない駐車スペース

でアドバンストパークメインスイッチを押した場合、“駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてPにタッチしてください。



3 並列（前向き／バック）駐車または縦列駐車を選択する

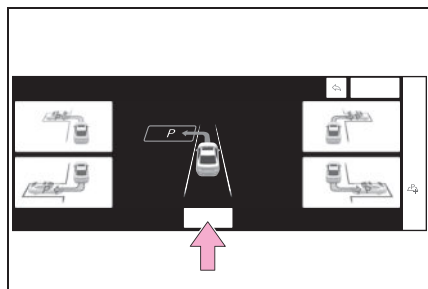
アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。



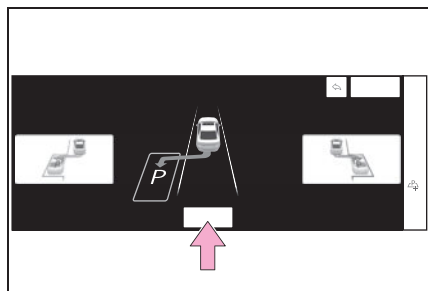
4 駐車向きを選択し、“次へ”スイッチにタッチする

手順3で並列（前向き／バック）駐車を選

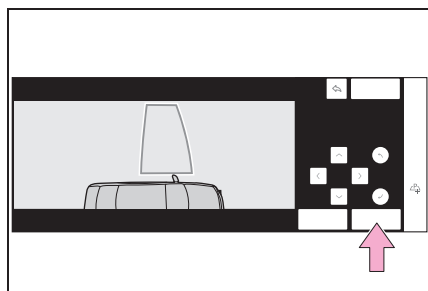
択した場合：



手順3で縦列駐車を選択した場合：



5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする



6 “開始”スイッチにタッチする

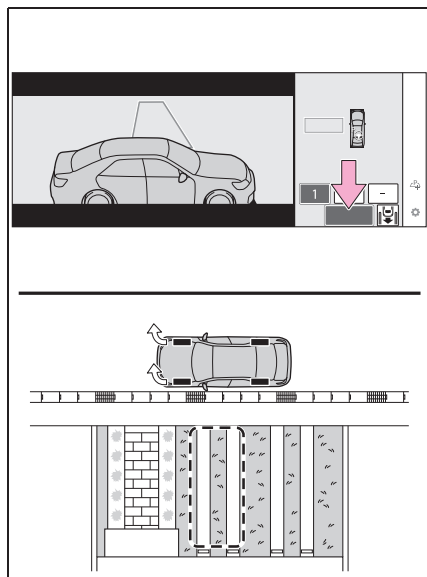
“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

シフトポジションがD以外のとき、“シフトをDに入れてください”の音声

案内と表示が出ます。

ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

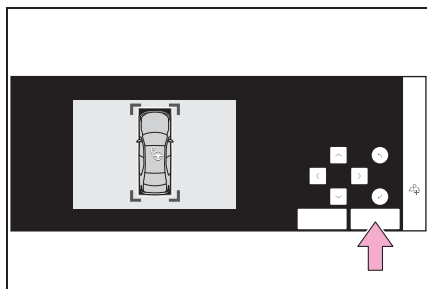
周辺の車両や障害物／人／溝などに近いと感じたときは：→P.283



- 7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する
- 8 車両が停車したらシフトポジションをPにする
- 9 登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディア画面に“登録を完了しま

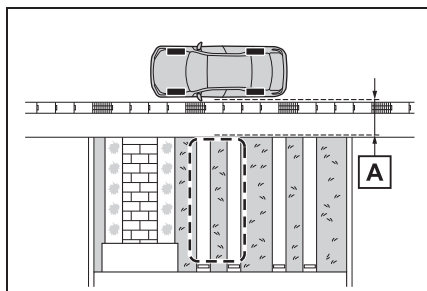
した”と表示されます。



- 太枠内に障害物がない位置で登録してください。
- 調整できる範囲には限りがあります。

メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する

- 1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

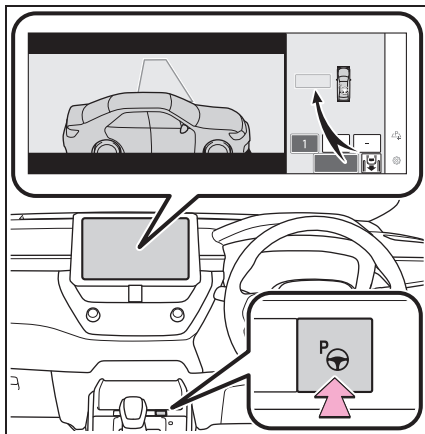


A 約 1m

- 2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と、並列前向き／バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができま

す。



3 駐車したいスペースを選択し、“開始”スイッチにタッチする

このあとの手順は、並列前向き／バック駐車機能の手順 3 以降と同じです。
(→P.284)

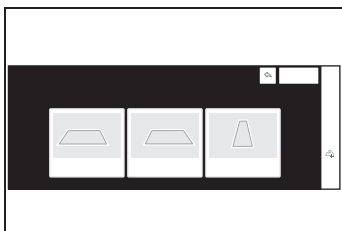
知識

■周辺の車両や障害物／人／溝などに近くと感じたときは

→P.283

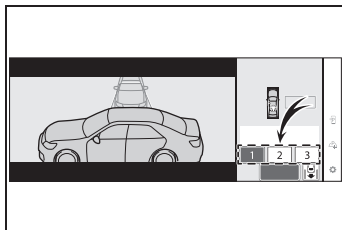
■登録した駐車スペースを上書きするとき

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で、 P_{p} にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。



■登録した駐車スペースが複数あるときは

駐車スペースを選択してから、“開始”にタッチします。



■ブレーキが作動したとき

→P.283

⚠ 注意

■メモリ機能を使用するときは (→P.283, 288)

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

- ・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・雨雪が降っているとき
- ・夜間（周囲が暗いとき）

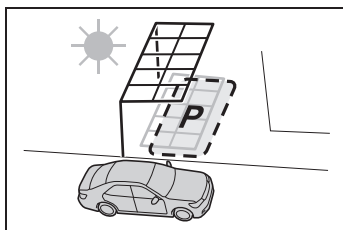
●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

- ・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

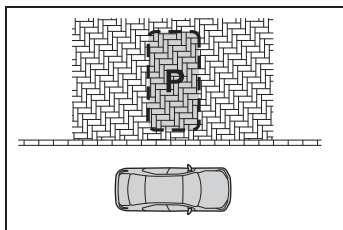
注意

- ・ 駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

- 次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。
- ・ 駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）



- ・ 駐車スペースに落ち葉／ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）



- 次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。
- ・ 自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき
- ・ 設定した駐車スペースに障害物があるとき
- ・ システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

- ・ アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき
- ・ 輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面模様が変わったとき（路面の経年劣化、リフォームなど）
- ・ 日照条件が登録したときと異なるとき（天気／時間帯）
- ・ 朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
- ・ 路面の色や明るさが一様でないとき
- ・ 駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき
- ・ 駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき
- ・ 勾配がある駐車場
- ・ カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
- ・ カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき
- ・ カメラの視界をさまたげるようなアクセサリを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

- メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な 駐車目標が見つかりません” と表示されることがあります。
- メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

⚠ 注意

- カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。
- カメラ故障時／交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークを中止／中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムがアドバンストパークのアシストを行えないと判断した場合、マルチメディア画面に“中止”が表示されます。必ず“中止”を選択してアシストを中止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはバックドアを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC / VSC を OFF にした

- TRC / VSC / ABS が作動した
- けん引している
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディア画面上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- 走行中にシフトポジションを変更した（P 除く）
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

アドバンストパークの設定を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面の  にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ 音声案内

音声案内の ON / OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き／バック駐車と縦列駐車のうちでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き／バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き／バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうと、内側に寄ってしまうときに進路を調整できません。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の前向き完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けるとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

注意

- 「駐車位置調整（前向き）」、「駐車位置調整（バック）」による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物／車止め／縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。

周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。

平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、ハイブリッドシステム出力抑制制御／ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。

周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の“再開”スイッチを選択してください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で  にタッチしたときに表示されます。

システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.290）

安心降車アシスト★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安心降車アシストは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、各席乗員による降車時のドアと車両・自転車の衝突可能性の判断の支援をすることで、事故被害低減に貢献するシステムです。

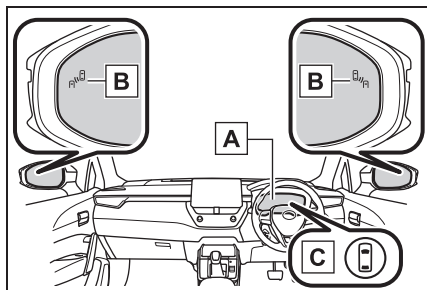
！ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- 安心降車アシストは、停車中に接近してくる車両や自転車の存在を乗員に提供する補助的なシステムです。本システムだけで安全を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、乗員は自らの目視やミラーなどによる安全確認を行う必要があります。

安心降車アシストのシステム構成部品



A マルチインフォメーションディスプレイ

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえます。

衝突の可能性がある状態でドアの開放をした場合に対象のドアをメーターに表示します。また、ドアミラーインジケーターが点灯した状態でドアが開けられた場合などは、上記に加えてブザーで警報を行います。

B ドアミラーインジケーター

開いたドア（バックドアを除く）と衝突する可能性がある車両・自転車を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーター（→P.68）が点灯します。検知している側のドアを開いた場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C 運転支援情報表示灯

安心降車アシストが OFF のときに点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

□ 知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらことがあります。

■ ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオや周辺環境などで大きな音がする場合、ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)



警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.237

安心降車アシストの ON / OFF を切りかえる

安心降車アシストの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→P.457)

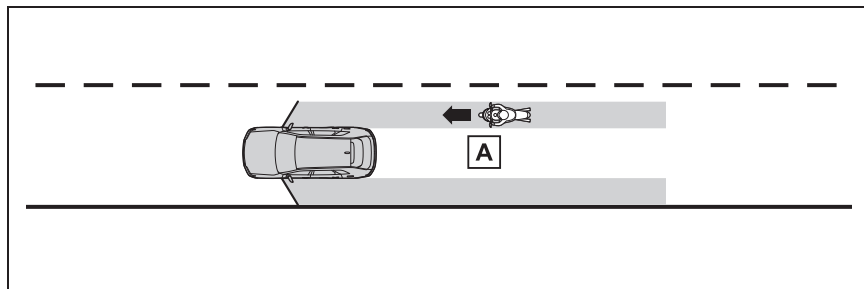
安心降車アシストが OFF になると、運転支援情報表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。パワースイッチが ON になるたび、安心降車アシストは ON になります。※

※ パワースイッチ OFF 後、すぐにパワースイッチを ON にした場合は、安心降車アシストが ON にならない場合があります。

安心降車アシストの作動

■ 安心降車アシストが検知できる対象

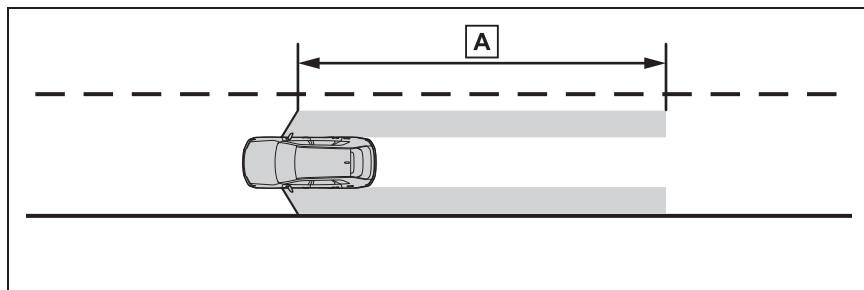
安心降車アシストは後側方レーダーセンサーにより自車の後方を走行する次の車両・自転車を検知し、ドアミラーインジケーター、ブザー、メーターの表示によってその車両の存在を乗員に知らせます。



A ドア（バックドアを除く）を開けたときにドアと衝突する可能性が高いと判断された車両・自転車

■ 安心降車アシストが検知できる範囲

次の範囲に入った車両・自転車を検知します。



A フロントドアから後方約 45m の領域※

※ 接近する車両・自転車の速度が速いほど、ドアミラーインジケーターは車両・自転車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■ 安心降車アシストの作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき、ハイブリッドシステム OFF 後 3 分以内、およびドアを開けて車内に乗り込んでから 3 分以内（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間がさらに延長される場合があります）

- 安心降車アシストが ON のとき
- 停車中
- シフトレバーが R 以外のとき

■ センサーが車両を検知する条件

安心降車アシストは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 停車している自車と並行に走行する車両や自転車がドア（バックドアを除く）を開けた範囲付近を通過するとき

■ システムが車両を検知しない条件

- 安心降車アシストは、次のような車両・自転車が車両・自転車以外のものを検知対象としません。
 - ・ 接近する車両・自転車の速度が遅いとき※
 - ・ ドア（バックドアを除く）を開いたと

きに、衝突する可能性が低いと判断された車両・自転車※

- ・ 真うしろから接近する車両・自転車※
- ・ 前方から接近する車両・自転車※
- ・ ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物※
- ・ 歩行者・動物など※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

- 安心降車アシストは、次のような状況では作動しません。

- ・ ハイブリッドシステム OFF 後に 3 分以上経過した場合（ドア開閉が行われた場合は、作動継続時間が延長される場合があります）
- ・ 自車が完全に停車していないとき

■ システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両や自転車を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面に停車していると

- き
- ・ 隣の駐車車両に後続する車両や自転車
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 発進した直後の車両や自転車
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 接近する車両や自転車の周囲に走行する車両があるとき
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- 特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ 自車の後方からずれた状態で車両や自転車が接近するとき
- ・ 道路に対して傾いて停車しているとき
- ・ 斜めに駐車している後方を車両や自転車が接近するとき
- ・ 後方に駐車車両や壁・標識などの静止物や人がいるとき
- ・ 後方で急な進路変更をして接近する車両や自転車
- ・ 接近する車両や自転車が壁・標識などの静止物の横を走行しながら接近しているとき
- ・ バックドアが開いているとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーやスロープを装着しているとき
- ・ 車両や自転車が高速で接近するとき
- ・ けん引しているとき
- ・ 急勾配の坂道に停車しているとき
- ・ カーブの途中や終了地点に停車しているとき
- ・ 隣接車線に停止している車両の後ろから車両や自転車が接近するとき

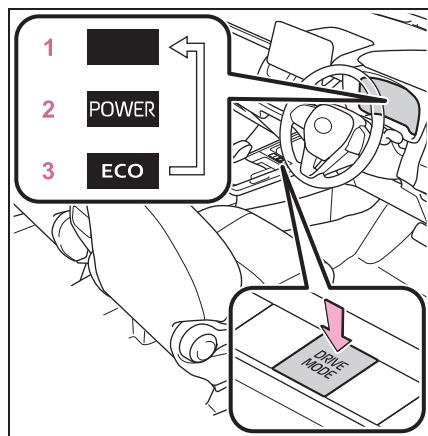
ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

- ▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車 (FF 車)

ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコドライブモードの順で切りかわります。



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

トランスミッションとハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

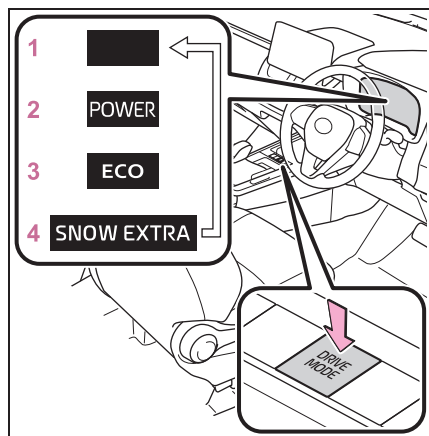
アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識し

た走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

- ▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車 (4WD 車)

ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、パワーモード、エコドライブモード、スノーエクストラモードの順で切りかわります。



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 パワーモード

トランスミッションとハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。パワーモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

4 スノーエクストラモード

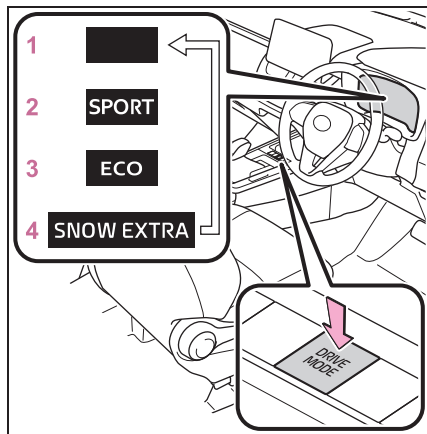
アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、前輪と後輪の駆動力を雪

路状況に対して最適化することで、雪路走行時の安定性が向上します。

スノーエクストラモード表示灯が点灯します。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車

ドライブモードセレクトスイッチを押すたびに、ノーマルモード、スポーツモード、エコドライブモード、スノーエクストラモードの順で切りかわります。



1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

ハイブリッドシステムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。また、アクセル操作で実現可能な減速度を拡大し、ドライバーの意図に沿った加減速コントロールが可能です。コーナーの多い道などで、きびきびした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識し

た走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

4 スノーエクストラモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、前輪と後輪の駆動力を雪路状況に対して最適化することで、雪路走行時の安定性が向上します。

スノーエクストラモード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.323）
- 風量を調整する（→P.323）
- エコドライブモードを解除する

■走行モードの自動解除

- パワーモード※¹、スポーツモード※²は、パワースイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、エコドライブモード、スノーエクストラモード※³は、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。（パワースイッチを OFF にしても自動では解除されません）

※¹ 2ZR-FXE エンジン搭載車

※² M20A-FXS エンジン搭載車

※³ 4WD 車

■スポーツモードを選択したとき（M20A-FXS エンジン搭載車）

燃料消費量が増加します。燃費の向上を意識した走行をしたいとき、エンジンノ

イズを低減したいときはノーマルモードやエコドライブモードを選択してください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものであるため、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシストビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加

速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト (ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ E-Four (電気式4WDシステム) (4WD 車)

通常走行時からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などによりすべりやすい路面などでさまざまな走行状況に応じて FF (前輪駆動) 走行状態から 4WD (4 輪駆動) 走行状態まで自動的に制御し、安定した操作性、走行安定性に寄与します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

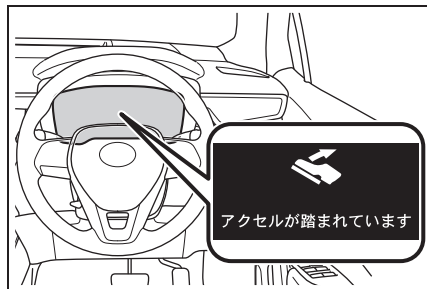
SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ、二次衝突

による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによるハイブリッドシステム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

システム作動時はブザー、音声案内とマルチインフォメーションディスプレイのメッセージでお知らせします。



□ 知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



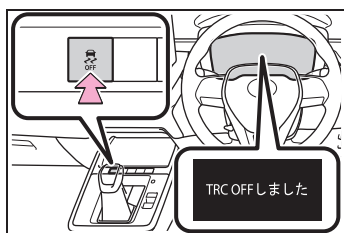
■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  スイッチを押すマルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに“TRC OFF しました”と表示されます。

もう一度  スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバー

が D などの前進シフトのとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R のとき

- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- パワースイッチが ON

■ ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 前進での上り坂発進時にシフトレバーが D などの前進シフト以外のとき、後退での上り坂発進時にシフトレバーが R 以外のとき
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- パワースイッチが OFF モード

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- パワースイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■ アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC ・ VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された
- ブレーキを踏んでいない

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒート为了避免するため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上

- 車両の減速度から急ブレーキだとシステムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■ セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。
ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■ セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0 km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■ 衝突時の急加速抑制について

- 次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

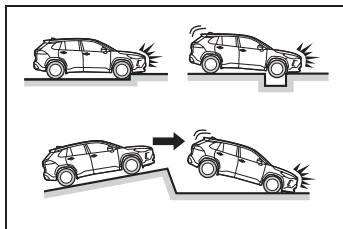
- ・ 車速が約 60km/h 以下のとき
- ・ SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
- ・ 衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
- ・ アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき
※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

- 次のような状況では衝突していても、システムが作動する場合があります

す。

- ・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- ・深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



- アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

■ マルチインフォメーションディスプレイに 4WD システムに関するメッセージが表示されたとき (4WD 車)

それぞれ、次のように対処してください。

- “4WD システム高温 高負荷走行を控えてください”

4WD システムが過熱しています。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば問題ありません。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- “4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました”

過熱のため 4WD システムが一時解除され、前輪駆動走行に切りかわりました。ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。*

しばらくして表示が消えれば、4WD システムが自動的に復帰します。表示が消えないときは、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検”

4WD システムに異常が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 停車時は表示が消えるまでハイブリッドシステムを停止しないでください。

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

 警告**■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき**

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSCを正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSCが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

(→P.455)

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

！警告**■衝突時の急加速抑制**

- 衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、お客様の運転を補助し、より安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、プラスサポート用スマートキー（以下、サボキー）が必要です。プラスサポートおよびサボキーは販売店装着オプションです。

プラスサポートでできること

プラスサポートを使用すると、機能の追加や、音声案内シーンの追加でより安心なドライブを支援します。また、通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定が可能です。

■機能の追加

- 急アクセル時加速抑制
- 交差点対向車注意喚起

■音声案内シーンの追加（進入禁止区間に進入した場合など）

対象機能：

- PCS（プリクラッシュセーフティ）
- RSA（ロードサインアシスト）
- 急アクセル時加速抑制
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）

■通常の電子キーとは異なるカスタマイズ設定

対象機能：

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LDA (レーンディパーチャーアラート)
- RSA (ロードサインアシスト)
- BSM (ブラインドスポットモニター) ★
- PDA (プロアクティブドライビングアシスト)
- RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★
- PKSB (パーキングサポートブレーキ)
- 安心降車アシスト★
- クリアランスソナー

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ カスタマイズ初期値の変更

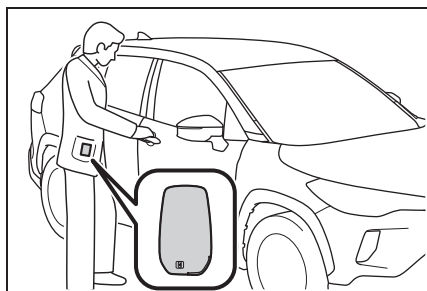
カスタマイズ設定から、各システムの設定を変更することができます。サポキーで起動した場合、通常の電子キーとは異なる設定でシステムが作動します。サポキーで起動後に変更した設定はサポキーにのみ記憶されます。通常キーには記憶されません。より安全に運転いただくため、通常の電子キーでは設定の変更ができた音声案内など、一部の項目が作動状態に固定されます。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する (→P.98, 104)

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

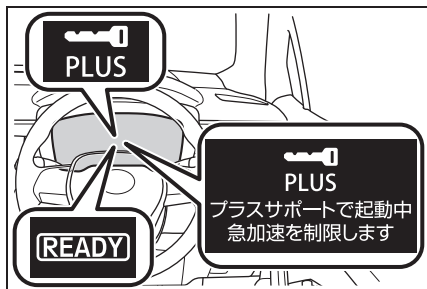


- 2 通常の手順でハイブリッドシステムを始動する (→P.151)

- 3 “プラスサポートで起動中 急加速を制限します” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。



4 メーター操作スイッチのを押してメッセージを非表示にする

メッセージ表示後約 30 秒経過するまで、またはスイッチ操作によりメッセージを非表示とするまで、“プラスサポートで起動中 急加速を制限します”のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

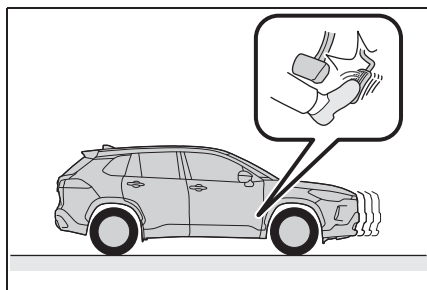
標準装備の電子キーを携帯してドアを解錠し、ハイブリッドシステムを始動してください。プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子キーを携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと標準装備の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- ハイブリッドシステムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください(→P.68)。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

クセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでア

⚠ 警告

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもハイブリッドシステムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、ハイブリッドシステムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

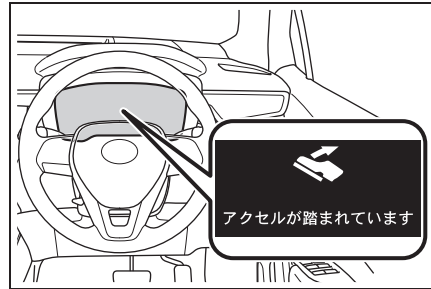
■ 右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、急アクセル時加速抑制によりハイブリッドシステムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーや音声発話でお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



□ 知識

■ 急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km / h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、ハイブリッドシステムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km / h、後退時は約 12km / h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■ 急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。アクセルペダルをゆっくり操作し、安全

運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間（前進時）
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離れたあと約 2 秒間（前進時）
- 急な上り坂に自車がいるとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

- 車両姿勢の変化
 - ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
 - ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
 - ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
 - ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■ 加速したい場でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくともシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

- 車両姿勢の変化
 - ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
 - ・ ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき
- 周辺環境の影響
 - ・ 坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路

を走行しているとき

- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき
- 運転操作の影響
 - ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
 - ・ 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
 - ・ ETC ゲート通過後に急加速したとき
 - ・ ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

交差点対向車注意喚起について

交差点で接近してくる対向車がいるときに右折しようとする場合、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点対向車注意喚起が作動したとき

交差点対向車注意喚起が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。





知識

■ 交差点対向車注意喚起の作動条件

方向指示灯が点滅していないときは、交差点対向車注意喚起が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 30km/h	約 10km/h 以上
対向自動二輪車	約 15 ～ 30km/h	約 25km/h 以上

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。

（→P.302）

ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターのバー表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。

（→P.70, 74）

シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーをDにしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーをPにしましょう。シフトレバーをNにしても、燃費向上の効果はありません。Nでは、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を抑え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早

めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行います。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることとなりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて：→P.373)

知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない
- LDA（レーンディパーチャーアラート）を使用しない

注意

■ タイヤチェーンの使用について

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブ

レードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。また、次のシステムの使用は控えてください。オートモードを OFF にしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。
 - ・ ブレーキホールドシステム
- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め^{※1}をしてください。

輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。
(→P.163)

パーキングブレーキスイッチを押しながら、パワースイッチを OFF してください。

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと^{※2}を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※¹ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

5-1. エアコンとデフォグガーの使い方

オートエアコン 322

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター
..... 328

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧..... 331

5-3. 収納装備

収納装備一覧..... 333

ラゲージルーム内装備..... 336

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 339

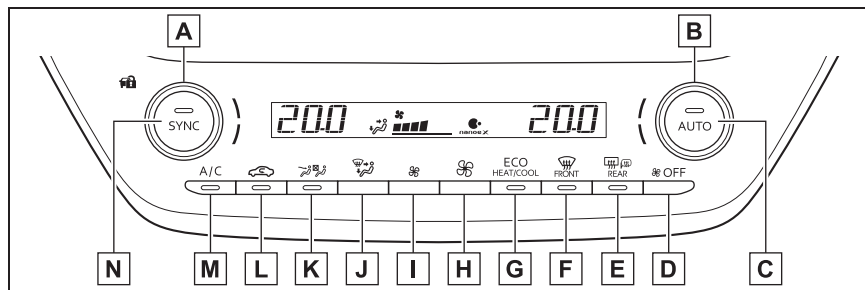
アクセサリーコンセント
(AC100V 1500W)・非常時給電システム 350

正常にアクセサリーコンセント
(AC100V 1500W) または非常時給電システムが使用できないときは 359

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 運転席側温度調整スイッチ
- C** AUTO スイッチ
- D** OFF スイッチ
- E** リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒータースイッチ
- F** フロントデフロスタースイッチ
- G** エコ空調スイッチ
- H** 風量増スイッチ
- I** 風量減スイッチ
- J** 吹き出し口切りかえスイッチ
- K** S-FLOW モードスイッチ
- L** 内外気切りかえスイッチ
- M** 冷房・除湿スイッチ
- N** SYNC スイッチ（各席連動モード）

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを右へまわし、下げるときは左へまわす

冷房・除湿スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

各席連動モードを ON にするには、SYNC スイッチを押す

運転席側温度調整スイッチで運転席および助手席側の設定温度を変更します。

左右独立モードにするには、助手席側の設定温度を変更するか、もう一度 SYNC

スイッチを押してください。

各席連動モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

■ 風量を切りかえる

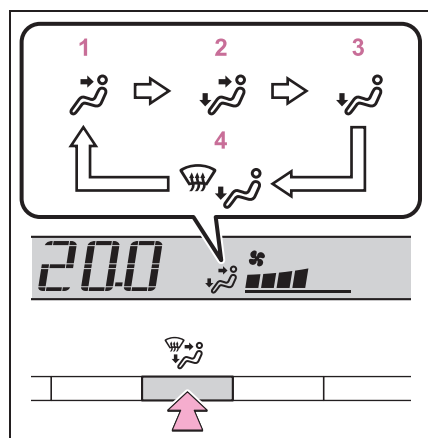
風量を増やすときは風量増スイッチを押し、減らすときは風量減スイッチを押す

OFF スwitchを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを押す

押すたびに次のように吹き出し口が切りかわります。



- 1 上半身に送風
- 2 上半身と足元に送風
- 3 足元に送風
- 4 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ 冷房・除湿機能

冷房・除湿スイッチを押す

ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

冷房・除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスタースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

■ リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォグラー&ミラーヒータースイッチが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグラーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ エコ空調モード

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エコ空調スイッチを押す

エコ空調モードが ON のときは、作動表示灯が点灯します。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- 冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。(→P.302)

エコドライブモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ エコドライブモードのエアコン作動について

- エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ エコ空調モードを OFF にする (→P.323)

- ・ 風量を調整する
- ・ エコドライブモードを解除する (→P.302)

■ ナノイー X ★ ※1, 2 について

エアコンにはナノイー X 発生装置が搭載されています。この装置は助手席外側の吹き出し口からナノイー X を放出し、車室内を快適な空気環境に導きます ※3。

- ナノイー X が ON のとき、ファンが作動すると、自動的にナノイー X 発生装置が作動します。
- ナノイー X 発生装置が作動中、次の条件で効果を発揮します。
 - ・ 吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風、足元に送風のとき
 - ・ 助手席側の吹き出し口が開いているとき
- ナノイー X 発生装置作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。森など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- ナノイー X 発生装置作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- ・ ナノイー X 発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
- ・ 作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1 nanoe、ナノイーおよび nanoe マークは、パナソニック ホールディングス株式会社の商標です。

※2 ナノイー X は、ナノイーに比べて、効果の元である OH ラジカルをより多く含む微粒子イオンです。

※3 温湿度環境、風量・風向きによってはナノイーの効果が十分に得られない場合があります。

★グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき**
冷房・除湿機能を ON にしても冷房・除湿機能が動かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。
- 駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■ エアコンフィルターについて

→P.377

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■ ナノイー X 発生装置★について

高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。

修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ ナノイー X 発生装置★の損傷を防ぐために

助手席側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

□ 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

フロント席集中送風モード (S-FLOW)

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

作動中は、 が点灯します。

■ 手でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

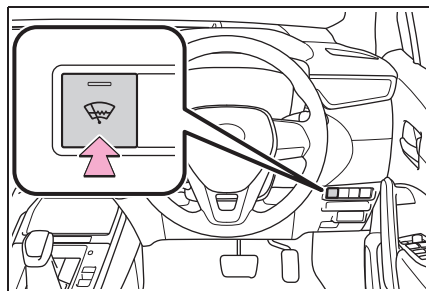
エアコン操作パネルの  を押し、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

□ 知識

フロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤドアを開けると自動的に全席に送風されます。

フロントワイパーデアイサー★



フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

フロントワイパーデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。フロントワイパーデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

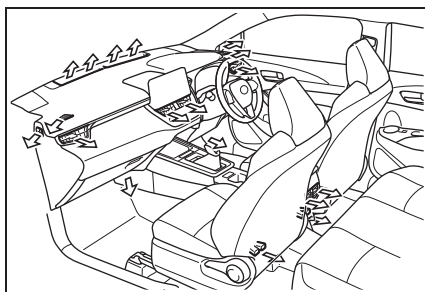
■ フロントワイパーデアイサー作動中の警告

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

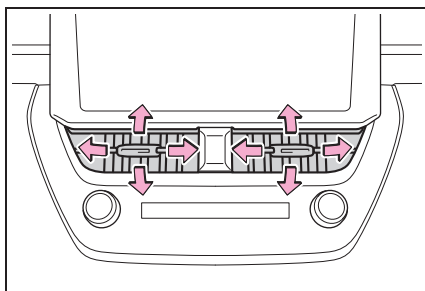
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



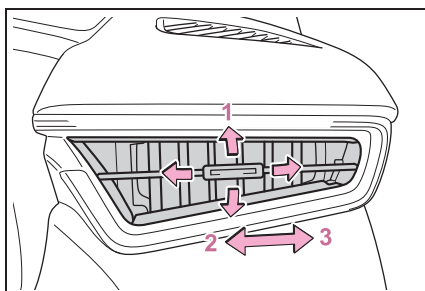
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロントセンター



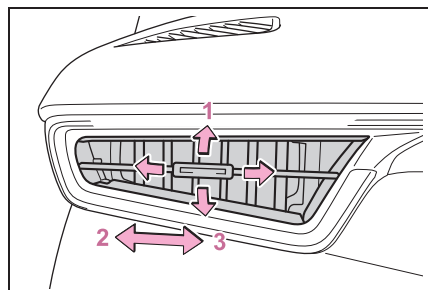
風向きを調整する

▶ 運転席サイド



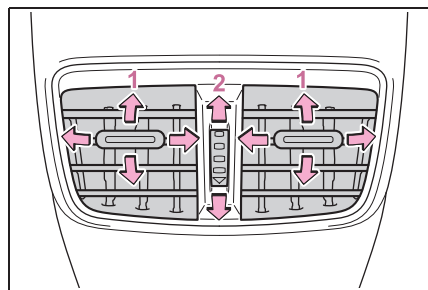
- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を開ける
- 3 吹き出し口を閉じる

▶ 助手席サイド



- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口を閉じる
- 3 吹き出し口を開ける

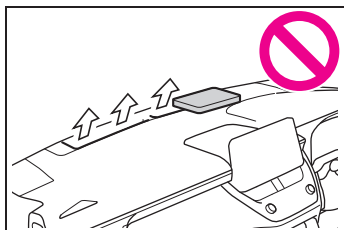
▶ リヤ



- 1 風向きを調整する
- 2 吹き出し口の開閉

警告**■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



ステアリングヒーター★／ シートヒーター★／シート ベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

●シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

●シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

警告**■低温やけどについて**

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意**■シートヒーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

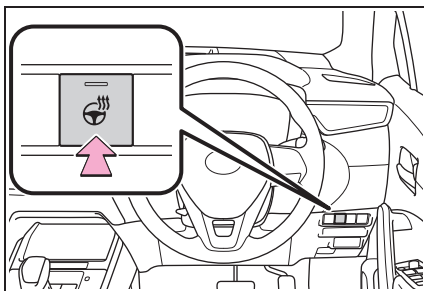
⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために
ハイブリッドシステムが停止した状態
で使用しないでください。

ステアリングヒーター

スイッチを押してシステムの ON / OFF を切りかえる

作動中は作動表示灯が点灯します。



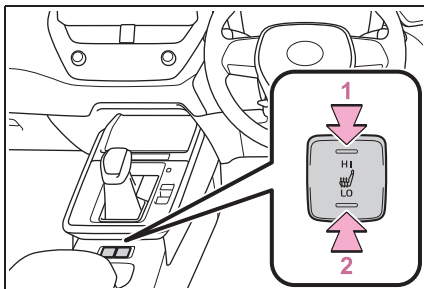
📖 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

シートヒーター

▶ シートベンチレーター非装着車
スイッチを押してシートヒーター
を作動させる



1 HI (強)

2 LO (弱)

作動中は作動表示灯が点灯します。

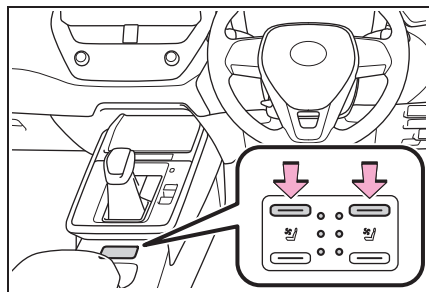
作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) → 弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、レベルインジケーター (黄) が点灯します。



📖 知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

⚠ 警告

■異常加熱や低温やけどを防ぐために

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

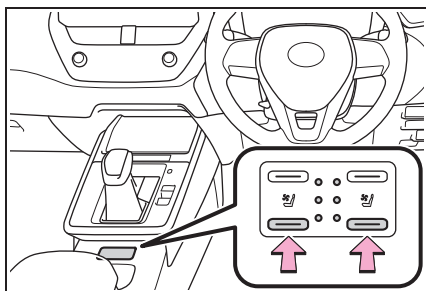
- 長時間連続使用しないでください。
- 毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートベンチレーター

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱
（1 個点灯）→ OFF

作動中は、レベルインジケーター（緑）
が点灯します。



知識

■ 作動条件

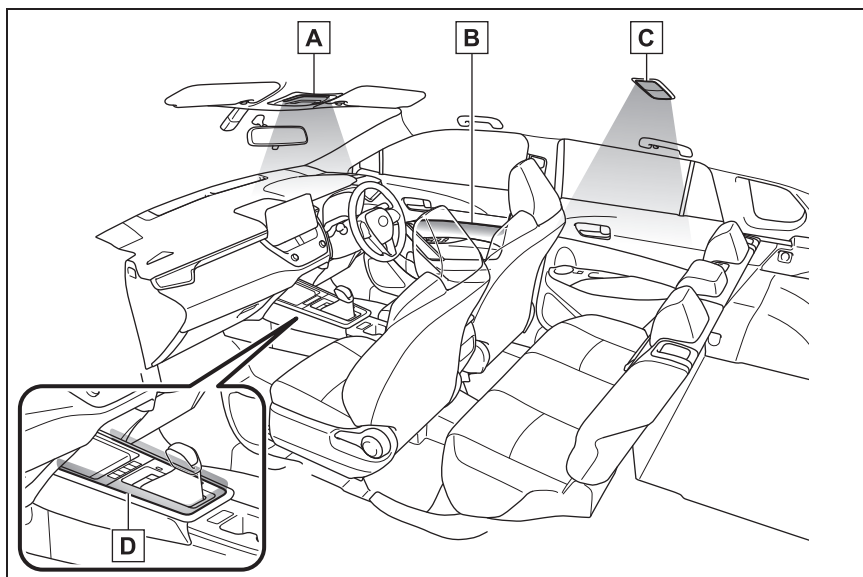
パワースイッチが ON のとき

■ エアコン連動制御モードについて

フロントシートベンチレーターが強のと
き、エアコンの風量に応じてシートベン
チレーターの風量が強くなります。

室内灯一覧

室内灯の位置



A フロントインテリア／パーソナルランプ (→P.331, 332)

B ドアトリム照明★

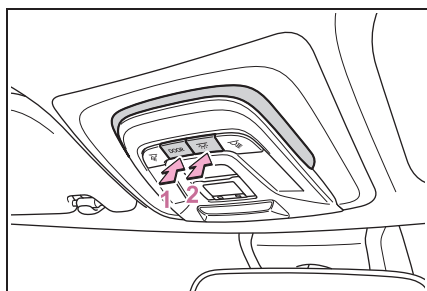
C リヤインテリアランプ (→P.332)

D アッパーコンソール照明★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ フロント



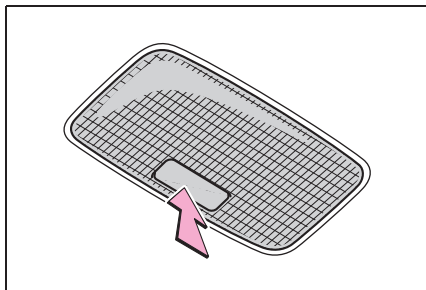
1 ドア連動を ON・OFF する

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえます。

2 ランプを点灯・消灯する

ドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してランプが点灯・消灯します。

■ リヤ

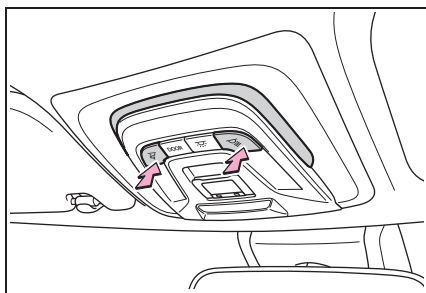


ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプをドア連動 ON にしていると、ドアの開閉に連動してリヤインテリアランプが点灯・消灯します。

フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。

パーソナルランプを操作するには



ランプを点灯・消灯する



知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードによ

り、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。(衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。)

■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.457)



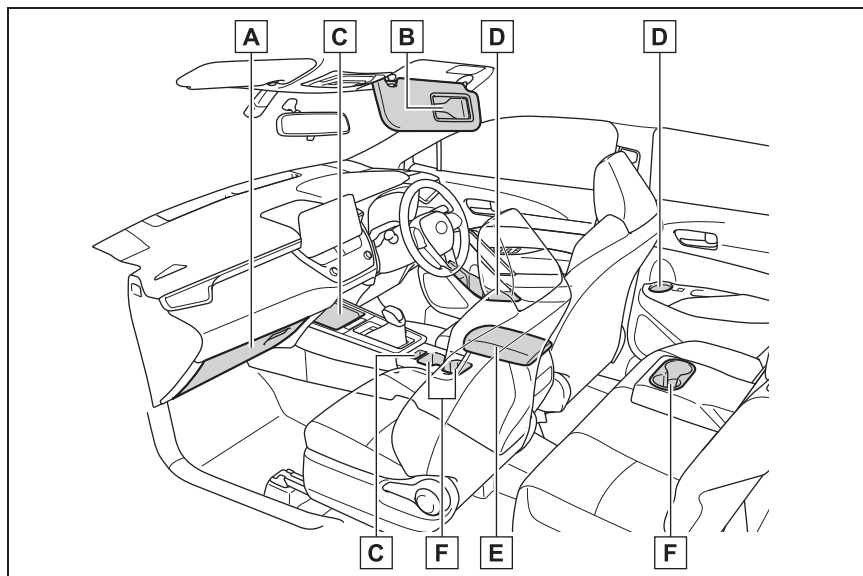
注意

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

収納装備の位置



- A** グローブボックス (→P.334)
- B** カードホルダー (→P.336)
- C** オープントレイ (→P.335)
- D** ボトルホルダー (→P.334)
- E** コンソールボックス (→P.335)
- F** カップホルダー (→P.334)

⚠ 警告

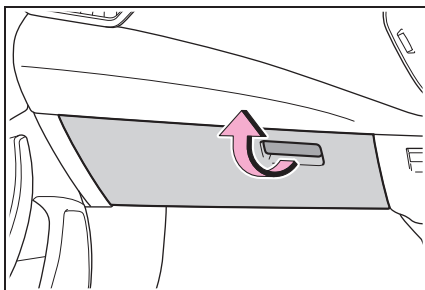
■ **収納装備に放置してはいけないもの**
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす

- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス



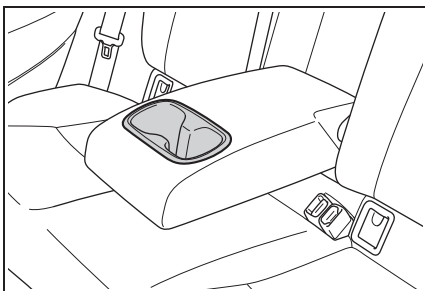
レバーを引いて開ける

⚠ 警告

■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時に、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



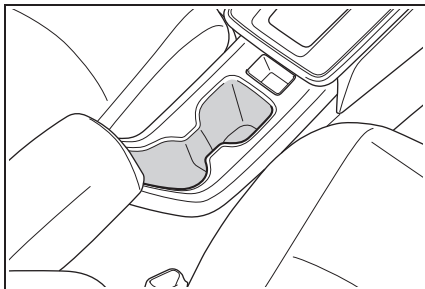
⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

カップホルダー

▶ フロント

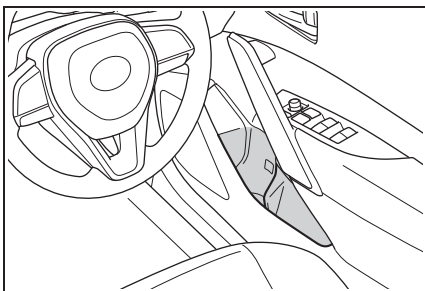


▶ リヤ

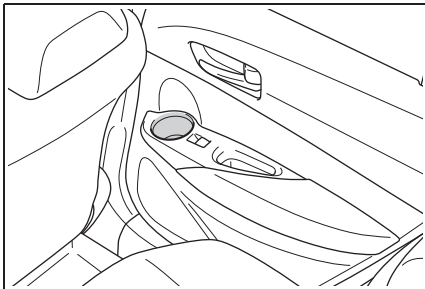
アームレストを手前に倒す

ボトルホルダー

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■ ボトルホルダーについて

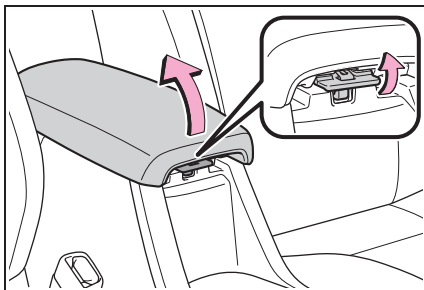
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

コンソールボックス



レバーを引いてふたを開ける

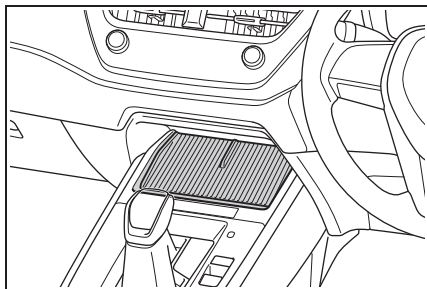
警告

■ 走行中の警告

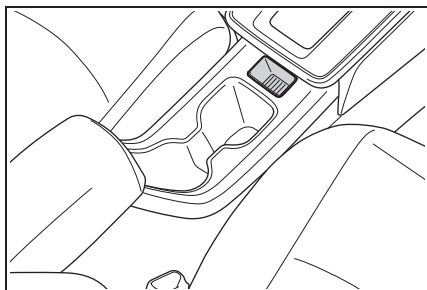
コンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オープントレイ

▶ インストルメントパネル★



▶ フロントコンソール



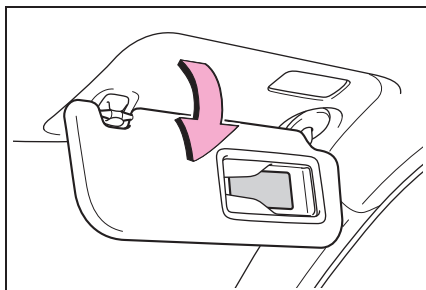
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■ 走行中の警告

オープントレイにものを置くときは、次の注意事項を守ってください。急ブレーキや急ハンドル時などに収納していたものが飛び出し、ペダル操作のさまたげとなるおそれがあるほか、運転者の注意力がにびり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

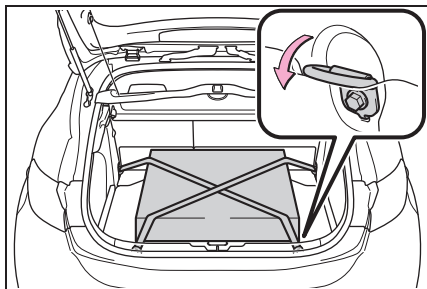
- 転がりやすいものや凹面より高さがあるものを置かないでください。
- トレイの端よりも高くものを積み重ねないでください。
- トレイの端からはみ出してものを置かないでください。

カードホルダー

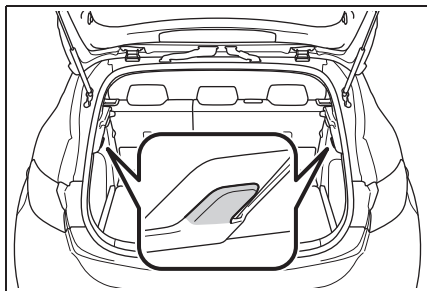
バイザーを下ろす

ラゲージルーム内装備**デッキフック**

フックを使って荷物を固定することができます。

**⚠ 警告**

■ デッキフックを使用しないときは
必ずデッキフックをもとの位置にもど
しておいてください。

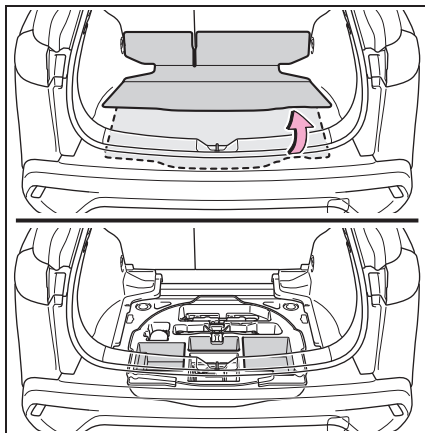
買い物フック**⚠ 警告**

■ 買い物フックの破損を防ぐために
2kg 以上のものを買い物フックに吊り
下げないでください。

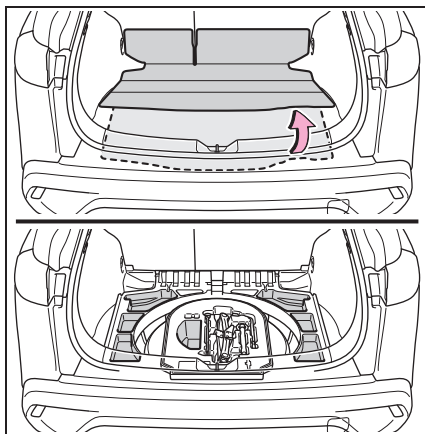
ラゲージアンダートレイを使う には

デッキボードを持ち上げる

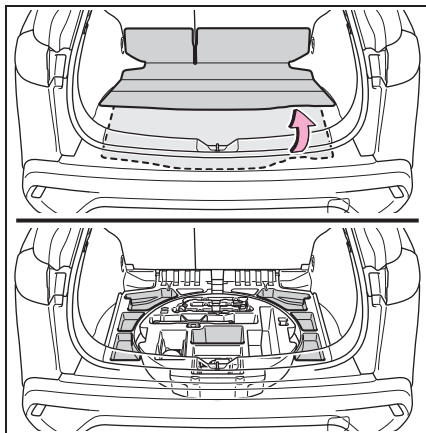
▶ A タイプ



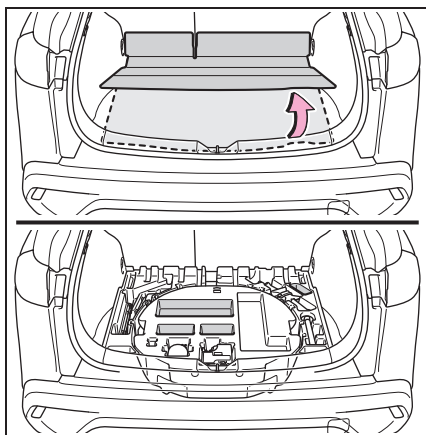
▶ B タイプ



▶ C タイプ



▶ D タイプ

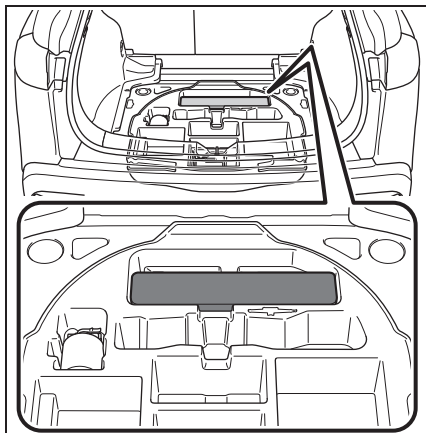


停止表示板収納スペース（パンク修理キット装着車）

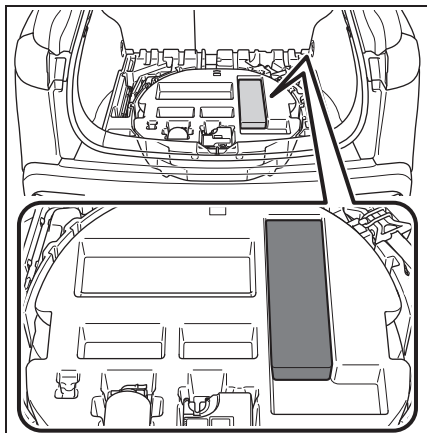
ラゲージルームに停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

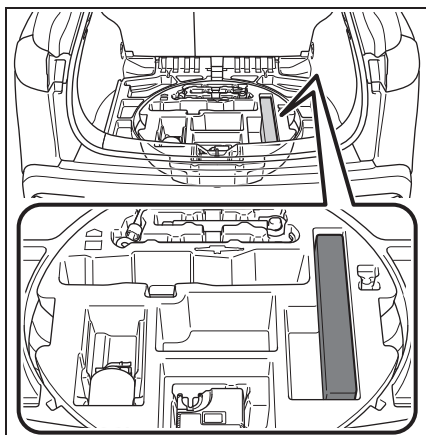
▶ Aタイプ



▶ Cタイプ



▶ Bタイプ

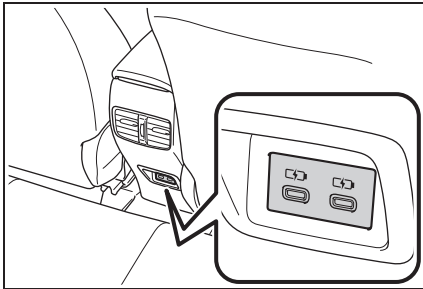


その他の室内装備

充電用 USB 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 充電用 USB 端子を使用するには



□ 知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■ 使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

⚠ 警告

■ 運転中の注意

安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

⚠ 注意

■ 充電用 USB 端子の損傷を防ぐために

- 端子部に異物を入れないでください。
- 水や液体をかけないでください。
- 布などをかぶせて使用しないでください。
- 破損しているケーブルやデバイスを使用しないでください。
- 強い力や衝撃を加えないでください。
- 分解や改造、取りはずしをしないでください。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 外部機器の損傷を防ぐために

- 機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。
- 機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

**注意**

■ **機能が正常に働かないおそれがある状況**

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

● 接続機器やケーブルが破損

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **「Qi」マークについて**

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。



ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

適合機器は WPC のホームページ (<https://www.wirelesspowerconsortium.com/>) でご確認ください。

充電トレイより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

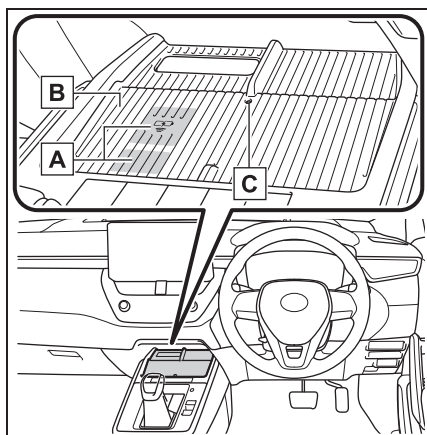
■ **「おくだけ充電」マークについて**

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」

ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。



■ **各部の名称**



A 充電エリア

B 充電トレイ

C 作動表示灯

■ **充電する**

充電トレイに携帯機器を置く

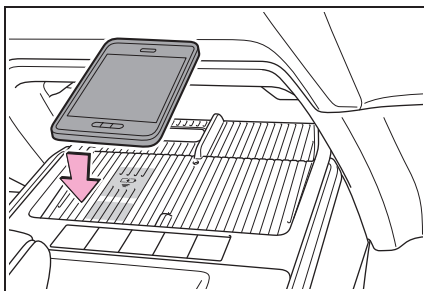
携帯機器の充電面を下にして、機器の下端が充電トレイの下端に来るように置いてください。

充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、P.344 をご確認ください。

充電が完了するとワイヤレス充電器側の作動表示灯が緑色に点灯します。

トレイ右側では充電できません。



■ 再充電機能

充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

■ 急速充電機能

- 急速充電に対応した携帯機器については P.343 をご確認ください。
- 急速充電に対応した携帯機器を充電すると、自動的に急速充電機能に切りかわります。

■ ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況

ワイヤレス充電器が正しく作動しない状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
橙（1 秒間に 1 回の点滅をくり返す）	車両とワイヤレス充電器の通信不良： → ハイブリッドシステムが始動しているときは、一度ハイブリッドシステムを停止し、再始動してください。 パワースイッチのモードが ACC のときは、一度ハイブリッドシステムを始動してください。（→P.151）

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	充電不可
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）※ ¹
	充電完了時 ※ ²
橙（点灯）	充電中
橙 2 回点滅後に点灯	充電周波数切りかえ

※¹待機中でも充電用の電力を微少に出力しています。この状態で金属製のものを充電エリアに置くと反応してエラー状態になります。加熱されることはありませんが、充電機能は安全のため停止します。

※²携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

作動表示灯	想定される原因・対処方法
緑（点灯）	スマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行っている： → キーの検出が完了するのをお待ちください。
	異物検知： 充電エリア内に金属製の異物があり、異物の異常検知機能が働いた → 充電エリア内にある異物を取り除いてください。 Qi2 や MagSafe の金属リングがついたケースを装着していて、充電が停止した → ケースを取りはずしてください。
	携帯機器のすれ・充電面からの浮き： 携帯機器の充電用コイルの中心が充電エリアからはずれた、レンズの凸量が多いまたはケースが厚いため、充電用コイルの異常過熱防止機能が働いた → 携帯機器を充電トレイから取り出し、5 秒以上あけてから機器の下端が充電トレイの下端にくるように置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、はずしてください。
	携帯機器のバッテリー保護機能： 満充電に達する前に、携帯機器のバッテリー保護機能により充電が停止した → 携帯機器の設定を確認してください。
	電子キー検出状態の継続： パワースイッチが OFF の状態でマルチメディアシステムの電源が ON のとき (→P.154)、電子キーが確定されず検出状態が継続された → パワースイッチを ON にしてください。
	Qi 非対応端末： 携帯機器を充電トレイに置いて、緑点灯のまま変わらない → ご使用の端末が Qi の BPP または EPP に対応しているか WPC のホームページをご確認ください。
橙（4 回連続の点滅をくり返す）	ワイヤレス充電器内の温度が一定値をこえたことによる安全停止： → いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ 使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器 (Qi2 規格の MPP 仕様は除く) を使用できます。ただし、Qi Ver1.0 および 2.0.0 以降に対応した携帯機器に対しては、互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

ただし、以下の携帯機器に対しては、5W を超える急速充電に対応しています。

- ・ 7.5W の充電に対応した iPhone に対しては、7.5W 以下の充電に対応しています。
- ・ Galaxy 独自の充電規格に準拠した携帯機器に対しては、10W 以下の充電に対応しています。
- ・ WPC 規格の Ver2.0.0 に規定されている EPP 出力に準拠した携帯機器に対しては、15W 以下の充電に対応しています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。また、Qi2 に対応していないため、Qi2 対応のカバーやアクセサリを装着した状態では充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いて充電が行われなときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ スマートエントリー&スタートシステムの優先動作について

キーの検出およびハイブリッドシステムの始動と停止を優先するため、充電動作を一時停止します。

● 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。

● 充電動作中にスマートエントリー&スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

キーの検出が行われるときの例：

- ・ 電子キーを車室外に持ち出している
- ・ いずれかのドアが開いている
- ・ 乗降時、ACC カスタマイズが OFF (→P.154) かつパワースイッチが OFF の状態で、マルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ 充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

次の手順に従って周波数の切りかえを行うと、AM ラジオのノイズを消すことができます。

- 1 充電中の携帯機器を充電トレイからおろす
- 2 作動表示灯が緑点灯に変わり、ノイズが消えたことを確認する
- 3 携帯機器を充電トレイに戻し、作動表示灯が橙色に 2 回点滅したあとに点灯するか確認する

2 回点滅せずノイズが消えない場合は、はじめからやりなおしてください。

■ 充電についての留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。また、ワイヤレス充電器内の温度を下げるため

ファンが作動することがありますが、異常ではありません。

■商標について

- iPhone は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。なお、iPhone の商標はアイホン株式会社のライセンスにもとづき使用されています。
- MagSafe は、Apple Inc. の商標または登録商標です。
- Galaxy は、Samsung Electronics Co., Ltd. の商標または登録商標です。

■清掃について

→P.367



警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。非常に軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけど、または感電につながるおそれがあります。

- 充電中に、充電トレイと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 充電トレイにアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 携帯機器本体および外付けのケースやカバーなどに対して、充電エリアと接触する側にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けたまま充電しない

MagSafe / Qi2 用の後付け金属製リングおよび各社純正品以外のケースも発熱する危険性があるため、ご使用を控えてください。

- 小物入れがわりにものを置かない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアに、ほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない



注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 有線接続で携帯機器を充電中のとき
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物があるとき
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっているとき

⚠ 注意

- 炎天下などにより、充電トレイ付近の温度が 35℃以上になっているとき
- 携帯機器の充電面を上にして置いたとき
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアからはずれているとき
- 携帯機器が充電トレイより大きいとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれたり、装着されたりしているとき
 - ・ 厚みがあるケースやカバー
 - ・ 厚みがあるデコレーション
 - ・ 指リング（ポップソケット含む）やストラップなどのアクセサリ
 - ・ レンズ部に凸形状があるケースやカバー
 - ・ レンズ面を保護するカバー
 - ・ 滑り止めマット
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ MagSafe / Qi2 用の金属製リングシールを含む金属製デコレーション
 - ・ MagSafe / Qi2 用の金属製リングがついたものを含む金属製のケースやカバー
 - ・ 携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

- ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
 - 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
 - 2 つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いているとき
 - 荒れた路面を走行し、携帯機器がトレイ上で著しく動いているとき
 - 携帯機器の下端が充電トレイの下端ではなく前方に置かれているとき
 - 携帯機器をトレイ右側にはみ出して置いたとき
 - 携帯機器がトレイから浮いているとき
 - **スマートフォンのOSを更新したとき**
- スマートフォンの OS バージョンを更新したとき、充電の仕様が大きく変更されることがあります。電池の保護機能が強化され、スマートフォン内の温度によって充電の制限がかかることがあります。また、WPC の対応バージョンが変更された場合、急速充電機能が使えなくなる場合があります。詳しくは各メーカーのホームページ情報等でご確認ください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。

⚠ 注意

- 携帯機器の充電面と充電エリアの間に、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを収納できるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。
- 充電中に腕時計などの精密機器に近づけると故障する恐れがありますので、近づけないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、内蔵電池の故障の原因となります。

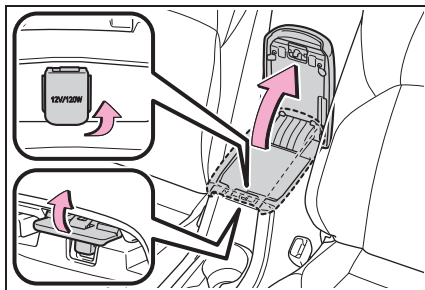
■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アクセサリースocketを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



□ 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ACC、ON またはマルチメディアシステムの電源が ON のとき

■ ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

⚠ 注意

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V/10A（消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ ショートや故障を防ぐために

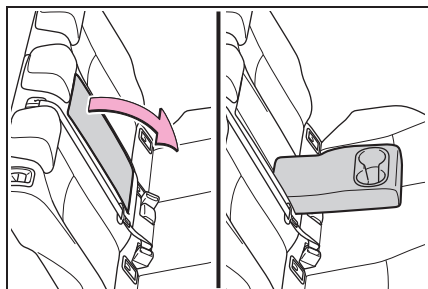
ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかけたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリースocketを長時間使用しないでください。

リヤアームレスト

手前に倒して使用します。



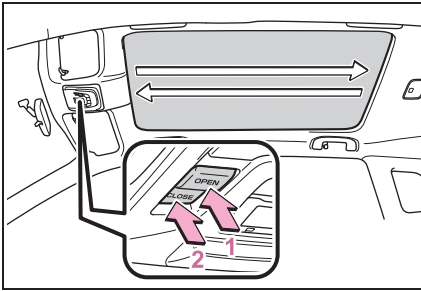
⚠ 注意

■アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■ 電動サンシェードを開閉する



- 1 短押し：開ける
長押し：自動全開 ※
- 2 短押し：閉める
長押し：自動全閉 ※

※途中で停止するときは、スイッチをもう一度押します。

📖 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は電動サンシェードの操作ができます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

次の状況で異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

● 電動サンシェードを閉めるとき

■ 電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

- 1 車を停止する
- 2 パワースイッチを ON にする
- 3 スイッチの CLOSE 側を押し続け、反転後も約 10 秒間スイッチを押し続けると閉じ切り作動を開始します。※
- 4 電動サンシェードが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

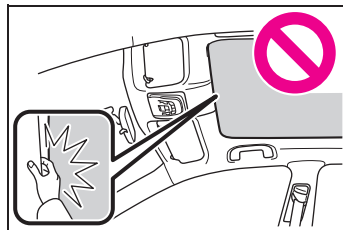
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電動サンシェードを開閉するときは

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

⚠ 警告**■ 挟み込み防止機能**

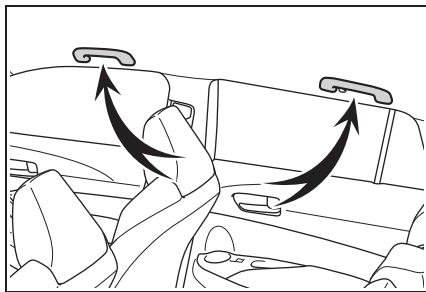
- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの間にはふれないでください。手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

**⚠ 警告****■ アシストグリップについて**

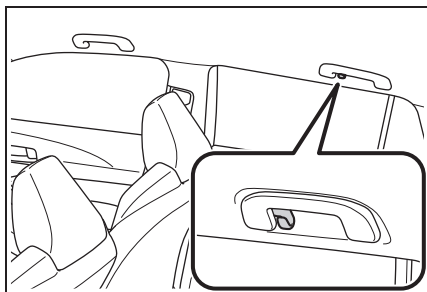
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意**■ 破損を防ぐために**

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

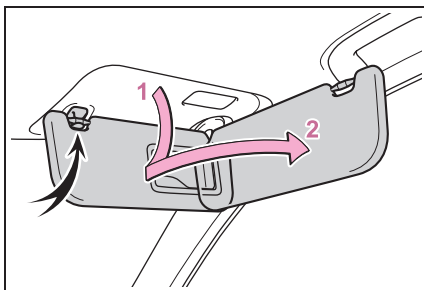
コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。

**⚠ 警告****■ コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

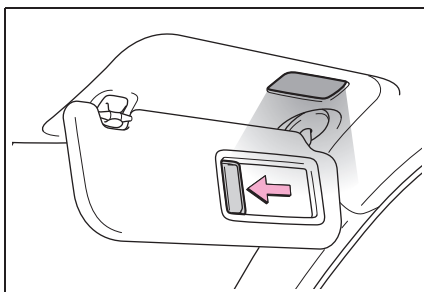
サンバイザーを使うには



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける
ランプが点灯します。



知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチがOFFの場合、バニティランプが点灯したままのときは約20分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないください。

アクセサリーコンセント (AC100V 1500W) ★・非常時給電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● アクセサリーコンセント

車内において、AC100V で消費電力の合計が 1500W の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.351)

災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。(→P.352)

● 非常時給電システム

災害などによる非常時に電力が必要なとき、車両の走行機能を停止した状態で、AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用することができるシステムです。(→P.352)

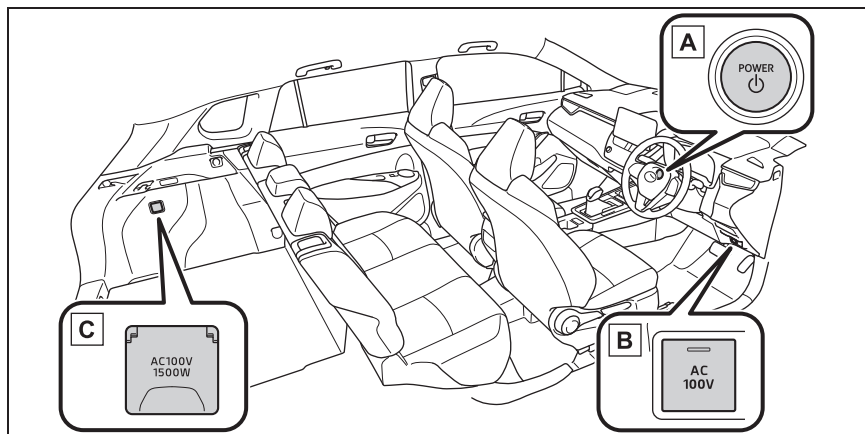
燃料残量警告灯が点灯するまで給電機能が使用できるシステムです。

駐車中に使用するときの重要確認事項

必ず、給電作業前に次の点をご確認ください。

- システム作動中はエンジンが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
 - 地面が固く平らな場所に駐車すること
- 輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。
- ボンネットが閉まっていること
 - パーキングブレーキがかかっていること
 - シフトポジションが P になっていること
 - パワースイッチが OFF になっていること
 - 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと

各部の名称



- A** パワースイッチ (→P.151)
- B** AC100V スイッチ
- C** ラゲージルーム内コンセント (助手席側)

アクセサリコンセントを使用するには

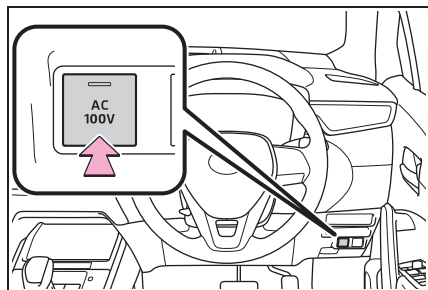
■ コンセントを ON するとき

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押す (→P.151)
- 2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、"AC100V" スイッチを押す

"AC100V" スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

"AC100V" スイッチを押すたびにコンセ

ントの ON / OFF が切りかわります。



- 3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む (→P.353)

■ コンセントを OFF するとき

以下の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 "AC100V" スイッチを押して OFF にする

3 コンセントから電源プラグを取りはす

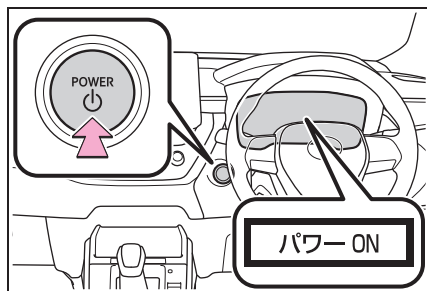
4 コンセントのフタを閉める

非常時給電システムを使用するには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にする (パワースイッチを 1 回もしくは 2 回押す ※) (→P.153)

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、"AC100V" スイッチを 3 回連続で押す

"AC100V" スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされ起動が完了します。

"AC100V" スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

"AC100V" スイッチを 4 回以上連続で

押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。



3 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む (→P.353)

※ マルチインフォメーションディスプレイに "パワー ON" と表示されていることを確認してください。ACC カスタマイズ機能の設定状態により異なります。

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

- 1 使用している電気製品の電源を OFF にする
- 2 "AC100V" スイッチを押して OFF にする
- 3 コンセントから電源プラグを取りはす
- 4 コンセントのフタを閉める
- 5 パワースイッチを OFF にする

電気製品の電源プラグを接続するには

■ 電源プラグを接続するとき

各電気製品の取扱説明書に記載されている注意事項に従ってください。

電源プラグをコンセントに接続する前に、電気製品の電源が OFF になっていることを確認してください。

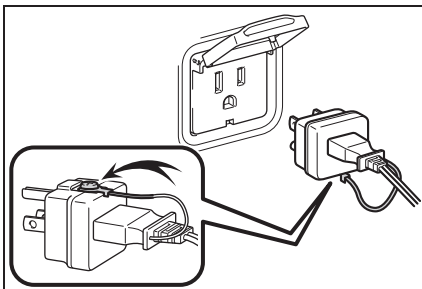
- 1 フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり挿し込む

電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。

次の場合は、延長ケーブルなどを使用し、電源プラグを確実に接続してご使用ください。

- 電源プラグが大きくコンセントの奥までしっかり挿し込めない
- 電源プラグが重くコンセントから抜けるおそれがある

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。



■ 車外にコードを引いて使用する とき

付属の外部給電アタッチメントを後席ドアガラスに取り付けてください。外部給電アタッチメントを使用するときは、外部給電アタッチメント付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

□ 知識

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムについて

- AC100Vで消費電力の合計が1500W以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- 消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合は、他の電気製品と併用しないでください。
- 複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。
- コンセントの使用、使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が1500Wをこえることがあります。この場合は、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。
- コンセントの使用、使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
- コンセントの使用、ラゲージルーム付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

- 非常時給電システムの使用中は、燃料残量警告灯が点灯すると給電機能が停止します。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■ アイドリングストップ条例について

駆動用電池の残量減少などにより、自動でエンジンが始動し、充電を行います。一部の自治体では、駐車または停車中にエンジンが始動した場合、条例にふれる可能性があります。アクセサリコンセント、非常時給電システムの使用については関係する自治体に確認した上で、適切に使用してください。

■ 駐車中または停車中に使用するとき

- スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。
- 非常時給電システム起動後はメカニカルキー（→P.435）で施錠・解錠することができます。
- ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりません キーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してく

ださい。

- 給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプについては、P.168 を参照してください。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

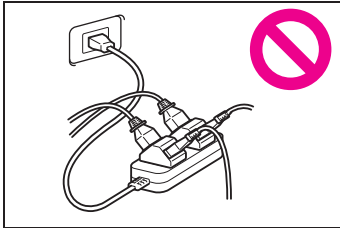
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 非常時給電システムの使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があります、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。
- お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。
- めれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

⚠ 警告

- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。
- ・ コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない



- ・ コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す
- アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもうるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■ アクセサリーコンセント、非常時給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレーター）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方をお願いしてください。

- 給電中は車内にとどまらないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなどを含めた車内に入り込まないでください。
給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

■ 接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや、電気製品が故障しているときは使用しないでください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

警告

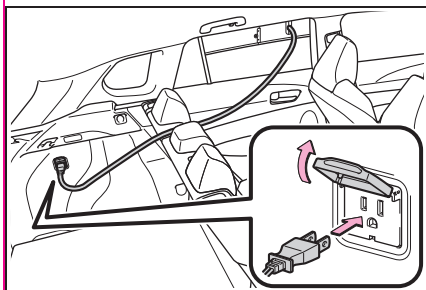
■電源周波数について

- 工場出荷時、車両側の電源周波数は、50Hzに設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 特に電子レンジは使用中に発熱するおそれがあるため、必ずコンセントと電源周波数が合っていることを確認してください。

■駐車中または停車中に使用するとき

- コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。
- コンセントの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトポジションをPから切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- コンセントの使用中は車両から離れないでください。

- 落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 傾いた場所や坂道などに停めて使用しないでください。
使用中に車両を移動させたり、傾けたりしないでください。
- 車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。
 - ・雨水の侵入などに注意する
コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。
 - ・コードを窓やドアで挟まない
 - ・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする



- ・誤って車両を発進させない
- 給油や洗車は行わないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。

⚠ 警告

- 状況によっては、エンジンが自動で始動するため排気管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
 - エンジンルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
 - 燃えやすいものの近くに停めて使用しないでください。
過熱した排気管で発火するおそれがあります。
 - 腐食性のガスまたは溶液の発散する場所では使用しないでください。
 - 駆動用電池の残量減少により、自動的にガソリンエンジンが作動します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏や排気ガスの充満、滞留を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。
- 走行中に使用するとき**
- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
 - ・ わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
 - ・ 急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定が不完全で転倒のおそれがある場合

- ・ 落下による事故や、発熱により火災が発生するおそれがある場合
- ・ やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーマーカーなど）
- ・ ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライバー・ACアダプター・マウスなど）
- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかっていると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

**注意****■ 駐車中または停車中に使用するとき**

- 長時間給電をするときは、エンジン始動中に排気管から水が出る場合がありますが、異常ではありません。
- 特に外気温が低いときは、排気管の中にある水が凍り、エンジンが始動しにくくなったり、排気管からおいを発生する場合があります。その場合は、いったん給電作業を中断して 15 分から 30 分ほど走行してください。

■ 非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電システムを停止してからハイブリッドシステムを始動してください。

正常にアクセサリーコンセント (AC100V 1500W) ★ または非常時給電システム★が使用できないときは

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

正しい手順に従って作業してもアクセサリーコンセントまたは非常時給電システムが使用できない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

正常にアクセサリーコンセントが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ アクセサリーコンセントが使用できない

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなり、駆動用電池の残量が不足している	燃料を給油後、しばらく走行するなどして駆動用電池の残量を回復させてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、再度 AC100V スイッチを押してください。
電気製品が作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、電気製品自体が故障していないか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 AC100V スイッチの作動表示灯が点灯しない場合は、一度パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 それでも作動しない場合は、電気製品の取扱説明書を確認してください。

考えられる原因	対処法
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているか確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、再度 AC100V スイッチを押してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

以上の処置を行ってもアクセサリーコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

正常に非常時給電システムが使用できないとき

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。

■ 非常時給電システムが使用できない

考えられる原因	対処法
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態から、ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを ON にしてください。(→P.153) マルチインフォメーションディスプレイに“パワー ON”と表示されていることを確認してください。
AC100V スイッチを押す間隔が長すぎる、または AC100V スイッチを 3 回よりも多く押している	AC100V スイッチは 1 秒以上間隔をあけずに 3 回連続で押してください。
特に外気温が高いときなど、駆動用電池が高温になっている	車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

考えられる原因	対処法
特に外気温が低いときなど、駆動用電池が低温になっている	しばらく走行したり、エアコンを使用するなどして車内温度を上げ、しばらくしてから、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
電気製品が故障などで作動しない	電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。それでも作動しない場合は電気製品の取扱説明書を確認してください。
消費電力の合計が 1500W を超えている	電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
コンセントがショートしている	電気製品の電源プラグを抜き、下記項目を確認後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。 ・ピンなどの異物が挿さっていないか ・飲料水、雨水、雪などが付着していないか ・ほこりやゴミが付着していないか

非常時給電に関するメッセージが表示されたとき

メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処理を行ってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
燃料が少なくなった	燃料を給油後、再度非常時給電システムを起動することが可能になります。

■ “シフトポジション切りかえにより給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処法
シフトポジションが P から切りかわった	シフトポジションを P に戻した後、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 364

内装の手入れ 367

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 370

ガレージジャッキ 371

ウォッシャー液の補充 372

タイヤについて 373

タイヤ空気圧について 376

エアコンフィルターの交換 377

駆動用電池冷却用吸入口の清掃
..... 378

電子キーの電池交換 381

ヒューズの点検・交換 383

電球（バルブ）の交換 385

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスをかけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。



知識

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を

損なうことがあります。

- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。
- パーキングブレーキを解除しておく必要があるときは運転席ドアを開けないでください。ドアを開けるとパーキングブレーキが自動的に作動します。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.122）
- ホイール・ホイールキャップについて
 - 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
 - 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
 - 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱

いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る



警告

■洗車をするとき

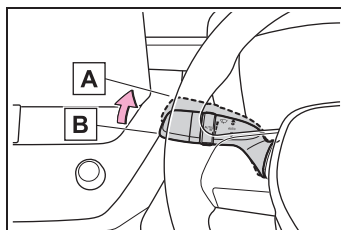
エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するとき（雨滴感知ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■リヤバンパー・フロントバンパーについて

リヤバンパーまたはフロントバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Safety Sense

警告

- BSM ★
 - RCTA ★
 - RCD ★
 - PKSB
 - クリアランスソナー
 - 安全降車アシスト★
- ★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

注意

- 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために
- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
 - 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
 - ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

自動洗車機を使用するとき（雨滴感知ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

高圧洗浄機を使用するときは

- 洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

⚠ 注意

- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

□ 知識

■ カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

⚠ 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.59)
駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.30)

電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★(→P.340) をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウィンドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

- ・ シート・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

- ・ シート：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

- ・ ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.189)

■ リヤウィンドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

 注意

- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識**■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて**

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識**■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

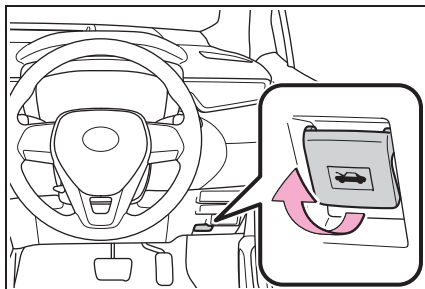
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

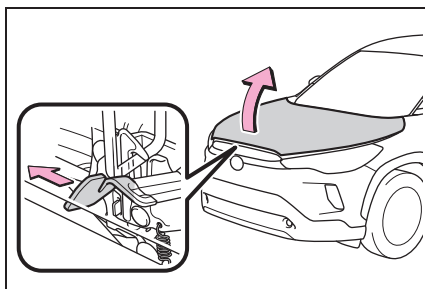
ボンネット

ボンネットを開けるには

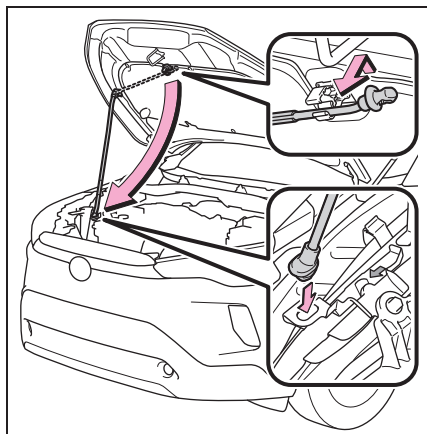
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを左方向に押して、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーをステー穴に差し込む



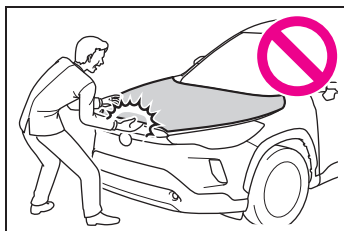
⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 警告**■ ボンネットを閉めるとき**

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

⚠ 注意**■ ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

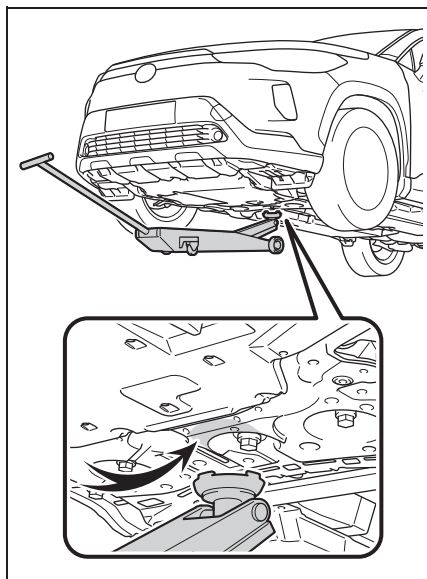
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

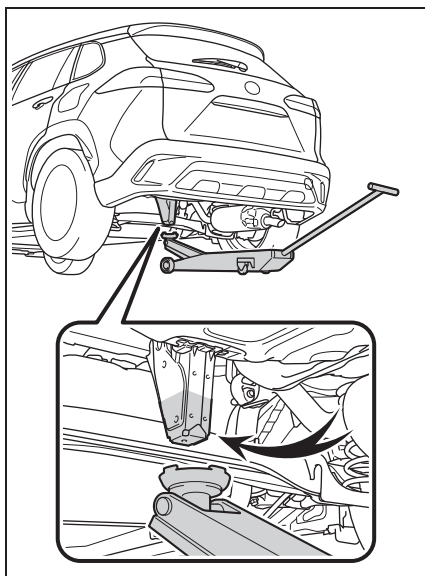
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

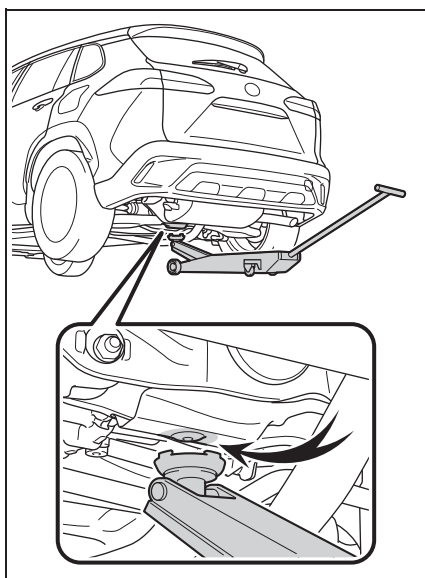
ジャッキポイントの位置を確認する**■ フロント側**

■ リヤ側

▶ FF 車



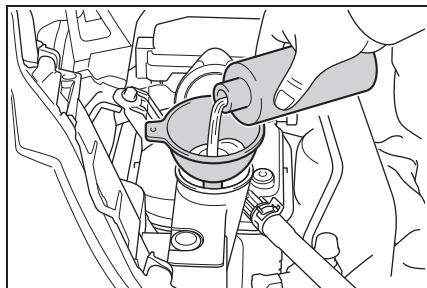
▶ 4WD 車



ウォッシャー液の補充

補充をするには

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補充してください。

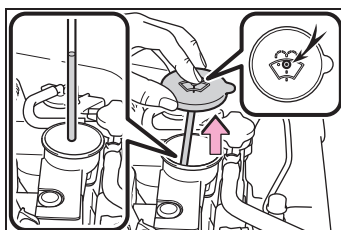


知識

■ ウォッシャー液量の確認

キャップの中央部を指で押さえたまま、まっすぐ引き上げると、ウォッシャー液量を確認することができます。

ウォッシャー液がチューブ下端につかないときは、ウォッシャー液を補充してください。



警告**■ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあります。

注意**■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液がなくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000kmごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無**● タイヤの溝の深さ****● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無****知識****■タイヤ空気圧について**

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

▶ 17インチ／18インチ／19インチタイヤ

前輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

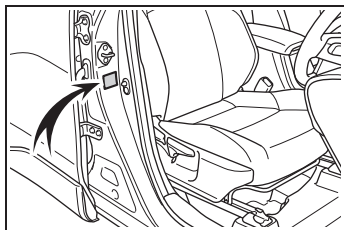
後輪：230kPa (2.3kg/cm²) ※

▶ 応急用タイヤ★

420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤのバルブについて

タイヤを交換するときは、バルブに変形・亀裂・損傷がないか点検してください。

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。(→P.431)
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。

警告**異常があるホイールの使用禁止（アルミホイール装着車）**

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

悪路走行に対する注意

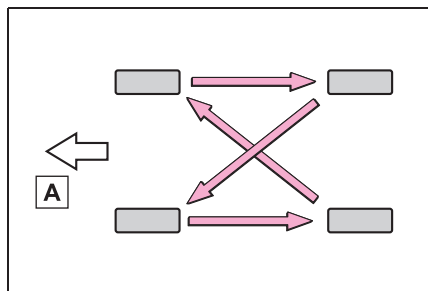
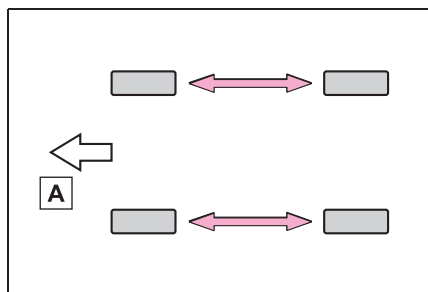
段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

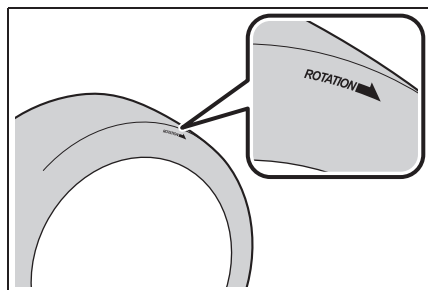
タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ 17インチ／18インチタイヤ装着車**A 前側****▶ 19インチタイヤ装着車****A 前側****回転に方向性があるタイヤ（19インチタイヤ装着車）**

タイヤの側壁に、回転方向が表示されています。間違った方向にタイヤを装着してしまうと、タイヤの性能を損ないます。



タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→P.455)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときには荷重を不均等にかけないようにする

警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

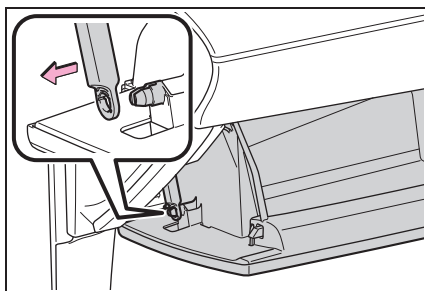
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

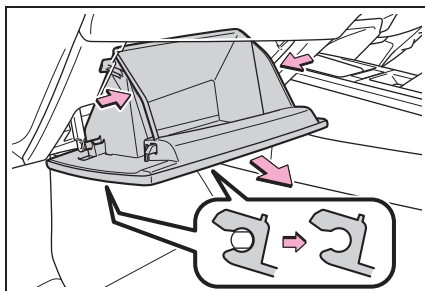
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

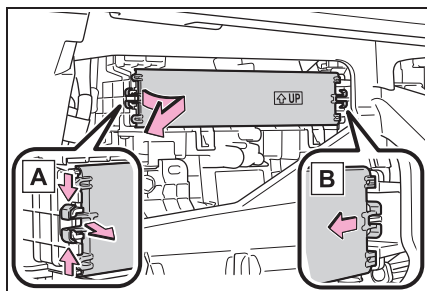


- 3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずしてとりはずす

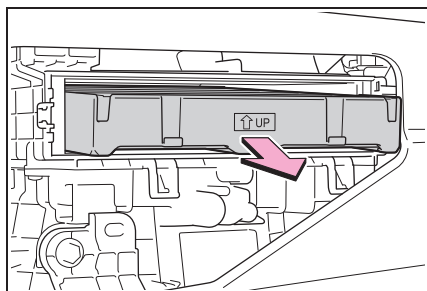


- 4 フィルターカバーのロックをはずし (A)、ツメからフィル

ターカバーを抜き (B)、フィルターカバーを取りはずす

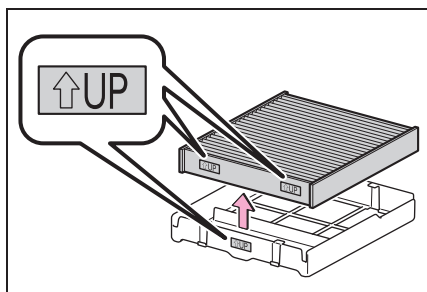


- 5 フィルターケースを取りはずす



- 6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“↑ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■ エアコンフィルターの交換について
エアコンフィルターは下記の時期を目安

に交換してください。

15000km [7500km※¹] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※²

※¹大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※²芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。



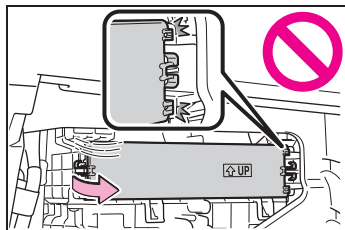
注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。



知識

■ 定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■ 吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。



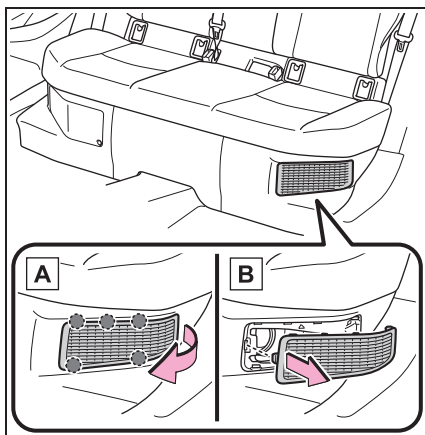
注意

- マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

すみやかに清掃してください。警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

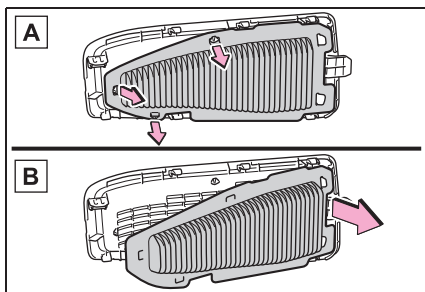
清掃のしかた

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 吸入口カバーを取りはずす



- A** 吸入口カバーを手前に引いて、図で示す 5ヶ所のツメを右端からはずす
- B** 吸入口カバーを手前に引いて取りはずす
- 3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

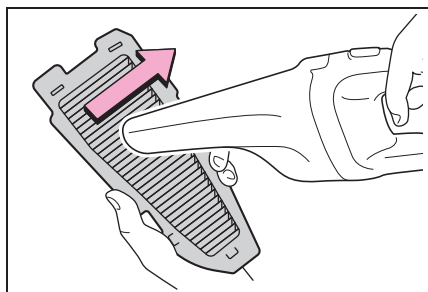
吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。



- A** 図で示す 3ヶ所のツメからフィルターをはずす
- B** 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

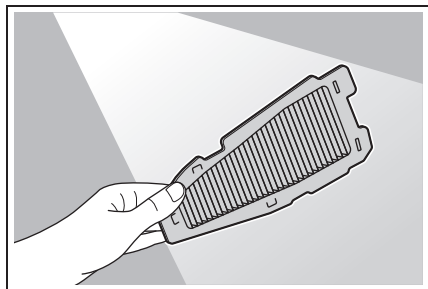
4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。



5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。



6 フィルターをもと通りに取り付け、吸入口カバーを取り付ける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたとき

7 ハイブリッドシステムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ

販売店で点検を受けてください。



■ フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。



警告

■ 吸入口の清掃をするときは

- 水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 清掃前に必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。
- 吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

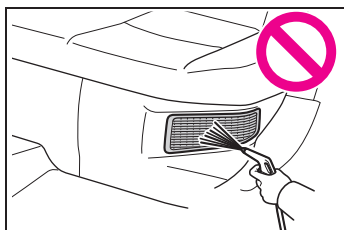


注意

■ 吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。



■ 車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 吸入口に水や異物などが入らないように注意する
- 清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける
- この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■ フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。

フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

- エアブローなどを使用しない
- 掃除機などをフィルターに強く押し付けない
- 金属製など、硬いブラシを使用しない
- フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。



知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- リチウム電池 CR2450



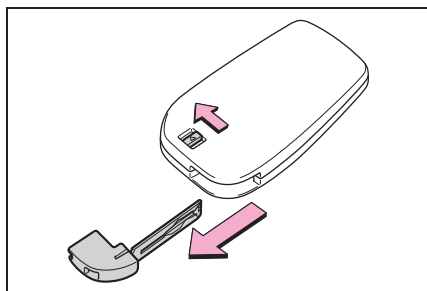
知識

■ リチウム電池 CR2450 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

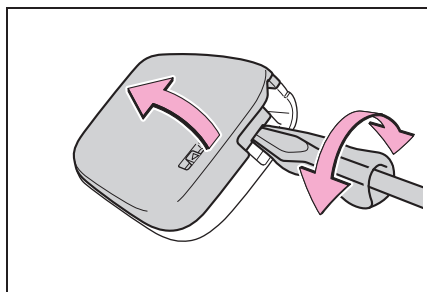
電池を交換するには

- 1 □ロックを解除してメカニカルキーを抜く



- 2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

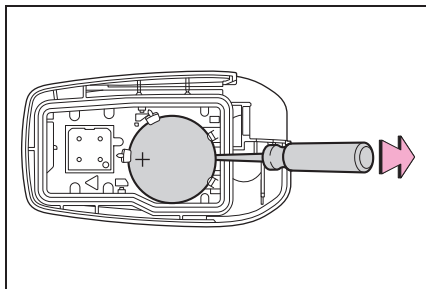


- 3 消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、上側のカバーに電子キーのモジュールが貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーのモジュールをひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、+極を上にして取り付け

ます。



- 4 カバーを取り付け、メカニカルキーを差し込む
- 5 ボタン（ または ）を操作して、ドアが施錠または開錠されることを確認する

警告

■ 電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■ 電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

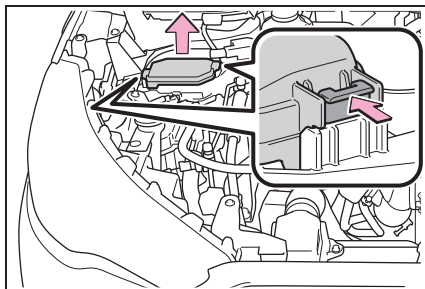
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

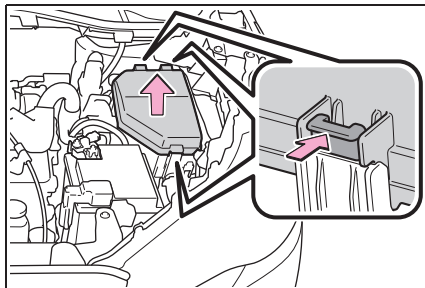
ヒューズの点検・交換をするには

- 1 パワースイッチを OFF にする
- 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（運転席側）★
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



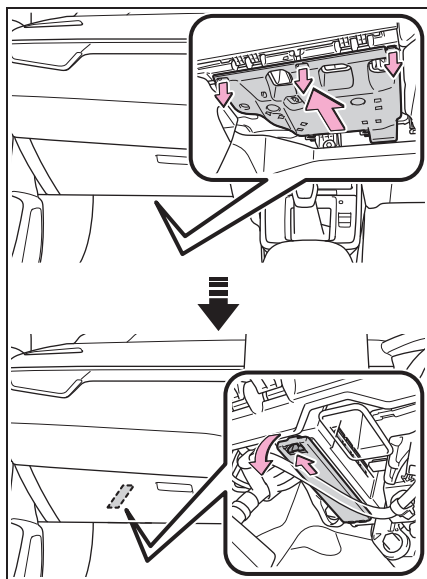
▶ エンジンルーム（助手席側）
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ 助手席足元

足元のカバーをとりはずし、ヒューズボックスのカバーをとりはずす

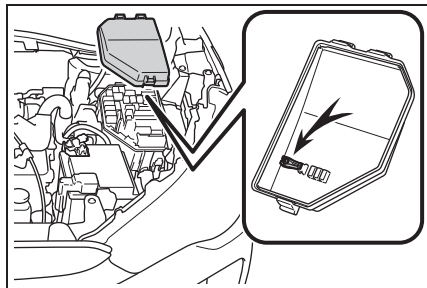
ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。



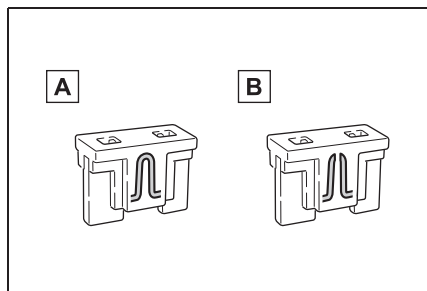
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズははずしでヒューズを引き抜くことができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する



A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.456）

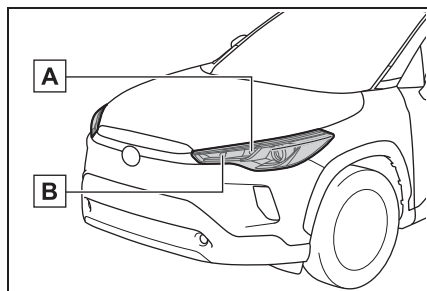
パワーバックドア★の作動停止

→P.120

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

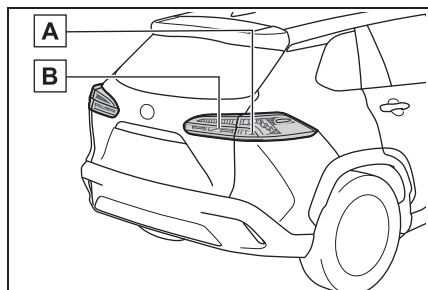
バルブ位置

■ フロント



- A** 車幅灯（バルブタイプ）★
- B** フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★

■ リヤ



- A** リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★
- B** 後退灯（バルブタイプ）★

■ トヨタ販売店で交換が必要な電球

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）★
- 車幅灯／デイトタイムランニングランプ（LED タイプ）★
- 車幅灯（LED タイプ）★
- フロントフォグランプ★
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯（LED タイプ）★
- 後退灯（LED タイプ）★
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- リヤフォグランプ★
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。



■LED ランプについて

次のランプ以外は、数個のLED で構成されています。もしLED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

- 車幅灯（バルブタイプ）★
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）★
- 後退灯（バルブタイプ）★

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

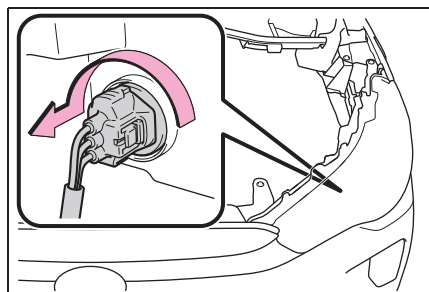
■電球（バルブ）を交換するとき

→P.384

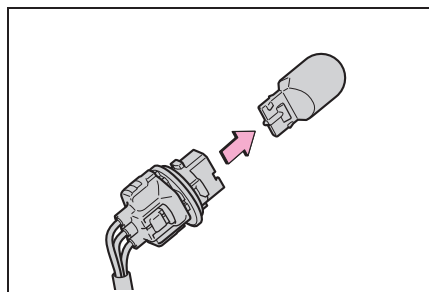
電球交換のしかた

■ 車幅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



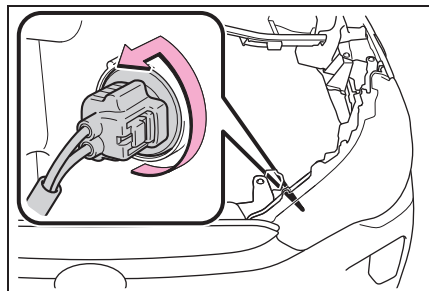
2 電球を取りはずす



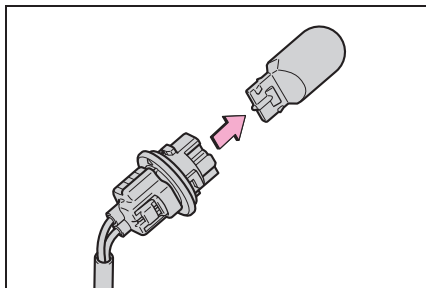
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（バルブタイプ）

1 ソケットをまわして取りはずす



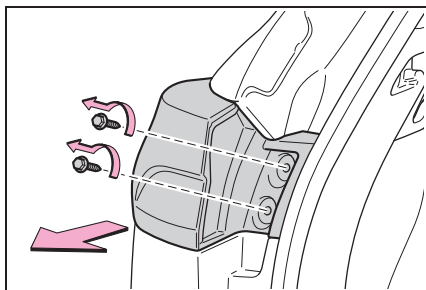
2 電球を取りはずす



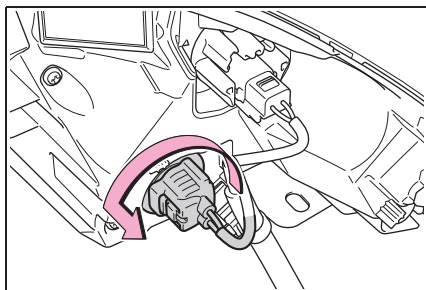
- 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯 (バルブタイプ)

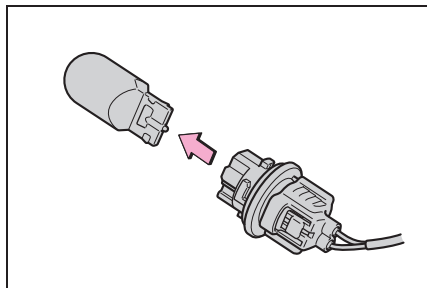
- 1 バックドアを開ける
2 ボルト (2 本) をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、取りはずす



- 3 ソケットをまわして取りはずす



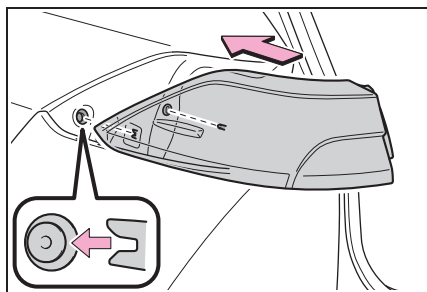
4 電球を取りはずす



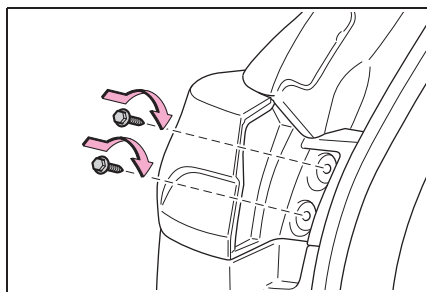
- 5 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

- 6 ランプ本体を取り付ける

タブの位置を合わせ、ランプ本体を車両前方へ押し付けて取り付けます。



- 7 ボルト (2 本) を取り付ける

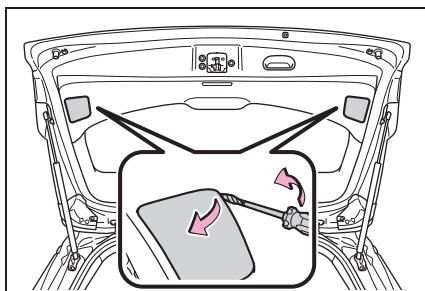


■ 後退灯 (バルブタイプ)

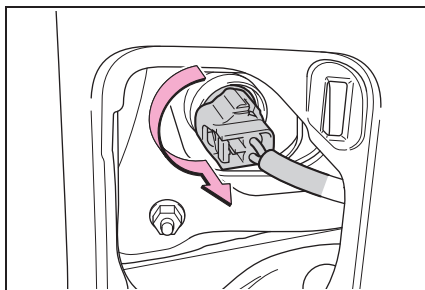
- 1 バックドアを開け、カバーを取りはずす

マイナスドライバーなどを挿し込み、図のように取りはずします。

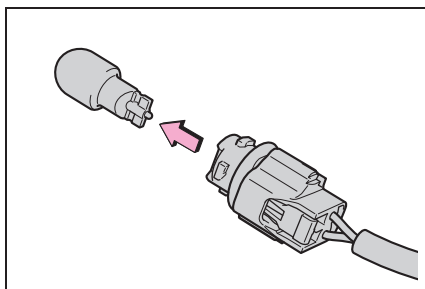
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。



2 ソケットをまわして取りはずす



3 電球を取りはずす

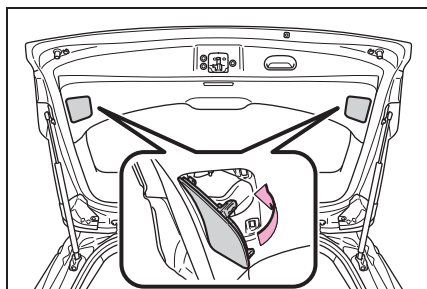


4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 カバーを取り付ける

カバーのツメを取り付け部に合わせて、

取り付けます。



⚠ 警告

■ けがを防ぐために

バルブ交換を実施する前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ 電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

 警告**■ お車の故障や火災を防ぐために**

- 電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。
- 発熱を防ぐために、電球を取り付ける前に W (ワット) 数を確認してください。

7-1. まず初めに

故障したときは	392
非常点滅灯（ハザードランプ）	393
発炎筒.....	393
車両を緊急停止するには.....	394
水没・冠水したときは.....	395
車中泊が必要なときは.....	396

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	397
警告灯がついたときは.....	402
警告メッセージが表示されたときは	408
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）.....	415
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	427
ハイブリッドシステムが始動できな いときは	433
キーをなくしたときは.....	435
電子キーが正常に働かないときは	435
補機バッテリーがあがったときは	437
オーバーヒートしたときは	443
スタックしたときは.....	447

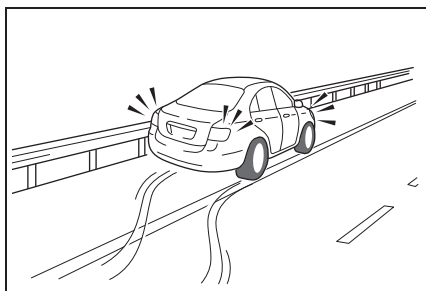
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

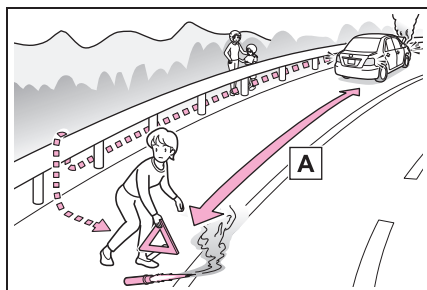
- 非常点滅灯（→P.393）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
 - 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m以上後方（**A**）に発炎筒（→P.393）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
- 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
- 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

い。

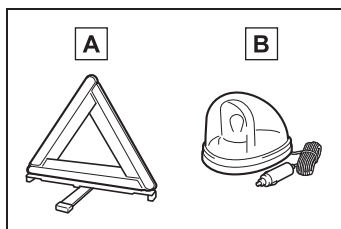


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。



A 停止表示板

B 停止表示灯

- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

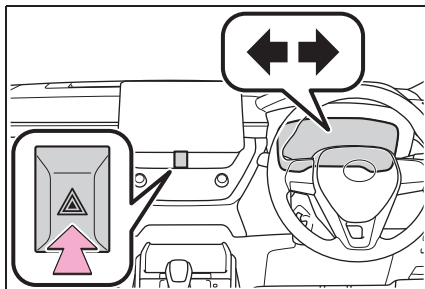
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



■非常点滅灯について

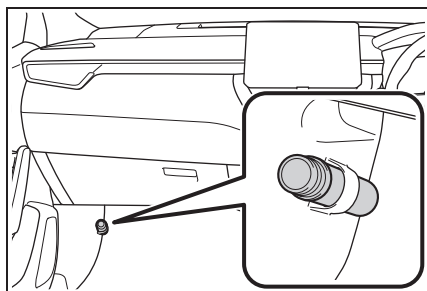
- ハイブリッドシステム停止中（READYインジケータが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRSエアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを2回押すか、約20分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

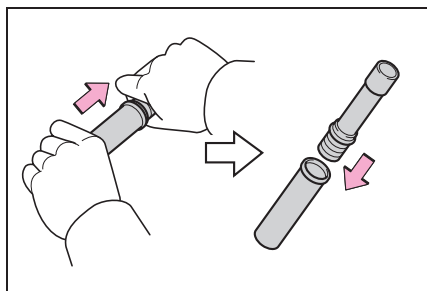
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



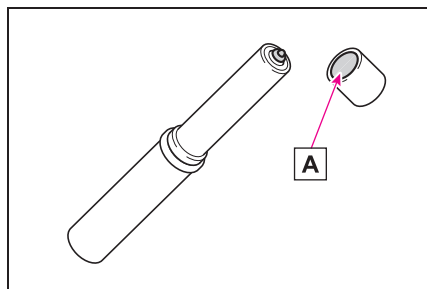
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

⚠ 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

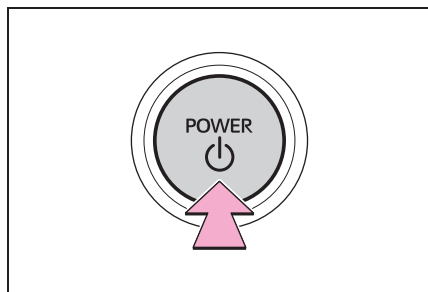
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 ハイブリッドシステムを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

 知識**■ 水位がフロアを超えると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスとリヤウィンドウガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは**⚠ 警告**

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

- 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency



けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

⚠ 注意

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車または、車両運搬車でけん引してください。他車にけん引してもらうと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

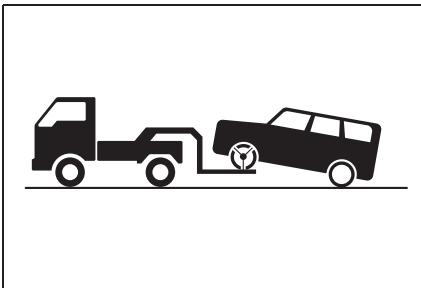
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは（FF車）



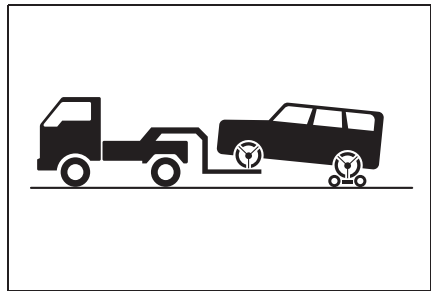
パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
（→P.163）

運転席ドアを開けないでください。ドアを開けるとパーキングブレーキが自動的に作動します。

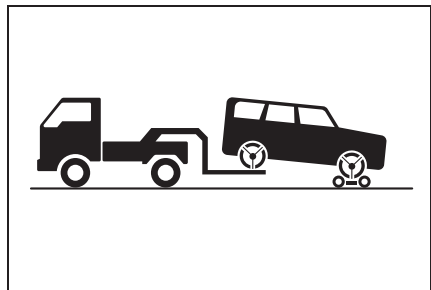
N レンジに入れてパーキングブレーキを解除して降車するときは：→P.164

- ▶ 前向きにけん引するときは（4WD 車）



台車を使用して後輪を持ち上げる

- ▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 警告

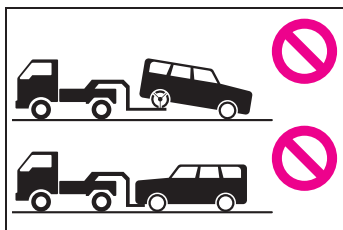
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■レッカー車でけん引するとき

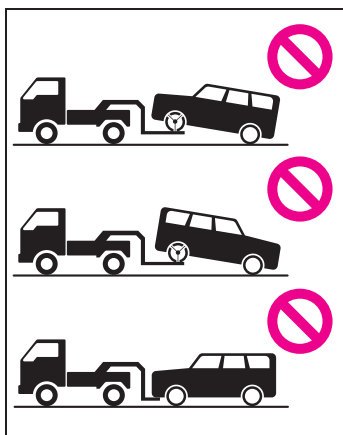
▶FF車

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



▶4WD車

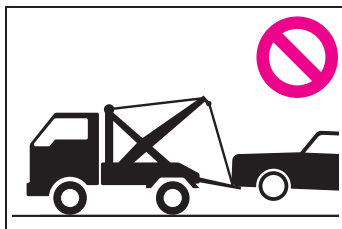
4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品の破損や、車が台車から飛び出したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



注意

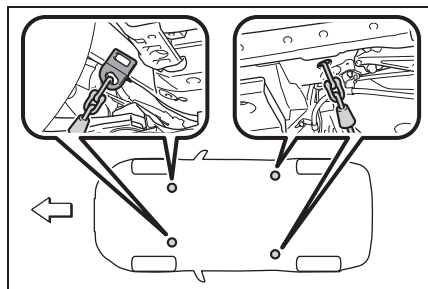
■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

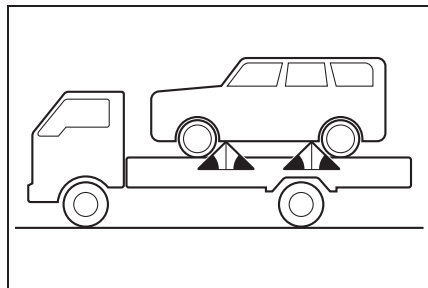


車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



⚠ 注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

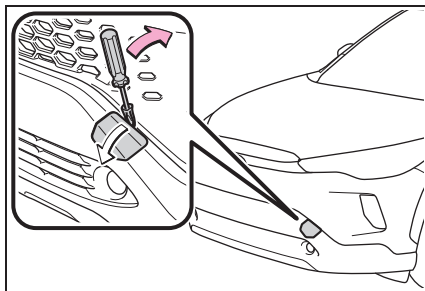
他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

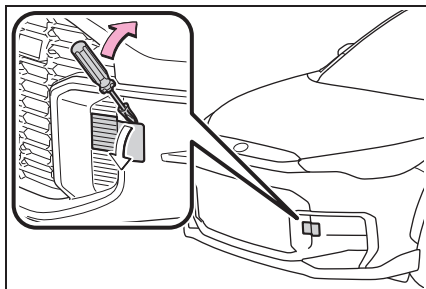
- 1 ラゲージルーム内のホイールナットレンチ★、マイナスドライバー★、けん引フックを取り出す (→P.416, 428)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

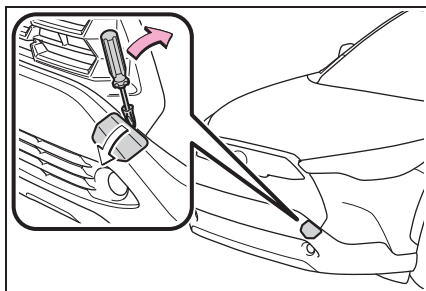
▶ A タイプ



▶ B タイプ

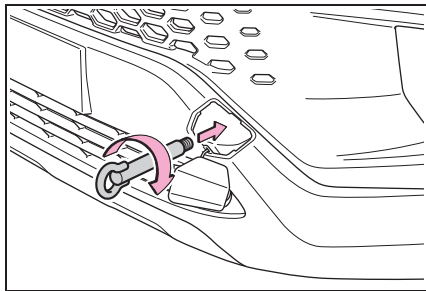


▶ C タイプ

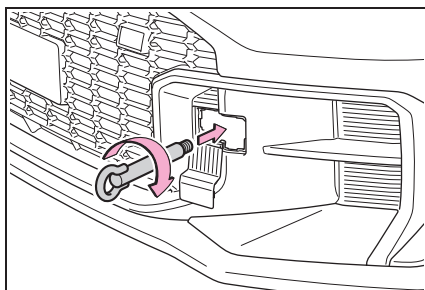


- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

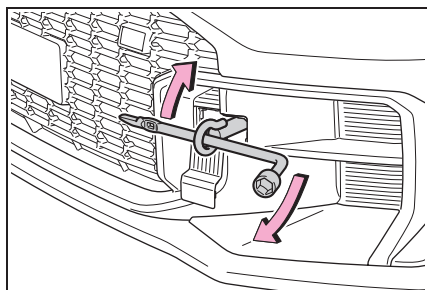
▶ A タイプ



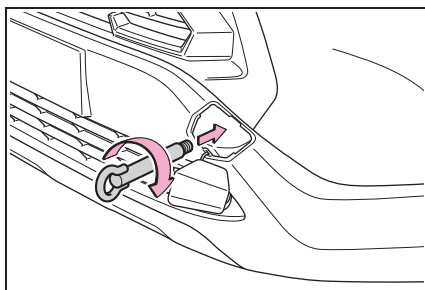
▶ Bタイプ



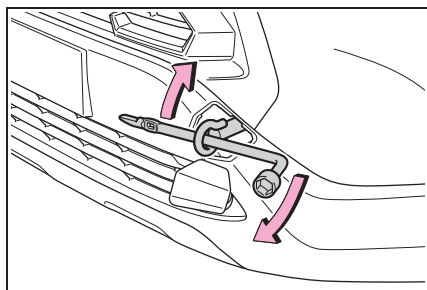
▶ Bタイプ



▶ Cタイプ

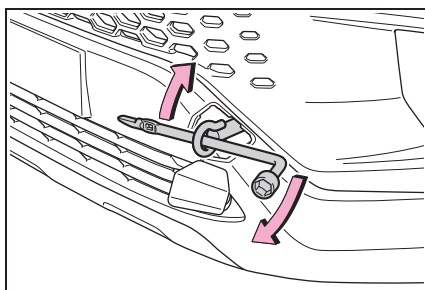


▶ Cタイプ



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付け

▶ Aタイプ

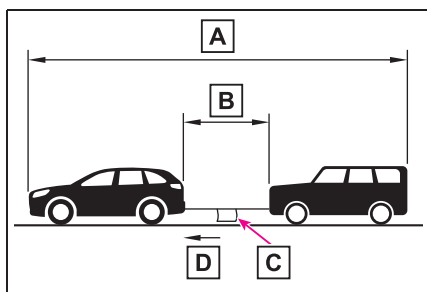


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布**D** けん引方向**7** 運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。
(→P.163)

運転席ドアを開けないでください。ドアを開けるとパーキングブレーキが自動的に作動します。

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.159

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて★

ラゲージルームに搭載されています。
(→P.416, 428)

★：トヨタ販売店で購入することができません。詳しくは販売店におたずねください。

い。

 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パワースイッチを OFF にしないでください。

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。指定の位置にしっかりと取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

 注意**■車両の損傷を防ぐために**

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
- ・ワイヤーロープは使用しない
- ・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
- ・前進方向でけん引する
- ・サスペンション部などにロープをかけない
- ・この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 高水温警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.443）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ハイブリッドシステム過熱警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステムの高温異常 → 安全な場所に停車し、対処方法（→P.443）に従ってください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイル圧力の異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	● ハイブリッドシステムの異常 ● エンジン電子制御システムの異常 ● 電子制御スロットルの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	● SRS エアバッグシステムの異常 ● プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	● ABS の異常 ● ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ ペダル誤操作警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 ●ドライブスタートコントロール作動時 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 ブザーが鳴らなかった場合： ブレーキオーバーライドシステム作動時 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (黄色)	

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	4WD 車：燃料の残量が約 6.4L 以下になった FF 車：燃料の残量が約 5.4L 以下になった → 燃料を補給する

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
 	リヤ席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：

リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯し続けているとき）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

リヤドアを開けると、ブザー吹鳴条件が解除されます。

■ PCS 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ LDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （黄色）	LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ PDA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	PDA（プロアクティブドライビングアシスト）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ レーダークルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	レーダークルーズコントロールの異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ クルーズコントロール表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	クルーズコントロールの異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

■ 運転支援情報表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	次のシステムに異常が考えられます。 ●PCS（プリクラッシュセーフティ） ●LDA（レーンディパーチャーアラート） → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 次のシステムのいずれかが異常、または停止しています。 ●PKSB（パーキングサポートブレーキ） ●RCD（リヤカメラディテクション）★ ●BSM（ブラインドスポットモニター）★ ●RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★ ●安心降車アシスト★ → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.411）

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

● 助手席に乗員がいなくても、シートに

荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

● 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯の作動について

● リヤドアを開閉すると約 60 秒間点灯し

ます。

- いずれかのリヤシートベルトを脱着すると点灯し続けます。点灯し続けているときに、リヤドアを開閉すると約 60 秒後に消灯します。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

⚠ 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。

ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.402）に従ってください。

□ 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “駐車時はPレンジに入れてください”が表示されたときは

シフトレバーがP以外でパワースイッチをOFFにせず運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。

駐車時はPにしてください。

■ “エンジンオイル量不足 補充するか、交換してください” が表示されたときは

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “ハイブリッドシステム停止のためハンドルが重くなります” が表示されたときは

走行中にハイブリッドシステムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示されたときは

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.443

■ “駆動用電池保護が必要 N レンジの使用を控えてください” が表示されたときは

シフトレバーが N のときにメッセージが表示されることがあります。

シフトレバーが N では充電できないため、停車するときはシフトレバーを P にしてください。

■ “駆動用電池保護が必要 P レンジにして再始動してください” が表示されたときは

一定時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下したときにメッセージが表示されます。

車両を動かす場合は、シフトレバーを P にして、ハイブリッドシステムを再始動してください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください” が表示されたときは

シフトレバーが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトレバーを D または R にしてください。

■ “停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けるとハイブリッドシステムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を OFF しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回ハイブリッドシステム始動時に、約 5 分間ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

● LED ヘッドランプ

● AHB（オートマチックハイビーム）

● AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “4WD システム故障 2WD 走行になります 販売店で点検” が表示されたときは★

前輪駆動走行に切り替わります。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “4WD システム高温 2WD 走行に切りかわりました” または “4WD システム高温 高負荷走行は控えてください” が表示されたときは★

システムがオーバーヒートしています。車速を下げるか、ハイブリッドシステムを作動させたまま安全な場所に停車してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “ソナーに水滴、雪等が付着しています” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴、氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴、氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。

また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

汚れているセンサーの位置はディスプレイ上に表示されます。

水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “機能停止 周辺監視用カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● RCD（リアカメラディテクション）★

● PKSB（パーキングサポートブレーキ）

後方カメラの汚れや付着物を取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 ドアミラー状態確認 ドアミラーを開け直してください” が表示されたときは★

ドアミラーが閉じているため PKSB が一時的に使用できません。ドアミラーを開け直してください。また、補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーを開閉してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能故障 販売店で点検” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）

● LDA（レーンディパーチャーアラート）

● LTA（レーントレーシングアシスト）

● AHB（オートマチックハイビーム）

● AHS（アダプティブハイビームシステム）★

● レーダークルーズコントロール

● RSA（ロードサインアシスト）

-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
-  安心降車アシスト★
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

画面に表示されているアイコンを確認して、次の対処法に従ってください。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャアラート）
-  LTA（レーントレーシングアシスト）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  AHS（アダプティブハイビームシ

ステム）★

-  レーダークルーズコントロール
-  RSA（ロードサインアシスト）
-  発進遅れ告知
-  PDA（プロアクティブドライビングアシスト）
-  BSM（ブラインドスポットモニター）★
-  RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★
-  安心降車アシスト★
-  クリアランスソナー
-  PKSB（パーキングサポートブレーキ）
-  RCD（リアカメラディテクション）★

次の対処法に従ってください。

- 補機バッテリー電圧を確認する
- Toyota Safety Senseで使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→P.189）
- センサーが正しく作動しなくなる状況を確認し、該当する場合は改善してください。（→P.240, 244, 253, 257, 300）
- センサー周辺のリヤバンパーに付着物がないか確認し、ある場合は取り除いてください。（→P.237）
- RCD 装着車：バックドアが開いていないか確認してください。
- センサーとカメラに付着物がないか確

認し、ある場合には取り除いてください。(→P.241, 277)

センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS (プリクラッシュセーフティ)

●  LDA (レーンディパーチャーアラート)

●  LTA (レーントレーシングアシスト)

●  AHB (オートマチックハイビーム)

●  AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

●  レーダークルーズコントロール

●  RSA (ロードサインアシスト)

●  発進遅れ告知

●  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

● ワイパー機能を使って、フロントウィンドウガラスの汚れや付着物を取り除く。

● エアコン機能を使って、フロントウィンドウガラスの曇りを取り除く。

● ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

●  PCS (プリクラッシュセーフティ)

●  LDA (レーンディパーチャーアラート)

●  LTA (レーントレーシングアシスト)

●  AHB (オートマチックハイビーム)

●  AHS (アダプティブハイビームシステム) ★

●  レーダークルーズコントロール

●  RSA (ロードサインアシスト)

●  発進遅れ告知

●  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

● 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる

● 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウィンドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります

● 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.189)
- 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

グアシスト)

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS (プリクラッシュセーフティ)
-  LTA (レーントレーシングアシスト)
-  レーダークルーズコントロール
-  発進遅れ告知
-  PDA (プロアクティブドライビングアシスト)

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。(→P.189)
- レーダの向きがずれている可能性があります。レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

■ “クルーズコントロール 使用できません 取扱書を確認してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  レーダークルーズコントロール
-  クルーズコントロール

走行支援スイッチを短時間に繰り返し操作したときにメッセージが表示されることがあります。

走行支援スイッチを短く確実に押してください。

■ **取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは**

- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ・ “スマートエントリー&スタートシステム故障”
- “駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

駆動用電池冷却用吸入口を清掃する
(→P.378)

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

 注意

■ **“補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんばんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ **“駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されるときは**

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、ハイブリッドシステムを始動することができなくなります。

- 万一、ハイブリッドシステムが始動できなくなったときは、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.415）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

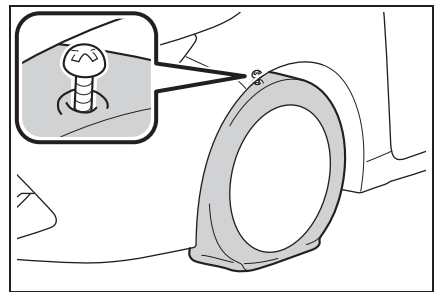
- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止す

る

- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



📖 知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

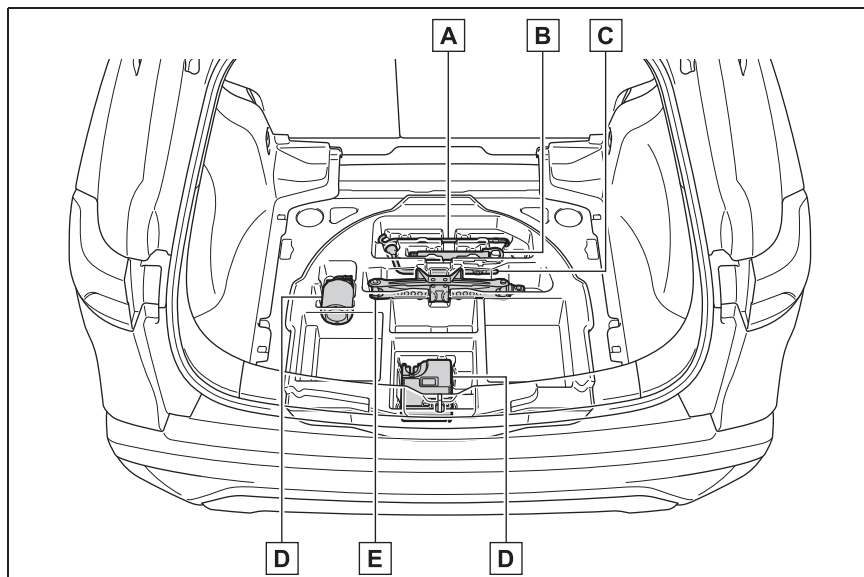
次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき

- ホイールが破損しているとき
- 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 2本以上のタイヤがパンクしているとき

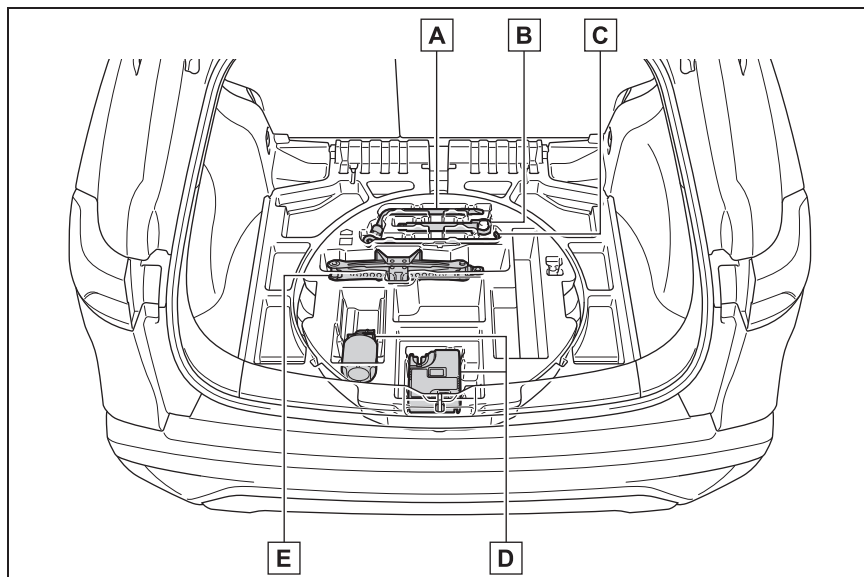
タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ Aタイプ



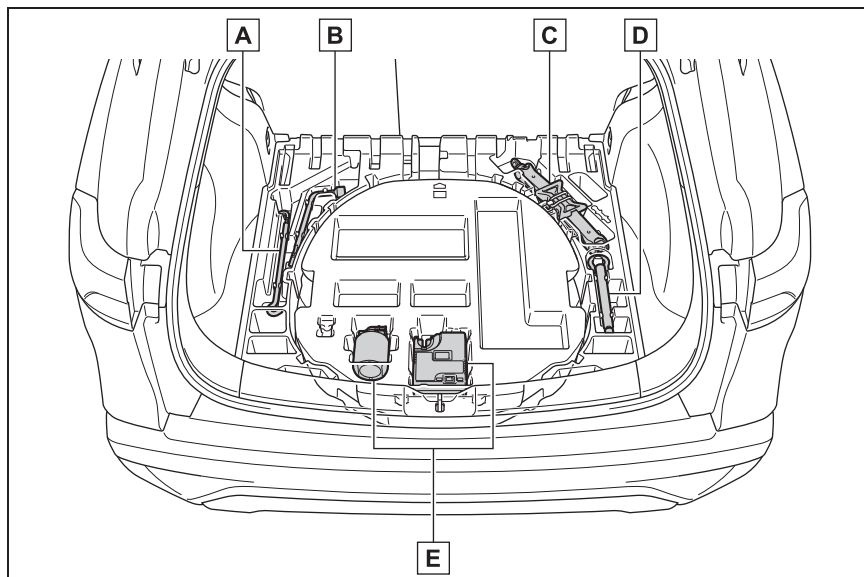
- A** ジャッキハンドル★
- B** けん引フック
- C** ホイールナットレンチ★
- D** タイヤパンク応急修理キット
- E** ジャッキ★※

▶ Bタイプ



- A** ホイールナットレンチ★
- B** けん引フック
- C** ジャッキハンドル★
- D** タイヤパンク応急修理キット
- E** ジャッキ★※

▶ Cタイプ



A ジャッキハンドル★

B ホイールナットレンチ★

C ジャッキ★※

D けん引フック

E タイヤパンク応急修理キット

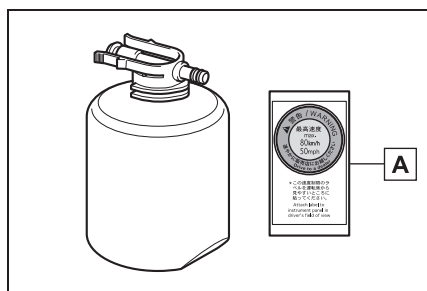
この車のホイールナットの締め付けトルクは $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) です。

※ ジャッキの使い方 (→P.430)

★：トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

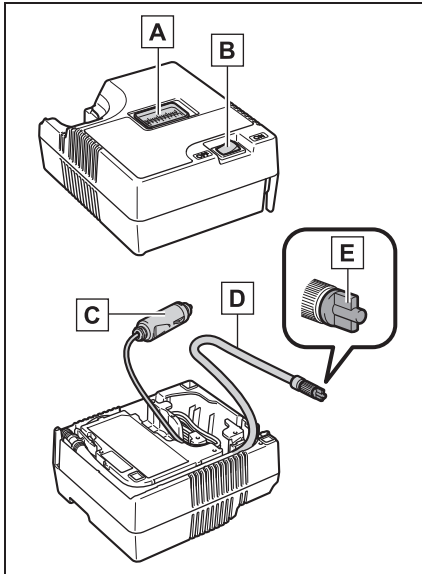
タイヤパンク応急修理キットの 内容／各部の名称

▶ ボトル



A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー



- A** 空気圧計
- B** 電源スイッチ
- C** 電源プラグ
- D** ホース
- E** 空気逃がしキャップ

知識

■ 応急修理キットについて

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シ

ミになる場合があります。

- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
 - 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
 - タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- #### ■ 応急修理キットの点検について
- パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。
 - 有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。
 - 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

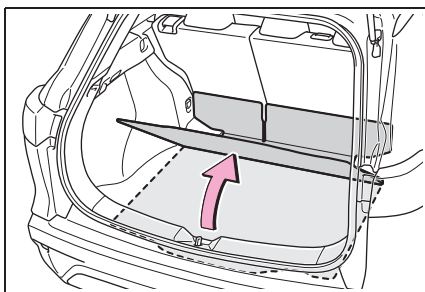
⚠ 警告

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

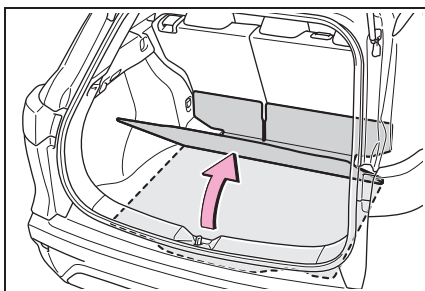
1 デッキボードを開く



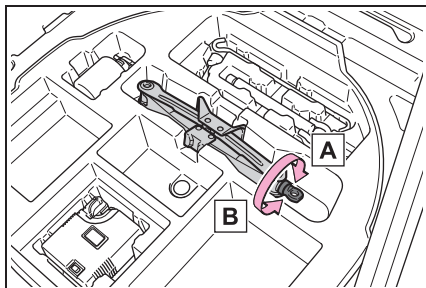
2 応急修理キットを取り出す (→P.416)

ジャッキ★の取り出し方

1 デッキボードを開く



2 ジャッキをゆるめて取りはずす



A 締まる

B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

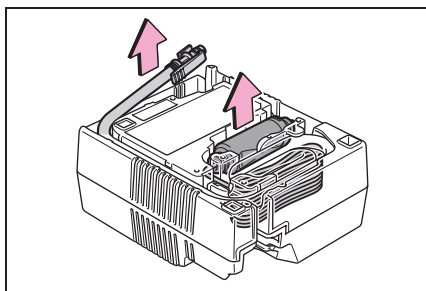
★：トヨタ販売店で購入することができます。詳しくは販売店におたずねください。

応急修理するときは

1 応急修理キットをビニール袋から取り出す

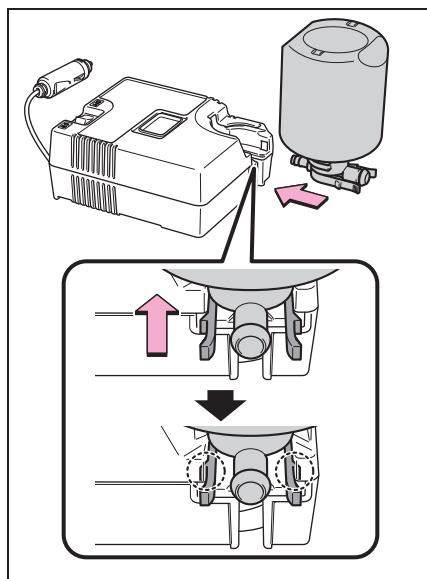
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。(手順 10 へ)

2 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



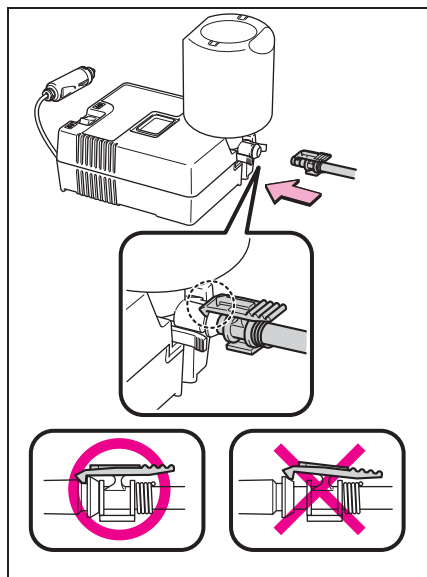
3 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

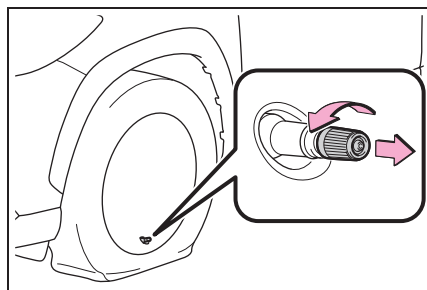


- 4** ホースをボトルに取り付ける
図のように、ボトルにホースがしっかり

接続しているか確認してください。



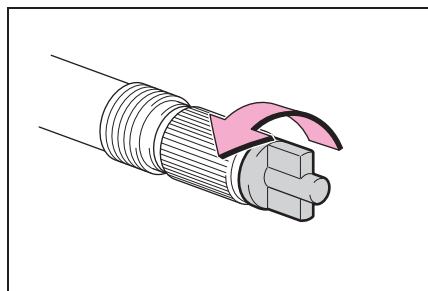
- 5** パンクしたタイヤのバルブから
バルブキャップを取りはずす



- 6** ホースをのばし空気逃がし
キャップを取りはずす

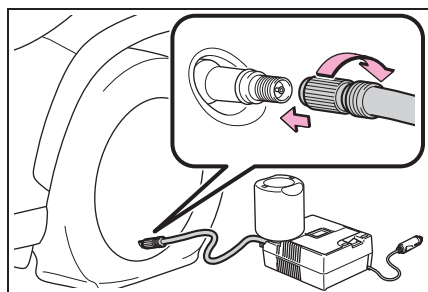
空気逃がしキャップは再度使用するため、

なくさないように保管してください。

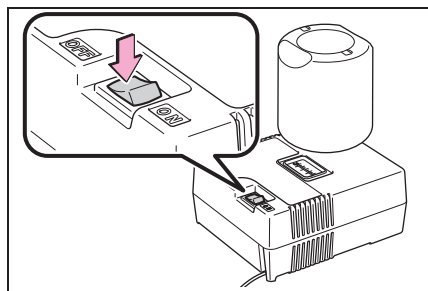


7 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

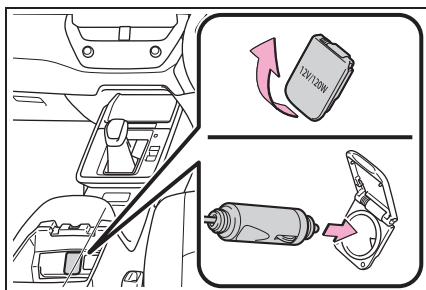
ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。



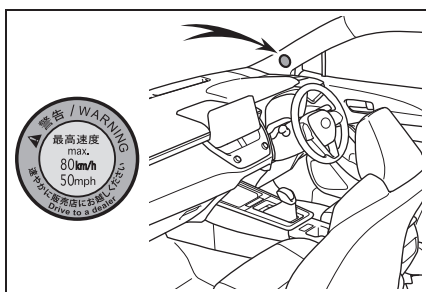
8 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



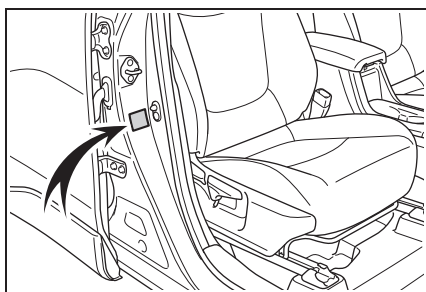
9 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む (→P.346)



10 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

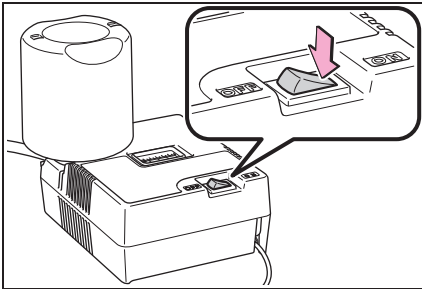


11 タイヤの指定空気圧を確認する 運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P.373)

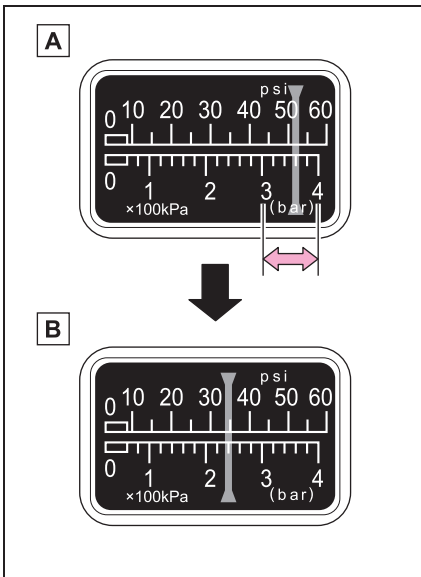


12 ハイブリッドシステムを始動する (→P.151)

13 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



14 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する



A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。

B スwitchを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッ

サーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です (外気温により異なります)。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.424, 455)

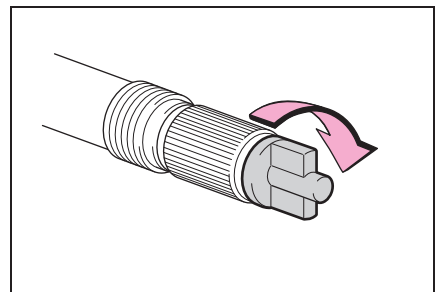
15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースocketから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

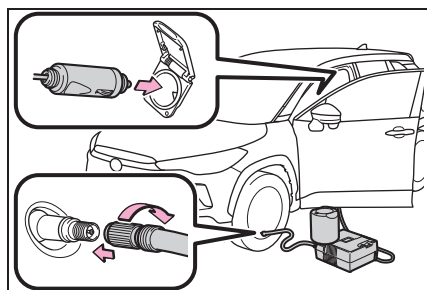


18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

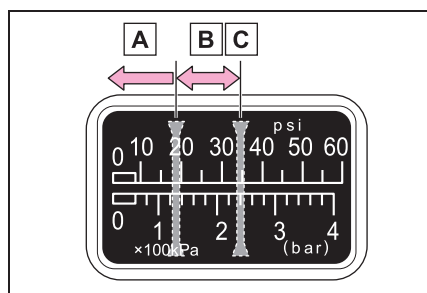
19タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度80km/h以下で安全に走行する

20走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



21コンプレッサーのスイッチを数秒間ONにしてから再度OFFし、空気圧を確認する



A 空気圧が130kPa

(1.3kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が130kPa

(1.3kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：手順**22**へ

C 空気圧が指定空気圧

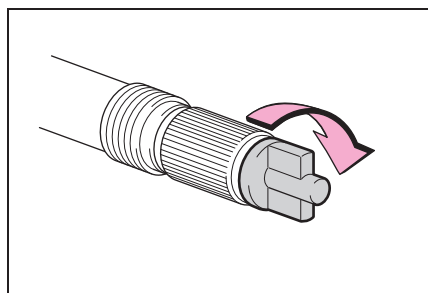
(→P.455) の場合：手順**23**

へ

22コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約5km走行後にあらためて手順**20**から実施する

23ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

25急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km以内、80km/h以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

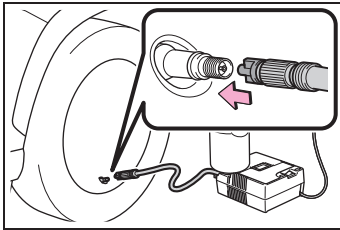
トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

- 2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ 応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ 補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

⚠ 警告

- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください
- 応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
- ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

- ・ 空気圧を確認してください。
130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠ 注意

■ 応急修理をするとき

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用 タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。（タイヤについての詳しい説明は P.373 を参照してください）

警告

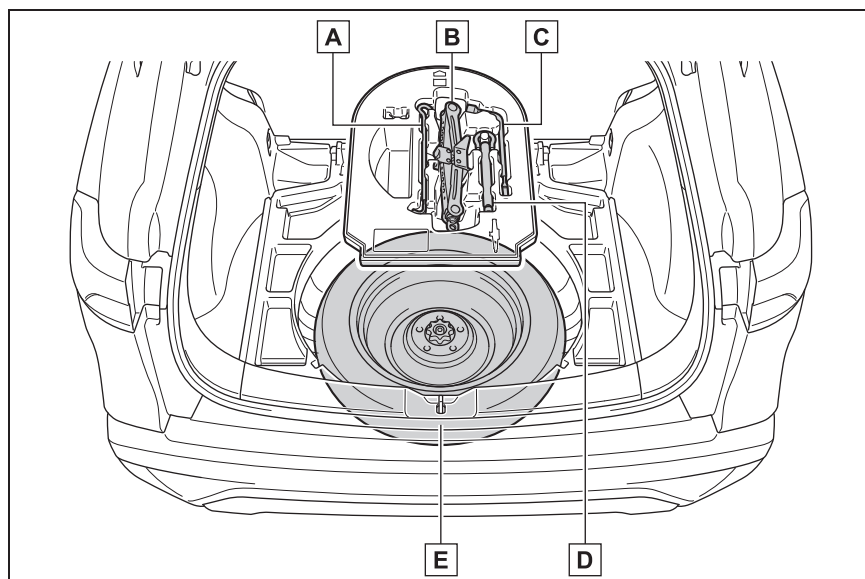
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

工具とジャッキの位置



- A** ジャッキハンドル
- B** ジャッキ
- C** ホイールナットレンチ
- D** けん引フック
- E** 応急用タイヤ

この車のホイールナットの締め付けトルクは $103\text{N} \cdot \text{m}$ ($1050\text{kgf} \cdot \text{cm}$) です。

⚠ 警告**■ ジャッキの使用について**

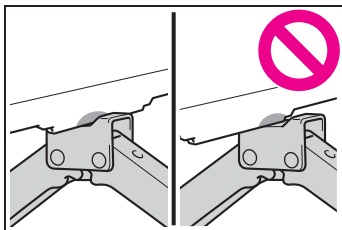
次のことをお守りください。ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない

- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない

⚠ 警告

- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける (→P.430)

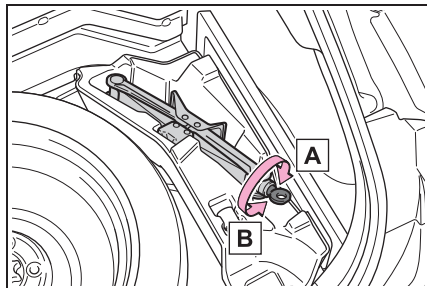


- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキ★の取り出し方

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 1 デッキボードを開く (→P.337)

2 ジャッキをゆるめて取りはずす

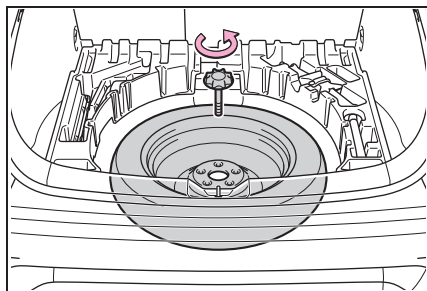
A 締まる

B ゆるむ

ジャッキを収納するときは、ジャッキを締めてトレイへ押し付けてください。

応急用タイヤの取り出し方

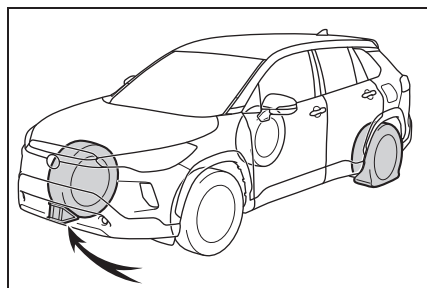
- 1 デッキボードを開く (→P.337)
- 2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

**⚠ 警告****■ 応急用タイヤを収納するとき**

ボディと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

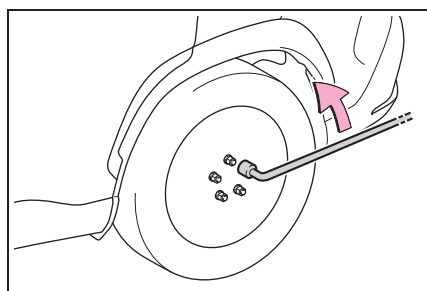
1 輪止め※をする



パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

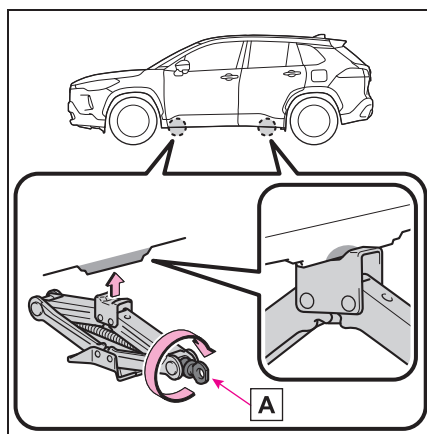
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

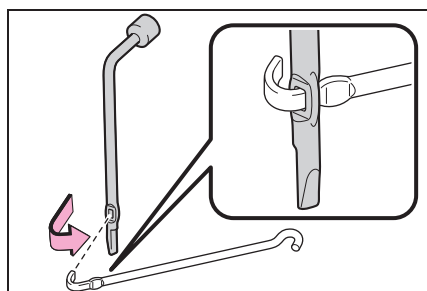


3 ジャッキ頭部の凹み部が、ジャッキセット位置の中央あたりに軽くあたるまで、ジャッキの

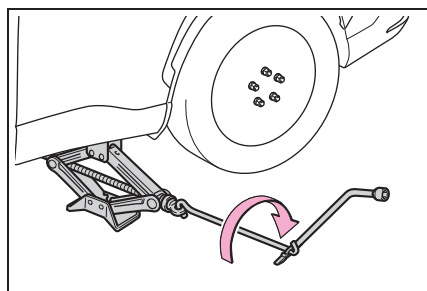
りに軽くあたるまで、ジャッキの **A** 部を手でまわす



4 ホイールナットレンチをジャッキハンドルに組み付ける



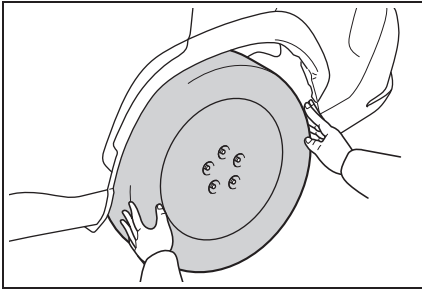
5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイー

ルの表面に傷が付かないよう表面を上に出します。



⚠ 警告

■ タイヤ交換について

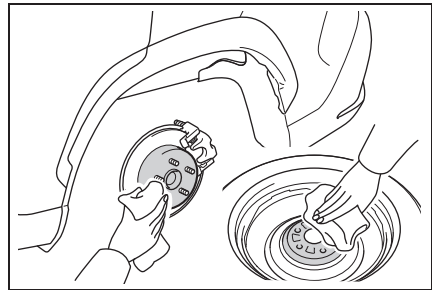
- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ タイヤを交換したあとは、速やかに締め付けトルクを確認してください。
締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
- ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。

応急用タイヤの取り付け

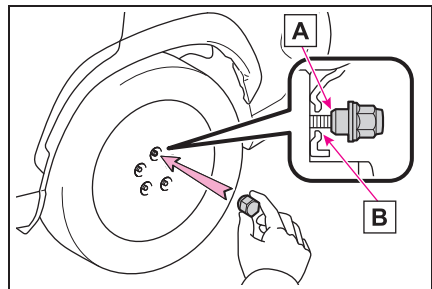
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

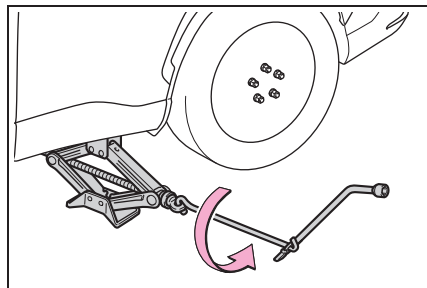


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットのテーパー部[A]がホイールのシート部[B]に軽くあたるまでまわす

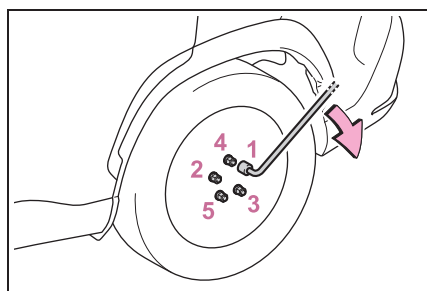


3 車体を下げる



4 ホイールナットレンチを使用し、図の番号順でナットを、3度しっかり締め付ける

締め付けトルク：103N・m
(1050kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する



■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。
(→P.455)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたとき

1 後輪を応急用タイヤに交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪に交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する



警告

■ 応急用タイヤを使用するとき

- お客様の車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に 2 つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。
- 摩耗限度（トレッドウェアインジケーターまたはスリップサイン）をこえて使用しないでください。

■ 応急用タイヤを装着しているとき

正確な車両速度が検出できない場合があります。次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ VSC
- ・ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）
- ・ TRC
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ RCD（リヤカメラディテクション）★
- ・ PKSB（パーキングサポートブレーキ）
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ トヨタチームメイト アドバンストパーク★
- ・ セカンダリーコリジョンブレーキ

⚠ 警告

- ・ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ 4WD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意**■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ タイヤチェーンの装着について

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体にあたり、車を損傷したり走行に悪影響をおよぼしたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。次のことをご確認ください。適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→P.151）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.435）
- 燃料が入っていない可能性があります。給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.61）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P.434）
- FF 車：駆動用電池の温度が著しく低い（およそ -30℃ 以下）可能性があります。（→P.57, 151）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.437）

- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。(→P.437)
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。

緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
(→P.162)
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 パワースイッチをACC※¹にする ※²
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約15秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※¹ カスタマイズメニューから ACC カスタマイズの ON/OFF を切りかえることができます。

※² ACC がない場合は、パワースイッチを ON にしたあとにパワースイッチを OFF にして、5 秒以内に P.436 の方法でハイブリッドシステムを始動してください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.122）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。



知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。（→P.457）
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。（→P.122）
- 電子キーの機能が停止している可能性があります。（→P.98）



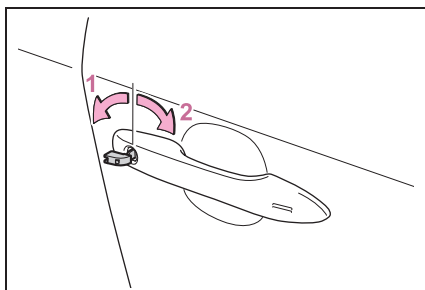
注意

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→P.100）を使って次の操作ができます。

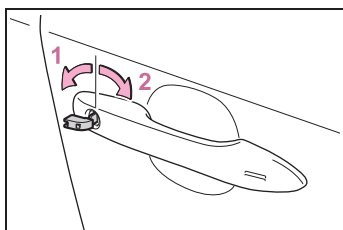


- 1 全ドア解錠
- 2 全ドア施錠



知識

■キー連動機能



- 1 ドアガラスが開く（まわし続ける）※
- 2 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。



警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき

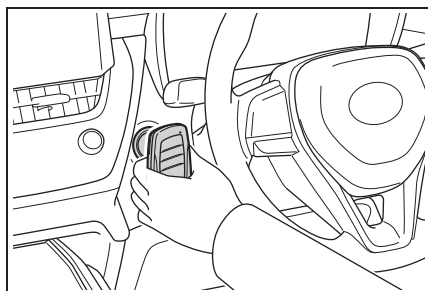
ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

ハイブリッドシステム始動の方法

- 1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- 2 図のように、電子キーでパワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっている、かつ ACC カスタマイズが ON のときは、ACC へ切りかわります。



- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに  が表示されていることを確認する
- 4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。



知識

■ハイブリッドシステム停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにしてパワースイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.381)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。(→P.62)

■ モードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P.153)

補機バッテリーがあがったときは

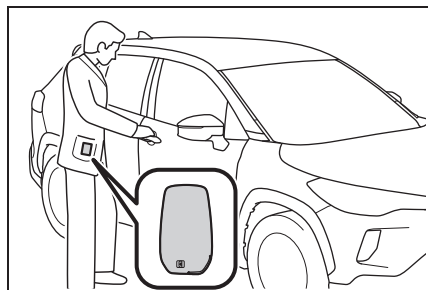
補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ハイブリッドシステムを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

- 1 電子キーを携帯していることを確認する

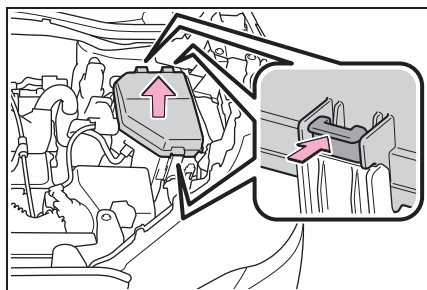
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.62)



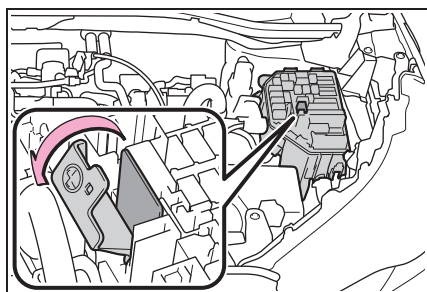
- 2 2ZR-FXE エンジン搭載車：ボンネットを開ける (→P.370)
M20A-FXS エンジン搭載車：

- 4 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子[A]につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの+端子[B]につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子[C]につなぎ、もう一方の端を金属部[D]につなぐ

ボンネットを開けて (→P.370)、ヒューズボックスのカバーをはずす

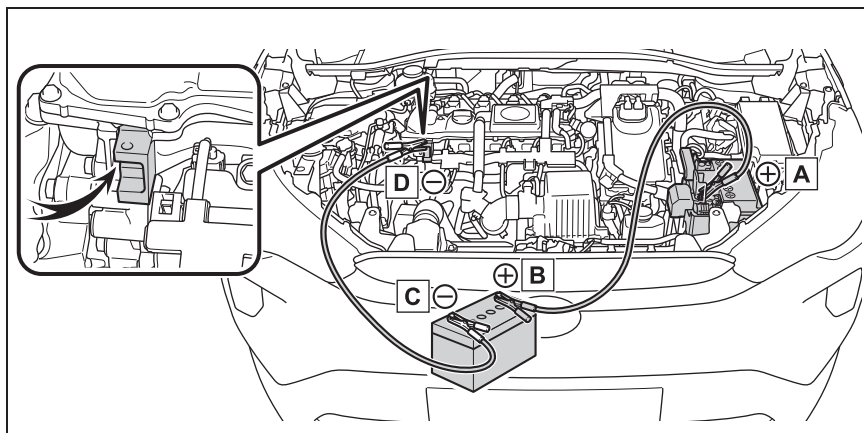


- 3 M20A-FXS エンジン搭載車：ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける



ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



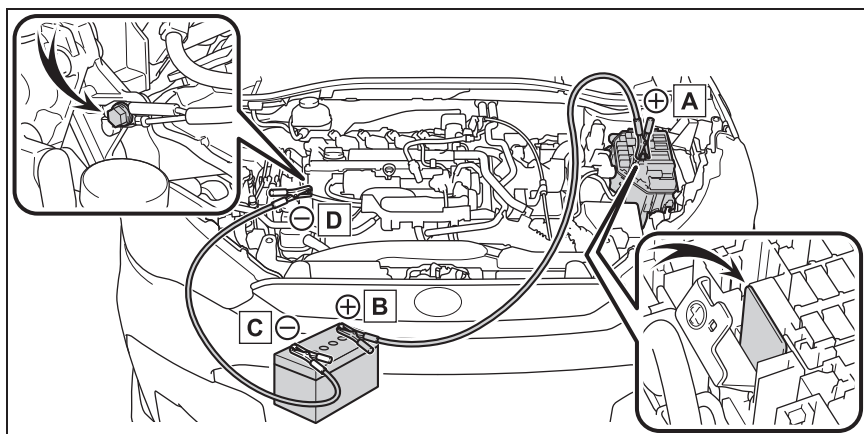
A 補機バッテリーの+端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

▶ M20A-FXS エンジン搭載車



A 救援用端子（自車）

B バッテリーの+端子（救援車）

C バッテリーの-端子（救援車）

D 図に示す金属部

- 5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する
 - 6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
 - 7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する
 - 8 READY インジケーターが点灯することを確認する
- 点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
- 9 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす
 - 10 M20A-FXS エンジン搭載車：救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

- ACC カスタマイズが OFF のときは、パワースイッチが OFF の状態でもマルチメディアシステムに電源が供給されます。
- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、

不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。
- 初期設定が必要な機能があります。(→P.473)

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。(補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます)

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

- 補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- 補機バッテリー脱着後、最初の始動操作ではハイブリッドシステムが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり

時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

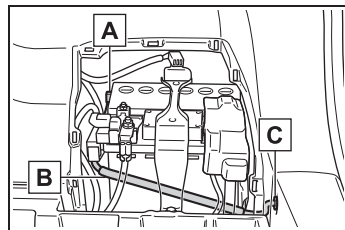
■補機バッテリーを交換するときは (2ZR-FXE エンジン搭載車)

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN1)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (45Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (285A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。
- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーを交換するときは (M20A-FXS エンジン搭載車)

- 欧州規格バッテリーを使用してください。
- 交換前と同一のケースサイズ (LN1)、20 時間率容量 (20HR) が同等 (45Ah) 以上、かつ性能基準値 (CCA) が同等 (285A) 以上の補機バッテリーを使用してください。
 - ・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
 - ・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

- 取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。
- 交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
 - ・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用し、車両穴部と確実に接続されていることを確認してください。
 - ・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。(交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。)



A 排気穴

B 排気ホース

C 車両穴部

- 詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず端子を先にはずしてください。
+端子を先にはずすと、+端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起さない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける

- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う

- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■ 補機バッテリーのマイナス端子について

ボデーに接続された補機バッテリーのマイナス端子をはずさないでください。誤ってはまずとプラス端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 補機バッテリーあがりの処置をしたあと（M20A-FXS エンジン搭載車）

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■ 補機バッテリーを交換するときは（M20A-FXS エンジン搭載車）

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、可燃性ガスが車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するとき

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■ 救援用端子について (M20A-FXS エンジン搭載車)

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

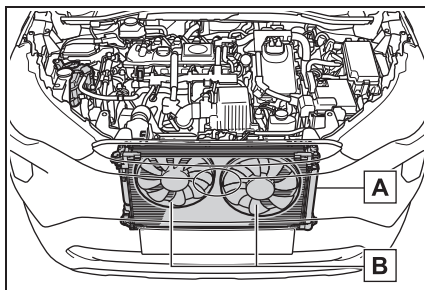
- 水温計 (→P.70, 74) の針がレッドゾーンに入ったり、ハイブリッドシステムの出力が低下する (スピードが出ないなど)
- マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” または “ハイブリッドシステム 高温出力制限中です” が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- ▶ 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “エンジン冷却水高温 安全な場所に停車して取扱書を確認してください” が表示されたとき
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア

部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

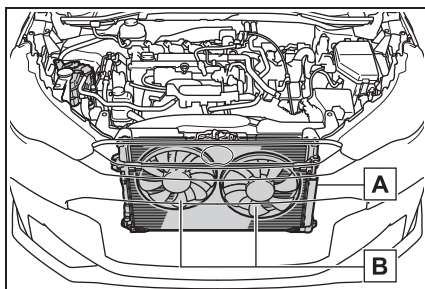


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

▶ M20A-FXS エンジン搭載車



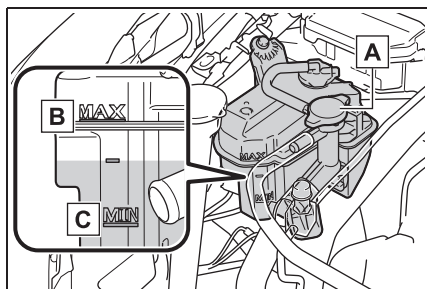
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 冷却水の量がリザーバタンクの“MAX”（上限）と

“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する



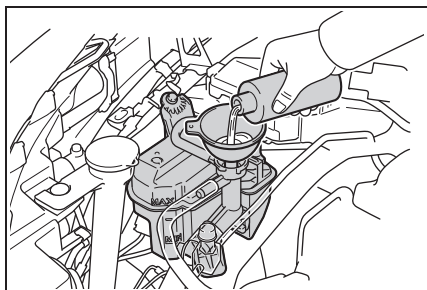
A リザーバタンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返して

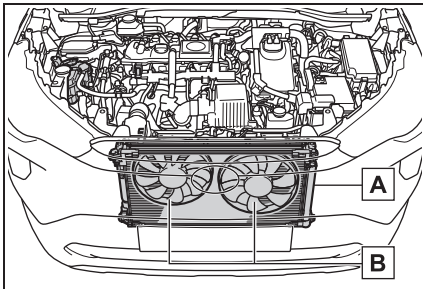
ください。(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する
ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

- ▶ マルチインフォメーションディスプレイに“ハイブリッドシステム 高温出力制限中です”が表示されたとき

- 1 安全な場所に停車する
- 2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける
- 3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

- ▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

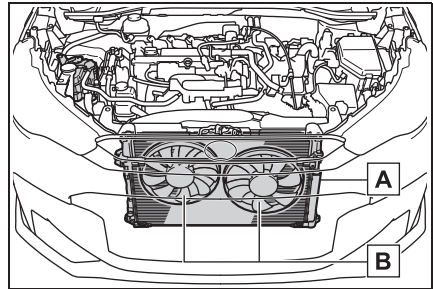


A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- ▶ M20A-FXS エンジン搭載車



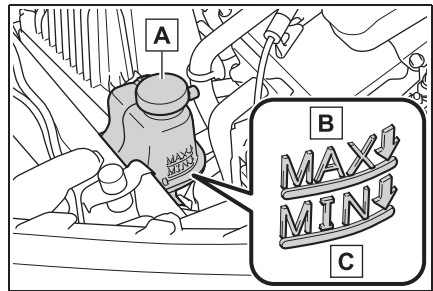
A ラジエーター

B ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

- 4 冷却水の量がリザーバートンクの“MAX”または“F”（上限）と、“MIN”または“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

- ▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車

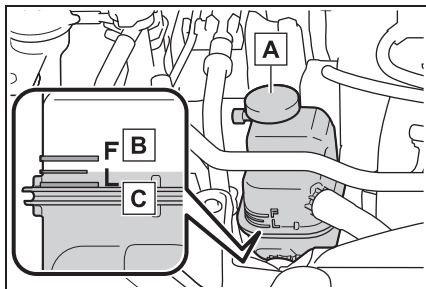


A リザーバートンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

▶ M20A-FXS エンジン搭載車



A リザーバタンク

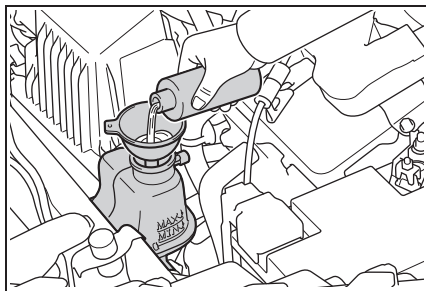
B “F” (上限)

C “L” (下限)

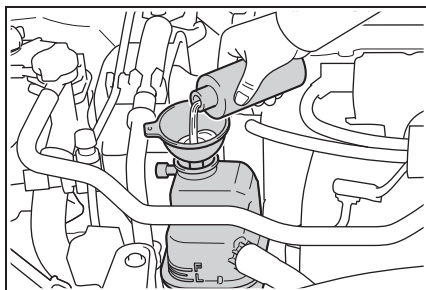
5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

▶ 2ZR-FXE エンジン搭載車



▶ M20A-FXS エンジン搭載車



6 ハイブリッドシステムを停止してから 5 分以上経過したあと

で、ハイブリッドシステムを始動し、マルチインフォメーションディスプレイを確認する表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する表示が消えている場合：
ハイブリッドシステムの温度が低下したため、通常走行が可能です。ただし、そのあともひんぱんに表示される場合は、トヨタ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- ハイブリッドシステムの停止後は、READY インジケーターが消灯していることを確認してください。ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバタンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が噴き出すおそれがあります。

⚠ 注意

■ 冷却水を入れるとき

ハイブリッドシステムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

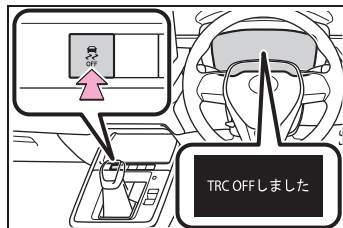
脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにして、ハイブリッドシステムを停止する
シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 2 前輪周辺の土や雪などを取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 ハイブリッドシステムを再始動する
- 5 シフトレバーを確実にDまたはRにし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

📖 知識

■ 脱出しにくいとき

 スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



 警告**■脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- Nレンジに入れてパーキングブレーキを解除して降車するとき
は：→P.164

 注意**■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 前輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... **450**

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧
..... **457**

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... **473**

8-4. フリー／オープンソースソフトウェア

フリー／オープンソースソフトウェア情報..... **474**

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものををご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛レギュラーガソリン	36 L ^{※2}
・ バイオ混合ガソリン（レギュラー） ^{※1}	43 L ^{※3}

^{※1} エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。

^{※2} FF 車

^{※3} 4WD 車

エンジンオイル（2ZR-FXE エンジン搭載車）

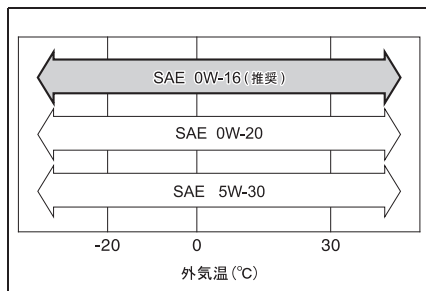
指定銘柄	容量 [L]（参考値 [※] ）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9 L	4.2 L

[※] エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってく

ださい。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

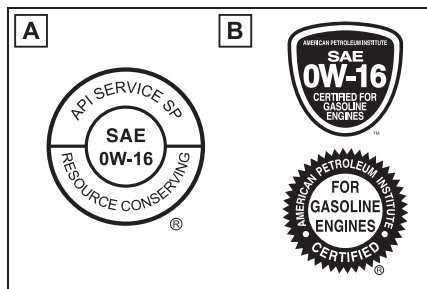


オイル粘度について（例として
0W-16 で説明します）：

- ・ 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。0W-16 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。0W-16 が入手困難な場合は、0W-20、5W-30 もご使用いただけます。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。



A) API マーク

B) ILSAC CERTIFICATION マーク

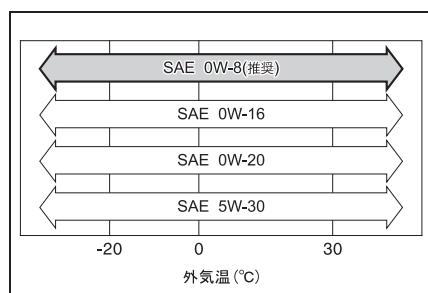
エンジンオイル（M20A-FXS エンジン搭載車）

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル GLV-1 0W-8 — JASO GLV-1, SAE 0W-8 適合： トヨタ純正モーターオイル SP 0W-16 — API SP/RC, ILSAC GF-6B, SAE 0W-16 トヨタ純正モーターオイル SP 0W-20 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル SP 5W-30 — API SP/RC, ILSAC GF-6A, SAE 5W-30	3.9 L	4.2 L

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-8 で説明します）：

- ・ 0W-8 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

- ・ 0W-8 の 8 は、高温時の粘度特性を示しています。

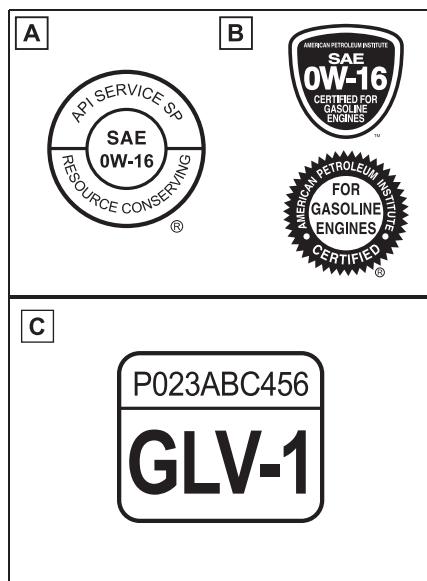
■ 指定エンジンオイル

JASO GLV-1 規格に合致したオイルをご使用ください。JASO GLV-1 0W-8 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。JASO GLV-1 SAE 0W-8 が入手困難な場合は、以下のオイルもご使用いただけます。

0W-16：API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6B

0W-20、5W-30：API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC、ILSAC 規格 GF-6A
 なお、JASO 規格合格油の缶には

JASO GLV-1 マークがついてい
ます。



- A** API マーク
B ILSAC CERTIFICATION マー
 ク
C JASO GLV-1 マーク

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L] (参考値)	
トヨタ純正スーパーロングライフクーラ ント	ガソリンエンジン	5.5※ ¹ 6.1※ ²
凍結保証温度	パワーコントロール ユニット	1.5※ ¹ 1.6※ ²
濃度 30% − 12℃		
濃度 50% − 35℃		

※¹ 2ZR-FXE エンジン搭載車

※² M20A-FXS エンジン搭載車

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※ ¹)
トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE	3.0※ ² 3.7※ ³

※¹ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

※²2ZR-FXE エンジン搭載車※³M20A-FXS エンジン搭載車

注意

■ e- トランスアクスルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル（リヤ電気モーター [4WD 車]）

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 e- トランスアクスルフルード TE※	1.4

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください



注意

■ オートフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	111

※ ハイブリッドシステムが作動している状態で、300N（30.6kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (ハイブリッドシステム始動時)	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。

（警告灯が点灯した場合の対処については、P.402 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R17 96H	17 × 6 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)
	225/50R18 95V	18 × 7J		
	225/45R19 92W	19 × 7 1/2J		
応急用タイヤ★	T155/70D17 110M	17 × 4T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	103N・m (1050kgf・cm)
応急用タイヤ★	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	車幅灯（バルブタイプ）	5
	フロント方向指示灯（バルブタイプ）	21
	リヤ方向指示灯（バルブタイプ）	21
	後退灯（バルブタイプ）	16

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式		駆動方式
		フロント	リヤ	
ZVG13	2ZR-FXE（1.8L ガソリン）	1VM	-	FF（前輪駆動）
ZVG16			1WM	4WD（4 輪駆動）
MXGH15	M20A-FXS（2.0L ガソリン）	1VM	1WM	4WD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチメディア・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

設定を変更するには

■ マルチメディアで設定するには

- 1 マルチメディアディスプレイの  または  を選択する
- 2 “車両カスタマイズ” または “カスタマイズ” を選択する
- 3 設定を変更したいカテゴリーを選択する
- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する
- 5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、

 (作動)・ (非作動) を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、バー上のアイコンをスライドするか、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

- A** マルチメディアの画面操作で設定変更可能
- B** マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチを押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチを押して設定変更したい項目にカーソルを合わせる
- 3 OK スwitchを短押しまたは長押しする

OK スwitchの短押し・長押しで設定できる内容異なります。画面に表示されている内容に従って操作してください。

警告

■ カスタマイズ設定を行うとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ オートアラーム (→P.62)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	●あり ●なし	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ (7 インチディスプレイ) (→P.66, 70, 79)

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
言語 ※2	●日本語 ●英語	—	○	—
単位	●km/L ●L/100km	—	○	—
メーターデザインタイプ ※2	●カジュアル ●スマート ●スポーティー	—	○	—
アナログメーター切りかえ ※2	●タコメーター ●ハイブリッドシステムインジケーター ●シンプル	—	○	—
EV インジケーター ※2	●ON ●OFF	—	○	—
燃費グラフ	●始動後平均燃費 ●リセット間平均燃費 ●給油後平均燃費	—	○	—
アクセルガイド ※2	●ON ●OFF	—	○	—
オーディオシステム連携表示 ※2	●ON ●OFF	—	○	—
4WD 作動状態表示★ ※2	●ON ●OFF	—	○	—
エネルギーモニター ※2	●ON ●OFF	—	○	—

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライブインフォタイプ ※2	●始動後 ●リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目 ※2	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
割り込み表示 ※2	●ON ●OFF	—	○	—

※1機能についての詳しい説明は P.84 を参照してください。

※2マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（12.3 インチディスプレイ）（→P.66, 74, 86）

機能の内容 ※1	カスタマイズ設定	A	B	C
言語 ※2	●日本語 ●英語	—	○	—
単位	●km/L ●L/100km	—	○	—
メータータイプ ※2	●ダイヤル表示無し ●1 ダイヤル表示 ●2 ダイヤル表示	—	○	—
メーターデザインタイプ ※2	●カジュアル ●スマート ●タフ ●スポーティー	—	○	—
アナログメーター切りかえ ※2	●タコメーター ●スピードメーター ●ハイブリッドシステムインジケーター	—	○	—
EV インジケーター ※2	●ON ●OFF	—	○	—

機能の内容 ※ ¹	カスタマイズ設定	A	B	C
燃費グラフ	●始動後平均燃費 ●リセット間平均燃費	—	○	—
アクセルガイド ※ ²	●ON ●OFF	—	○	—
ドライブインフォ項目 ※ ²	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
TRIP A/B 項目 ※ ²	●平均車速 ●走行距離 ●走行時間	—	○	—
割り込み表示 ※ ²	●ON ●OFF	—	○	—

※¹ 機能についての詳しい説明は P.88 を参照してください。

※² マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ リヤシートリマインダー機能 (→P.106)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤシートリマインダー機能	●あり ●なし	—	○	—

■ ドアロック (→P.435)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック (→P.98, 104)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
解錠時の操作 ※	●1 回で全ドア解錠 ●1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ パワーバックドア★ (→P.108)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
パワーバックドア機能	●あり ●なし	—	○	—
ハンズフリーパワーバックドアの作動	●あり ●なし	—	○	—
パワーバックドア開度調節	●1 ～ 5※	—	○	—
ブザー音量	●レベル 1 ～レベル 3	—	○	—

※ バックドア下部のスイッチ操作で好みの開度に設定することもできます。
(→P.120)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通
(→P.104, 121)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）※	●レベル 0（なし）～レベル 7	○	—	○
作動の合図（非常点滅灯）※	●あり ●なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間※	●30 秒 ●60 秒 ●120 秒	—	—	○
半ドア警告ブザー	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.104, 121)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
スマートエントリー&スタートシステム	●あり ●なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	●全席解錠 ●運転席のみ解錠	○	—	○

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
全席解錠までのドアハンドル保持時間	●1.5 秒 ●2.0 秒 ●2.5 秒 ●非作動	—	—	○
連続ロック操作の有効回数	●2 回 ●無制限	—	—	○
降車オートロック機能	●あり ●なし	—	—	○
パワーバックドア閉作動中降車オートロック機能	●あり ●なし	—	—	○
接近時オートアンロック機能	●あり ●なし	—	—	○

■ ドアミラー (→P.134)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
オート電動格納作動	●ドアの施錠・解錠と連動 ●パワースイッチと連動 ●OFF	—	—	○

■ パワーウィンドウ (→P.137)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	●あり ●なし	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図 (ブザー)	●あり ●なし	—	—	○

■ ドライブスタートコントロール (→P.148)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
後退速度の抑制制御	●あり ●なし※	—	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」に戻ります。

■ パワースイッチ (→P.153)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ACC カスタマイズ ACC の ON / OFF を切りかえる	●ON ●OFF	○	—	○

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.168)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ライトセンサーの感度調整※	●より明るい ●明るい ●標準 ●暗い ●より暗い	○	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	●パワースイッチを OFF にする ●パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける	—	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ ランプ (→P.168)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
デイトタイムランニングランプ★	●あり ●なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アダプティブハイビームシステム★ (→P.172)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
アダプティブハイビームの作動	●ON ●OFF※	—	—	○
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	●約 15 km /h ●約 30 km /h ●約 40 km /h	—	—	○
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	●ON ●OFF	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	●ON ●OFF	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	●ON ●OFF	—	—	○
市街地用の配光制御	●ON ●OFF	—	—	○

※ オートマチックハイビームとして作動します。(→P.175)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.194)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ	●ON ●OFF	—	○	—
警報タイミング ※	●遅い ●標準 ●早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ LDA（レーンディパーチャアラート）（→P.207）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
LDA（レーンディパーチャアラート）※	●ON ●OFF	—	○	—
警報タイミング ※	●標準 ●早い	—	○	—
警報手段 ※	●ハンドル振動 ●ブザー	—	○	—
低車速支援 ※	●ON ●OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 休憩提案（→P.209）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
休憩提案	●ON ●OFF	—	○	—

■ PDA（プロアクティブドライビングアシスト）（→P.212）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プロアクティブドライビングアシスト（PDA）※	●ON ●OFF	—	○	—
支援感度 ※	●低い ●中間 ●高い	—	○	—
減速アシスト（DA）	●ON ●OFF	—	○	—
障害物先読みアシスト（OAA）※	●ON ●OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ 発進遅れ告知機能 (→P.217)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車 ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
信号 ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
告知タイミング ※	☒ 早い ☒ 標準 ☒ 遅い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.219)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ロードサインアシスト ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
速度標識超過告知方法 ※	☒ 無 ☒ 表示 ☒ 表示とブザー	—	○	—
その他告知方法 ※	☒ 無 ☒ 表示 ☒ 表示とブザー	—	○	—
速度超過告知車速 ※	☒ 10 km/h ☒ 5 km/h ☒ 2 km/h	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ DRCC（レーダークルーズコントロール）（→P.222）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
加速度設定 ※	☒ 弱 ☒ 中 ☒ 強	—	○	—
速度設定（短押し） ※	☒ 1km/h ☒ 5km/h ☒ 10km/h	—	○	—
速度設定（長押し） ※	☒ 1km/h ☒ 5km/h ☒ 10km/h	—	○	—
ガイド文言表示 ※	☒ ON ☒ OFF	—	○	—
カーブ速度抑制 ※	☒ OFF ☒ 弱 ☒ 中 ☒ 強	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.236）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	☒ あり ☒ なし	—	○	—
ドアミラーインジケータの明るさ ※	☒ 暗い ☒ 明るい	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度） ※	☒ 遅い ☒ 標準 ☒ 早い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー (→P.241)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
クリアランスソナー機能 ※1	●あり ●なし	—	○	—
ブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○	—
フロントセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	—	—	○
リヤセンターセンサーの検知開始距離 ※3	●近い ●標準	—	—	○

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

※3パノラミックビューモニター装着車のみ、パノラミックビューモニターの設定画面で設定を変更できます。詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ RCTA (リヤクロストラフィックアラート) ★ (→P.250) ※1

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
リヤクロストラフィックアラート機能	●ON ●OFF	—	○	—
リヤクロストラフィックアラート作動時のブザー音量 ※1, 2	●小 ●中 ●大	—	○	—

※1マイセッティングと連動して設定が変更されます。

※2クリアランスソナー、リヤクロストラフィックアラート、リヤカメラディテクションの音量調整は連動しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.255）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RCD 機能	●ON ●OFF	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.259）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能※	●ON ●OFF	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ トヨタチームメイトアドバンストパーク★（→P.274）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
音声案内	●あり ●なし	○	—	—
速度モード	●遅め ●標準 ●速め	○	—	—
障害物回避距離	●標準 ●遠い	○	—	—
優先駐車方法	●並列 ●縦列	○	—	—
優先駐車向き	●前向き ●バック	○	—	—
優先出庫方向（並列）	●左 ●右	○	—	—
優先出庫方向（縦列）	●左 ●右	○	—	—
駐車時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
出庫時の映像	●ノーマル ●ワイド	○	—	—
駐車進路調整	●- 3（内側）～ +3（外側）	○	—	—
道幅調整	●狭い ●やや狭い ●標準	○	—	—
駐車位置調整（前向き）	●- 3（後）～ +3（前）	○	—	—
駐車位置調整（バック）	●- 3（後）～ +3（前）	○	—	—
後部取付部品設定	●10cm ●20cm ●30cm ●40cm ●取付なし	○	—	—
登録した場所の消去	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 安心降車アシスト★（→P.298）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
安心降車アシスト機能	●ON ●OFF	—	○	—
ドアミラーインジケーター表示 ※	●あり ●なし	—	○	—
接近車両検知の感度 ※	●低い ●中間 ●高い	—	○	—

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン (→P.322)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる ※	●する ●しない	○	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

■ イルミネーション (→P.331)

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
室内灯の消灯までの時間 ※	●7.5 秒 ●15 秒 ●30 秒 ●OFF	○	—	○
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
接近時の照明の点灯	●あり ●なし	—	—	○
ドアトリム照明★の点灯	●あり ●なし	—	—	○
アッパーコンソール照明★の点灯	●あり ●なし	—	—	○

※ マイセッティングと連動して設定が変更されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



知識

■ 車両カスタマイズについて

解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）”の設定に依存します。

■ 車両カスタマイズ画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイの車両カスタマイズ画面は自動的に終了します。

- 車両カスタマイズ画面表示後に警告メッセージが表示された
- パワースイッチが OFF になった
- 車両カスタマイズ画面表示中に走行し

始めた

初期設定が必要な項目

次の項目はメンテナンスなどの作業を行ったあとに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
パワーバックドア★	補機バッテリーの充電・交換後の再接続時	P.108
クリアランスソナー	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.241
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）	補機バッテリーを脱着した時やあがったとき	P.265

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フリー／オープンソースソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/meter/toyota/>

デジタルキー

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下の URL で入手することができます。

<https://www.denso.com/global/en/opensource/dkey/toyota/>

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	476
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）.....	478
アルファベット順さくいん.....	480
五十音順さくいん.....	482

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.435）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.435）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.381）
- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.153）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。

（→P.122）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.108）

故障かな？と思ったら



ハイブリッドシステムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.151）
- シフトレバーは P になっていませんか？（→P.151）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.121）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→P.436）

- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.437）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない

- パワースイッチは ON になって
いますか？

パワースイッチが ON でブレーキ
を踏んでも解除できないときは
（→P.159）を参照してください。



**パワーウィンドウスイッチを操
作してもドアガラスが開閉しな
い**

- ウィンドウロックスイッチが押
されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押さ
れていると、運転席以外のパワー
ウィンドウは操作できなくなりま
す。（→P.139）



**パワースイッチが自動的に OFF
になった**

- 一定時間 ACC または ON（ハイ
ブリッドシステムが作動してい
ない状態）にしておくと、自動
電源 OFF 機能が作動します。
（→P.154）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車
から音が鳴ったときは（音さく
いん）」（→P.478）をご確認く
ださい。



**警告灯や警告メッセージが表示
されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示
されたときは、P.402、408
をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装
着車：車を安全な場所に止め、
タイヤパンク応急修理キットで
パンクしたタイヤを応急修理し
てください。（→P.415）
- 応急用タイヤ装着車：車を安全
な場所に止め、パンクしたタイ
ヤを応急用タイヤに交換してく
ださい。（→P.427）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動
けなくなったときの脱出方法を
試してください。（→P.447）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.62
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.408
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.62
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.381
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.121
	電子キーを車内に置き忘れている	P.408

※ スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアまたはバックドアを解錠する、またはパワースイッチをACCまたはONにするか、ハイブリッドシステムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P.108
	パーキングブレーキが解除されていない	P.164
	シートベルトを着用していない※	P.404
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.146
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.227
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.194
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.202

状況	原因	詳細
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.219
はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.241
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した	P.250

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 322

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 304

ACA

(アクティブコーナリングアシスト)
..... 305

AHB

(オートマチックハイビームシステム) 175

AHS

(アダプティブハイビームシステム)
..... 172

BSM

(ブラインドスポットモニター)
..... 236

DRCC

(レーダークルーズコントロール)
..... 222

EDR

(イベントデータレコーダー) 7

EDSS

(ドライバー異常時対応システム)
..... 234

EPS

(エレクトリックパワーステアリング)
..... 305

FF

(フロントエンジンフロントドライブ)
..... 456

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション) 451, 452

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィックス) 38

LDA

(レーンディパーチャーアラート)
..... 207

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 168

LTA

(レーントレーシングアシスト)
..... 202

ODO スイッチ

(オドスイッチ) 78

PCS

(プリクラッシュセーフティ) .. 194

PDA

(プロアクティブドライビングアシスト) 212

PKSB

(パーキングサポートブレーキ)
..... 259

RCD

(リヤカメラディテクション) .. 255

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 250

RSA

(ロードサインアシスト) 219

S-FLOW

フロント席集中送風モード 326

SRP

(シグナルロードプロジェクション)
..... 162

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 30

S-VSC

(ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール) 304

SYNC スイッチ

(シンクロスイッチ) 322

TMN

(発進遅れ告知機能) 217

Toyota Safety Sense

AHB (オートマチックハイビーム)
..... 175

AHS (アダプティブハイビームシ
ステム) 172

DRCC (レーダークルーズコント
ロール) 222

EDSS (ドライバー異常時対応シス
テム) 234

LDA (レーンディパーチャーア
ラート) 207

LTA (レーントレーシングアシス
ト) 202

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 194

PDA (プロアクティブドライビン
グアシスト) 212

RSA (ロードサインアシスト) 219

TMN (発進遅れ告知機能) 217
クルーズコントロール 231

TRC

(トラクションコントロール) 304,
447

VSC

(ビークルスタビリティコントロー
ル) 304

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	437
アームレスト.....	346
アウターミラー（ドアミラー） RCTA（リヤクロストラフィックアラート）	250
安心降車アシスト.....	298
格納のしかた.....	135
操作.....	135
ブラインドスポットモニター（BSM）	236
ミラーヒーター.....	323
アクセサリーコンセント.....	350, 359
アクセサリースocket.....	346
アクセサリーモード.....	153
アクティブコーナリングアシスト （ACA）.....	305
アシストグリップ.....	348
アダプティブハイビームシステム...	172
アドバンストパーク.....	274
操作.....	279
アラーム オートアラーム.....	62
音さくいん.....	478
警告ブザー.....	402
安心降車アシスト.....	298
アンチロックブレーキシステム（ABS）	304
警告灯.....	403
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	121

い

EV 走行比率.....	82, 91
EV ドライブモード.....	155

イグニッションスイッチ（パワースイ チ）

自動電源 OFF 機能.....	154
車両を緊急停止するには.....	394
ハイブリッドシステム始動のしかた...	151
モードの切りかえ.....	153

位置交換（タイヤローテーション）.375

イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	61
イルミネーテッドエントリーシステム	332

インジケーター（表示灯）.....68

インテリアランプ.....	331
インナーミラー.....	133

う

ウインカー（方向指示灯）

電球（バルブ）の交換.....	385
方向指示レバー.....	161, 162

ウインドウ

ウォッシャー.....	179
パワーウインドウ.....	137
リヤウインドウデフォグガー.....	323

ウインドウロックスイッチ..... 139

ウォッシャー

液の補給.....	372
スイッチ（フロント）.....	179
スイッチ（リヤ）.....	182
タンク容量.....	455
冬の前の準備・点検.....	318
フロント.....	179
リヤ.....	182

動けなくなったときは（スタック）.447

運転

雨の日の運転.....	143
運転を補助する装置.....	304
寒冷時の運転.....	318
正しい運転姿勢.....	25

手順.....	143
ハイブリッド車運転のアドバイス.....	316
運転支援機能情報表示.....	82
運転支援システム情報.....	87
運転支援システム情報.....	91
運転席シートベルト非着用警告灯 ...	404

え

エアコン

オートエアコン.....	322
曇り取り（フロントガラス）.....	323
フィルターの清掃.....	377
フロント席集中送風モード（S-FLOW）	326

エアコン・デフォッガー.....322

エアバッグ

SRS エアバッグ警告灯.....	403
改造・廃棄.....	35
作動条件.....	31
正しい姿勢.....	25
配置.....	30

エコアクセルガイド.....81, 89

エコジャッジ.....81, 89

エネルギーモニター.....93

エレクトリックパワーステアリング
（EPS）.....305

警告灯.....	404

エンジン

イモビライザーシステム.....	61
エンジンスイッチ.....	151
オーバーヒート.....	443
緊急時の停止方法.....	394
タコメーター.....	70, 74
ハイブリッドシステムが始動できない.....	433
ハイブリッドシステムの始動方法.....	151
パワースイッチ（イグニッションスイッチ ／エンジンスイッチ）.....	151
ボンネット.....	370

エンジンオイル

警告灯.....	403
冬の前の準備・点検.....	318
メンテナンスデータ.....	450
容量.....	450

エンジン回転計（タコメーター）70, 74

エンジンスイッチ（パワースイッチ）

自動電源 OFF 機能.....	154
車両を緊急停止するには.....	394
ハイブリッドシステム始動のしかた.....	151
モードの切りかえ.....	153

エンジンフード（ボンネット）

開け方.....	370

エンジンルーム.....370

エンジンルームから蒸気が出ている.....	443

お

オイル（エンジンオイル）.....450

応急用タイヤ.....427

交換方法.....	427

オーディオシステム連携表示.....83, 91

オートアラーム.....62

オートエアコン.....322

オートマチックハイビーム.....175

オーバーヒート.....443

オープナー

給油扉.....	184
バックドア.....	110
ボンネット.....	370

オープントレイ.....335

おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.340

お子さまを乗せるとき

ウインドウロックスイッチ.....	139
お子さまの安全のために.....	37
キーの電池.....	382
シートベルトの着用.....	27, 28
ステアリングヒーター・シートヒーターに 関する警告.....	328

チャイルドシート	38
チャイルドシートの取り付け	38
チャイルドプロテクター	108
発炎筒の取り扱いに関する警告	394
バッテリーに関する警告	442
パワーウインドウに関する警告	138
オドスイッチ	78
オドメーター／トリップメーターディス プレイ	72, 78

か

カーテンシールドエアバッグ	30
カードホルダー	336
カーペット	
洗浄	367
フロアマットの取り付け方	24
外気温度表示	70, 74
回生ブレーキ	53
外装の電球（バルブ）	385
交換要領	385
ワット数	456
買い物フック	336
ガス欠になったとき	56
カスタマイズ機能	457
型式	456
カップホルダー	334
カメラ	
前方カメラ（PCS）	189
白線認識用カメラ（LTA）	202
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォグガー）	323
ガレージジャッキ	371
冠水路走行	148
寒冷時の運転	318

き

キー

キーナンパープレート	98
キーの構成	98
キーレスエントリー	99, 121
キーをなくした	435
正常に働かない	435
施錠・解錠ができない	435
電子キー	98
電池が切れた	381
ハイブリッドシステムが始動できない	433
メカニカルキー	100
ワイヤレスリモコン	99

キーレスエントリー

スマートエントリー&スタートシステム	121
ワイヤレスドアロック	99

給油

給油のしかた	183
メンテナンスデータ	450

緊急時シートベルト固定機構

緊急始動機能（ハイブリッドシステム）	434

緊急時の対処

オーバーヒートした	443
キーの電池が切れた	381, 435
キーをなくした	435
警告灯がついた	402
警告メッセージが表示された	408
けん引	397
故障したときは	392
車中泊が必要なときは	396
車両を緊急停止する	394
水没・冠水したときは	395
スタックした	447
電子キーが正常に働かない	435
ハイブリッドシステムが始動できない	433

発炎筒	393
パンクした	415, 427
補機バッテリーがあがった	437
緊急停止システム	59
緊急ブレーキシグナル.....	305

く

空気圧 (タイヤ)	
メンテナンスデータ	455
区間距離計 (トリップメーター) 72, 78	
駆動用電池	
警告メッセージ.....	59
充電について.....	53
搭載位置	56
冷却用吸入口.....	59
曇り取り	
フロントガラス.....	323
ミラーヒーター.....	323
リヤウインドウデフォグガー	323
クラクション (ホーン).....	132
クリアランスソナー	241
操作.....	242
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	168
電球 (バルブ) の交換.....	385
クリップ	
フロアマット.....	24
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール (全車速追 従機能付き).....	222
グローブボックス	334

け

警告器 (ホーン)	132
計器類 (メーター)	70, 74
警告灯.....	402
運転支援情報表示灯	406

ABS & ブレーキアシスト	403
SRS エアバッグ	403
LTA 表示灯	405
LDA 表示灯	405
エンジン	403
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	407
クルーズコントロール表示灯.....	406
高水温	402
シートベルト非着用	404, 405
充電	403
スリップ表示灯	407
燃料残量	404
パーキングブレーキ表示灯.....	407
ハイブリッドシステム過熱.....	402
パワーステアリング	404
PCS	405
PDA 表示灯	406
ブレーキ	402
ブレーキホールド作動表示灯.....	407
ペダル誤操作警告灯	404
油圧	403
レーダークルーズコントロール表示灯.....	406

警告ブザー

ABS & ブレーキアシスト	403
LDA (レーンディパーチャーアラート)	405
LTA (レーントレーシングアシスト).....	405
エンジン	403
クリアランスソナー	407
クルーズコントロール	406
高水温	402
シートベルト非着用	404, 405
シフトダウン制限	160
衝突警報	194
接近警報 (レーダークルーズコントロー ル)	227
手放し運転警告 (LTA)	204
ハイブリッドシステム	403

ハイブリッドシステム過熱	402
パワーステアリング	404
半ドア	106
半ドア走行時	108
PDA (プロアクティブドライビングアシスト)	406
ブリクラッシュセーフティシステム	405
ブリクラッシュブレーキ	195
ブレーキ	402
ブレーキホールド	407
ペダル誤操作警告灯	404
窓開	138
油圧	403
リバース	157
レーダークルーズコントロール	406
警告メッセージ	408
化粧ミラー (バニティミラー)	349

こ

交換	
キーの電池	381
タイヤ	427
電球 (バルブ)	385
ヒューズ	383
工具 (ツール)	416, 428
航続可能距離	95
後退速度の抑制制御 (ドライブスタート コントロール)	148
後退灯 (バックアップランプ)	
電球 (バルブ) の交換	385
ワット数	456
高電圧部位	56
コーションラベル	56
コートフック	348
子供専用シート	
取り付け方	39
コンソールボックス	335

コンライト (自動点灯・消灯装置)	168

さ

サービスプラグ	56
サイドエアバッグ	30
サイド方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	385
方向指示レバー	161
サイドミラー (ドアミラー)	
安心降車アシスト	298
格納のしかた	135
操作	135
ブラインドスポットモニター (BSM)	236
ミラーヒーター	323
リヤクロストラフィックアラート (RCTA)	250
先読みエコドライブ	54
サンバイザー	349

し

シート	
正しい運転姿勢	25
チャイルドシート	38
調整	126
手入れ	367
ヘッドレスト	129
シートヒーター	328
シートベルト	27
お子さまの着用	27, 28
緊急時シートベルト固定機構	28
正しく着用するには	28
着け方・はずし方	28
手入れ	367
妊娠中の方の着用	27
非着用警告灯	404, 405
シートベルト非着用警告灯	404, 405

シートベルトプリテンショナー	
機能.....	29
プリテンショナー警告灯	403
シートベンチレーター.....	328
シグナルロードプロジェクション ..	162
事故が発生したとき（ハイブリッドシス テムの注意）.....	57
室内灯（インテリアランプ）.....	331
始動のしかた	151
シフトポジション	157
シフトレバー	
シフトポジションの切りかえ	158
シフトレンジの切りかえ	159
操作	157
リバース警告ブザー	157
締め付けトルク（ホイール）.....	431
車中泊が必要なときは.....	396
ジャッキ	
ガレージジャッキ	371
車載ジャッキ.....	416, 428
ジャッキハンドル	416, 428
車幅灯	
電球（バルブ）の交換.....	385
ランプスイッチ.....	168
ワット数	456
車両型式.....	456
車両仕様（スペック）.....	450
車両情報表示	83
車両接近通知装置	54
車両を緊急停止するには.....	394
充電用 USB 端子	339
瞬間燃費.....	80, 89, 95
仕様（車両仕様）.....	450
照度調整	
メーター照度調整	73, 78
衝突時の急加速抑制	305
初期化	
パワーウィンドウ	137

初期設定.....	473
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	404

す

水温計	70
スイッチ	
RCTA	250
アダプティブハイビームシステム	172
EV ドライブモード	155
イグニッション	151
ウインドウロック	139
LTA.....	204
オートマチックハイビーム.....	175
オドスイッチ.....	78
クリアランスソナー	242
クルーズコントロール	231
シート調整.....	126
車間距離切りかえ（レーダークルーズコン トロール）.....	224
TRC OFF	305
ドアミラー.....	135
ドアロック.....	107
ドライブモードセレクト	302
パーキングブレーキ	162
パドルシフト.....	159
パワーウィンドウ	137
パワースイッチ	151
PKSB	260
表示切りかえ.....	72, 78
VSC OFF	306
フォグランプ.....	177
ブレーキホールド.....	166
フロントウォッシャー	179
フロントワイパー	179
フロントワイパーデアイサー.....	322
方向指示レバー	161, 162
ホーン（警音器）.....	132
メーター操作.....	80, 86

ランプ	168
リヤウインドウデフォグガー	322
リヤウォッシャー	182
リヤカメラディテクション	256
リヤフォグランプ	177
リヤワイパー	182
レーダークルーズコントロール	222
スタック	447
ステアリングヒーター	328
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整	132
ステアリングヒーター	328
メーター操作スイッチ	80, 86
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	385
スノータイヤ（冬用タイヤ）	318
スピードメーター	70, 74
スペアタイヤ（応急用タイヤ）	427
交換方法	427
スペック（車両仕様）	450
スマートエントリー&スタートシステム	
アンテナの位置	121
カスタマイズ設定	457
緊急始動機能	434
作動範囲	121
正常に働かないとき	435
節電機能	122
電波がおよぼす影響について	125
ドアの解錠・施錠	104
ハイブリッドシステムの始動	151
バックドアの解錠・施錠	110
スモールランプ（車幅灯）	
電球（バルブ）の交換	385
ランプスイッチ	168
スリップ表示灯	305

せ

清掃

外装	364
シートベルト	367
内装	367
ホイール・ホイールキャップ	364
レーダー	189

制動灯

電球（バルブ）の交換	385

セカンダリーコリジョンブレーキ ... 305

積算距離計（オドメーター）..... 72, 78

セキュリティインジケーター..... 61, 62

接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 227

センサー

インナーミラー	133
雨滴感知センサー	180
LDA（レーンディパーチャーアラート）	
.....	207
LTA（レーントレーシングアシスト）	202
後側方レーダーセンサー	237
ライトセンサー	170
レーダー	189, 299

洗車 364

前照灯（ヘッドランプ）

電球（バルブ）の交換	385
マニュアルレベリングシステム	171
ライトセンサー	170
ランプ消し忘れ防止機能	170
ランプスイッチ	168

そ

走行距離..... 91

走行時間..... 91

走行情報表示..... 80

走行モード（ドライブモード）..... 159,
302

速度計（スピードメーター）.....70, 74

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）

電球（バルブ）の交換.....385

方向指示レバー.....161, 162

タイヤ

応急用タイヤ.....427

空気圧.....376, 455

交換.....427

締め付けトルク.....431

チェーン.....318

点検.....373

パンク応急修理キット.....415

パンクしたときは.....415, 427

冬用タイヤ.....318

ホイールサイズ.....455

ローテーション（位置交換）.....375

タイヤが空まわりする（スタックした）

.....447

タイヤチェーン.....318

タコメーター.....70, 74

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....318

チャイルドシート

ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け49

シートベルトでの固定.....47

選択方法.....38

駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）

.....162

警告灯.....407

警告メッセージ.....164

操作.....162

冬季の注意.....318

未解除走行時警告ブザー.....164

メンテナンスデータ.....455

つ

ツール（工具）.....416, 428

て

ディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイ

.....79, 86

デイトイムランニングランプ.....169

ディファレンシャル

リヤディファレンシャル.....454

手入れ

外装.....364

シートベルト.....367

内装.....367

ホイール・ホイールキャップ.....364

レーダー.....189

テールランプ（尾灯）

電球（バルブ）の交換.....385

ランプスイッチ.....168

デジタルキ.....101

デフォッガー（リヤウインドウデフォッ
ガー）.....323

電気モーター.....52, 56

電球（バルブ）

交換要領（外装バルブ）.....385

ワット数.....456

点検基準値（メンテナンスデータ）.450

電子キー.....98

作動範囲.....121

正常に動かないとき.....435

節電機能.....122

電池が切れた.....435

電池交換.....381

電池交換（キー）.....381

電動サンシェード

挟み込み防止機能.....347

と

ドア	104
スマートエントリー&スタートシステム	121
チャイルドプロテクター	108
ドアガラス	137
ドアロックスイッチ	107
バックドア	108
ロックレバー	107
ワイヤレスリモコン	104
ドアポケット	333
ドアミラー	
RCTA (リヤクロストラフィックアラート)	250
安心降車アシスト	298
格納のしかた	135
操作	135
ブラインドスポットモニター (BSM)	236
ミラーヒーター	323
盗難防止装置	
イモビライザーシステム	61
オートアラーム	62
時計	70, 74
トップテザーアンカレッジ	50
ドライバー異常時対応システム	234
ドライブスタートコントロール	
急発進の抑制制御	148
後退速度の抑制制御	148
ドライブモードセレクトスイッチ	302
トラクションコントロール (TRC)	304
トランスミッション	
シフトダウン制限警告ブザー	160
操作	158
ハイブリッドトランスミッション	157
パドルシフトスイッチ	159
メンテナンスデータ	453
トリップメーター	72, 78

な

内装	
収納装備	333
手入れ	367

に

ニーエアバッグ	30
荷物	
積むときの注意	149
バックドア	108
ラゲージルーム内装備	336

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック)	447

ね

燃費	
エネルギーモニター	93
給油後平均燃費	95
瞬間燃費	80, 89, 95
平均燃費	80, 89, 95
燃料	
給油	183
種類	450
燃料計	70, 74
燃料残量警告灯	404
容量	450
燃料計	70, 74

は

パーキングサポートブレーキ	
操作	260
パーキングサポートブレーキ (後方接近車両)	270

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....	272	注意.....	56
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物 / 周囲静止物）.....	265	特徴.....	52
パーキングブレーキ.....	162	特有の音と振動.....	53
警告灯.....	407	パワー（イグニッション）スイッチ.....	151
警告メッセージ.....	164	補機バッテリーがあがった.....	437
操作.....	162	メンテナンス・修理・廃車するとき.....	54
冬季の注意.....	318	ハイブリッドシステムインジケーター.....	71, 77, 81, 89
未解除走行時警告ブザー.....	164	ハイマウントストップランプ.....	385
メンテナンスデータ.....	455	電球（バルブ）の交換.....	385
パーソナルランプ.....	332	ハザードランプ（非常点滅灯）.....	385
排気ガス.....	36	電球（バルブ）の交換.....	385
ハイビーム（ヘッドランプ）.....		挟み込み防止機能.....	
アダプティブハイビームシステム.....	172	電動サンシェード.....	347
オートマチックハイビーム.....	175	パワーウィンドウ.....	137
電球（バルブ）の交換.....	385	パワーバックドア.....	116
ランプスイッチ.....	168	発炎筒.....	393
ハイブリッドシステム.....		バックアップランプ（後退灯）.....	385
EV ドライブモード.....	155	電球（バルブ）の交換.....	385
運転のアドバイス.....	316	バックドアオープナー.....	110
エネルギーモニター.....	93	発進遅れ告知機能.....	217
オーバーヒート.....	443	バッテリー（駆動用電池）.....	
回生ブレーキ.....	53	充電について.....	53
ガス欠になったとき.....	56	搭載位置.....	56
緊急始動機能.....	434	冷却用吸入口.....	59
緊急時の停止方法.....	394	バッテリー（補機バッテリー）.....	
緊急停止システム.....	59	警告灯.....	403
駆動用電池冷却用吸入口.....	59	補機バッテリーがあがった.....	437
警告メッセージ.....	59	パドルシフトスイッチ.....	159
高電圧部位.....	56	バニティ（化粧用）ミラー.....	349
サービスプラグ.....	56	バニティミラーランプ.....	
先読みエコドライブ.....	54	装備について.....	349
事故が発生したとき.....	57	バルブ（電球）.....	
始動できないときは.....	433	交換要領（外装のバルブ）.....	385
始動方法.....	151	ワット数.....	456
車両接近通報装置.....	54	パワー（イグニッション）スイッチ.....	
充電.....	53	自動電源 OFF 機能.....	154
		ハイブリッドシステム始動のしかた.....	151

モードの切りかえ.....	153
パワーウィンドウ	
ウィンドウロックスイッチ	139
閉めることができないときは	137
初期化	137
操作	137
ドアロック連動ドアガラス開閉機能...	138
挟み込み防止機能	137
巻き込み防止	137
パワーコントロールユニット	56
パワーステアリング	305
警告灯	404
パワーバックドア	
挟み込み防止機能	116
ハンズフリーパワーバックドア	112
パンクした	
応急用タイヤ装着車	427
タイヤパンク応急修理キット装着車	415
番号灯（ライセンスプレートランプ）	
電球（バルブ）の交換	385
ランプスイッチ	168
ハンズフリーパワーバックドア	112
ハンドル（ステアリングホイール）	
位置調整	132
ステアリングヒーター	328
メーター操作スイッチ	80, 86

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）	304
ヒーター	
エアコン・デフォグガー	322
シートヒーター	328
ステアリングヒーター	328
ミラーヒーター	323
非常点滅灯	
緊急ブレーキシグナル	305

非常点滅灯（ハザードランプ）	
電球（バルブ）の交換	385
尾灯（テールランプ）	
電球（バルブ）の交換	385
ランプスイッチ	168
ヒューズ	383
表示切りかえボタン	72, 78
表示灯	68
日よけ（サンバイザー）	349
ヒルスタートアシストコントロール	305

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方	438
フォグラмп	177
電球（バルブ）の交換	385
ランプスイッチ	177
ブザー	
シフトダウン制限警告	160
接近警報（レーダークルーズコントロール）	227
手放し運転警告（LTA）	204
パーキングブレーキ未解除走行時警告	164
半ドア走行時警告	108
窓開警告	138
リバース警告	157
フック	
買い物フック	336
けん引フック	399
コートフック	348
フロアマット固定フック	24
フューエルメーター	70, 74
フューエルリッド（給油口）	
給油のしかた	183
冬の前の準備（寒冷時の運転）	318
冬用タイヤ	318
ブラインドスポットモニター（BSM）	
.....	236

プラスサポート	310
プリクラッシュセーフティ (PCS)	
機能	194
プリクラッシュセーフティシステム (PCS)	
PCS 警告灯	405
ブレーキ	
回生ブレーキ	53
緊急ブレーキシグナル	305
警告灯	402
パーキングブレーキ	162
ブレーキホールド	166
メンテナンスデータ	454
ブレーキアシスト	304
ブレーキフルード	454
ブレーキホールド	166
フロアマット	24
フロントシート	
シートヒーター	328
シートベンチレーター	328
正しい運転姿勢	25
調整	126
手入れ	367
ヘッドレスト	129
フロント方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	385
方向指示レバー	161, 162
ワット数	456
フロントワイパーデアイサー	326



平均車速	91, 95
平均燃費	80, 89, 95
ヘッドランプ	
電球 (バルブ) の交換	385
マニュアルレベリングシステム	171
ライトセンサー	170
ランプ消し忘れ防止機能	170

ランプスイッチ	168
ヘッドレスト	129
ベンチレーター (シートベンチレーター)	328

ほ

ホイール	
交換 (タイヤ)	427
メンテナンスデータ	455
方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	385
方向指示レバー	161, 162
ホーン (警音器)	132
補機バッテリー	
補機バッテリーがあがった	437
保証	9
補助確認装置	136
ボトルホルダー	334
ボンネット	370
開け方	370

ま

マイセッティング	140
マルチインフォメーションディスプレイ	79, 86
EV 走行比率	82, 91
運転支援機能情報表示	82
運転支援システム情報	87, 91
エコアクセルガイド	81, 89
エコジャッジ	81, 89
オーディオシステム連携	83, 91
警告メッセージ	408
車両情報表示	83
設定	84, 92
走行情報表示	80
ドライブインフォメーション	83, 91
燃費グラフ	80, 89

ハイブリッドシステムインジケーター	81, 89
メーター操作スイッチ	80, 86
メニューアイコン	79
割り込み表示	83, 92

み

ミラー

アウターミラー	134
インナーミラー	133
ドアミラー	134
バニティミラー	349
補助確認装置	136
ミラーヒーター	323

め

メーター

計器類	70, 74
警告灯	402
警告メッセージ	408
設定	84, 92
時計	70, 74
ハイブリッドシステムインジケーター	71, 77

表示灯	68
マルチインフォメーションディスプレイ	79, 86
メーター照度調整	73, 78
メーター操作スイッチ	80, 86

メカニカルキー	100
メニューアイコン	79
メンテナンスデータ	450

も

モーター（電気モーター）	56

モーターでの走行（EV ドライブモード）	155

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	457
雪道ですべて動けない（スタックした）	447
油脂類	450

よ

4WD（4 ホイールドライブ）	456

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）

電球（バルブ）の交換	385
ランプスイッチ	168

ラゲージルーム

ラゲージルーム内の装備	336

ラゲージルームランプ

	110

ラジエーター

オーバーヒート	443
メンテナンスデータ	453

ランプ

アダプティブハイビームシステム	172
オートマチックハイビーム	175
室内灯	331
電球（バルブ）の交換	385
非常点滅灯（ハザードランプ）	393
フォグラмп	177
ヘッドランプ（前照灯）	168
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウィンカー）	161, 162
ライトセンサー	170
ランプ消し忘れ防止機能	170
リヤフォグラмп	177
ランプ消し忘れ防止機能	170

り

リヤウインドウデフォッガー	323
リヤカメラディテクション	
操作	256
リヤクロストラフィックアラート	
(RCTA)	250
リヤシート	127
ヘッドレスト	129
リヤシートリマインダー機能	106
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ..	405
リヤフォグランプ	177
電球 (バルブ) の交換	385
ランプスイッチ	177
リヤ方向指示灯	
電球 (バルブ) の交換	385
方向指示レバー	161
ワット数	456

る

ルームミラー (インナーミラー)	133

れ

冷却水	
冬の前の準備	318
メンテナンスデータ	453
冷却装置 (ラジエーター)	
オーバーヒート	443
メンテナンスデータ	453
レーダークルーズコントロール	
接近警報	227
レーダー	189
レーンディパーチャーアラート (LDA)	
.....	207
レーントレーシングアシスト (LTA)	
.....	202

レバー

シフト	157
方向指示	161
ボンネット解除	370

ろ

ロードサインアシスト (RSA)	219
ロック	
ウインドウロック	139
スマートエントリー&スタートシステム	
.....	121
チャイルドプロテクター	108
ドア	104
ワイヤレスリモコン	99

わ

ワイパー&ウォッシャー

ウォッシャー液の補充	372
フロント	179
リヤ	182

ワイパーブレード (寒冷地用)

ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) .340

ワイヤレスリモコン

作動の合図	105
操作	99
電池の交換	381
半ドア警告ブザー	106

ワックス

ワット数

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱説明書」をお読みください。

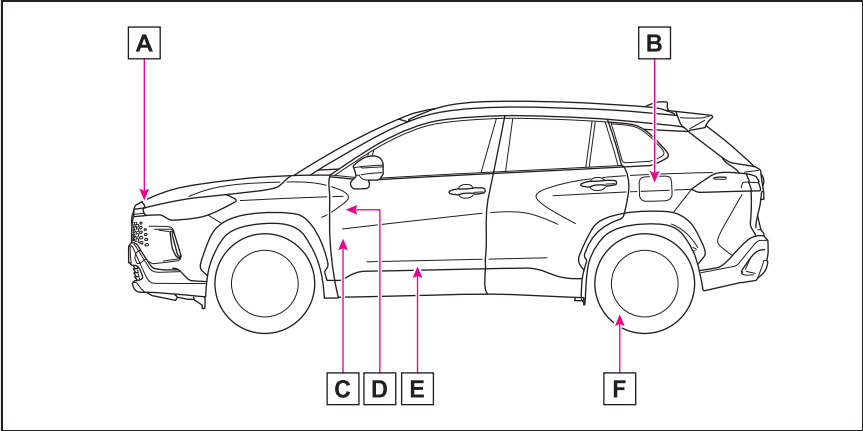
- ・オーディオ
- ・ナビゲーションシステム

- ・ 音声操作システム
- ・ ハンズフリー
- ・ T-Connect
- ・ ETC システム



ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.370)
- B** 給油口 (→P.184)
- C** ボンネット解除レバー (→P.370)
- D** パワーバックドアスイッチ★ (→P.111)
- E** 給油扉オープナー (→P.184)
- F** タイヤ空気圧 (→P.455)

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料の容量 (参考値)	▶ FF 車	
	36 L	
	▶ 4WD 車	
	43 L	
燃料の種類		P.450
タイヤが冷えているときの空気圧		P.455
エンジンオイル容量 (参考値)		P.450
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル	P.450

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEB ページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。

「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



●ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

